8-8
20 12-2 阿
保存資料
GAa1／1
8－8－12－2

第14回全国婦人会議

第18回 婦人週間

今日における婦人の役わり

－進展する社会のなかで－

労働省・NHK

館内
女性と仕事の未来館
0095006 6

目次

はしがき……二
全国婦人会議の組織……三
全国婦人会議次第……四
記念講演　国際基督教大学学長　鵜飼信成……五
部会
第一部会……一一
第二部会……七七
第三部会……一三一
第四部会……一八一

はしがき

労働省、NHKでは、第十八回婦人週間（四月十日～十六日）の中央行事として、四月十三日から十六日までの四日間、東京において第十四回全国婦人会議を開催いたしました。

会議は全国から応募した二七八二名の中から、中央選考委員会の書類選考によつて選ばれた六十名の婦人が参加し、「今日における婦人の役割――進展する社会のなかで――」をテーマとして行ないました。

第一日目午前の開会式には、全国婦人会議選考委員長　鵜飼信成氏の記念講演や外国からのメッセージ朗読を行ない、同日午後から第二日目にかけて、四つの部会に分かれて、リーダーの助言のもとに話しあいが行なわれました。第三日目は都内において移動会議を実施し、各種施設を訪問し、見学・懇談しました。最終日の総会では、会議員及び部会リーダーによる部会報告ならびに一般傍聴者との質疑応答が行なわれました。

なお、全国に組織をもつ婦人団体や労働組合婦人部、職能団体等から推せんされた方々に特別オブザーバーとして参加していただき、話しあいの傍聴と意見発表などにより会議を援助していただきました。

ここに会議の速記を集録いたします。婦人問題に関心をもたれる方々の御参考になれば幸いと存じます。

なお、紙数の都合で割愛した部分があることをお断りいたします。

昭和四十二年三月

労働省

NHK

全国婦人会議の組織

名　称　全国婦人会議
　今日における婦人の役わり
主　催　労働省・NHK
期　日　昭和四十一年四月十三日～十六日
場　所　東京（産経会館・虎ノ門共済会館・NHKホール）
会議員　六十名（全国からの応募者の中から中央選考委員会が決定）

会議の構成　総会、部会、移動会議により構成

部　会
第一部会　家庭婦人の問題
第二部会　働く婦人の問題
第三部会　農漁村婦人の問題
第四部会　市民としての問題
　進展する社会の現状と問題をみなおし、いろいろの分野で婦人がはたすべき役わりについて総括的に検討し、よりよいあすのために、今日婦人はどうあるべきかを討議する。

移動会議
○科学技術館
○調布市児童会館・婦人会館
○東京都板橋区老人福祉センター・生活館

中央選考委員
国際基督教大学学長　鵜飼信成
津田塾大学教授　伊藤昇
東京教育大学助教授　浜田陽太郎
劇作家　水木洋子
東京都立大学教授　岩井弘融
NHK教育局長　吉田正
NHK教養部長　一戸久
労働省婦人少年局長　高橋展子
労働省大臣官房長　辻英雄

部会リーダー
第一部会　伊藤昇
第二部会　浜田陽太郎
第三部会　水木洋子
第四部会　岩井弘融

特別オブザーバー
全国組織の婦人青年団体役員
全国組織労働組合役員

事務局
労働省婦人少年局婦人課
NHK教育局・業務局

全国婦人会議次第

四月十三日（水）

開会式　一〇・三〇～一一・三〇

合唱　「世界の花」

開会のことば

労働省婦人少年局長　高橋展子

あいさつ

労働大臣　小平久雄

NHK放送総局長　浅沼博

選考委員長・会議員・部会リーダー紹介

記念講演　「現代婦人の生きる道」

国際基督教大学学長　鵜飼信成

（全国婦人会議選考委員会委員長）

外国からのメッセージ

部会　一三・三〇～一七・〇〇

四月十四日（木）

部会　一〇・〇〇～一七・〇〇

四月十五日（金）

移動会議

○科学技術館（現代日本の科学の成果を展示）

○調布市児童会館・婦人会館（児童福祉・婦人福祉のための各種施設）

○東京都板橋区老人福祉センター・生活館（老人福祉・生活向上のための各種施設）

四月十六日（土）

総会

合唱　「世界の花」

第一部

あいさつ

NHK教育局長　吉田正

経過報告

労働省婦人少年局婦人課長　木下雪江

全体での話しあい

部会リーダー・会議員・傍聴者

司会　初見弘　アナウンサー

第二部　アトラクション

歌　デュークエイセス

演奏　八城一夫トリオ

閉会のことば

労働省婦人少年局長　高橋展子

記念講演

「現代婦人の生きる道」

国際基督教大学学長
鵜飼信成

数年前にアメリカのある社会学者が、東京郊外にある団地に住んでいる若い夫婦の家庭生活を、実態調査したことがあります。その調査は、いろいろ面白いことを示していますが、質問の一つに、〝あなた方は、一月に、あるいは一年に、何回ぐらい両親を訪ねますか〟というのがありました。

団地に住んでいる人々は、だいたい親と分かれて生活している人が多いと思います。違う世代が三代以上一緒に住むという家族形態は、一般にへつて来ましたが、団地にはとくに、いわゆる核家族的形態が多いわけです。しかし、家族関係の本質からいうと、子供は常に何らかの意味で、親を必要とするわけですから、若夫婦といえども、親と全く接触しないで生活することはできないでしよう。

アメリカのように、個人主義が発展し、親は子夫婦と、原則として別々に住むのを通常とする国でも、子供が親を訪ねることは、割合にひんぱんでありまして、多いところでは、毎週一度、少なくとも月に一、二度だそうですが、日本の団地では、それが年に一、二回という結果が出たようであります。

日本がアメリカと違つているのは、一方では、生活条件、交通事情、自動車の普及、距離その他さまざまな条件の違いによるものであることは否定できません。しかし、日本の場合のほうが古い家族形態からの解放、とくに嫁の地位の独立が極端になつたようにみえるのは、何を意味するかということが問題であります。そうして、その点に多少考慮を要するものが含まれていると、私は思います。

親子の関係は、社会組織や思想の変動に影響を受けますけれども、それでも基本的には断ち切ることができず、必ず、人生の決定的な決断をしなければならないような時には、親子関係に立ち戻つて相

談をするということは、誰でも経験していることで、古今東西の文学や芸術をみても、そのことは示されており、個人主義的な社会でもそうであることを、社会学者も指摘しています。

今回の全国婦人会議の主題である「今日における婦人の役割」という問題を見たとき、私は家庭における婦人の地位。役割は現在どうなつているかということを考えました。これは、戦前の婦人が家にしばりつけられていた姿を見てきているからで、そこに解放された新しい婦人の姿があることを期待するからであります。

台所が電化され、明るく暖かくなつた今日の社会で、婦人の家庭労働が性質の違つたものになつてきたことは喜ぶべきことです。私はこういう状態のもとで、健康な家庭婦人の仕事の一つが、両親や夫や子供のための家事労働や精神的な支えをするためにあることは、正当な分業だと思います。そうして、同時に、家庭の内部で、家族のすべての構成員の間に、お互いの理解と協調による肉体的、精神的分業が形作られることは可能ではないでしょうか。

アメリカのように、歴史的原因があつて、女尊男卑の国もありますが、日本のように、長く男尊女卑一辺倒できた国もあります。しかし、どちらの場合にも実際には、話し合いで両者の正当な分業が成立つことが可能であり、また必要でもあると、私は考えます。

集まつた所感文の中に、教育ママ論が面白い形で出ています。私は教育の問題も、家庭内の話し合いの問題であると同時に、自分の子供だけの問題でなく、子供一般の教育の問題として、団地や村や、PTAや、その他の社会的な会合の場で論ぜられ、解決を求められるべきものと信じています。

家庭内の現実のあり方には、さまざまの問題があります。ある西洋の作家の作品の中に、幸福な家庭はみな同じように幸福であるが、不幸な家庭は、それぞれに違つた姿で不幸である、ということばがありますが、私は、これは、幸福な家庭には解決を要する問題がないのに、不幸な家庭には、問題があるからだと思います。そして、この問題は、時代や社会がさまざまであるからでもあり、それと現代の日本と比較しますと、似たものも勿論あるでしょうが、違つたものも多く、解決をしようとすれば、要素や条件が、それぞれの場合に余りに多様なのにおどろかされるのです。それは結局、めいめいが自分の負うべき課題を負うと同時に、他の人々の問題と、互いに問題点を交換しあつて、解決へのはげまし合いと、協力作業とをすることが、一切の問題解決への出発点とならなければならないことを意味しています。

家庭が全く破壊されてしまつている例もないではないでしょう。破壊された家庭の再建に、婦人がどれだけの役割を演ずることができるか。それは破壊された家庭の姿によつてもちろん違うと思います。

家庭の崩壊は、いろいろな形ではじまります。父親が、その働きで得た収入を、まつすぐに家にもつて帰らない場合、あるいは、収入をもはや得られないような失業的あるいは半失業状態に陥つた場合にまず見られます。アメリカでは、今、ジョンソン大統領が、ケネディ大統領の理想をうけついで、貧乏に対する闘いをいどんでいますが、アメリカでも、例えば、炭坑地帯などへいつてみると事業が縮少されたり、閉鎖されたりしたあとの、炭坑街のの沈滞した空気が、みる人に苦痛を与えます。しかし、家庭が精神的にも崩壊する例も少なくありません。そういう場合に、家庭は、どういうあり

方で復活し、そのために家庭婦人は、何をすべきでしょうか。

私は、こういう問題が、終局的には家庭らしい方法で解決を試みられるのがいいと信じています。そこには、婦人の力、婦人の情操、婦人の愛情が絶対的に必要だと思われるからであります。いい忘れましたが、それは、もう一つ婦人の勇気をその中に数えたいと思います。

このことを痛感させられるのは、家庭の崩壊の一つの原因が、母親の不在にあると同様、社会自身も、母親的愛情の不存在によつて、すぐ崩壊してしまうからであります。

十年ほど前に出版されて、英米では、とくに母親たちの間で読まれて、ショッキングな反響をよび起こしたといわれるゴールディングという新進作家の「蠅の王」（Lord of the Flies）という小説があります。私は数年前に、その話を聞いて、ペーパーバックの廉価版で買いましたが、最近は日本訳も出ています。日本のお母さんたちがこれを読まれたなら、あるいは、アメリカやイギリスのお母さんたち以上にショックを受けることでしょう。内容を簡単に言いますと、一種の諷刺文学で、少年の一団が南の孤島へ投げ出される、彼らはそこで、彼らなりに社会秩序を作つて、生きていこうとする、しかし、秩序は無惨に崩壊し、少年たちは動物的な闘争と殺し合いと掠奪の生活に陥つていく、という物語です。ピギーという少年が「どつちがいい――規則を守つて仲良くやつてゆくのと、狩りをしたり、殺したりするのと」と叫ぶけれども、彼は、上から岩をおとされて、これに打たれて崖下に落ち、死んでしまう。

この無秩序は、物質文明の極度に発達した現代文明に対する諷刺ではないかと思います。しかし、それからわれわれを救い出すものが何であるかを作者は言つていません。私はしかし、私なりに、それは母親ではないかと思うのです。この小説の中の、少年たちの生活に欠けているのは、規則や秩序ではありません。そういうものは少年なりに、自分たちでちやんと作つているのです。しかし、彼らにどうしても作れないものがある。それが母親の愛であります。これは実は、根底においては、宗教につながつていると思いますが、それは、あとでもう一度取上げることにしましよう。

このように、人間の生活関係、とくに荒廃した、しかし外面的には極めて便利になつた現代人の生活の中に、ひとたび、何かの理由で秩序の割れ目が生ずると、肉親の母の愛情や、秩序の基礎にある親の愛なしには、それは、安定や均衡を取り戻すことがむずかしいのです。

さて、ここで問題を日常的な面に移してみますと、この秩序は、人間の政治的行政的意思で、円滑に動いてゆくわけです。この政治的秩序のいちばん一般的な運営原理は、現代では、会議体、――――即ち、個々人の意見の発表、質疑、討論、裁決という手続の原理であると思います。

私は、こんどの全国婦人会議のような会議で大切なのは、会議というものの意義と性格とを学ぶことだと考えます。会議では、各人のもつている意見が、他のメンバーに十分伝わるような形でまず示されなければなりません。それは、前提となる一定の事実の確認や分析からはじまります。そのこと自身、決してかんたんなことでないことはお互いに、日常生活で、絶えず経験しているとおりです。例えば、高校生の息子さんが「母さん、どうして僕の手は、こう何枚も何枚も手の皮が剝げるの」とたずねるところからはじまつてい

る所感文が、今回、会議員として選ばれた方のものにありましたが、こういう事実の認識と、何故という疑問と、それに答えるのに必要な、いくつかの事実の確認とがこれに続いています。これは今日の裁判や行政や立法の原則でもあります。

私たちは、事実の確認と分析とには十分注意しなければなりません。裁判の場合には事実誤認ということが随分しばしば問題になります。人間の感覚による事実認識には、誤認・錯覚ということが、決して少なくないからです。

週間雑誌の類をにぎわしている噂話のたぐいは、こういう事実誤認に基づくものが多い。われわれは、活字になつて示されているものを信用しがちであるが、しかし活字にならなくても、他人の口をとおして聞く噂話は何となくほんとうのような気がするものであります。私は手続論の出発点で、とくに婦人の方々が、事実確認の必要性ということを的確に理解されることが大切ではないかと信ずるものであります。

錯覚ということが日常しばしば起こることはよく知られているとおりですが、中でも自分の希望するものがそこにあるように誤認する場合は、とくに裁判などに、しばしば見られることです。希望というのは、例えば、自分の子供なら決して悪いことをしない、悪いことをしたのは自分の嫌いな隣りの誰々である、といつたような偏見から生まれてくる事実誤認です。

裁判や行政は、こういう事実誤認が起こらないように、いろいろな手続的な保障を定めています。テレビの弁護士ブレストンという番組は、こういう正しい事実の発見の手続がどんなものであるかを、私たちに示してくれる教育的ないいプログラムでしたが、私は、これに代つて登場したスラツタリー物語「何が真実か」というプログラムにも感心しました。一人のまじめな議員の活動を通して、われわれに教えるものが沢山あります。スラツタリーは「法案の内容は自分の判断で、どんなに変えようとしてもいいが、ルールは自分勝手に変えられるものではない」と言つていますが、私たちはこういう手続のルールを日常生活の上にも、是非応用しなければならないと思います。

戦後の婦人たちは、いわゆる井戸端会議から解放されなければなりませんでしたが、それは、偏見を含んだ、事実誤認を内容とする噂話の交換場所であつたからであります。現代の婦人の会議は、本質的にそれとは異なつています。そこでは何よりもまず、事実を明確に認識するため「何が真実か」を発見する手続が用いられていることに注意しなければなりません。

これはある意味では、科学主義の最もよい面であるともいえます。科学はあらゆるものを、自分の目で見、自分の手でたしかめてみるまでは、それを正しいものと断定しない精神であります。私は、進展する現代の社会は、本質的には科学の精神の上に基礎をおいたものであるにも拘らず、人間関係の問題について、科学主義のかげがうすれて来ることは、間違いではないかと思うものです。

キリスト教では「人を裁くなかれ」ということを教えます。人間は、自分自身が間違いを犯しやすいものでありますから、他人を軽々に裁判し、評価し、時には刑罰を加えるということには、もちろん注意を要します。けれども、間違つたものを発見し、これをただすことによつて、共同生活がうまくゆくのは、むろんのことであります。それをするためには、どうしても科学主義の前提が必要なの

です。

そして、このように事実が確認されたところで、それに基づいて、ある価値基準を適用し、一定の決定をしなければなりません。

われわれ一人一人は、毎日なんらかの意味で、このような決断をしています。農家なら、きょう、隣りの畑仕事を手伝うかどうか、商店なら、こんどの商品にはどんな値段をつけようか、サラリーマンなら、今月の予算の中からどれだけ社会奉仕の寄付ができるだろうか、といったさまざまなものがあります。これが、集団や共同生活になると、問題はもっと複雑であり、利害関係者が多いため、一つの結論に達することは容易ではありません。

私は、この婦人会議が共通の結論を作り出さなければならないものとは、全く考えていませんが、しかし、集団での討議と決定の手続については、こういう機会にお互いにまだまだ学ぶべきものが沢山あると思います。

そうしてここで、今からちょうど二十年前の、一九四六年四月十日、婦人がはじめて参政権を行使し、選挙で一票を投じたことを、私たちは、もう一度思い起こす必要があると思います。

この時の選挙は、複数投票制でしたから、厳密には清き一票ではなくて、めいめいが二票か三票を行使したわけですが、三票も行使するようになると、どういう理由で、誰と誰とをえらぶかという、前に申しました価値の基準と、それの適用としての決断とが、極めてあいまいになって来ます。げんにあの日、私の祖母などは、折角手に入れた三票の行使に困りまして、お前一票か二票譲ってやってもいいよ、などと、私の家内に申しておりました。

そのとき当選した三十九名の婦人代議士の方方は、ある意味では、はじめての婦人参政権の行使のお祝いのようなものであったのかも知れません。しかし、それにしても現在の七名は少な過ぎると思います。私の友人で、議員中の男子と婦人の比率は、半々であるべきだと信じており、このような法律案を、国民立法の方法で提案したいと主張している人がおります。これはアメリカの話でありますが、これにも理由がないことはありませんが、現実に、有権者の半数以上は婦人なのですから、このような法律によらず、実際の選挙で、必要ならば、もっと婦人を選出することができるわけであります。

しかし、それ以上にさらに大切なことは、婦人が政治をとおして、実際に、婦人の問題を解決するばかりでなく、婦人の眼をとおして、社会を見、婦人の手をとおして社会の問題を正しく解決することであると思います。

私はは じめに、母の愛が社会に必要なことを申しました。そうして次に、科学主義、即ち客観的にものを見、真実を見出すことの大切なことを申しました。

この二つは、ちょっと矛盾するように見えますが、実は、矛盾するものではないと思います。むしろこの両者が正しく結びつくことが、進展する社会の中で困難な問題を正しく解決する方法ではないか、そして、そこに婦人の重要な役割があると思うのです。

現代社会の最大の問題は、いうまでもなく科学の力がおどろくべき速さで、社会生活の手段を変えてゆき、それに伴って、さまざまの社会問題が起こっていることにあります。

非行少年の問題も、公害の問題も、人間疎外の問題も、すべて根源は、ここにあるといっていいと考えます。

それを解決するのに、単純な精神主義では足りません。私は、こ

れに対処するためには、前にあげた二つの道がどうしても必要だと考えています。第一は、科学的に問題自身を処理することで、そしてこのような科学主義が、行政や政治の根底にもなければならない、と信ずるのであります。政治が、腹芸やふくみや了解だけで、動かされてはなりません。必要なのは、問題を正確に分析し、原因結果を究明し、それによつて、正しい対策を立てることです。

科学の基礎のない行政や政治は、現代のはげしく流動する社会ではとうてい問題を正しくとらえ、これに正しい解決を与える力はもち得ないでしょう。理性を伴わない熱情は、盲目にしか過ぎないからであります。

しかし同時に、この科学主義が、冷たい分析だけで、日本社会の諸問題を処理できるかといえば、それは決してできないといわざるを得ないのです。何故なら人間関係の中には、科学だけでは計量できない、プラスアルファがあるからです。これを対象としたものが母性愛であるということを、前に申しましたが、別のことばでいえば、神への神仰につながる人間の内心の信仰ともいえます。

国連の事務総長であつたハマショルドの遺稿の中に次のようなことばがあります。

「人生が、汝に要求するのは、汝のもてる力である。汝のなし得る行為は、ただそこから逃亡しないということである。」

私は、現代日本の婦人たちが、人生と社会との提起する極めて複雑な問題に当面していることを痛感します。家庭生活に、職業生活に、農漁村生活に、消費生活に、そしてまた、婦人たちをとりまく社会生活に、数え切れないほどの問題があります。その中で、婦人として、どういう役割と仕事とをもち、それらに対処しながら、一人一人がどのように生きて行つたらよいか。それが問題であります。

全国婦人会議は、会議に参加した方々の努力とリーダーの諸先生のすぐれた指導とによつて大きな成果を生むばかりでなく、また、その周囲にあつて、この会議に関心をもつ多数の人々の熱意によつて効果をあげるものであります。お互いに真剣に一人一人の生きがいのある道を発見するために努力したいものであります。

第一部会

（家庭婦人の問題）

第一日目　四月十三日　一三・〇〇～一七・〇〇

会議員

山形　古沢千代（無職）
福島　相楽キヨ（無職）
埼玉　大塚怡子（無職）
千葉　遠山あき（農業）
神奈川　中村登寿子（国民宿舎勤務）
岐阜　高木富子（無職）
愛知　倉橋文子（産休補助保母）
三重　岩崎みよ（無職）
大阪　村田君江（無職）
兵庫　木下敦子（無職）
徳島　坂尾茂子（無職）
香川　安藤邦枝（農業）
熊本　浜道きよめ（無職）
宮崎　押川容堡子（会社員）
鹿児島　山下千代子（無職）

リーダー　伊藤　昇（津田塾大学教授）

特別オブザーバー

和田信子（全国地域婦人団体連絡協議会）
矢島せい子（日本子どもを守る会）
竹井二三子（日本生活協同組合連合会婦人部全国協議会）

伊藤（リーダー）　私のここでの役割は交通整理だけです。お喋りは皆さん方がするというのがこの会議ですし、こんがらがつたりした時にお手伝いいたします。どうしてお手伝いするかといえば、私は昭和六年から新聞記者を二十二年四ヵ月やりまして三年前に停年制によつてやめました。太平洋戦争の間はヨーロッパにおりまして、帰つてきてから戦後ずつと朝日の論説委員として、主として教育問題を担当してまいりました。日本を再びよい国にするには子供の教育以外にないと考えましたので自らそういう道を選んだのですが、子供の幸せなり子供の教育を考えると、どうしても母親の幸せなり、向上がなければならないということから婦人の問題などにもくちばしを入れるようになつて、全国婦人会議は最初から多少の関係をもつて、こういうものになるのもこれで六回か七回になると思います。そういう立場を一応お認めいただいて、皆さんのお手伝いをさせていただきます。きようの進行のことですが、一番始めに大体自分がもつてきたこと、応募作文に書かれたことでなく、この部会でとりあげてもらいたいとか、話し合いをしてみたいということをかんたんにだしていただいて、その問題を頭の中でまとめていただいて、話を進めさせていただきます。お手許に渡つている「各部会討議の要点」は、私は大ざつぱなものを出しているだけですから、そのほかにきようはとりあげたい問題とか、討議の形や、やり方などについてもご意見があつたら出していただいてそれについて少しお話し合いをして、それからきよう予定している家庭生活はこの二十年間にどう変つ

てきたかについての話し合いに入つたらいいと思いますがいかがでしょう。ゆきましょうか。（笑）

古沢　私農村なものですから、農村の若妻たち主婦たちが夫を都会に送つて雪国の生活をする厳しさを書いたのです。もう一つは低所得者の住宅問題、共稼ぎの人々の雇つ子の悩みというような問題を提起しましたが、それだけでなく、この進展する世の中では何か社会的になすべきことがあるのではないかという問題を提起しました。

相楽　私は三人の子供を育てることに失敗しましたので、その失敗をくり返さないように若いお母さんたちとじつくり話し合いたいと思つて出てまいりましたのですが、今の若いお母さんは教育教育といわれるほど知的方面の教育に熱心ですが道徳教育も非常に大切ではないか、心の教育、道徳的なことにも目を向けられてほしいと思います。私は長女を無意識に育てた経験が非常に役立つていると思うので三才から五才くらいまでに無意識の教育がどんなに大切であるか、皆さんとじつくり話し合いたいと思います。また昨日のお話で出た「サシスセソ」から「カキクケコ」の奥さんになつたらどうかということに私は非常に同感で、こういう点も問題にしてまいりたいと思つております。

大塚　私も現在育ちざかりの子供の母親ですが、子供の教育問題について反省する点が多いのですね。昔の母親というと和服を着て母屋の縁側でつぎものをしていたお母さんが頭に浮びますが、お母さんたちも外に出て職場をもつたりして家にいられなくなつた世の中で、子供が母親というものにどんなイメージをもつだろうかと気がついてびつくりいたしました。私たちの母親は自分の着物のように自分を守つてくれる母親であつたわけですが、案外今のお母さんたちは教育熱心のようでありながら、家庭内で当然なされなければならないしつけができていないのではないか、そんな不安があるわけです。が外へ出て職をもつことは悪いことではないかもしれないが、家庭の対策を考えないといけないのではないか、新らしい家庭の在り方とか、家庭の中における母と子、父と子の新らしい人間関係をつちかわないと、あと十年、二十年たつて今の子供たちが成人した時に大変なことになりはしないかとその憂いの一端を作文に書いたわけです。

遠山　私は農家の立場から子供の教育について考えてみました。この頃は農家もいろいろ変つて子供との接触時間が少ないことが大きな問題になつております。私はそういうことをグループの方々と話し合いましたが、百姓の労働時間を少なくして子供にばかりくつついていることは不可能なので親と子の心の交流、つまり愛情はどうあるべきかについて考えてみました。そして愛情は時間に比例するものではなくて質の問題だと思いました。たとえ十分でも時間を生み出して、その間に吟味された純粋な愛情の交流をはかるということを実際に私たちのグループで手をつなぎ合つて実行しておりますので、それについて書きました。また個々の家庭において親子の愛情の交流があると同時に、社会全体の人たちがお互いに手をつなぎ合つてゆけば、青少年非行の問題についても、必ず目的が達成できるのではないかという確信をもつて、グループの人たちと努力し、ある程度の成果をあげておりますのでそういうことについて書きました。

中村　私の住んでいるところは山奥で戸数七戸くらい、分校の生徒

も小学校と中学校を合わせて九人です。神奈川県というと文化県のようですがまだまだ僻地の生活をしているものがおります。私はその山奥に終戦直後まだ電気もなく、なんにも交通機関もない頃に入りましたが、現在は電気もつき分校も再建されていい校舎も与えられて、文化に乏しい生活から少しでも文化的になつた二十年の生活記録をたどたどしく書いた次第です。私の意図しましたのは、僻地の生活ー、そういう僻地の子供でも等しく勉学ができるように、また食糧事情も非常に悪い僻地の生活を少しでも知つていただきたいと考えて書いたのですが、それと私と主人が何人かの恵まれない子供を引きとつて育てた当時の子供たちがそれぞれ立派に成人してくれたことを書きました。私が一番悩んだことは、自分の生んだ子供と途中から育てるようになつた子供に対する精神的なものでした。それでもし再婚をさつたり、また自分の子供でない子供を育てられた方がおりましたら、私が悩んできましたことについては学ばせていただき、また自分の知つていることはお話できたならなーと思いまして・・・・

伊藤　中村さんの場合、ご主人が連れてこられた恵まれない子供というのは、経済的に恵まれないとか、家庭的に恵まれないとかいうだけですか、精神的とか肉体的というハンデイキャップは？

中村　そういう子供もおりました。

伊藤　たとえば知恵おくれの子供というような場合もー？

中村　はい、現在も身体障害者も、自分の名前も、年令もわからない、精薄の小父さんもおります。身体障害者のほうはできる仕事をさせて自分でもできるという自覚を与えるようにしておりますがー。

伊藤　中村さんのやつてこられたことは参考になる点が多いでしようから後ほどお話し合いすることにしましようー。

高木　私も家庭教育がこの頃おろそかになつて、お母さんたちが勉強だけに気をとられて、家庭のしつけ、道徳教育を忘れているような状態について反省してみたいと思います。私のほうは農村で、大変生活のレベルが上つたのに収入が都市なみでない、それと教育費の増大などに追われて主婦が内職をしたり、農業のほかに外へ働きに出たりして苦しんでおりますが、子供を放つておいて外へ出るのでなく何かいい方法はないかということが話題になつております。経済的に恵まれて、家庭を電化したり生活が合理化されることによつて余裕ができた主婦たちが、社会に出て仕事をしたいと思う場合にどうしたらいいか教えていただきたいと思います。

倉橋　私は結婚してから十年というものひたすらによき母親、よき家庭人になろうと努力してきましたが子供が成長してくると、今までの生活をふり返つてみて果してこれでいいのかなと反省してみるようになりました。幸い保母の資格がありましたので、社会に奉仕し、また自分も高めてゆきたいという気持で産休保母として三カ月間市の保育所に勤めまして、そこでいろいろな悩みを保母さんたちからきき、自分自身も経験してみて、家庭婦人が外に出て働くことには限界があると感じました。しかし限界があつても、たとえば保母、看護婦さん、ホームヘルパーとかなた社会福祉的なものなど女性を必要とする職場へもう少し女性が進出できるようにしたらいいと思います。若い人々にこの頃福祉的な仕事が嫌われる傾向がありますが、そういうことも疑問に思われます。

結局若い人に嫌われるそういう仕事へ出てゆくのは家庭婦人のほかにはないように思います。たとえば勤めていらつしやる方のお子さんを預かるとか、そういうことを組織化していつて、職場にある人がもつと働きやすいような状態にしてあげられたらよいがということを現在考えております。

岩崎　私六年前に何か社会奉仕を、と思いまして里子を一人あずかりました。自分の子供が二人おりますので子供たちより年上の子を選びました。これで家の中にいながら社会奉仕ができ自分自身の内面的な徳が磨かれて本当によかつたと思いましたので書かせていただいたわけでございます。

伊藤　岩崎さんと中村さんのもつておられる問題は比較的共通する点があるかと思いますがまたあとでお話をうかがうとしてー

村田　私のところは古くからの住宅と町工場、その間にたくさんのアパートがあります、アパートは非常に出入りが激しいというのは区内か、その近所に職業をもつ人たちでどうしても近所でなければ住めないような生活状態の方です。ですからアパートに住むがために婦人会にも入れてもらえず、向上も何もない区域なんです。それで当然ＰＴＡでも幼稚園でもすごく派手になるしアパートの部屋中に電気製品を並べて収入と支出のバランスがとれないで苦労している。裸でつき合える少ないグループでもつくつていつてゆけば、見栄も張らなくていいし、子供の教育の問題でも無理に塾へやつて勉強しているような格好をしなくてもいい、一つ一つ解決してゆける方法があると思いましたので、比較的若いお母さんを通じて始めたいと思います。

木下　私は新らしくできた団地に住んでいる全く平均的な家庭の主婦なんです。回りをみても具体的な問題はなんにもない。所感文もふとした機会に知つて、私自身が現在までに子供たちにしてきたことの反省という、ただ本当にそれだけのことで抽象的でおはずかしいと思つています。その中で特に考えたいのは世の中がどのように進展してどんなに機械化され生活が合理化されていつても子供を生んで育ててゆく母親の役割に変りはないと思いますので、子供たちを育てる母の在り方をもつと真剣に考えてゆきたいと思います。特に子供の未来に深くつながつている母のゆき方を皆さんと一緒に考えてみたいと思います。教育とか、しつけはあらゆる機会にいいつくされているが、子供をがむしゃらに勉強に追い立てて考えることも、耐えることも、いたわることも、感謝することも教えられないで育つた子供はどのような大人になるだろうかということが私の一番の問題点でございます。

坂尾　私が住んでおりますところはすぐ隣りに電通の社宅があつてそのほかも全部勤労者の自宅地帯です。今私たち勤労者の主婦は非常に高くなつていく物価に苦しい生活をしている。私たちのグループはもちろんですがそれ以外の主婦も九十パーセントまでは内職をしている、それにつながつて保育所の問題が私たちの悩みの一つとなつています。あるいは内職の低賃金の問題、そういう問題を皆さん方と一緒に考えてゆきたいと思います。それと私どもがグループをつくつて学習してゆく中で、政治や社会の矛盾というものを主婦は主婦なりに見出していると思います。進展する社会がむしろ私たち主婦を厳しい立場に追いやつているという分析をしました。教育の問題の中で、中学校の就職組と進学組を分けた差別教育、高校進学に伴なう補習教育の問題、高校が後期中

等教育の場として立派な教育ができているかどうか、そういう問題を提起したいと思つております。

安藤　私が住んでいる地帯は純農村で、葉たばこ、果樹、米麦、野菜などを主とし零細ながら多角経営で生活をしています。消費文化も入つてきて戦前に比べて生活水準は向上してきたのに、繰凱饉の波が押し寄せてきて困つています。それでその原因を探つてみてもつと望ましい在り方にもつていつたらもう少し農村は住みよく明るいものになるだろうとグループの人たちと話し合つたわけです。そして労働時間が長いのに所得が低いこと、せつかく機械が入つても機械倒れになつてよそに働きに出る。そのかげに置き忘れられてゆく鍵つ子の問題があります。法的に男女同権になつても、女性は引つ込み思案でおまけに仕事がだらだらしていて計画性がない、それでいて農休日は怠け者がつくるのだという因襲的な考えがまだ根強く残つているのです。そういう悪い点を改善していつたら農村は明るくなるだろうと思つたことが一つ、それから今のお母さんたちの日常生活を反省して、これからの主婦はこうあるべきだという在り方について考えてみたいと思います。

伊藤　こういうふうにあるべきだということを最後の日あたりにおまとめになつて、それを披瀝していただきたいと思います。お宅のほうから三年か四年前にここに出てきた人を知つていますか？貞広さんという人。

安藤　出発する前にお手紙いただいて先生によろしくということでしたが。

伊藤　手紙は墨で書いて？

安藤　いいえペンで、貞広しづ子さんという方でした。贈りものもいただいて。

伊藤　あの人は非常に奥のほうでしょう。貴女のところはそんなに奥でない。

安藤　はい。

浜道　私はいろんな問題があるのですが一番切実に感じていますのは消費生活です。経済の高度成長のかげには恵まれない職業の方も多く物価騰貴の波の被寄せがそういう方たちに一番強いんです。それが急激にやつてきて技術も資格もない女でも外に出ていつて収入を得なければならない。私の場合もそういう状態にあるのですが、私は外に出て収入を得るのが全面的にプラスするのではないと思いまして、子供も五人おります。家庭でいくらかの収入を得る方法を選びました。そして通信教育で技術を習得したのですが、そうして私ども庶民の主婦が一生懸命考え、工夫して、精一杯の努力をしていますけれどもそれは根本の解決にはならないと思います。各地の家庭婦人の皆さんに、消費生活についても助言をお願いしたい、それとともに各役職にある方々に、こういう庶民の真剣な生活の状態を十分知つていただきたいという望みをもつて出てきました。

伊藤　浜道さんのところはどちらかといえば都市部になりますか？

浜道　小さい町で農家が半分、商店が半分です。

押川　私小さい子供を三人抱えて一人前の勤めをもつています。それについて先ほどからの道徳教育とか、しつけの問題とかを考えますと、母親が仕事をもつことが是か非かということについて、皆さん一緒に考えていただきたいと思いまして出席させていただきました。

伊藤　お勤めはどういうところですか？

押川　デパートの総務部で事務関係の仕事をしております。

山下　私は一口で申しまして、子供を育てることについてお教えをいただきたいと思つて出てまいりました。兵庫の方でしたが、子供を育てるには自分自身がどう生きてゆけばよいかと考えなければならないとおつしやいましたが、子供を育てるということがどういうことだつたのか、ほとんど手がかからなくなつた今改めて考えさせられています。子供の教育をスタートのところから考えなおして、自分の誤まつた点を是正してゆきたいという気持から子供に関する問題をできるだけ深く話し合い、根本的なところから教えていただきたいと思います。

伊藤　皆さんから一応胸にもつておられる問題をお出しいただいたのですが、この中でお子さんのない方は？、結婚してない方もないのですね。自分以上に子供の多い人はないだろうという自信のある方は？五人の方が最高、二人というのが標準家庭ですね。そうするとお子さんのない方はない。若い大学くらいの方が一人ことに入つていて、家庭のお母さん方の考えを伸ばしていただきたいと思つて、これは選考の時にも問題になつたのですがねー。

木下　第一部会の主旨からは外れるかもしれませんが、全国婦人会議の会議員の選び方とかPRの問題について私考えるのですが、応募者の状況は四〇才から四九才が三二パーセント、旧高女卒が三八・五パーセント、配偶者のある方が七三パーセントです。これをみたら全く平均的な方が多くて、本当に問題をもつていらつしやる方が応募されたかどうか全国婦人会議の所感文の募集の方法になにか問題がないか。私も今年始めて新聞でちらつと見て感想文だけ書いて出したわけなんですが本当に問題をもつていらつしやる婦人の層はちつとも表面に出ていないのではないか。それが一番大きな問題じゃないかと思いますのでそのことも少しお話し合いしたらと思います。

伊藤　そういう問題を最後にはもち奇つて次来年はもつとよく、さ来年はもつとよくというふうにしたい。毎年いろいろなご意見を最後のところでお伺いしておりますからどうぞまたお願いいたします。それで年令とか、お子さんの数なんかをおうかがいしたのですが、今のお話し合いの中でここのところだけは聞いておきたいということがあつたらどうぞ。たとえば浜道さん、通信教育で何をやられたのですか？

浜道　孔版技術です。

伊藤　がり版ですか？

浜道　昔はがり版といつていたのですが今は少し技術があがりましてガリ版とはいわないでー

伊藤　それにかなりの収入になる内職になつているのですか？

浜道　私はその途上にありますからまだ収入は少ないのですが、技術が上れば上るだけ収入はふえますね。

伊藤　五人のお子さんをもつてよくおやりになりましたね。ほかに何かたしかめておきたいことは？

古沢　皆さんは今はやりの言葉でいうと核家族の方ばかりのようですが、農家の場合三世代にわたつているんです。それからだんなさんのことをちつとも問題にしないですが、それや老人の在り方も家族として考えるべきではないか、視野をもつと広くしていかないとピンボケにならないかー。

伊藤　今いわれた「核家族」というのはご承知のように両親と小さな子供で家族を構成している場合で、じいさん、ばあさんが入つていると核家族ではなくなるのですね。三世代の所帯をもつている方はどのくらいありますか？その問題もたしかに家庭の主婦として大事な問題ですね。そうすると安藤さんの場合はもちろん嫁さんとして仕えていらつしやるのですか？

安藤　はいそうです。

伊藤　お嫁さんの立場の方はお一人ですか、古沢さんがおつしやつた父親不在というのは実は私ラジオでも申しあげるのですが、皆さんの所感文を読ましていただいて私が父親であり、じいさんであるという立場から、これは男はどこにもいないじゃないかと本当に驚いたんですよ。やはりこれからの話し合いには父親の座とか、父親の在り方というものをある程度決めなければ、母親の在り方主婦の在り方だけが問題になることはあり得ないわけですからね。これからの話し合いの中でいつでも引き出していただきたいと思います。現代における亭主の役割はこの部会でなければ出ませんから是非お願いしたいと思います。ほかには？

中村　私どもの年代はすでに老年の入口におりますので、婦人の老後の問題について皆さんのご意見をききたいと思います。

伊藤　男性の老後の問題もお願いいたします。今のお話には胸を打たれておりますから。（笑）今までにも全体に渡つて各部会に老後の問題というのがありました。それでは私が予定しました討議の要点を、大ざつぱに私の考え方を申しあげますから、それについて疑問、ご意見があれば是非出していただいて、これで進行の方向を決めたいと思います。

まず家庭婦人の問題というところで三つにことさらに分けました。第一が家庭生活はどう変つたか。第二は今どこに問題があるか、第三がこれからどうしたらいいか。こういうふうに分けましたのは実は機械的な問題でして、今日の午後の部会で第一のどう変つたかを出し合うと、その話し合いの中で問題がほとんど出ると思います。その問題を明日の午前中比較的短い時間の間に揃えてみて、それならこれからどうしたらいいかということをあしたの午後の三時間半をかけてやる。一番大切なことは建設的に、具体的に皆さんの知恵を出していただく、第一に家庭生活はどう変つたかということを出しましたのは、今年の全国婦人会議の一つの特徴は、婦人が参政権を行使してまる二十年たつたが本当に自分たちが願うような家庭なり、社会なり、あるいは教育なりが一体できつつあるのかそれとも全然駄目なのか、政治が本当に皆さんの考える線に添つて進んでいるのかどうか、つまり婦人が政治に参加したということは皆さんの願いとどういうふうに関連しているかを確かめ合つてゆくのが今年の婦人週間、特に全国婦人会議の大きな意味だと思うわけです。あるいは皆さん応募される時に、婦人の役割とか、進展する社会の中でというふうに抽象論的に過ぎるとお考えになつたかもしれませんけれど、そういうふうにしぼつてみると今年の問題点は比較的はつきりするのではないかと思います。そういう面からこの際二十年を静かにふり返つてみよう、そうすると私たちの日常生活に大変、変つた面があるとか、あるいは変らない面があるとか、お話し合いを進めるのですが、先ほどから消費生活とか、物価の値あがりという問題が出てきております、家庭生活の中には当然経済的な物質的な面と、子

供のしつけとか、子供と親との人間関係とか、道徳教育というような精神的な面と両方あると思います。物質的な面からいえば衣食住の変化とか消費生活、それから一種の労働条件、夫の出稼ぎにしても労働条件ですが、具体的にいえば収入源が変つてきているでしょう。それに対して社会的な条件、たとえば団地生活、これは住宅の問題になるかもしれませんが、単に住宅の問題ではなくて地域社会の社会的条件という問題がある。その次に精神の面ではしつけとか、道徳教育、親と子の在り方とか三世代が一緒の家庭にある時どういうことが人間関係で問題になるか、この人間関係の中に出てくるでしょうし、なんといつてもこの部会は教育問題、教育ママの問題はかなり出ておりました。

それから皆さんのお話には出てきませんでしたが、今日の家庭生活を、内と外から変化をさせているものに文化的環境、マスコミュニケーションの問題があると思います。テレビジョン、週刊誌、映画、漫画に家庭の中の個人個人にも影響すると同時に人間関係にも影響していると思います。そういうところを妻、嫁、あるいは母、つまり主婦としての立場からお話し合い願いたい。それからもう一つ働らく母親という立場からですが、そういう問題を明日の午前中に、ここのところが問題だという点、そして望ましい家庭婦人の在り方というところにもつてゆきたいと思います。きようやる順序の中でこれが足りないとか、こういうやり方じやとても駄目だという点があれば出していただきたい。物質の面と精神の面をきちんと分けていますが、衣食住の生活が変ることによつて精神面が非常に変るわけですからね、そこのところはお話し合いの中で自由にからみ合わせてご意見を公開していただきたいと思います。特別のご意見のある方はお願いします。

相楽　特別の考えではないのですが、物質の面と精神の面と分けても分けないでも人間関係は同じだと思います。そういうことから衣食住ということからも、消費生活、労働条件、社会的条件、みんなこれ人間関係につながつているのではないかと思いますのでそういう点からも考えてみたいと思います。三代家族の問題からも、人間関係からゆきましても衣食住の問題はずい分変つたと思います。昔と比べれば消費生活もずい分変つて本当私などシャツやなんかは子供たちのお下りでなくおあがりです。（笑）そういうことを考えれば人間関係というのは全部をひつくるめて考えてもいい大きな問題だと思います。

伊藤　要するに同じ家の中に住んでいる人間が考える人間関係が家庭生活ですからね、今のご指摘が当然ですが、それをあえて討議の話し合いに順序をつければこうなると思います。家庭はそれ自体が人間関係の問題です。今相楽さんがおつしやつておもしろいと思つたのにシャツが子供から上つてきたりするということですね。この会議の初期の十回めぐらいですか私がここでお手伝いをしておつた時にですね、この二十年間に一番変つたのはお母さん方、主婦の服装だと私言つたのです。きよう数えてみました。各部会とも和服を着ている方が平均して二人ですね、そしてお年を召した方にも洋服が実にぴつたりしてきているんです。始めて私がお手伝いした時に「私のはいてきたスカートは娘のスカートですよ」と言つていた方があつたが、これが二十年間の大きな変化ですね。そういうわけで相楽さんの意見の線に添つて全体を含めてもかまわないんです。私としては三時十五分くらいまでに物質

的な変化ー。相楽さんが言われた、衣食住の問題も人間関係だとー、これをもう少しくわしく相楽さんからおつしやつていただいて、それで皆さんでお話し合いいたしましようか。

相楽　衣、着物の点から考えても昔は母親が縫つて着せていたものですね。それが今は既成品のほうが安い場合もありますからその点から考えても消費生活は変ると思います。それから食、今はカロリー計算ですね。しかし私はカロリーだけでは栄養に満点ではないと思います。目で見て食べる場合もあれば鼻でかいでみて食べる場合もある。みんな揃わないと血や肉にならないと思います。食生活はずい分変りました。朝私どもでも子供たちはみんなパン食になりました。私はごはんが好きなんですが。労働条件もそうだと思います。昔は朝早くから起きて夜寝るまで働らくのが良妻賢母でしたが、今では電気製品が出回つて余暇ができましたので、その余暇を自分のために使うということは私は労働条件に入つていいと思います。社会的条件もやはりマスコミの影響や何かで子供が大分変わりましたね。それで私は社会的条件には教育費の値あがりも入れていただきたいと思います。共かせぎがふえたというのは教育費の値あがりもあります。子供が大きくなつてからお母さんが働けばある程度認識するからいいと思うのですが、小さい時にはやはりうちにいるのが理想だと思います。お母さんは社会的に貢献しているという自覚をもつて子供をお育てになればまた別の意味が出てくるかと思いますね。

村田　私も相楽さんと同じ線で考えております。衣食住、それが変つたことによる精神的な、家庭内の親と子、男・姑、あるいは夫婦のつながり、そういうものもものすごく変つてきているわけです。遠足にゆくのはお母さんが夜なべでおすしをつくつてくれたことは、衣類の場合にもいえると思います。私どもが小さい時にはつぎの当ててある靴下は普通でした。電球を入れて母が夜なべに、私たち五人姉妹の靴下を一生懸命つくろつていたのをよく覚えています。そういうことから親子の情愛が生れる。ところが私ども手近かに安い靴下がある。つくろう手間があればほかのことに使いたいし、手近かなものを買うという現状じやないかと思います。精神的なつながりがわかつていながら世の中の機構と一緒に流れなければ生活できないような現状、これはどうにもできないと思います。それから食事の場合もインスタントの功罪にはいろいろありますが母の手づくりの夕食を食べる一家だんらんの楽しみが大変阻害されますね。

遠山　この頃はマスコミといいますかテレビやラジオがどこの家庭にも入つておりますのでそんな影響でしようか、ここにいらつしやる方をみても農村の方、都会の方、山の方、みんな同じで昔ならやぼつたいことにきまつていたいなか者という感じはちつともありません。そういうすてきな格好をなさるにはもとがかかるでしよう。その辺に問題があるのではないかということが一つ、もう一つは食べもののことです。私は嫁のつとめもしてきて今度は姑のつとめを始めたところですが、嫁の頃に主人の兄弟か誰かが帰つてくると前の日からお餅をついたりいわゆる郷土の母の味を作るのに二日がかりでやらされる。ところが今姑の立場になつた時に私独特の郷土の味母の味をつくれるだろうかと、とても疑問なんですね。東京の人が食べるものも山の中のものが食べるものも大体同じ、母の味、郷土の味が一律になつちやつているような

気がするのです。私ども子供を育てる時分には農繁期が終ると子供を連れて海水浴にゆくとか山登りにゆくとかやりました。その時は子供も喜んでいるし、親もうれしい、へたくそですが三人の子供に同じきれでよく洋服をつくつてやつたんです。ところが今だつたら安いお金であした行くといえば今夜買いに行つても用がたりる。そして体裁もいい。いろんなものが形で整えられて、それに引つぱられて自分の心の中まで形で整理されてしまうような変な気がしてきます。この頃の文化というものと精神生活とに矛盾が出てきているように思うのです。

伊藤　遠山さんのご意見は、郷土の味、母の味というものがなくなつてしまつたというのはなくてもいいというご意見なのですか？

遠山　いいえ、なくなつてしまつたところに問題があるのではないかということです。

山下　よいにしろ、悪いにしろ、文化が進んで野ばんな不便な時代から便利な能率のよい世の中に変つてきた。これには悪い面もあればよい面もありますね。靴下も強くなつて修繕もしなくていい。食生活も都会もいなかも同じようになつた。それが便利すぎて人間の心が入つていないということはございますが、一般に進歩のおかげをこうむつているほうが多いと思います。進歩してもし便利になることを地方色がなくなるとか、形だけもつていて精神が失なわれるという考え方をすれば文明そのものを否定しなければならない、ナンセンスだと思います。それで人間が生きるというのは人間を完成することで、子供を育てるにしても、母親自身が生きることにしても理想のほうに近づいていること。これが目的じゃないかと思います。そうしますとそのために文化を摂取し、役立つようにしてゆかなければならない。安くて体裁もいい、便利な洋服ができてお母さんに時間ができてそれを自分が向上してゆくために当てられるのは大変いいことではないか。そのために親子の情愛がなくなつたり、親子の間がゆがんできたりということはそれをどうとつてゆくかの態度にかかわることです。一概に世の中が進んで変になつたということはいえないんでそういう考え方はなんのために勉強するのか、それすら否定しなければならない。正しいほうへ進歩させてゆくことが絶対不可欠で、それがしつかりしていれば進むほど幸せになるのではないかという気持がいたしますが！。

遠山　その文化を吸収する人間性が問題ね。

山下　それが確立していればよいでしょう。

大塚　ただ今文化的生活の背定論が出ましてそれを否定するわけではないのですが、卑近な例として私の場合は子供が非常に小さいのでテレビが子供や家族に及ぼす影響はたしかに大きいと思います。子供も昼間学校に行つていますし、親も忙しいので子供との団らんの時間は夜になりますが、夜はテレビに占領されてしまうのです。子供に対する親の指導が悪いといえばそれきりの話なんですが、毎晩毎晩子供たちの好きなマンガなんかを傾向を変えてたくさんの放送局で放送しているものですから、ご飯だと言つてもちつとも集まつてくれないんです。たしかに私たちの育つた頃と違つてきました。よく昔と今を比較しては子供たちに「時代が違う」とおこられますが、私たちが育つ頃はお餅なんか二俵くらいついて一年一杯続いて食べたり、油で揚げたりそんなおやつをもらつて育つたのですが、今は学校から帰つてくるとインスタント食品

のおそばなんかをさつさとつくつて、テレビの前に座り切り、ご飯だといつてもおふろだといつてもなかなかこない。ことによればそのまま寝ちやうくらいなものです。勉強も宿題も「ながら」でテレビの前ですましちやうというようなことで子供との接触もないし、親のほうで努力してもテレビの魅力のほうが大きいらしいのですね。それを全面的に否定するわけではないんですが、テレビばかりが文化ではないとしてもやはり文明の利器に侵害されちやつてー。それからインスタント食品もそうですが、母の味などは現代の生活には必要ないとおつしやる方もあるかもしれませんが、やはり私たちはそういうものに郷愁を感じるし、そういう生活が愛情の現れの一つだとも思いますし、人間関係の潤滑油でもあると思う。またそれが祖先を愛し、村を愛し、大きくいえば国を愛する心にもつながるのではないかと思うのです。みんなが自分単位で人を考えない生活、ばらばらな生活、その中で大きくなつた子供たちは成人した時にも自分勝手になつちやうんじやないかしらとそんな憂いを抱くもので、決して文化的生活を否定するわけじやないんです。

伊藤　お子さんはお幾つですか？

大塚　中学一年、小学校五年生と一年生です。

伊藤　一番おもしろいところですな－。

木下　中学一年と伺えばもうお話し合いのできる年令だと思います。私のほうでは上が小学校二年ですが一年生の時は、一週間のうちで自分の見るものを決めさせたのです。それについて私はアドバイスはします。その他は私の判断で見せます。次に続けてマンガみたいと思つても自分が選んでいないという意識がありますから決して続けて見たいとは言わないんです。大人でもそうなんですが見始めたらおもしろくなくても続けてダラダラと見るようになります。ですからそれをピシャッと切る最初の習慣が大事だと思います。それで私子供にも「大きくなつてから勉強の時間が一杯とれなくなつて困るのよ」と話すのですが、やつぱりそういうふうに・・・・　お母さんがもつて行かなくちやいけないんじやないですか。

伊藤　木下さんのところはお子さんは何人ですか？

木下　二人です。

伊藤　切つたあとは親がどんなに見たい番組でも見ないわけですか？

木下　そうです。一応切ります。子供が見る時間は大体五時四十五分から六時半、七時くらいまでです。七時から七時半までのものを見せる時もありますがその時にはみんなテレビのニュースが見たいけれどがまんするのです。九時までー、そしてテレビを切つたあとはおふろに入つたり、きようのお話しをしたりするために置いておきます。

大塚　さつき核家族のお話が出ましたがご夫婦と年令のあまり違わないお子さんの家庭だつたらそれができると思うんです。おばあちやんの見る番組みをいけませんよとはいえませんし、子供も中学生と小学生の下のほうと離れていますとまた見るものが違うでしょう。だから親のほうもこまつちやうんですよ。

木下　下のほうは今度四才ですがやはり見たいものは違います。

坂尾　先ほどからの、文化が造んできたということ、これが全面的に私たちの家庭生活にプラスになつているかどうか、考えてみな

ければならないと思います。既成品とか家庭電化が普及して主婦の家事労働は軽くなりましたが、月賦払いに苦しんでいるという事態が出てきております。私たち学習会の中でもマスコミの宣伝に迷わされないで、ほしいものと必要なものははっきり区別して買うということを申し合わせております。テレビのお話が出ましたがうちでは三人の子供が大学へ入るまでは絶対にテレビを買わないということに子供と親たちの話し合いで決めたわけなんです。これは教育的な面だけでなしに経済的な面も大いにあるわけなんです。一つおきに子供がつながつておりますので、中学、高校、大学と進むのにテレビを買うということが経済的な大きな負担になるわけなんですね。私も時には高校生になつた子供に、テレビがないために学校生活にマイナスになつていないかときいてみるのですが、教育番組やニュースなんかのことは話し合いの中に出てこない。娯楽番組ばかりだというので安心しました。最後の子供が大学に入りましたが私立なのでお金をごつそりともつてゆかれてまたテレビがしばらくおあずけになりました。（笑）それから家庭の味ですが、やはりインスタント食品は出始めの頃はみんながとびついたと思うのですが、やはり家庭には家庭の味があると思います。私のところはインスタント食品はみんなの口に合いません。またこの頃はお菓子は全部袋に入つていますね。そのお菓子を袋に入れている場面を見たんですが、それが本当に不潔なところで、袋に入れてスーパーマーケットなんかに出されているお菓子は清潔なように思うけれど、果してそうかと疑問をもつております。

伊藤　今のことで私もおうかがいしたいことがあるのですが、今まで発言なさらなかつた方は？岩崎さん、安藤さん。

岩崎　今のテレビのお話にしても、皆さんがそれぞれ見たいのにがまんなさる。人にゆずるという気持が生まれてきて、大変いいことだと思いますが。

安藤　消費生活面からいえば手づくりから既成品へ、昔はみんな自分の家庭で手づくりだつたのが今は分業的になつて、お金さえあれば買えるという状態ですが、私のいいたいのは和服から洋服へ衣生活が変つてきたけれどもその二重生活の中でマスコミにあおられ企業側からどんどん流行が作られて、その流行のかげに無理がないか、流行を追うがために主婦はほかに働きに出、収入を得るために苦労するというようなことがあるかないか、それを考えてみたいと思います。

浜道　便利なものが経済性を伴なうかといえばそれは疑問なんで、私大根おろしのおろし金を買いにいつたのですが、お値段がぐつと上つています。下におろしたのがすぐ入る受皿が付いていますから上るのが当然なんですね。これは便利ではありますがどこの家庭にも合うものではない。私のところでは大家族だし、それでは間に合わない。値段の安いものがほしいのですがそれが手に入らないような状態ですが、そういう面を考えてみたいと思います。

伊藤　押川さんは外で仕事をしていらつしやるというがお子さんは何人ですか。どういうふうにしていらつしやるのですか？

押川　子供は三人ですが、今のところはお手伝さんに来ていただいて子供をあずけて朝九時から夜の六時まで仕事をしています。今までと比べて衣、食、住とかそういう面がずい分豊かになり、家事労働が減つております。今はスイッチ一つでご飯がたけるし、

つくろいものもしなくても新らしいものが安くて手に入る。そういう生活の中で主婦は何をしているかといえば、ただ井戸端会議なんかをやつて時間をつぶしてしまつて、皆さんがおつしやつているように子供の精神面の教育とか、道徳教育とかをやつていらつしやらないんです。私が勤めをもつていることに対していろいろ非難をされる方が多いのですが、ひまな時間を生産的な方面に、主婦であつても、もつてゆくべきではないでしょうか。愛情面においても量より質だとおつしやいましたが、そういう面でもきちんとしますし、生活の計画が非常に立ちやすいのです。子供は小学校二年生と幼稚園と、今一年半の子供です。

倉橋　私も同じ意見です。私は今までは家庭の主婦一本でしたが、勤めてみますとそういう計画性をもつて物ごとを処理してゆくという面ではプラスになつたと思います。子供のことでも手があき過ぎると教育ママ的な傾向になつてしまうんですが、子供にしてもこちらの態度がちやんとしていれば前向きにこちらの気持を受けとめてくれるということを感じます。こういうふうなら勤めを続けていつてもいいかなーと思うこともありましたが、やはりむずかしい面もあるのですね。それで迷つているという点でお話し合いができたらと思つているのですがー。

伊藤　中村さんはこの二十年間特殊な環境の中で努力してこられたのですが、今話題になつている点で一番変つてきたなと思うことを、そういう生活を中心にしてお話し願いましょうか。大体敗戦と同時に山に入られたのですか？

中村　主人は昭和二十二年に山に入りまして、終戦までは岩手の山奥に住んでおりましたが、その疎開先で土地をあげるから住んでくれといわれたのですが、とても住めそうにないのでー。

伊藤　ご主人は宣教師でいらつしやる？

中村　いいえ、当時はそうでありませんでしたが、こちらに帰つてきてからは牧師を少ししました。いろいろな問題がありまして伝道面からは引きました。私たちが山に入つた当時は女の子でもパンツをはいていない、そしておとなの着物を肩あげをしたり腰あげをしたりして着ておりましたが、とにかく着るにも食べるにも最低の生活でございました。神奈川県の栄養士さんが回つてきた時に「神奈川県で最下位ですよ」といわれまして、私たちはこれではいけない、子供の体位にも差しつかえますので、お母さんたちが集まつて名前だけですが母の会が発足したのが今から十年くらい前になりますか、着るものでも自分のうちの子供が小さくなつて着られない場合はよそに回すというふうにして、今でもそれは続いております。何でも自由に買えるようになりましたが、それでも手づくりのものはとても美しいと思うんです。私ども母の会ではなんとかして母親の時間をつくろうと、名前だけでも保育園をつくつて分教場へあずけ、保母というかお手伝いさんを一人やといましたが、さつきのお話のように子供をあずけただけ十分に働かない雑談なんです。それで無意味なのでやめました。それからいろいろな話し合いをして、油を一月に二升なら二升使いましょう。青いものはなるべく食べましようと各家庭に献立をもちよつて研究をしたり、食べること、着ることについて相談し合つてきました。現在ではテレビが入つて町の様子もよくわかりますし、食べることも着ることも社会条件が変りまして、今までは雨が降れば収入がない生活でしたが、今は木こりたちが県の廻いに

なり、それで雨が降つても月給が入るのでおかみさんたちも精神が安定しますから家庭の中にいざこざが起きない。いざこざが起きないから子供たちも平和でいられるというふうに、山の生活も大変落ちついてまいりました。

伊藤　そこは開拓村なんですか？

中村　違います。県有地でございます。

伊藤　もとから人は住んでいたのですか？

中村　札かけという地名ですが、徳川時代にお役人が見回つたというしるしに札をかけて歩いたというので地名になつたそうですが、明治の初期頃から人が住んでいたらしく昔は四十戸も六十戸もあつたそうです。私どもが入りました時は食糧が不足で食糧を背負いにゆくことができないので、七戸でございました。

伊藤　中村さんのところは今お子さんは？

中村　自分の子供は三人おります。四人生んで一人山で死にまして。

伊藤　いろいろと問題が出まして、問題はまだたくさんございますが、ここで十五分お休みをいたします。

―休　憩　後―

伊藤　大変などやかにうまく話が進んでいるように思つているのですがこの点はおもしろくないという点があればそれを出していただきたい。先ほどの話し合いで一つ大きく出ている問題は形式と精神があると思います。農村と都会では形の上では同じようになつたが、消費面と収入面に落差があるのではないか。農村と都会の対立、現代的な都会化現象がいわれる今日における対立が出ておつたと思います。それから家庭婦人が外に出て働らく問題に対して、是か非かまではゆかないまでもたくさん問題があるのではないか。それらすべてが子供の教育に、その中にはしつけとか道徳教育も含めて関連して出てきて、それが戦後二十年間の変化の中でとらえられていると思います。物質的な問題、衣食住とか労働条件、社会条件など全部出てきているわけではないが、これから人間関係とか教育関係とか、それからマスコミは大分出てしまつたが、それも含めて先ほどの続きをお話願いたいと思いますが、特別のご意見があつたら出していただきたい。

古沢　ここにご出席の方々はとてもお幸せで教養も高いようですが世の中の底辺にいる方のお心持も考えないと、一般的なものにならないのではないかと思います。

伊藤　その点に関し私も気がついておりますのは、いわゆる生活の電化とか便利化というものが、家庭の主婦として消費の面でどういうふうにプラスになるか、マイナスになるか。さつき中村さんも少し日本の僻地における生活の状態もおうかがいしたかつたのです。坂尾さんがテレビを買わない、息子が私立大学に入つたのでまた買う予定が買えなくなつたというのは実に現代的な、どこの家庭でももつておられる問題なので、そういうものはやはり追追と固めてゆきたいと思います。それから古沢さんは出稼ぎの問題、出稼ぎとか共稼ぎの次に出てくる人間関係とか、精神面の影響とかをいただければと思います。それでは農村における出稼ぎの問題からやつていただきましようか。亭主が出稼ぎに出て一年後家とか三年後家とか、永久（笑）後家とかいう話があるのですが、それは家庭婦人の問題としては非常に大きな問題だと思います。

古沢　私の部落では百五十戸ばかりありますが、男九十七人が出稼

ぎに行つております。中には親子で出て女、子供ばかりの家庭も大分あります。期間は失業保険の関係上六ヵ月以上になりますので、十一月に農作業を大急ぎですませて、四月の中旬でないと帰らないのです。半年も家に帰らないので、去年、おととしと婦人会で申し合わせて一月にはちよつとでもいいから、ことに若いお父さんには帰つていただくことにしていますが、習慣になつたのか二、三年こつちあまり悲痛な顔もしないんですが、若妻は肉体的にも精神的にも悩んでいます。農村の実体はその出稼ぎがないと一応の文化的な生活と、機械を多く取り入れておりますのでどうにもなりません。もう一つ出稼ぎにゆかなくてもいい方もうちにいると男のみんなの分を働かなければならないので（笑）、それよりも都会に行つて少し銭をもうけて社会見聞をしたほうがいいという人もおり一概には言えないのですが、精神的な面ではあまりプラスにならないこともあります。そのかげで牛の乳をしぼつている若妻たちの苦労は大変です。私どものほうでは一晩に三・四十センチも雪が積りますので、夏なら自動車で運ぶ牛乳を若妻が暗いうちに起きて、一斗かんを背負つて三キロの道を県乳所まで持つてゆくのです。若妻たちが一番言うのは、子供が学校へ持つてゆくお金を渡してやる小遣が欲しいということです。大ていのうちはおばあさんやおじいさんにもらつてゆくので、お母さんは駄目なんだという観念を子供にうえつけさせてしまつてとてもつらいと言つております。しかし私たちのところは山で、中学卒業が精一杯なので子供は高等学校にやりたいと若妻たちは頑張つていられるのは若妻会に、お互に部落から六人なり七人なりが一緒に行つて励まし合つて共同の意識を持つているからです。出稼ぎの場合には子供の進学とか教育の問題もたくさんおきてきます。それはことばかりでなく国として大きく考えなければならない問題ではないかというのですが、企業誘致とかなんかという問題はむずかしくてわからなくなつてしまいますので。

伊藤　出稼ぎの問題に対しては安藤さんがなんかもつておられるのではないですか。

安藤　私の場合は専業農家が多くて出稼ぎにゆくより自分の耕作面積の中に少しでもたばこの面積を拡げて収入を得る方法を大ていの農家がとつており、働きに出るにも適当な働き口が近くにないのです。それともう一つ出稼ぎにゆくといつても、農家ですから年間を通して働くこともできないし、家におつても時間的ゆとりがあるという非常に不安定な状態にあります。

相楽　私の方は去年の五月一日に郡山に合併になつたところで今までは純農村だつたのですが新興都市になつて工場ができたり道路ができたりして、土地がつぶれるので兼業農家が多くなりました。従つて出稼ぎにゆかなければならない場合もあります。今年の二月に出稼ぎに行つてなくなられた方がおります。

伊藤　静岡のダムですか？

相楽　いいえ、地方なんですが。そして働きに出なくてもと思うようなうちでもはやりでみんな農家のお嫁さんは行くのですね。それでお小遣いをもらわない方もあり、十分いただいているお嫁さんもありいろいろです。土地がつぶれていつて純農に生きる喜びを語つていた青年がこれからはどうしてゆかれるだろうかと、切実な深刻な悩みのある土地なんです。

高木　私のほうも農村で、やはり出稼ぎにゆくというのではなくて

生活に追われて、出稼ぎといつても日雇いで、男の人は出ていない人はほとんどありません。そして若いお嫁さんもお姑さんのいる人は小さい子供さんがあつてもほとんどお勤めに出ています。問題は中年層なんですが、内職をやつている人とそれだけでは子供が高校、大学に進むので足りないと男の人と一緒に日雇いになる人とあります。そういう家庭は子供さんがしよんぼりしてうちの中はほこりだらけで散らかつて畠も草ぼうぼうになつています。内職をやつている人は賃金がとても安いのですがあんなふうになると子供が可哀いそうだからと頑張つているのですが、それではとても子供の教育費が出ない。今そのことが切実な問題になつているのです。とても教養面に時間をさくなんて余裕はないのです。

伊藤　そういうふうに苦しいのは原因はなんですか？

高木　お米の値段はちつとも上つていない。都会なみな生活はするようになつたけれど収入がないということです。

伊藤　多角経営なんかできにくいところなんですか？

高木　養鶏など少しはやつていますが―。

伊藤　支出の面では何が一番たくさんかかるのですか？

高木　教育費ですね。それには熱心なんです。高校、大学は普通くらいですね。

伊藤　大都市に近いのですか？

高木　大阪に近いんです。

古沢　私ね、一つだけ大事なことで考えさせられるのですが、若い中学卒業ぐらいの子供で都会に出稼ぎに行つて割合によけいにお金を持つてくることと子供が農村から逃げ出しはしないかと子供を甘やかしてしまうのは大事な問題だと思います。都会で半年暮らした子供は本当に忙しい時であつても耕うん機を使うような仕事はするが、泥の中に入つてする仕事は年寄りとか主婦がするようです。教育問題として大事なことではないかと思いますが。

大塚　私のところもここからちようど四十キロで近郊農村とか、ベッドタウンとかいわれて土地がどんどん売られてゆくのです。それで純粋な専業農家だつたのが、農業を一生懸命やらなくなり、畠を草にしても千円か千五百円かとれる東京へ女の人までがみんな出てきてしまうのです。去年の三月も農家の大黒柱の三人が一べんに、与野市の庁舎の地下の仕事をしていて生き埋めになつたのですがそういうことで第一に消防団になり手がなくて困つているのです。それから婦人会もＰＴＡも役員のなり手がないし、村の行政面までひびが入つていると思うんです。教育の問題、鍵つ子の問題、おばあちやんたちがいるといつても完全な親の代りはできないので大きな問題が出てきております。

伊藤　出稼ぎの問題が大きな問題になつていますが、静岡のダムの事故で多数の人が死にましたが、その大部分が出稼ぎなんですね。多いですね。農村は生活が楽になつた、明るくもなつたというお話もありましたし、たしかにそういう面もありますが、しかし古沢さんの話では全然嫁は財布をもつていないという、するとこの二十年間に何がよくなつたのか、昔は井戸端で涙を流すのが唯一のなぐさめだつたが今は若妻会に出ていつてぐちをこぼすのがなぐさめだというぐらいの違いで、二十年間に婦人の地位が上つたとはいうが一体何をしていたかという問題になると思うのですか、どうでしょうか？

坂尾　県の予備会議で出稼ぎが問題になつたのですが、私のほうは

出稼ぎ県ですからねー。二、三カ月音信がないと思つたら阪神方面にいい女ができていたとか、留守家庭が非常に破壊されているという現実、それから行先きも、大阪に行つているということしか留守家庭の人にはわからないというんですね。転々と職場を変つていつているので。それが問題になつて地域の婦人たちが、出稼ぎに出る時に町内会で壮行会をして、必ず家庭に便りをするとみんなの前で約束して送り出しているところも出てきたようですし、家族の声をテープに吹き込んでそれを持つていつてもらつて、時々家族の生の声をきいて思い出してもらうというように家族のものが苦労しているのですね。昔は私のうちは一町もしているような百姓ではなかつたが父も母も出稼ぎに行つたのを見たことはありませんでした。昔は農業一本で結構食べて行けたと思うんです。それが農業近代化とかいつて進んできたのになぜ出稼ぎにゆかなければならないか。こういう社会問題は婦人がどんなにここで頭をしぼつても結論は出てこない。これは農業政策を根本から変えていただかなければならない。婦人は今後の農業政策をうんと勉強して根本を突きとめてゆこうと予備会議で話し合つて、よその出稼ぎの様子をよく聞いてきて下さいということになつたのですがー。

伊藤　女ばかりで社会問題を考えていても仕方ないといわれたのですが、それを考えることによつて皆さんの要求になり政治の問題につながるわけでしょうね。今度は都会の生活における人間関係について衣食住、特に住が変ることによつて家庭の中の人間関係が変つてくる。何かそういう問題をおもちの方は、木下さんは団地におさまいですか？村田さんも、出稼ぎの場合に出稼ぎつ子と言つていますが親から見放されている子供がありますね。都会の場合なら鍵つ子というんでこの場合には早くても遅くても夜になれば両親が揃うのですが、出稼ぎつ子の場合にはお父さんがいないからそれができない。村田さんいかがですか？

村田　私は自宅の問題にふれようと思つたのですが、やはり鍵つ子の問題も隣近所があたたかく見守ることが一番大事だと思うんです。収入が少ないので内職しなければ教育費も高いし、やつてゆけないところに鍵つ子の問題があるのであつて、一番ほしいのは保育所とかそういう共同施設ですね。しつかりと子供を守つてゆける誠実みのある保母さんですね。ただ時間的にどうでもいいからあずかるというのではなんにもならない。保育園に行つている子でものすごく悪い子が多いという評判はずい分あつたんです。保育園にずい分いい先生がいらつしやいましてね。母親以上の努力をして下さつたのです。それで見ている間に子供の態度が、全然変つてしまいました。責任をもつて預かつてもらえる保育所があつてほしいですね。

安藤　地方会議に保育所の問題が出ましたが、働く婦人が本当に安心して預けられる施設がほしいという意見と、今の状態では無理だとあきらめてしまう立場と対立して未解決だつたのですが、私は本当に働く婦人が施設を望んでいるんでしたら政治の力でそういう施設をつくつていただけるように婦人が働きかけてゆくべきじやないかと思つたのですがー。今の段階では無理だからそういうことは問題にすべきじやないと押えられたのです。

伊藤　これは非常にデリケートな問題ですね。

倉橋　私は実際に保母を三カ月やつたのですが本当にわずかの間で

したが真剣に働いている保母さんの姿に頭の下る思いがしたんです。そういう人々にもいろいろとむずかしい問題があるのです。保母さんでも、独身の方は少なくて奥さんが多いのです。子供さんもある赤ちゃんもあるそれを人にあずけて出てくる、すると家庭にある人たちが好奇の目でみるというのです。私はそういう目で家庭婦人が見ないようにしてあげたいと強く感じました。

相楽　福島県の地方会議で保育施設の問題が出ました。働らく母が手をつないだらなんとかならないかというまでに盛りあがりました。それから教員ですが、子供さんがいるからやめようと思う、やめてしまえば継続年数がなくなつて恩給のほうにも差しつかえるからやめるわけにはゆかない。という悩みがあります。子供が小さいうちはやめて大きくなつたらまた教壇にたつにしても決してハンデイキャップはできないからと、しかし継続して働たらいいのだがという話も出ました。それから農村でも私たちサラリーマンでも、老後の問題が大変心配になるのではないかと思います。私の実家の例も申しあげると六人兄弟ですが一人も家におりません。たまたま交通事故で父が入院したんです。今の若い人は割切つていて完全看護だから看護婦さんにまかせればいいというんです。東京の病院は完全看護の場合はつき添いの方は入れないんだそうですが、私のほうでは完全看護でも重症の方はつき添いがつくのです。私は親が可哀いそうだからいるのだと言つているのですが看護婦さんも手不足ですからやつぱり付き添いが必要なんです。私どももおじいちゃん、おばあちゃんになるのですが、国民年金が月一万円になるとかいうことですがそれではこれからはとても足りないと思います。そういう点も考えて老後の施設なりなんなりを考えていただけたらと思つているのですが。

伊藤　今の婦人労働に対して継続保障がほしいということですが、全電通の婦人部は昨年それをとりました。電々公社と交渉して最高二年の保育休暇ということでね、これは女教師なんかには絶対必要ですね。老人の話が出ましたが、人間関係の中で親子関係がどういうふうに変つてきたかということですが、特に木下さんにおうかがいしたいのですがあなたは今団地の中で核家庭ですね？きょうの鵜飼先生のお話の中で日本は核家庭をつくつてしまうと親とは一年に一べんしか会わないが、アメリカじゃ一週間に一べんぐらい行くとかということでしたが、その点いかがお考えですか？

木下　主人の実家が長野県で遠いです。主人の勤めの関係もあつてやはり一年に一べんですね。アメリカのように自動車ですぐ行けるという生活様式ならばあれなんですが。

伊藤　貴女の実家が神戸にあつたとしたら毎日でも行くんじゃないですか？

木下　それは行くと思いますね。

伊藤　どうですか。親子関係の戦後二十年の変化は？それから自分と子供との関係は？個人主義というものが現実に皆さんの生活の中に入つてきて、それが家庭婦人として考えさせられるという問題はお持ちですか？

山下　親子の間はたしかに薄くなつたと思います。私どもが子供に対してつくしてもなかなかそうは受けとつていない。一体どこが間違つていたのかしらと思わせられますが、結局終戦後の民主化の中で古いものは全部悪いものとして抹殺するというようなとこ

ろに根があつたのではないかという気がします。古いものでもいいものは大切にし、そして古いものの間違つたものは捨てなければならない。新らしいものでも間違つたところは捨て、よいことはとつてゆくという考えで育ててきたつもりですが、子供にすべてをささげてきたために我ままで自己中心の子に育てたんじゃないかなと心配で、あるいは子供はよくわかつていて親だから甘えているのかもしれませんが、

伊藤　お子さんは全部手許におられないのですか？

山下　今二人は大学におりますから二人は親がかりではございます。

伊藤　そうすると子供からなにかもらいたいという気持ですか？

山下　親の気持とぴたつとつながるような子供に育てられなかつたことを反省させられます。

浜道　私は父がたくなつて母が一人になつたらもつと親のほうに関心を寄せていなければならなかつたと反省しております。母が一人になつてからはとにかく顔をみせにゆくことを目的に物をもつてゆくことは二の次にして、しよつちゆう出かけております。そのために自転車のけいこしました。それから子供は大学を出て職業人になつておりますが、私が子供の状況の時に心配した（笑）ほどのことはないんですね。結局子供は「僕たちが成長したらお父さん、お母さんのことは忘れないよ」とは言つてくれます。それが親孝行に通じているのか、両親が一生懸命まじめに生きてきたのを忘れないで、社会の恥になるような行動はつつしんでくれるというのか、その両方なのかはつきりしませんが悪いほうには進まないだろうという自信をもつています。

古沢　それは時代の違いではないかと思います。私は母が婿とりで私と娘までそれが三代続いております。私は母が東京に行つてくるといえば足袋からぞうりから全部用意して、給料なんか全部母にあげて、母はずい分威張つて玄関に出ると私はぞうりをさつと出しておりました。私の娘なんかはただ行つてらつしやいと言うだけ、私が若くて元気なせいなのか、あと十年くらいしたら私は昔の母みたいにしてもらえるのか。時代だ、流れだと思つて割切つているんですがね。

伊藤　二十年間の人間関係というのは非常に大切なことだと思うんですよ。特にこの部会で考える場合にですね。それでもう一つ夫と妻との関係でどういうふうに変化してきたか。古沢さんからもご指摘があつたように夫不在の家庭婦人では困るので、この辺で男性も加えてもらつて、その点で押川さん、お宅はお母さん方とは別ですか？

押川　親子の関係の問題で子供に何かしてもらいたいと望むのは無理なことじゃないかと思うのです。私は自分の親も、主人の親も一緒に住んだほうがいいんじゃないかと考えます。そういう意味では今の法律に問題があるんじゃないか。長男だけでなく全部が扶養してゆくという戸籍の上では親と子供だけが一つの単位になつていて、おじいちやん、おばあちやんは戸籍面には入つていないが、戸籍も一緒にすることから心と心のつながりもできてくるのではないかと思います。育てるにしても親をみるにしても、戸籍では全然関係がないんだからという考え方が今の人間にはあるんじゃないかと思います。今の世の中では年より夫婦だけで過してゆくということにとても無理じゃないかと思うんです。

伊藤　すると兄弟がもし三人いて、三人とも結婚すると、みんなが

戸籍に親をくつつけるんですか？

押川　それは子供同志が相談して誰がみるかということになると思いますが、私の場合は長男に嫁にきましたからそれが当り前だと思つています。

岩崎　私は里子をあずかつて親のありがたみもわかりまして、別に住んでいるのですが、主人と一緒に一週間に一べんくらい行つて親孝行しているんですが、それと同時に子供には何も求めないという気持になりました。それが大いにプラスだつたと思うんです。

伊藤　里子との関係はどうなるのですか。親には何も求めないというのは一。

岩崎　自分の子供には何も求めませんし、里子にはなおさら求めません。里子を育てたことによつてそうなつたのです。

村田　老後について子供に何も求めないというのは賛成で、主人とかねがね話しております。精一杯三人の子供にしてやつてもしも二人が揃つて老後まで生き致つたら二人で生活する。もしも私が一人になつたら老人ホームに入つて好きな人ができたら第三の人世を送りたいと思います。（笑、拍手）主人ももし老人ホームに入つて好きなお茶のみ友達ができたら第三の人世を楽しんで、たまには子供や孫には会いにきてもらつて別な形でこの世を楽しく終りたいと話しております。（笑）

伊藤　それを子供さんの前でお話になりますか？

村田　いいえ別に。子供は一番上が四年生ですが親に対してものすごく批判的ですね。昔はこうだつたからこうせよと言つてみても親から受けた恩恵を返すということには全然無頓着です。これだけ勉強を教えてやつたから百点をもらつてこなければあかんよと言つても（笑）私にはこれだけの能力しかないから六十点やつたとはつきり言いますね。無意識に子供の時代からそういうものができつつあるのと違いますか？

伊藤　それは淋しいと思われますか。これでいいんだと思われますか？

村田　やつぱりちよつと淋しいと思います。

倉橋　その点はね、親のほうが求めても無理だと割切らなければこれからはやつてゆけないと思います。今の子供たちはそういうしつけというものは受けておりません。それを望むのが無理じゃないかと思いますが一。

伊藤　じゃ、しつけはすべきだと思われるんですか？しつけというのはこれに関してのしつけです。

倉橋　結局親が愛情を示せば子供にも相通ずるものがあつて、親を捨てるようなことはしないだろうという期待はありますが、押しつけているとか期待をかけているというようなそぶりを見せることはしないんです。

遠山　県の大会にその問題が出ましてね。三人姉弟の長女の方ですが三人が一月づつ順番におばあちやんの面倒をみていますとおつしやるんです。（笑）おばあちやんの一番気に入つた人のところに皆がお金を出し合つてあずけたらいいでしよう。たらい回しにしたりしないで一と私が言つても、扶養の義務は平等だからとおつしやつたのです。そうしたら会にいらつしやいました方が、私は七十二才、嫁に来たのが二十四才で、その五十年の間に子供も育てたし自分も生きてきた。その間に老後のめどがつかないような人間は婦人として失格だとおつしやつたのです。それでみんな

が本当にそうだわねと話し合つて終りました。私が家に帰つて子供たちにその話をして「お前たちどう思う」と聞いたら子供が、それは「親の問題だ」というんですね。「そのおばあちゃんが本当にいいおばあちゃんで、子供といいつながりをもつていたら嫌われて一月ずつたらい回しなんていうはずはない。そうされるのは親のほうにも責任があるんじゃないの」と言われ、その点考えさせられました。

伊藤　自分の老後のメドが立たないようでは婦人の資格がないというのに、その人は何をメドにしているのですか？

遠山　その方は産婆さんで職業をもつているのですね。七十二才では本当からいえば隠居ですけれど、できるだけのことはやるとおつしやる。産婆をしている間に小金もためた、だからどうにでもして生きてゆかれるというのですね。

伊藤　非常におもしろい問題ですね。そこで心配なのはいつまでたつても夫が出てこないんですがね。夫と妻との間は、どうなんですか。皆さん家庭をおもちですが出てゆくのにやめてくれと言つたお父さんはいませんでしたか？

遠山　うちは困ると申しました。農家はただ今ちょうど「なわしろ」の時期ですから、主人は勤めをやめたばかりで私が百姓の管理は一切しております。「お前がいなくなつたら苗しろをどうしたらいいかわからない」というのですね。山羊がいますし、人を頼んで留守中の計画を立てて「こういう場合だから」といつてまいりました。

伊藤　多少はどこでもそういうことがあるんじゃないでしょうか。あるのが本当ですね。私の立場からいつても。

坂尾　私はね十日に家を出ました。十一、十二日とほかの会議があつたので、それに出席して、十八日が子供の大学の入学式なので、それにも最初は主人は行つて「学長の大演説を聞いてこい」ということでした。子供が十六日に家を出ますのであとは主人が一人になります。それから長女が今年徳大を出て大阪の堺で就職したんです。それで私たちこの四月から二人になりました。子供が十六日に出ますと私の帰りは十九日になりますので、十七、十八、十九日と主人は一人でご飯をたべなければならない。

伊藤　それは寂んでいるでしょうね。

坂尾　ところがそうじやない。十六日がすんだらすぐ帰れというんです。大学の入学式は父兄がついてゆかなくてもいいだろうと。（笑）

伊藤　それで十八日の入学式にはお出になりませんか？

坂尾　はい出ません。出ないですぐ帰ります。（笑）

伊藤　坂尾さんのご主人は現職の教員です。教職にある人でさえそういう考え方ですからね。（笑）皆さんのご家庭だつたらいろいろな困難があつたでしょう。

安藤　どちらも家にいなければ困るというご主人のご意見ですが、そのかげにはほほえましいような愛情が感じられる。いつの場合も愛情が問題だと思います。

伊藤　愛情の解釈の仕方ですが、ゆつくりしてこいというのも愛情でしょうね。（笑）

山下　先ほど子供との問題で少し気になりますのは、子供を育てるのは当然だと思つておりますからやがてみてもらおうなどということは考えておりませんでした。ただ親の気持が十分に通じるような育

て方をしたい。私は百パーセントぴたつとつなぎたかつたわけでございますがそれがうまくゆかなかつたという感じ、それは親子の間にも問題があるのかもしれませんし、社会の中のゆがみからくるものか、大学へ入つてから子供が遠くへ行つたような気がするんです。大学を卒業して一人前の人間にしたら独立して行きなさいとお嫁さんに全部渡すつもりだつたのですが、今のところでは誰がお嫁さんになるかしれないが全部渡すほどの自信がもてない、そこに何か親子のつながりが……

伊藤　その問題ははつきり申せば非常に丹精されて子供さんを教育された。そして子供さんも立派になられたということですね。それに対して報酬を求める気持はないが自分が描いていたイメージと少し変つてきた。それは何か今日の社会風潮に問題があるんじゃないか。そういう問題をもつておられるのだと思うんですが、明日、教育のどこに問題があるかということで山下さんが感想文に書かれた非常にご苦労された問題を深めていただこうとは思つているんです。だんな様にやめてくれと言われた人は村田さんもその一人ですか?

村田　やつぱり自分の家内がこういうところに選ばれて出るというのは誰しもうれしいと思います。うれしいのにうちの主人でも最初は、小さい子を放つておいて東京まで行つてしやべらんでもよろしいと、頭から行くのをとめるような、とめないような。(笑)

伊藤　村田さんのところはご主人は会社におつとめですか?

村田　株式会社を経営しているんです。それで喜んでいるのかいないのか、行かしたいのか行かしたくないのかわからない。(笑)その気持はわかるのですがね。会社から電話がかかつてきて「お前早く電報を打てよ」と言うんですね。だからやりたい気持はあるけれども家庭におつてほしいし、無理に引きとめるわけにもいかないし、そこは微妙のところだと思います。(笑)愛情のもつてゆき場がね。家におつてほしいのと、やりたい気持と半分半分でしよう。結局は皆さんもその半分のほうにようやく決められて出してくれはつたのやろうと思いますけれどー。

伊藤　今村田さんがたくまずしておつしやつた中に男の気持が実によく出ていると思うんです。そういう問題でまたほかにありますか。

木下　私のところは明日が下の子供の入園式なんです。それで私は入園式に出たくて、私は団体で活躍していませんし、こういう場所に出るのはとても気おくれがしてやめると言つたんです。そしたら主人が一ふだんはもういいというほどおしやべりができるのにそういう場所で気おくれがするのはおかしい」と言うんですね。労働省から速達がきてとてもびつくりしたんです。ちようど朝食をしてましてね。全然主人は食事がのどを通らないんです。(笑)

伊藤　はあご主人のほうがー。

木下　そうです。こんなことはお前の生涯を通じて二度とないだろうし、万難を排して行けというんですね。入園式は自分が連れてゆく言うんですね。なおかつ行けと特急券の手配から全部主人がやつてくれまして電報打て電報打てというんですが、私自身はいろんな人に迷惑をかけるのでどうかしらとちゆうちよしたのですがとうとうこんなところまで出てきたんです。(笑)

伊藤　とうとう出てきちやつたー(笑)

相楽　私は先月の十九日から父が交通事故に会つたものですからそ

の看病に行つていたんです。そしたら労働省から速達がきたと主人が持つてきてくれたんです。それで私がお父さんは入院しているし私はずつと家を留守にしているんだから行かないことにすると言つたらお前の好きなようにしろと、行けとも行くなとも言いませんでした。しばらくして「どうするんだ、どうするんだ」と何べんも云うんですよ。それで私が「電報を打つておこうか」と言つたら、主人が「それじやおれが打つてやる。出席とね」。私はサラリーマンの娘として育てられたのですが本家と分家の間で十一年間百姓しました。五年間は主人の出征したあとに出よめとして百姓しておりました。本家の人たちも非常に喜んでくれまして、私は自信をもつて出てきたんです。

伊藤　出嫁というのは農家でないところから農家にゆくことですか？

相楽　いいえ、そうじやありません。籍を入らないでゆくのが出よめなんです。私の場合は主人が出征している間に主人の兄さんにまた招集があつたんです。それで農家の手不足から婚約ができているのだからと主人の写真とご祝儀をして連れてこられたのです。それなら無条件で、ただで使われるでしよう。私も数え年十八でした。

伊藤　足入れの正しい形ですか？

相楽　私は祝言をしましたが、主人がいないから出よめというんです。

伊藤　私は始めてのことでよくわかりません。この問題に少しこだわり過ぎているようですが、働く婦人の、つまり第二部会の人たちでみんな選ばれた人ですがかなりな数の人が出てこれないんです。私は非常にこれは問題があると思う。婦人の地位が上つたとか、職場婦人の問題もいろいろ出ているが、立派なものを書いておられて立派に意見の交換の場が与えられ、しかも労働省が主催している場合にも職場から非常に邪魔が出るということですね。この部会では私が今おうかがいしている限りまことに幸せなことに男性は非常に理解が深いということを皆さん、告白されたわけです。

村田　別な意味での主人の愛情を確認した形ですね。（笑）それは皆さんあると思います。

安藤　出てきたあとの自分の町や家庭へ帰つての在り方というものを十分考えておくべきだと思うのです。それによつて、出てきたあとが不幸にならんように、十分検討しておくべきだと思います。出てきたために鼻を高くしておしりにしかんように（笑）。

倉橋　私も、ゆくのはいいが、帰つてきて女史になるなよ。とはつきり言われました。（笑）

山下　私はよく出かけるのでうちでは主人が一人でおりますがね。（笑）ふだんは私を迎えにきたりこなんだりしないのですが、こちらの子供のところへ来たりこのような会議に出てきますとやはり食べることに無理があるのですね。しよんぼりして駅に迎えに来ます。しよつ中けんかはしているんですがそれでもやはり心はあたたかいのだなと思います。

伊藤　押川さんは職場をおもちになつているのですが、休暇とかあるいはこういうものに出ることに対しては今度は？

押川　出張扱いにしてくれました。

伊藤　すばらしい会社だな。デパートとおつしやいましたね。

押川　公けの場所に出る時には出張扱いにしてくれます。
伊藤　宮崎交通がやつているデパートですか。
押川　延岡の矢島屋百貨店です。
伊藤　そうすると旅費もくれるのですか？
押川　くれるだろうと思います。
伊藤　職場にそれだけの理解があるということはね、すばらしい。
押川　前にも電話交換手の競技会に交換手さんが出たことがあるのですが、それは個人の資格で出たわけなんです。その時も出張扱いにして日当からなんか全部出ました。
伊藤　ご主人は倉橋さんがおつしやつたように貴女が少し偉くなり過ぎて心配だというようなことは言われましたか？
押川　私は大体書くこともへたなんです。だけど主人が書け書けといつて仕方ないものですから書いちやつたのです。（笑）
伊藤　するとあの作文はご主人の作文で？（笑）
押川　いいえ目も通しませんでした。私は落ちた時にはずかしいので出したということも言いませんでした。
伊藤　書け書けというくらいですから行くなということも言わなかつたでしよう。
押川　はい、それと私の義理の姉が宮崎から去年出席しました。同じところに住んでいるのです。なんの部会に出たかはよく知りません。話も全然聞かなかつたし私は興味がなかつたものですから。
伊藤　ご主人のお姉さん？
押川　いいえ私の兄よめになります。とても勉強になるから行つてこいと言われて。
伊藤　きようはもう時間がたりないのですがせつかく午後ずつとお話を聞いていただいた特別オブザーバーの方お二人に、かんたんにきようの印象と、こうしたらいいのじやないかというアドバイスをいただきたいと思います。では地婦連の和田さんどうぞ一言。
和田（特別オブ）　私お話をうかがつておりまして第一に感じたことは皆さん非常に勉強していらつしやるということ。すらすらと自分の言おうとしていることをおつしやつたということを第一に感心しました。問題はまだまだ出つくしていないように思いますが、自分たちがこれからどういうふうにしたらよいかということはもちろんまだ終つているわけでございませんが、もう少し深く、ほり下げながら進んだらいかがかと思います。
伊藤　ありがとうございました。それでは日本生活協同組合連合会婦人部全国協議会の竹井さんどうぞ！。
竹井（特別オブ）　私も家庭の主婦を対象として活動しているのですが皆さん方トップレベルだという感じをもちました。皆さん方の話し合いの状態をうかがつていると、日本の婦人たちのうちのほんの一部しかこういう意識をもつていないのではないかと思いますので、むしろ皆さん方はこんなところで勉強なさる必要はない。もつともつと日本の婦人がかかえている問題は皆さん方以外のところにあるのではないかというふうに思いました。これは卒直な感じでございます。それから進め方としましては非常に幅の広い生活の問題が出ておりますからあしたお進めになる時に間口を広くより一つの問題を掘り下げたほうが、それがすべての解決につながる道を見つけ出せるのではないかという気がいたします

ので―。

伊藤　今お二人の特別オブザーバーの方がおせじも交えてほめられた点もありますが非常に厳しいアドバイスもあつたわけですから、私は問題を今晩うんと整理しておいていただきたいと思います。そしてあした午前中の二時間でそれを出し合つてそれについて午後の三時間半を建設的に話し合いたいという私の気持です。きょうはお互いに顔つなぎで話し合いをして、それから今竹井さんがご指摘になつた底辺の問題は古沢さんからも出ておりましてこの低所得者の問題についても、また皆さんが農村の問題をたくさんもつておられますがこれについても、あした是非勉強してゆきたいと思います。まだちょつと時間がございますから、ここでは皆さんがご家庭をおもちになり、ご主人ももつておられる。しかし子供もない結婚していないという方のご意見があればおもしろいと思います。もしそこに傍聴しておられる方のご意見でもあれば聞かせていただければありがたいと思います。そちらはいかがですか？

松下　私はまだ一人です。今つとめております。今皆さんがおつしやつたことは非常にたくさんの問題を含んでいるということを感じました。私はまだ親がかりで、ただつとめているだけで親の苦労などはそれほど身にしみて感じていたのですが、なんといいますか結婚して家庭をもつということは大変なことなんだということを強く感じました。

伊藤　大変なことであればやめようかということですか？

松下　いいえ、それは感じませんでした。（笑）

伊藤　そこの方はいかがですか？

不明（学生）　私は津田塾ですが、親と子の問題で、右側にいらつしやる方のお話がうちによく似ているので耳が痛かつたのですが―。働く婦人たちの部会に出席しましたところ皆さん立派な仕事をもつていらつしやることに誇りをもつて遠大なことを話しておられましたが、こちらに来たら問題が違つておもしろく、皆さんよく勉強していらつしやると思いました。うちの母なんかもこういうところへ来たらいいと思いますし、もつとたくさんの方がこういうところへ出席して話し合いがなされるとよかつたと思います。

伊藤　突然にお願いして申しわけありませんでしたが、この中で一人でも子供のない人がいたら意見が違つてくると思いますので提案させていただきました。

坂尾　県の予備会議の時にある娘さんが昔からの良妻賢母型のお母さんにはなつてほしくないとおつしやいました。そしてある年令に達したら干渉しないでほしいとおつしやいましたので、私はがくんときました。

木下　兵庫県の地方会議でも良妻賢母がいいかどうかということで議論が割れまして、議論百出でした。

伊藤　明日はきょうの問題、教育的な問題をお一人お一人がまとめてぶつけ合うことにして、そこのところは私の聞きたいところですというふうにお互いにやつていただきたいと思います。そうでないとやはり固くなつていらつしやいますので、もう少し犠牲的精神を発揮していただきたいと思います。それではきょうはこれで終ります。

第一部会

第二日目
四月十四日
一〇・〇〇～一七・〇〇

伊藤　私は、母親としても女性としても人間としても一番考えなければならない生命の問題が出なかつたと思うのですが。文化が進む、家庭に電化製品が入つてくる、人間が月世界に到達するのを手放しで喜んでいられない。たとえば四日市のコンビナートのように、産業の進歩が人間の生命をおびやかしている。電気冷蔵庫の中で赤ん坊が死んでゆくという現実ですね。それらに対してもちろん家庭の主婦が無関心であるわけはないので、その問題をこの場でどう話し合うかですね。スモッグにしてもそうです。それからきのう一部から出た底辺生活者の問題もかなり積極的に出なければならないだろうと思つております。人間の生命の問題と文化がどう結びつくか、人間の幸福と文化の進展に関係するかと思いますが、早速ですが、今どこに問題があるかという午前中の日程について皆さんから自由な発言を願いたい。

それからきようは特に家庭の中から、つまり妻、母、主婦としての立場からの問題点と、家庭外から働く者として、地域社会の住民としてのそれとこの中には経済生活も入るかと思いますが、そういうふうに家庭の中からと外からに分けるより、すべて人間関係の中でとらえるという方向で、話し合われたらいいかと思いますがいかがですか？議事進行についてご意見があつたらまずおうかがいしたいと思います。

岩崎　きのう部会の後でお世話をして下さる方が二人部会できまり、その人を中心にお話し合いをしたことがありますのでちょつと一。

大塚　特にお話をしたい問題として消費問題、子供の教育の問題、社会福祉の問題、住宅の問題、嫁ききんの問題、内職の問題が出ましたが、みんな一連の関係はありますが、結局この部会が四つ

にわかれているものですから他の部会で特に話し合う部門も出てくるようですので、第一部会の特殊性をいかして話し合つたほうがいいんじゃないかということになつたのです。子供の教育の問題なぞは消費の問題も教育費の高騰につながることですし、経済の問題にもなつてくるということになつたのですが一。

古沢　一番始めに人間関係の問題から入りたいと思いますが一。

相楽　補正しますと、私と大塚さんとが当番になりましたので、家庭の人間関係から子供の教育に入つて、教育から社会問題または社会福祉と、それから消費問題になつてゆくのではないかということになつたのですが一。

安藤　同じ意見でやはり人間関係から入つてゆくべきだと思います。

伊藤　きのうお話し合いを進めてゆくうちに出てきた問題は、やはり文化の進展と幸福な生活はどう結びつくかということで、それを内わけしてみますと、電気洗濯機を買うために苦労する。つまり繁栄の中の貧困、豊富の中の貧困、繁栄の中の堕落、それがいろんな形で出たと思うんです。それから物質と精神の問題、具体的には出かせぎとか共かせぎ、必ずしもぎりぎりの生活のためではなくて、よりよい生活をするため共かせぎや出かせぎに忘れられた子供たちの問題が出てくるのではないか、そういうことが究極のところ皆さんが話し合いをしなければならない原因でしょう。教育の問題もあるし、経済問題、社会活動、あるいは社会的視野、きのう出てきた社会的という言葉は、社会的仕事という場合に社会的に目を向ける必要と社会的に手をつなぐ必要が出てきた、そこに私は非常な関心をもつたわけです。大体きのう前半に人間関係について主として親と子の関係、最後のところ夫と妻の関係が話し合われ二十年間の家庭の変化を私はおそろしいような気持できかされましたが、きのうはお終いのところから逆に戻つて問題点を出し合う。まず人間関係から入りましょう一。

浜道　家庭の人間関係だけに限りますか？

伊藤　私はね、家庭婦人というものを家庭の中に入れてしまつたらこの会議なり、この運動の意味がないと思う。社会的なつながりの中で家庭婦人を見つめること、投票権をもつている日本の政治に参加している末端の立場を時々は出していただきたいと思います。

浜道　両親の在り方という問題は？

村田　両親というのは？

浜道　養育者、それから家庭の管理者でもあるし、教育者でもあるわけですが、つまり親ですね。お父さんとお母さん、婦人だけで考える問題でなく、主人も一緒になつて考える問題。

伊藤　いよいよおやじが出てきましたね。浜道さんどうぞ一。

浜道　社会問題を出しましたので皆さんの意見をきかしていただきたい。

伊藤　両親の在り方として問題があるとすれば自分のご家庭でなくていいわけですよ一。

村田　現在は婦人の地位の向上ということで、自分だけの、婦人の進出に重きを置いて家庭の中にもその考えをとり入れ、夫婦の間柄がとかく忘れられがちだということが大阪でも問題になつたのですが、結局家庭の始まりは夫婦で、また家庭の終りは夫婦である。その間に子供をつくり母の立場が何年かあるのであつて、最初と終りは夫婦であるから、夫婦を中心にした家庭をもつと大事

にしなければならないという問題が出たのですが。

相楽　私も同感です。お母さんが中心になつて家庭円満、夫婦円満にするというのが家庭の在り方であるなら、子供はよく育つと思います。

村田　結局夫婦の仲が冷たくなつているところではいくら教育ママであつても満足にゆかないということですね。

相楽　やはりお母さんがぬくぬくと休んでいるだけでは駄目ですね。子供が成長するに従つて自分も勉強し同じ話題で話せるように、音楽にも興味をもたなくちやいけないし、ある程度は思想的な勉強もかじらなくちやいけない。そうすればますます夫婦円満になるのではないか。しかしあまり賢すぎず、親ばかになるのも大切だと思います。

安藤　先ほど、無意識のしつけということが出ましたが、良識のある夫婦が揃つて、家庭が円満なら子供は知らず知らずの間になにか吸収していい子供になつてゆくと思うんです。だからこうしつけましよう。ああしつけましようとお母さんが気負い込むんじやなくて、学問は学校でしたらいいと思います。

遠山　両親だけではなく舅姑のいる場合もあるし、夫の兄弟が大勢いる場合もありいろんな家庭がありますが、その中で家庭の秩序とか家庭の雰囲気というものが、赤ちやんの生れた時にすでに肌にふれており、それが子供の人格形成の一番のもとで、ある設定された理論体形から与えられるしつけはそのあとにくるものだと思います。ですから両親が平和であることと同時に家族全体の雰囲気が円満であることがいい子をつくる重要な要素だと思うんです。

坂尾　私どものグループでは「婦人の解放はまず家庭の民主化から」ということで話し合つたんです。やはり家庭の中で婦人が忍従の奉仕者の地位から解放されることが一番の条件ではなかろうか。まずだんな様によく奥様を理解し、人権も尊重してもらう「おい」と言つていたのを名前を呼んでもらうとか小さいことから始めていつたのですが、所感文の中にも私はカキクケコの主婦への成長ということを書きましたが、始め私たちがそういうグループをつくつて学習するのを主人たちは好みませんでした。それはやはり男性の中にある封建性じやなかろうかと思うんです。（笑）

伊藤　私には関係ないですよ。（笑）

坂尾　妻は夫の世話をし、子供に仕えてほしいという男性の気持は十分わかるんですが、今の厳しい経済情勢の中で一家を担当してゆく主婦の立場も理解してもらいたい。カキクケコの母に成長してゆきたいという私たちの願いを夫も理解して欲しい。家計簿をつけて賃上げの有力な資料をつくつたり、理事者と交渉して社宅におふろや子供の遊び場をつくつてもらつたり、家の塗りかえができたりしてね非常に社宅が美しくなるわけです。ですからやはり婦人も夫や子供に仕える、やさしい一面ときびしい社会の中で労働者の妻として夫にも子供にも遅れない立派な主婦となり母となることが、家庭の人間関係の上にも大きなプラスになつた経験があります。

伊藤　カキクケコの主婦というのをちよつと説明して下さい。

坂尾　名前は忘れたのですがその方、名古屋大学の方のアイデアで、徳島新聞の金融機関の暮しのメモという折り込みの中にひよつと入つていたのです。サシスセソのお母さん、裁縫、仕事、炊事、洗濯、掃除の在り来りの主婦の生活から今度はカキクケコの主婦

へ、考える、記録する、工夫する、計画する、行動する、お母さんに進むようにというのをみて、これを私たちのグループの活動の目標として取あげたわけです。

相楽　私のほうのグループではクはグループつくりをするということになつています。

山下　理論づけにあとで、まず雰囲気をつくることが大切だということでしたが、その雰囲気をつくる一番根本になるのは親で、よい母親だけではいつか崩壊する時があるので、本当は父親が一番よくなければ家庭は決してうまくゆかない。とにかくお父様が一番偉いことにしておくのは小さい頃はそれですみますが、子供が大きくなつて一人の人間として自分の親をみる時に、お母さんの奉仕だけでつくられている幸福に疑問を持ち、父親にだんだん絶望する面があると思うんです。母親はそうさせちゃいけないから自分も納得できないけれども、お父様をお利口さんにしてよくやつてゆこうとする。その矛盾が子供によくない影響を与える。ですからやつぱり父と母がちゃんとしなければならない。

遠山　私の主人はいわゆる標準の夫からいうと（笑）あんまりいいお父さんじゃないと思うんです。ワンマンで頑固で物わかりが悪いんです。教員をしておりましたが、今はやめて百姓をしておりますが本当に頑固一徹で子供の自由な発言なんかちつともきかないんですよ。子供の小さいうちはそれですみましたが、大学に行くようになると女の子ですが「お父さんの言うことは違う」とけんかをするわけです。私は傍で黙つてきいていてあとでそのことについて子供と話し合うのです。で結局お父さんの言うことも間違つていない。育つてきた社会と男の立場を考えてお父さんを理解してやればいいんだと言つてきかせるのですが、主人の愛称は「愛すべき頑固おやじ」（笑）ですから子供はお母さんは安心していられるけれどお父さんは何かあつた時に心配でしようがないといいます。私のうちでは子供はお父さんのほうを無条件に愛しているのじゃないかと思います。

伊藤　お子さんはお嬢さんお一人ですか？

遠山　女の子三人、男の子はいないんです。

浜程　そういう時にどうしてまずお父さんと話し合わないんですか？奥さんが？

遠山　話し合いますよ。

浜道　私は子供とも主人のいないところで話し合いますが、まず主人と私が話し合います。主人と子供との接触時間がとても少ないんです。子供との関係においてはお父さんのほうが不利なんです。そこを私どもでは考えてうまくやらなきゃいけないんじゃないかと思います。

遠山　例を申せば長女が高等学校から進学する時に、後とりだからお前は百姓になつてうちを守らなくちゃいけないと、父親が子供に押しつけるわけですね。ところが子供は美術のほうに大変趣味があつて、どうしても美術学校にゆきたいと、とんだ論争になつちやつて、父親はうちを大事にしないものはいらないから死んでしまえというのですね。（笑）子供もちようど年頃ですからそういうなら死んでしまうと言う。それで私が「この子はお父さんの子でもあるけれど私の子供でもある。私は死なれては困るんだから、またあとで話すことにしましよう。」となだめましたけれど、三人の姉妹で誰かがうちを守つてくれなければ実は困るのです。

それで私と、主人と、三人の子供たちが話し合つたのです。そうしたら二番目の子供がそれじゃ私がうちをみるからというので、二番目につい先だつて婿をもらつてうちをみてくれることになり解決がついたのです。

山下　それはお父様を除外してということでなく、お父様とも立派に話し合いができているから結局私がさつき言つた父と母が中心になつてやつてゆかなければ一番よい状態はできないというのと全く一致するわけです。

伊藤　一致しているかどうかは別問題として、皆さんが円満な家庭とおつしやるのはどういう家庭でしょうか？そういうところも含めて木下さん、押川さんあたり発言して下さい。

木下　兵庫県の地方会議でも家庭婦人の部会でこれが問題になりました。兵庫県では県議会で第三日曜日を家庭の団らんの日とすることがほぼ決まつております。各家庭の事情で第三日曜でなくてもいいからしようというお話しをしたのですが、私は特に団らんの日を県などで決めなければならないということに問題があると思います。円満な家庭をつくるには家庭の中の人たちが、それぞれ自分自身をしつかり自覚していることだと思うんです。父であつても、母であつても、夫であつても妻であつても、それぞれの個人である。そういうゆき方ができていたらできると思うんです。家族の人間関係の中で、相続の問題が出ましたが、そういう大きな問題から日常茶飯事に至るまでが、つい昔の物さしで現代を見がちでものの見方が違つたり、理解の仕方が全然反対だつたりして非常に困ることが多いのです。現代の良識がどういうものかわからなくなつてくるんです。昔のことでも悪いことは取り除いていいことをとればいいといいますが、それをはかる物さしが良識だとすれば現代の新らしい人間像というものができていないと良識の度合いがわからなくなると思うんですが。

押川　家庭の中の円満で、主人を立てると皆さんおつしやるが子供が小さいうちはそれでごまかせると思うんです。しかし子供が批判力をもつとお父さんもお母さんも平等の立場で話し合うことが大事で、お父さんの欠点はは欠点として知らせることが大事だと思います。

古沢　私はずつと下の家庭生活をしておりますので時々は家内中けんかもしますし、その上複合家族ですから子供は子供なりに批判的で、黙つてはいますが、父母、祖父祖母の立場を私たち以上にみていますのでとても飾つて偉いとかなんとか言つていられません。それに私のうちでは我慢して犠牲において家庭を守るなどということはできないものですから、始終言いたいことを言つて地金を出し合つているのですが、私などは一般社会のレベル以下の底辺の在り方ですがまず日本の八割はそうではないかと考えています。

伊藤　結局あなたは底辺の生活だといわれますが、その中の家庭としては地金を出し合つてといわれましたね。これは非常に大切なことだと思います。無理に夫が偉いと教えるのでなくてね。お互い一人一人が地金を出し合つて生きてゆくというところに本ものようなものがあると思うのです。中村さん何かご意見は？

中村　うちの家庭の在り方はそうしております。主人はとても人間的にできておりまして、娘などは「お父さんのような最高の男性をよくお母さん見つけたわね」と申します。（笑）村の子供たち

もホームの小父さんは最高よ、と言つてよく遊びにきます。主人は人間的な欠点もたくさんありますが、父親としても夫としても最高だと思います。ですからうちではお父さん中心の家庭で古沢さんのように言いたいことはぼんぼん言い合つて直ぐまた和解して、黙つて我慢するということがないんです。我慢していると非行化とかほかの形で爆発すると思うんです。解放的な中に本当の幸せがあるみたいな気がするんですが。

倉橋　現代の家庭生活はそういう方向になりつつあるんじゃないでしょうか。第一子供がそういう教育を受けておりますし私どももそういうふうに努力してゆこうと思つております。私どもの住むところとそちらの方とは地域社会が違うので、そこに問題があるんじゃないかと思うのです。

伊藤　倉橋さんがおつしやつたことは、さつき大塚さんが出された問題と今のところで結びついたんじゃないでしょうか。

中村　自由に発言する生活の中でやはり欠けてはならないものが礼節だと思います。それは遠山さんがおつしやつたように家族の一人一人が生まれた時からの家庭の雰囲気の中で育つ中で知らないうちに身についているのですね。ですから言いたいことを無遠慮に自己中心にどなり合つたりしやべり合つたりするんじゃなくて。そこにお互いに礼節があるところに・・・・

倉橋　愛情があれば礼節というものは自然に生まれてくると思います。自然に出てくるのが一番いい状態で家庭生活はそうあつてこそ本当に幸せなのだと思います。

押川　それは人間の根本的な一番最初の問題ですね。

伊藤　中村さんのいわれる礼節の中には相手を理解するということ、我慢するということも入りますか？

中村　我慢ですか、私は主人にきいたことがあるんです。子供も叱らないし、私にも寛容だけれど、がまんをどういうところで発散しているかと。すると主人は発散しなければならないようながまんなんかしていないというんです。だから全然そういうことは感じていないんじゃないですか。

安藤　抱擁力があるのですね。

木下　中村さんの御主人は牧師さんをしていらしたとうかがいましたが宗教は大きな問題になると思います。私クリスチャンじゃないけどバイブルを読んでいるのです。お互いに人間が生まれてきたことを深く考えるようになつた時に、やはり一度はああいう偉大な書物をよんで、人を許し、また自分も許してもらう。どこかに節度ができてくるんだろうと思います。

遠山　人間は人間でしかあり得ないのです。どんなに教養を受けても科学が発達しても、はだかにすれば動物としての人間でしかあり得ないし、また大きな自然の流れに逆らうことはできないのであつて、本当にそういうことを身にしみて自覚した時に宗教的な気持というものが生まれてくるのではないでしょうか。

高木　私もきのうから宗教的な問題を考えていたのですが、なにかしら生まれてきたことに対する感謝とか、自分の力だけではなくて大きな力によつて生きているということ、キリスト教でも仏教でも同じことだと思うのです。そういう宗教的な情操が家庭に欠けていると円満な平和な家庭ができないように思います。

岩崎　同じ家庭教育の中でも夫婦でぶつかることがあると思うんです。その場合主導権は主人のほうにあるんじゃないか、そうでな

いと家庭の平和は守れないんじゃないですか？
安藤　どういうことですか。もう一度ー。
岩崎　家庭教育で両親のやり方がぶつかる場合主導権は父親にあるのでしょうか？
古沢　私はその時その時に、正しいほうに従うべきだとはつきり割り切つているんですがー。
倉橋　私のところは三年生と保育園ですが、小さくてもなにか考えているんですね。母親の態度なり父親の態度なりをね。それを私は素直にきくことにしています。そして「なるほど」と思えばお母さんなり、お父さんなりが悪かつたねとー。
伊藤　ご主人と意見が対立した場合はどうですか？
倉橋　また二人で話し合う。今まで対立したことがないので、そうむずかしいことにぶつかつたことがなくてー。
伊藤　時間の制限があるので、きようのもう一つの皆さんがお話し合いになつたテーマとして今家庭教育の話が出ましたから、子供の教育について現在どこに問題があるかということに移つたらいかがでしょう。
一同　はい
安藤　現在のお母さん方は教育ママといわれるように子供の自主性を尊重しないでとにかく引つぱつてゆこうという態度が強いんじゃないでしょうか。
伊藤　安藤さんのところは都市に近い農村ですか？
安藤　いいえ純農村です。
伊藤　純農村ではつきりそういう形が出ているのですか？
安藤　香川県は今問題の出ているところです。子供が喜んで勉強に打ち込めるような雰囲気をお母さんや家庭の人がつくつてやつて、お母さんはもう少し後のほうから子供の勉強を見守つてゆく態度がほしいと思います。
伊藤　この点に関しては皆さんの感想文の中では、埼玉の大塚さんが教育ママであつたことへの反省をしておられたようですね。
大塚　私は小学校や幼稚園に行つていたり、村の青少年協議会の諮問委員などやつて子供のことに関して話し合う機会が多いのです。それに婦人学級グループなんかに出て助言的なことを言つて歩いていたのです。ですから人様より多少は教育的なことは進んでいると思い過していたわけですね。ところが作文をかく真近になつてから流感にかかり高い熱で苦しんだのです。その時の子供の態度は本当にそつけなくつて私はびつくりしたのです。そういうことでしめ切りまぎわに頭にカーッときてしまつて無中で書いちやつたのです。子供というのは案外家庭の雰囲気を直感的に感じるんだろうと思うんです。
伊藤　お子さんは小学生ですか。
大塚　中学生と小学生の娘と息子とそれから今度末娘が一年生に入りました。こちらではひどく子供を大事にしていたつもりなんですが、そういうことがあつてから自分のしていた態度を考えてみますと、食べること、着ることは一切おばあちゃんがやるので、私は早く塾へ行きなさいとか、テレビばかりみていないで早くお勉強しなさいとかだけだつたと思います。子供と一緒に教科書をみてやることはほとんどなかつたのですね。それで私も含めてお母さんたちが、内職や出かせぎをして一生懸命働いたお金を無条件に子供の教育費にそそぎ込んでいるが、本当の意味の家庭教育が

なされていないと思つたんです。

坂尾　徳島ですが香川県のお母さん方を教育ママにしたことは大きな問題があると思うんです。全国的に行なわれている学力テストで香川県は三年続いて全国第一位をとつているんです。そして教育長がそれを看板にして参議院選挙に出たことがあるんですね。（笑）

伊藤　当選しましたか？

坂尾　しませんでした。学力テストの三年続いて第一位の記念碑が立つたりして。それで隣県の私たちにもいろんな影響がでているんです。教育委員会の学力テストに対する態度がお母さんを教育ママに追い込んだということがあるのでね。教育ママになつたことだけを責めるのでなく、学力テストや高校進学への補習授業の面にも大きな問題があるのじやないかと思います。それらが教育をゆがめているという点を考えなければならないと思います。

古沢　教育ママは全国的な問題だと思います。私は根本の問題はいい学校を出れば子供は一生幸せで地位も名誉も得られるという学歴偏重主義にあると思います。山形県の山奥でも農地開放で、少しレベルが上つたが自分たちが教育を受けられなかつた、それが今非常にマイナスになつている。だから子供はせめて高校かそれ以上の学校へ出したいと、無理しても出かせぎをして大学へやろうとしている人もいるので、いち概に悪いとはいえないかもしれないが、能力のない子供を進学進学というのが問題で能力も考えなければならない。能力のある人は選挙違反しても堂々と暮している。（笑）

伊藤　それは婦人参政権に非常に関係のある問題ですよ。能力のない人間を出しているなんていうことはね。（笑）

古沢　子供を本当に教育しようと思うならば、子供の能力を考えて、学校へ入れるべきでないか、子供の能力と親の経済能力を考えてしつかりした態度をとらなければならないと思います。

岩崎　私家庭教育は勉強する雰囲気、環境さえつくつてやればいいと思います。母親はその暇に読書するなり自分の勉強をしたほうがかえつて効果的じやないかと思うんですが。

相楽　教育根本の在り方ですが、ストレートで有名校に進み東大に入ると、そういう間があつて、いい椅子に坐れるというところに問題があると思う、東大を出たお子さんは知能の面では立派でしよう、けれどもテストで一番二番を争つている時、おれよりできそうな子供は風邪を引いて休めばいいとか、極端にいえば死んでしまえばいいと思わないとも限らない。すると精神面に欠けた人間になるのではないかと思います。姪は津田塾入つていますが、今東大にストレートで入つて卒業された方と婚約をするかしないかの騒ぎなんです。姪の父親はストレートで東大という点が気にくわないというんです。人間的に苦労をしていないから何かつまずきが起きた時にころつと参つてしまうんじやないか。そこに問題があるというのでまだ返事をしていません。

伊藤　これも一つのエピソードでしようがその問題では山下さんが大変長いご経験とお考えをおもちだと思うのでどうぞ。

山下　東大に留勉というのが非常に多い、その理由は今までずつと最高できた人々が挫折するのだそうで優等生であつた人ほど多い。これは優等生に当然起るべきことで、学校ではその子を責めるのではなくて、しばらくそつとしておいてほしいといつています。

親が無理に優等生にしたわけでなくて子供に能力があるからなつたのでしようが、社会も、先生も、友達もあの人は優等生、だからできなければいけないと暗々のうちにしよつ中優等生をかぶせられている。するとまだ純情ですから一生懸命やる。そうできたらいいが、つまらないと思い出したら知識が高いほど始末に負えない我ままをやり出す子もあるんじやないか、だからそういう時に親なり、先生なりが納得のできないところをできるだけ排除してやること。そういう気持をつなぎとめてゆく働きが非常に大切である。それが私たちにとても欠けたと思うんです。

遠山　どことつなぎとめるのですか？

山下　心と心です。親と子でもよろしい。また傍にいる学校の先生に求めてもいい。そうすれば子供がぱつと網を切ることもないだろうと思います。とにかく子供の部分と外的な部分とを足して完全な一になるような人間関係がどこかでつくれたらいいじやないかなという気持がします。

村田　東大へ入らなければならないという気持は親がもつていつたのですか、それとも本人が自分は一番だから優秀だから東大へ入りたいという意識をもち出したか？

山下　いろいろだろうと思います。私はあまり子供に干渉しなかつた。私の場合教育ママではなく逆なんです。そういう点が非常に反省するところで、教育ママのやりすぎがいわれる中で私はやらな過ぎた欠陥があつたと思う。子供はおさなく未熟なんだから母親なり、父親なり、先生なり、そういう経験者がつぎ足してゆくべき面がたしかにある。それが欠けたのが非常に可愛いそうなことをした。ふびんなことをした、すまなかつたというのが私の気持です。

遠山　好きなようにやつてごらんと言つている前提には、お前は優秀なんだから好きなようにやつてみろというかくれた期待があるし。

山下　子供に期待し過ぎたらいけないというお話を聞いておりましたから、むしろ子供を押えるようにしてきた。勉強が先にゆくと、先生も苦労なさるしほかの子供と合わなくなると思つて、そういう面に非常に遠慮深くしてまわりと適応させようとした。そこに子供が自分を伸びるところまで伸ばそうという考えよりも、人に迷惑をかけちやいかんという良識みたいなもので自分をしばつたんじやないかなと自分を責められるんです。

浜道　知識がよつぽど勝れていらしたからそれも一つの原因でしよう。

山下　非常に素直でお利口さんでよかつたのです。だからしつけの面さえ気をつけてゆけばよかつたのに、勉強だけをとめるようなことをしたんですねー。

大塚　価値判断の基準が違うんだと思います。多分ほかの母親だつたら満足すべきところなのに、山下さんは現在子供さんを大きくされて、優秀で学校を出られてそれでさらに不満だとおつしやる自分を責めていらつしやる原因を具体的に説明していただきたい。

山下　非常に能力があつて一般の仕事で比較すると勝れているのですが、人間として普通に誰でもが知つていなければならない、心得ていなければならないこと、たとえば健康管理とか、そういうことに対する意識が非常に低いのです。だから不健康なことをしても、自分が何か勝れたことができれば満足としている。そうい

う点が気になります。

伊藤　この問題は学歴社会からきた問題として東大ばかりが問題になつていることに問題があるのですが、山下さんのご経験は特殊なケースです。この話はこの辺までにして一番おうかがいしたいのは、現代に生きる家庭婦人としてどんな子供の人間像をもつておられるか、これをこれからの問題としていただくとして、やはり現代、戦後二十年の中で考えなければならないのは物価問題、消費生活、あるいは地域社会の行政問題、自治問題、そういつたものを全部ひつくるめて消費問題に入つて頂きたい。これは家庭の主婦として一番根本の問題で飯に困つては団らんも円満も原則としてありませんから、そういう意味で消費問題を中心として家庭婦人の問題を三十分ばかり話し合い願いたいと思います。

木下　物価が非常に高くなつていることを観念的にいわないで、主婦は消費の場の主催者なんですから、科学性を身につけて、購買したものに使つたものを記録しなければならないと思います。行動に移さなかつたら高い高いとただ愚痴に終る。そこが家庭婦人として一番大事なところだと思います。

伊藤　記録した結果はどうするのですか?

木下　それを地域なら地域で集まつて物価上昇の原因がどこにあるかとか、中間マージンが多いんじやないかとか、売つているところに直接交渉できればいいが、できなかつたら組織を作つて世論として行動に移すのですが。

伊藤　皆さん方の応募感想文を読むと消費モニターをしておられる方が、相当数があつたのですが、この中にもおりますか?あの運動はどこでやつているのですかね。

山下　通産省とか国民生活局とか、都道府県の場合、東京ならば部の消費経済を担当しているところでモニター募集をやつています。

伊藤　今年の作文をみている限りではかなりの方が目立つて全国から・・・・

山下　政府の物価対策の一環として、物価の現状とか、効果とか、どういうふうに政治が反映されているかという点もありますが一応民間の意見をきくという意味で官庁から出ておるのが多いようです。

浜道　消費生活を内からの問題、個人で解決される問題と、個人では解決できない対社会的あるいは政治的な問題とに分けて一歩一歩ずつ考えていつたらいかがでしようか?

村田　収入と支出のバランスがとれないのは私どもが一番身近に感じていることですし、収入は大して上らないのに消費支出はふえるばかりですので、もうけることより使い上手ということを主婦は考えてゆかないと収入がこれ以上ふえる当てはないと思うんです。内の問題としてレジャーブームとか電化製品の買い込み、いわゆる販売網の発達に対する婦人の態度とか、みんなが考えてゆくべきだと思うんです。

相楽　私は、自分の具体例ですが百姓のうちに十一年いた関係上、今ほうれん草や野菜を買いにゆくと卸は一把一円くらいの時は五円ぐらいです。でも私は自分がつくつた経験上、これを洗つて枯葉をとつて根を切つて市場にもつていつてそれで一円ならいくらもうかりますか。だから流通機構がよくならなければ消費経済もよくならないのではと考えています。

遠山　うちでもぶどうをつくつています。ぶどうを植えると一本に

ついて一万円以上のもとがかかるわけです。肥料を入れたり、苗木の代金とか、棚をつくるための設備費とか労力とか、それから消毒を三十回、四十回ぐらいいたします。そういうものを計算しますと、一本一万円以上になつているぶどうの木を植えて七年になりますが、一本の木からどれだけ収入があるかというと、四キロ箱一箱が市場では四百円から五百円になりますが農協に出すと一箱百五十円程度です。それで一本で現在の値段で農協の検査に通るのが三箱くらいしかないわけです。あとはローズもので一般の小売りになるのです。一万円のもとと労力が一年間に五十人ぐらいかかります。とても採算がとれないから切つちやおうかというんですが、木にそそいだ愛情もあり惜しくてそのまま育てて、売つてもつまらないからたくさんなるとみんなにやつちやうんです。

村田　都会で買うのと、生産者が売る場合では大変な違いがありますね。

安藤　私も農家ですからよくわかるんです。生産者が出荷する場合は安くて消費者に渡る場合には何倍もの値段になつているんです。だから中間搾取を少なくしてできるだけ消費者に直結するようにしたいと思います。

村田　それが都会の場合、今の政治機構ではできないし、私らは中央市場にまとめて買いにゆくぐらいで、それ以外に都会の者には手がないんです。

倉橋　愛知県でもそういう問題が出たんです。なんとか直結する方法がないものだろうかと。

浜道　業者がね。

安藤　そうです。値段を向うに決められて買いとられてしまうんですからとても不合理を感じるんです。

浜道　だけどマージンは認めてなければならない。それで生活をしているんですから。だけど不当なマージンはいけない。

大塚　つくつたお米がいくらで売れるかわからないというのでは農家の収入はうんと不安定になると思います。おかしいですよ。生産者ぬきで決めるというのはー。

安藤　米価はまだ政府が決めてくれますが、野菜なんかはどれだけ労力をそそぎ込んでもいくらになるかわからないし、マイナスになるかもしれないという不安定な在り方がすごく農村を暗くしていると思います。

伊藤　皆さんの話は流通機構の矛盾とはつきり指摘されているのですが、だから政治をうまくやつてもらいたいという言葉があるのですが、そのためにはどうすればいいんですか（笑）それを具体的にやつた人はいませんか？

相楽　旧郡山市内で、市会議員を、公明選挙で女の方を出しました。みんなが女の人を立てて身近に感じている消費生活やその他の問題を全部女の人にやつてもらわなくちやいけないと、婦人が一致団結してお金を使わないで当選させた例があります。

大塚　その結果は？

相楽　当選しました。

大塚　当選しただけじや駄目なのよ。（笑）

相楽　一生懸命生活改善グループやなにやらで活躍してくれていま す。

古沢　私は女はなんにもできないとさんざんいわれてきましたから、

では町会議員にさせて下さいといつてね。二へんめに当選したのですが。

伊藤　それじゃ今議員ですか？（笑）バッヂはついていないんですか？

古沢　そんなのはずかしくて、当選してなにやつたかというと、子供の幸福のために私の町はほとんど保育所を充実しました。それから児童館と僻地保育所、僻地の子供がほとんどあずけられるようになりました。それから婦人会の人々と申し合わせて屎尿処理場、塵芥処理場を整備し、それから大沢というところにとても献身的な女医さんがいたんだけどなくなつてから二年くらい無医地区となりとても困りました。お医者さんの問題は議員みんなでやつたのですが、少しは婦人たちの力で文集なんかに書いて世論に訴えてお医者さんを僻地にもつていつたとか、それ以上のことはあまりできないんで。

伊藤　いやそれは立派なものです。

古沢　野菜なんかの問題はむずかしくて、生産地と消費地のバランスがとれていないとガーツと下るのでちよつと私たちにはやれないのですが。

倉橋　女のわずかな力でもだんだんひびいてゆくということを聞いて安心しました。

伊藤　都市と農村をとわず消費の問題は家庭婦人として大切なわけですが、その問題では坂尾さんが大分ご苦労をしておられるようですから。

坂尾　私はお百姓がつくるものの価格が不安定であること、そういう問題が野放しにされていることが一つの問題だと思います。公共料金は一回上がると下ることはありません。大企業のつくつたものの値段は協定で守られているのに、お百姓がつくる野菜なんかは需給関係によつて価格が不安定だというのは一つの矛盾ではないか、もう一つお米とか水道とか私たちが空気と同じように必要なものはやはり国の責任において安くしていただきたいと思います。国民のうち高い水準で生活している人と底辺で生活している人との格差がひどいと思います。これはやはり政治の貧困だと思います。国民がそんなにひどい格差のない生活ができるような社会と政治を私たちこれから要求してゆかなければならないし、私たちのグループでも来年の地方統一選挙には婦人候補を出すことに決めています。私たちのグループで保育所や、塵芥処理を要求しても三十万、五十万の予算がいれられなかつた。保育所も国から補助で一県に二つは毎年できるのですが、市長は市の周辺にはばらまくのです。次の選挙の票集めのためにー。ですから必要なところにたくて、そう必要でないところにあるというおかしいことができてきているのです。私たちの要求を受けとめてくれるパイプの役割をする婦人議員をぜひ出したいというので頑張るつもりでおります。（拍手）

伊藤　この問題にも関係して中村さん、戦後山に入られて今の国民宿舎をホームまでつくられるためには、かなり行政面との接触も多かつたと思いますが、恵まれない子供を集められて今日までもつてこられたご苦心を少し話していただきたいと思いますが。

中村　私どもはよそから山に入りました新住民ですし、前から山にいた人々、原住民といいますかー（笑）そういう問題は新興都市にも多いのですね。私どものところでもその問題はありました。

地方会議で一人の奥さんは婦人会で新しい人も古い人も一緒にバス旅行して本当に打ち解けることができたというお話でしたが、私どももまず家庭からと母の会をつくつてお母さんたちがみんなで話し合つて、融和をはかりとてもいい結果が得られたと思います。また神奈川県の丹沢山に野生鹿がいるので猟の解禁になる前の鹿を保護したいという考えが野火のように拡がつて学生たちが署名運動をやり大きな運動になつて全面的な禁猟区になつたのですが、それはほんの一例で婦人もなにか一つのことから横に手をつなぐところに、問題の具体的解決があると思います。

伊藤　大体具体的ないろんな話が出てきましたが、このへんで全国的な問題とか多少とも統計的な問題で少し資料みたいなものをメモされるなら、私も多少用意してまいりました。たとえば今問題になつている市民活動に一体どのくらい婦人が参加する気持をもつているかというと、東京都で最近発表した「東京都民の婦人の意識と実体」ですが、それによると市民活動に参加の気持がないというものが六〇・九パーセント。これは都会の一つの特徴がはつきり出ているんじゃないか。いわゆる小市民社会になつてきているということでしようが。それで積極的に参加しているというのがわずかに三・九パーセントです。全く参加していないのが八〇・七パーセント。全体として参加の気持がないというのと、参加している、参加していないという具体的なことは範疇が違うんです。ですから百パーセントにならない。しかし皆さんが住んでおられる地域にしてもかなり現在いろんな問題がありながら底辺生活者はそんな時間がないとか、ある程度の生活ができるからそんなことはどうでもいいとか、こと二十年間やつてみたけれど日本の政治なんかちつともよくなつていないじやないかというあきらめ、そういうこともありますね。

倉橋　いくらさわいでも政治にひびかない、どうしようもないわという気持がありますね。

伊藤　そういうことは二十年たつたからこそここで大いに考えなければならないと思う。同じ都民の婦人の意識の実体の中で、学習塾とか家庭教師をつけているというのが二十一・八パーセントです。それから学校の勉強以外ピアノだとか絵をならわせるとか、そろばんだとか、おけいこごとをしているのが四十四・八パーセント。これは数だけに意味があるのではなくて、これだけやつていれば家庭教育費がふえているということです。つまり教育費が高くなるという婦人方の声がありますが、学校以外にそういう競争が激しくなつているという現実があるわけです。保育所は全国で約一万、七十万人が収容されており、保育に欠けている乳幼児数は百九十五万といわれ百二十五万は保育を必要としながら保育所に収容されていないということです。それからご発言の中に時代の移り変わりというものがかなり出てきたと思います。変つた面と変らない面が毎日の新聞を少し注意してみているとはつきり出てきています。非常に特徴的だと思つたのは朝日新聞の身上相談の欄に「追い出された農家の嫁」というのが出たんです。静岡県ですが実に民主主義とか民主的な家庭とかは全く無関係で戦前さながらの農家の嫁があるわけです。農家の長男と五年前に結婚したけれども結局いびり出された。こういう投書があると思うと「ひととき」に「台所に立つた私の次男坊」というのが同じ日に出ているんです。小学校六年の男の子が卒業する前にサンドウイ

ッチのつくり方と紅茶の入れ方を習つたんですね。そして「台所を貸せお母さんはあつちへ行つてくれ」と一人で一生懸命つくつてぬれたきれいなナフキンに包んでもつてきた、ところがこのお母さんは考えてみるとパサパサのサンドイッチをつくつてやつていた。ここに家庭生活の変化と教育の一つの形も出ているわけです。同じ日に出た身の上相談とこれとではまるで時代がひつくり返つたような姿が出ているわけです。出かせぎね。二十三日の新聞には出かせぎの犠牲者が静岡のダムで何十人も死んだ。その一方のど自慢で一等になつたら出かせぎで行方不明の兄ちやんがとび出してきたり、ここに移り変つてゆく日本の姿がいろんな形で出てきている。それから消費慾望に関しては今までに電機洗濯機とテレビと、冷蔵庫が三種の神器だつた。今度メーカーがこしらえた新らしい三種の神器はマイカーカラーテレビ、クーラーですが皆さんも注意しないとこと五、六年の間に全部ひつかかりますよ。消費の中の最もばかげたものは中学校の卒業式を日本一のデラックスなホテルでやつている。その中に進学しない子供が八人いた。そこのお母さんはもちろん出てこれない。しかも公立の中学でそういうことが行なわれているという現実がある。それから自分たちの子供の未来像についてお話し合い願いたい。学歴社会、閥の社会ではなくて古沢さんがいわれた能力社会をつくりたい、そういう社会を誰がつくるか。今度の不況から大企業がこの問題をとりあげ始めている。すると一部の教育ママが考えるような教育を与えても子供が社会に出る時に幸せかどうか年功序列から仕事別賃金へ、学歴だけで大企業でのほほんとしている人たちが今ずい分くびになつている。そういう社会の現実から子供に対する期待なり教育が考えられなければならない。それから一体経済の成長が本当に人間の幸福を招いているかどうか、逆に文化の発達の姿が人間の生命をおかしているのではないか。煤煙や工場のために人間そのものがおかされてゆく中での婦人の一つの活動があるわけです。午後は三時間半の間に「これからの望ましい家庭婦人の在り方」と「望ましい社会と政治の在り方」、それから「望ましい子供の人間像」について話し合いのまとめの方向へもつてゆきたい。それでは特別オブザーバーのお三人から、一言ずつアドバイスを頂戴したいと思います。それでは矢島さんから一こと。

矢島（特別オブ）　私は子供を守る会の創立以来から家庭の問題を考えるにも社会から忘れられがちな特殊児童とか、精薄児の受けもちを長くやつてまいりました。ご自分のお子さんの幸せを考える時に是非そういう子供のことを思い出していただきたい。新潟県のことわざに「年より婆あと栗のいがは煮ても焼いても食えない」というのがありますが（笑）家庭婦人が自分のこと、夫のこと、子供のことばかりの狭い視野の中で生きていると、女の仕事が終つた頃には栗のいがのように煮ても焼いても食えないあつかましい、視野の狭い女になるんじやないかと思いますので、ここにいらつしやる方には釈迦に説法だと思いますが、そういう人にならないように気をつけていただきたいと思います。（拍手）

和田（特別オブ）　消費者と生産者の問題が出ましたが、これをどのように解決してゆくかということは非常に重大な仕事だと思います。一つの方便としては、やはり婦人の神経で婦人の人格をみつめて下さる婦人の議員さんにパイプの役をしていただくことが大事だと思います。

竹井　私は子供を三人生んで育てながら生活協同組合に二十年身を投じてきた者ですが、生活問題を自主的に解決できる組織というので生活協同組合に飛び込んでその中で女として、母として生き抜いてきているわけです。消費生活を守るという一点から物価問題を見つめてきた者として、皆さんの物価問題のお話はまだまだとば口だという感じがいたしました。これは非常に深いものをもつております。四十一年度の予算を審議に当り私は参議院の予算委員会の口述人として、主婦の立場で口述をさせていただきましたので、その場で訴えてきたことを十分でも五分でも結構ですから要点だけお話させていただきたいと思います。

伊藤　五分ぐらいでお話していただけますか。（拍手）ではどうぞ。

竹井　生活協同組合運動の中には宗教的なものもあるし、イデオロギー的な、社会主義的なものをもつた人もいるわけですが、私は自分の生活があまりに矛盾だらけなのを生活を豊かにしたいという一心でやつています。国会でもごく身近かなところから訴えました。私たちは経済成長政策、所得倍増で生活が楽になるとかんたんに喜んでいたのが、自分の消費生活の実体、栄養の摂取状態とか消費のバランスなどをみつめてみるとあちらこちらがアンバランスでがたがたになつていることに気がついた。政府も今年は物価対策を大きな政策の柱としているが果してどれだけ本気でやる気でいるかを予算の数字の上からみたわけです。すると政府の看板ほど数字はちつとも組まれていない、予算をもたないでどうして国の政治ができますかと訴えたのですが、物価にもいろいろあつて皆さん生鮮食糧品の問題から、米の価格の問題まで十把一からげで討論されたようですが、米価の問題と生鮮食糧品の問題とは自ら違います。それから公共料金に関するもの、大企業が管理価格や協定価格を打ち出してきているもの、物価にもいろいろ政策があるわけです。それによつて対策も自ら違わなければならないはずですが、どれを見てもほとんど予算化されていない。今年の政府の消費者対策、物価対策の予算が百五十七億でこの数字は全体の予算の〇・四パーセントにしか過ぎません。その中には中小企業に貸付ける百三十五億が入つているわけです。それを引いたらあといくら残るか、そんなことで物価の安定を大きな国の政治の柱にしていることに私は非常に「いきどおり」を感じて、臨時費でもなんでも組んで消費者保護の本当の物価対策を考えてほしいと訴えたわけです。公正取引委員会の動きもあるし、自由経済の中では力と力の勝負なのでそれには消費者の力が強くならなければ絶対に長い目でみた安定はこないと私は思つているので、消費者の力をどうして強くするか、いわゆる消費者教育とか保護とかに政府が本腰で予算を組んで下さいといつているんですが、それがほとんどゼロに近い状態であるわけです。そういう点で物価の問題は非常に重要だといわれながら私たちにもわからないし、政府もあいまいでいるということを皆さんに意識していただきたいと思います。（拍手）

伊藤　ありがとうございました。今の竹井さんのご説明で非常に収獲を得られたと思うんです。午後は一時半から能率的にやつてゆきたいと思います。

（再　開）　一三・三〇～一七・〇〇

伊藤　家庭婦人の問題をこれからどう考えていつたらいいか、あるいはどうしたらいいかという問題に入るわけですが、文化というもの、あるいは進展する社会の進展をどうとらえるかということが根本になり、その中での婦人の役割を建設的に話し合つてゆくわけですが、きのうからきょうにかけて話が進められたこと全部を踏まえて話を進めてゆきたいと思います。

子供の教育に対する望ましい教育の在り方から入るのがいいと思うのですが、その時には自分の子供はこういう人間になつてもらいたいという、子供に対する期待される人間像を出していただいたほうがいいんじゃないかと思うのですが。

相楽　それじゃどうあればよろしいかと　……

伊藤　そうです。今の日本の婦人は本当に手がいくつあつてもたりないような立場にありますので、そのどの立場からでも問題はあるわけですが、社会とか政治とかのつながりの場合には女性としての立場が一つ考えられなければならないと思うのですが、それに最後じゃないかと思いますので、まず母として子供に対する期待なり、こうあつてもらいたいという願いをひとつ―。

安藤　私は子供に望む場合、学校の成績が一番をとる前にどうぞ豊かな人間であつてほしいと願つているんです。その場に応じた適切な判断を下せる、考える人間で、幅の広い人間になつてほしいと思います。

伊藤　そういう人間にするために母親としてはどういうふうに考えておられますか？

安藤　母親の生活態度ですか？

伊藤　母親の生活態度でもいいですし、子供を叱つたりする場合にねー

安藤　なるべく相手の気持をくみとつて、ガミガミ叱らずに、効果を考えて叱るようにしております。

相楽　私は二十代　三十代　四十代とずい分叱り方が変りました。二十代は感情をそのまま出して叱りましたが、三十代にはまた変り、四十代の今はお皿をこわしても、けがしなかつたの？　ああそれじゃよかつた、と変つてきました。じようずな叱り方を考えるようになりましたね。

伊藤　年令によるということは叱られる相手の年令も変つてきますからね。

遠山　経験を重ねて、今までの態度では駄目だ、こういうふうに叱るべきだと反省をしてよくしてゆくということでしょうかー。

伊藤　お皿の話で、「母ちゃんは自分で割ると笑つている」という小学校五年の女の子がつくつた川柳があります。（笑）

遠山　小さい子供と小学生、中学生、二十代になつた子供では叱り方が違つてくるんじゃないでしようか。

中村　私のうちでは親子で、大きな問題の時に手紙でやりとりすることがあります、親子がひざをつき合わせて話しているうちに感情がからんで、言わなくてもいいことを言つたり、本心じゃないことを親にぶつける場合がままあります。中学一年の女の子が泣いている、あれか、これかときいても駄目で、私の枕元に手紙を

ぼんと置いていきました。見てみると、「さつきはごめんなさい私の年令を忘れないでね、私はどうしてもすぐ悲しくなるのよ」と書いてありました。もう思春期に入りかけたのだなと思いましたが、そういうことがほかの方のところでもあるんじゃないでしょうか ー。

伊藤　そのためにノートをつくつておられるんですか？

中村　いいえ　手紙で封筒に入れて大体私の机の上においておくとか、私の寝んでいる時に枕もとに置いてゆくとか、娘だけしかなく、めつたにありませんけど、手紙のやりとりするほど深刻なことは ー。

伊藤　波多野勤子さんの少年期に対しては批判がありますね。家の中でそういうことをやるというのは ー。今の話をきくと考えさせられる点がありますね。皆さんこれについて少し話し合いされたら ー。

山下　親は子供に絶対的な愛情があるので現実の子供をみないで理想的に考えて、ついせつかちになり、こうあれかしという気持が加わつて叱つてしまう。子供に親の本当の気持がわからないので自分を認めてくれない、カーツと反抗的に出ることがありますね。客観的に自分を見たり子供を見たりするにはとても勝れた方法だと思います。

伊藤　私この方法は別としましてもきのうから問題になつている出かせぎつ子とか鍵つ子の問題、そういう時になにかこの方法で、あなたは保母さんの経験があるんでどうやつておられるか、親子のつながりをね。

倉橋　始め勤めた時には子供もがみがみ言う人がいなくなつていいなと思つていたようですが、それがだんだんに淋しくなつたらしいのです。それで私が毎日つける家計簿の間に、「お母さんなぜ産休保母さんになつちやつたの」と書いた手紙が入つているのです。私は子供とすぐ話し合つたのです。その時子供が、「私はとても淋しくて淋しくてがまんができなかつた、しようがなくて書いたの」というのです。私もいい機会だし、三年生になつて一応ものを考える年令に達しているからと思つて、「お母さんもうちのことだけをしていれば体は楽なんだけれど、なにか人のために役に立つてよかつたと思うようなことをしたいから、お勤めに出たのよ」と言つたのです。そしたら作文にお母さんに淋しくてしようがないと言つたら、お母さんも勉強しているのだよという言葉を聞いて、私ももう少ししつかり勉強しなくてはいけないなという気持になりましたと書いてあつたのです。それで私は共かせぎに出ているから子供が不良化するということはないんじゃないか、子供は子供なりに前進的に見ていてくれたのだと大変うれしく思いました、そして勤めることに自信をもつたわけです。

村田　共かせぎの場合、子供が不良化するかしないかは働くお母さんの自覚と態度にあるように思います。保母という子供のための仕事で、子供の感じ方、受けとり方が違う人だと思います。それが主婦の地位の向上とかの美名にかくれて、女の中にひそむエゴイズムや虚栄のための仕事であればゆゆしき問題だと思います。

遠山　親と子のつながりの問題で、農家ですと鍵のない鍵つ子で同じ状態なんです。帰つてきてもうちには誰もいない子供がほとんどなんです。子供が親たちの帰つてくるまでの時間をどう過すかずい分問題があると思います。私たちのグループで愛の黒板とい

う名前をつけた黒板をみんなでつくつたんです。黒板の半分は農家の仕事の予定を書いてあとの半分を子供への連絡をかくことにしたのです。お母さんは畑にいつているとか、今夜は何にしようとか、おやつは何にしようとか必ず書いておくのですね。子供は黒板の字をみてお母さんの愛情を感じ、心のつながりができると思うんです。大変愉快なお母さんが書くことがなかつたので「まあちやんのあばれん坊やい」と書いておいた、夜になつたらみんなが顔をみてにやにやするので黒板をみたら、へたくそな字で「お母ちやんのおこりん坊やい」と書いてあつたというんです。端的な言葉で自分の欠点を記されて大変感じさせられたというのですが　ー。

伊藤　大変いい話が次々に出ますね。

木下　兵庫県の会議でもお母さんたちがいろんな集まりに出る場合に子供たちにどういう配慮をするかということが問題になりましてね、今のお母さんたちは社会性を身につけることが必要であり積極的にいろんな会合に出るために子供たちには、お母さんでなければできないものを置いてゆくと皆さん強くおつしやつていました。

山下　働いているお母様は子供と離れていても心をしつかりと握つていれば鍵つ子じやないと思つています。うちにおつていつでも子供のことをしようと思えばできる、そういう親が実は子供を鍵つ子にしている、つまり心の鍵つ子のほうがずつと怖ろしいと思います。いつでも一緒にいてなんでもできると思つているがそうでない。母親が家におつても、学校から帰つてきてごはんを食べて寝るけれども心は外をさまよつている子供が、実に非常に怖しいことになるのではないか、そういう点を考えると、むしろ働いてその子供と一緒におれないためにいろいろ工夫されるお母様のほうがずつといい教育ができるのではないかと感じます。

伊藤　心のつながり、山下さんの鍵つ子ではないというお話は大変おもしろいと思います。普通黒板をつつている時に伝言板といいますが、あれは心を伝える板、伝心板であると、伝心板運動というのを鍵つ子の間でやつているところがありますが、今のお話で皆さん本当に心を通わせていると感心しました。

相楽　本当に心の鍵つ子というのにその通りだと思います。必ずしも働いているからといつて鍵つ子ではない、私も婦人会のことでしよつ中留守します。その時には子供だけでなく本人も鍵つ子になります。　（笑）

伊藤　この辺で心を通わせて育てている子供が今の学校教育の中にぶち込まれた時にどうなるか、お母さん方としては今の学校教育に非常に批判があると思うんですがそういう点に移つたらどうですか？

押川　社会の制度も悪いのでしようが、いい大学へ入るのにいい小学校、いい中学校、いい高校というコースを通らなければならない。いい大学に入つていいところに就職することが人生最大の望みみたいに今のお母さん方は思つて小さい時から、教育して一生懸命になつていらつしやる、そういう姿は反省しなければならないと思います。大きな会社でも学歴を認めないでいるところがあるというお話でしたが、全部がそういうふうにならなければ解決できない問題だと思います。子供には少しでも楽な生活を、出世させたいというのが親の一般的な願いだと思いますが、子供たち

の点とり主義的な考え方を母親の世論でなくしていただく方向にもつてゆけないものだろうかと思うんですが。

木下　同感です。

山下　それは社会問題ですが、こういう社会を変えてゆくことが必要なんで、それにはやはり自分が、一人の母親が自覚してゆかなければならない、そして自分の子供に、自分がよりよいと思うことをやつてゆけば、変つてくると思います。人がしてくれるのを頼りにせず自分が変えてゆこうとすることをまずやればいいんじゃないか　そういう点で私は、進学準備とか教育ママに絶対反対です。けども子供の能力は高めてゆかなければならないと思います。だから子供の能力を高めるには、教育ママにならなければならないという考え方に私疑問があつて、子の能力において進んでゆく、そういうものが最高に行われるような教育をやつてゆけばいいと思います。

押川　この点に関して中村さんが非常にいい方法をとつていらつしゃるようなのできかせていただきたいと思います。

伊藤　それじゃかくしてないで出して下さいよ。（笑）

中村　主人がほとんど自由主義で子供一人一人の自由にさせております。ですから私の一人息子でも高校だけで、それも公立を受けただけで、また私の生んだんでない子供でも大学に行つたものもおります。その子その子の能力で、勉強したい子は伸ばせばいいし、進学したい子は進学させる、高校くらいであと実業で一生懸命働いて幸いを求めるほうが子供のためか、十五才以上になれば子供にも自分の判断というものがあると思う。

伊藤　高校を出られた坊ちゃんは今どうしておられますか？

中村　山に帰つてうちの仕事をさせております。

伊藤　能力の問題ではきのう古沢さんがご発言になりましたね。

古沢　テレビの太陽の丘を思い出しますね、中村さんのお話をきいて……

押川　自分の子供に高校、おなかを痛めない子を大学にやるというのは普通の人はできないことだと思います。

遠山　理想を地でいつている、本当に偉いと思います。

伊藤　今そのホームには何人子供さんがいるんですか？

中村　今ほとんど子供はおりません。今一番小さい子供は中学一年それは私の子供でよそからの子はみんな大きくなつて独立し、子育て業は終りました。今度は自分でできる仕事を見つけてゆきたいと思います。

伊藤　岩崎さんに里子さんを連れてきて、将来をどう考えておられるのですか？

岩崎　もう一本だちになりました。あまり勉強が好きでなかつたものですから高校で就職させました。電気科のほうへやりまして。

伊藤　中村さんが十五才になつたら判断力もあるというお話でしたが、ある意味の判断力は義務教育が終つたところであると思います。しかし日本の今日の複親な社会では高校年令十八才ではないかという気がする。今高校の進学率が七十パーセントちよつとと出ました。するとあとわずかに二十何パーセントなんです。その子供に対して国が負担して十八才まではなんらかの教育をしてやる、そうしないとこの複親は社会ではむずかしいですね。アメリカのお父さん、お母さんは自分の子供に何になつてもらいたいのだときいたら、何かになりたいかは子供が自分で決めることだろ

うというんです、日本人はいろいろなことを子供に期待しているが　ー、というと、人間は自分の将来は自分で決めるのだ、しかしそれは十八才です、だから高等学校までは全責任をもつて親が子供を教育しますと。

坂尾　皆さんは基準を高校においてると思います、その上は本人の自由という。この進展する社会では高校が義務制に進んでゆかなければならないと考えておりますし、今国民の九十八パーセントまでは、たとえ日雇いをしても子供だけは高校にやりたいというのが親の願いなんです、その国民の要求からみても、高校の義務制に文教政策として考えていい段階にきているのではないか、私たちがやつている全入運動ともつながつてくるのですが、全入運動の中でも最終的に問題になるのは義務化されなければ母子家庭など、今の費用では高校にはやれない家庭がたくさんある、最終的には義務化を要求して憲法による教育の機会均等を要求してゆくのが目的になつているのです、それについて進学の補習教育からしめ出される子供があります。進学競争が非常に激しい私の方に特に問題があつて、中学三年生の夏休みを全部返上して平常の授業をやつたのです、そして夏休みの間に全教育課程を終了して二学期、三学期は主として補習教育に全力を注ぐ、そういう極端な例が去年の九月始めに明るみに出て全県的に話題になつたがそれに氷山の一角であの手この手でそういうことを徳島の全中学がやつている、学区別とか、高校の格差が非常にあるので教育ママ的な考え方がそこまできている。それから全国的に実施された体力の実技テストも全国にさきがけてやつたのです。それで当日死んだ子供が一人、一週間後に死んだ子が一人ある、その二人は新聞がとりあげたが、そのほかに熱が出て三日も四日も学校を休んだ子、立幅飛びで尾骨を折つた子があるんです。死んだ二人の子供はみんな一人子です。そういうことで大きな問題になつたのです。

古沢　私は高校教員の立場から考えるのですが、中学でさえ普通の教科についてゆけない子供があるのですが、親の体裁から、何を習つているかわからないような状態でも高校に入れる、私はその人がもつて生まれた大事な能力があるならば、その特技をしつかり生かしてすぐに社会に出すほうがいいと思うんです、人間にそれぞれみんな能力が違つているんですから義務教育で特殊の教育をするのに賛成しませんけれど。

坂尾　ちよつと意見が違うのですが、能力があるものが高校へ進むというのに非常に危険なものをもつていると思うが、今の中学校の教育体制の中で個々の能力が完全に発揮できているかということです。中学校のすしづめ教室で、教員も少ないし先生の労働過重の中で、子供の能力が引き出せるかどうか私は疑問をもちますそれと本当にその子の能力が現われてくるのに十七、八だといろんな本に書いてありますし、もう一つ私らの時には旧制の中等学校は一学級に五人ぐらいほどしか行かなかつた、それが今中学校は義務制で全部の子供が行つて国民教育の底辺がうんと上つたと思う。高校を義務制にしてもいい子も悪い子もいるが、高校教育の中にも特殊学級をつくるとかいろいろな教育の仕方があると思う。高校まで義務制にすれば国民教育の水準があがる、エリート教育でなく国民の教育の底辺を高めるところに教育の観点を置いてもらいたいと思います。

古沢　私も国として高校までやつてもいいとは思います。しかし、しつかり合つた技術は高等学校を卒業してからでは年令的に遅いのではないか、中学校から本当に能力に合つた職場につくほうが本当に伸びるのではないか。

遠山　必ずしも高校という一つの形に入れる入れないということよりも中学校から就職して工場自身が人材投資をすればいいんじゃないかと思います。工場とか官庁とか、会社とかが雇い入れた若い人に対して、自分の会社の発展と、日本の発展のためにも人材投資をすべきだと思います。ぎりぎりのところ全入か全入じゃないかということになつて少し言葉の問題になつていると思うんです。坂尾さんがいわれる全入も能力がほとんどないという子供も普通高校に入れてしまえというのではなく、能力に従つた後期中等教育をしてやれということではほとんど同じではないか、それが高等学校という名前か企業内教育になつた。だから後期中等教育は非常に多様性をもたなければいけない、そのことでは能力に従つてという点で同じだと思うんです。ただ一つの大切なことは坂尾さんがいわれる今の中学校教育は果して能力に応じた教育になつているかどうかということです。金持の子供に家庭教師をつけ、塾へ行つて能力をより伸ばしてもらえるが、そうでない家庭の子供は家事の手伝い、農繁期は学校にもゆかれないような環境の中では、いかに素質をもち、能力をもつていても今の義務教育の中から差別されているという問題があるからそういう子供も含めてやはり全部高校教育をしてやらなければいけないんじゃないか、と坂尾さんはお考えだと思います。おそらく皆さんも山の子供であり島の子供であるがために機会均等から外されていることに関して大変ご不満をおもちだろうと思います。そういう点はこれからの教育行政、教育政策に対する皆さんのご希望としてまとめていいんじゃないかと思います、教育の問題は結局は皆さん、子供にいい子供になり、むしろいい社会人になつてもらいたいというので、子供を大学に入れるために出かせぎにゆく、そのために家庭の中が少しおかしくなるという問題もあつたが鍵っ子とか主婦が勤きに出るために子供の教育なりしつけの点で問題があるかどうか、きのう出た話では主婦が外に勤めをもつことに肯定か否定かという問題があつたが、この問題はこの部会として一番大切な点なので少しお話し合い願いたいと思います。

安藤　私の県で去年県下からママポリスを四名とることになつたので私が受けてみたんです。一次にパスして二次を受ける段になつて、受けようか、家庭に踏みとどまろうかとずい分迷つたんです。私の立場は、子供があつて年令的にも社会的地位とかお金とかは別として家におるべきだが、主人の母が私の意志に尊重するというのです、私は姑と一緒で子供は二人です。面接に行つて、日曜も祭日もありませんよ、それでも勤めますかと最後にきかれたんです。家庭と仕事とのバランスを考えてやつてゆきますと答えたのですが、結局は現在農業をしているわけです。

高木　私も同じような経験をしたのですが、教員の免許状がありますので、子供に中学一年と五年生で手があいたしお姑さんに留守を頼める、また復職したいと思つて試験を受けようと書類をとりよせて家族の意見をききました。子供たちも主人の父も出ていいというのですが、母と主人が絶対反対したので踏み止まつたのですが、今私は手はあるし、なにか仕事をしないといらいらした気

持があります。

伊藤　ご主人が反対されたのはどういうわけですか？

高木　やはり主婦がいないとうちの中が乱れるし子供を犠牲にするというのですね。母も今は丈夫ですが年が年ですから　ー。

伊藤　高木さんのところはお勤めでしたか？

高木　主人は教員ですし、うちは寺なんです、それに農業もしています。

伊藤　ご主人はお寺さんもやつておられるのですか？

高木　住職は父がやつております。

伊藤　そうですか、それでは結果的にみると教員が一番無理解だということになる。（笑）

高木　そうですね、自分がつとめていると人に対する理解が　ー。

伊藤　きのうからきいていると教育者が一番時代遅れのようですね（笑）

浜道　職につく前に、あるいは内職をするという前にまず自分に適しているかどうか判断して、子供があるいは主人が反対をしても自分がやりたいと思えばやつてもいいじゃないか。（笑）

伊藤　あなたは通信教育で孔版の仕事を持たれたんでしたね。きのう倉橋さんが女性として主婦としてやれる仕事があるのだと非常に強くいわれたんですが　ー。

倉橋　それにつけたしたいのは、中日新聞に、非行少年が出る根本をシリーズものでいろいろの観点から追求していました。非行少年になると両親ともに、自分たちが悪かつた、ゆき届かなかつたというその口の下から、社会が悪かつた、学校教育が悪かつたという、と書いてありましたが私本当にそうだと思いました。母親の愛情は特にせまくてしつこいんです。

伊藤　皆さん相づちを打つておられますね。（笑）

倉橋　あまりにも母親とは視野がせまいんです。家庭にとじこもつて自分の家庭と子供のことのみに集中して考えているでしょう。私はそれをもう少し社会の子供は自分の子供という考え方をするように、結局地域社会の子供に目を向けるようにすれば非行化もなくなるし、教育ママも多少、少なくなるでしょう。事実私も家庭にいる時は自分の子供にのみ夢中になつておりました。でも保育園につとめてみると社会の子供としてみる目もできてきました。

伊藤　今婦人は適性に従つて職場を選べばもう少し理解されるんじゃないかという意味のご発言がありましたが、高木さんの場合免許状をもつているんだからもう一べん復職のできる制度を婦人労働に是非とり入れたいという。それに関連するのですが、倉橋さんがきのう保母とか、看護婦とかホームヘルパーとかほかにもありますか。

倉橋　看護婦とかホームヘルパーとかの社会福祉的な方面にもう少し家庭婦人が目を向けていつてほしいと切実に感じて、是非それを家庭婦人によびかけたいと思います。

伊藤　きのうから社会福祉の問題の出方が割合に少ないようですが望ましい家庭婦人の在り方として、今もう一つ出てきているわけですが　ー。

山下　勤めが子供にマイナスになるか、家庭をこわすか、また一方では勤めて外から自分をみて大きな視野でやれば、間違いはないと、対立するようですが理想は一つところだと思われます。結局適性を考えて自分を生かすことも大切で、それも賛成、しかし結

局は家庭の主婦であり、母親なんだから、夫とのあつれきをつくつたり、子供や家庭に手抜かりができれば母親不在になる、そこがうまくいけばいいけれどもそうでなければ出るべきではない。それで視野がせまくなることは決してない。母親が自覚して学べばいいんで外に出たから社会的に視野が広くなるというものではない。絶えず意識してそれを是正してゆけばいいんで、要するにその人の生きる態度一つにかかつているという気がします。

伊藤　今の意見に賛成の方も相当あると思いますが　ー。

村田さんなにかご意見ありますか？

村田　女性の成長、個人的な質問になるんですが、押川さんは事務員をしていらつしやる。一番下が一年と何か月かでごく小さいんですね。女性が働くことも子供の年令にも関係があるんです。母親が離してはいかんような子供のある人が働きに出ようと思えば困難な条件を克服しなければならない。お手伝いさんにあずけるとすればお手伝いさんの給料はすごく高いんです。それで押川さんの収入がどうなつているのか、三人の子供をあずけて百貨店の事務員をなさるというのはどういう意見があるのか、押川さんの信念みたいなものですか、家庭のもつてゆき方といいますか、私はきのうから一生懸命考えているのですが、どういうふうにやつていつていらつしやるのか私はふしぎな気がするんですが　ー。

伊藤　そのことは私もきのうから考えていました。押川さんのご主人は相当な収入のある企業の重役をしておられる。それだけでも十分やれそうな家庭で、小さな赤ちゃんをお手伝いさんまで雇つて出てゆくということをきのうみごとに説明されたんです。割切つてね。なるほどなと思つて帰つたんですが、あとで考えてみたら村田さんと同じ疑問をもつたんですがその点を押川さんにお話し願いましょう。

押川　会社なんかは一度やめると再就職ができないという社会問題になつてしまうんですが、山下さんのはつきりした信念をもつて家庭にいる方はよろしいんですが、大ていはイージーゴーイングというかやすきに流れる。家庭の主婦は勤務評定もつける人がおりませんし。

伊藤　だんなさまがつけますよ。　（笑）

押川　でもよほどのことがなければくびにされることはありませんから（笑）どうしても生活がルーズになり計画的な生活が非常に少なくなつて自然自分中心の生活になつてゆくと思うんです。その点仕事をもつているとすべて生活が計画的になり、帰つてからの家事も始めから時間で計画してやらなければならない、それで自然生活にもはりが出て生活態度としても非常にはりつめたものになるわけです。私の場合やめるべきか、そのまま続けるべきかと迷つています。どうしたら一番いいのか皆さんのご意見をうかがいたいという気持で出てきたんです。私の給料のほとんどはお手伝いさんの給料にとんでしまうので経済的にはプラスになつておりませんが、私は女としてやる仕事がある場合にはできるだけ働いたほうがいいんじゃないかと、それほど深い信念もないんですが。

村田　子供さんが三人もいらつしやるんでしょう　ー。

押川　はい。お手伝いさんにそういうことをお願いして。お手伝いさんは五十才くらいで子供を育てた経験のある方。、子供の教育はお願いしておりません。

安藤　ご自分の給料を全部渡してまかしているときいたのですが。
押川　私の給料はほとんどお手伝いさんの給料にしますから、家計の出費はほとんどまかしておりまして。
伊藤　そうすると主婦業はそのお手伝いさんにまかしているんですね。
押川　はい。ただ私は子供の教育だけは自分でやるのですが　ー。
村田　仕事が終つてから三人のお子さんのことを考えるわけですね。
押川　小学校に行つておりますから昼間はほとんどおりませんし。
村田　参観日なんかはどうなさるのですか。
押川　その時はお休みが、デパートといつてもいなかのことですから定休日が二日で、あとの二日は自分の都合のいい日にとれるんです。
山下　小さな子ほどものを言わないからやはり母親が育てなければ不安定な状態にするとお聞きするし、自分でも痛感していますのでおつぱいを飲ませて育てるような期間は絶体母親にまさるものはないと私は思うのです。経済的にどうしても動かなければならないのなら子供を犠牲にしても涙をのんで動らかざるを得ないけれど、自分の給料が全部お手伝いさんの給料と引きかえになつているのもどうかしら、お手伝いさんどういい方かしらと思うのですが。
中村　私個人の意見ですが大塚さんのなさつた体験の二の舞になるような憂いはないでしようか。
押川　小学校二年生の男の子と幼稚園の女の子が上におりますが、私が疲れたといつて帰りますとおふとんを敷いてくれるんです。非常に理解があります。
古沢　私は二十何年か学校の先生をしてきました。実は私は母に子供を育ててもらつて、ねえやも子守もずつとおり、私は学校教育に専念することができたんですが、母がいなかつたらとてもつとまらなかつたと思います。私の娘も共かせぎをしているのですが幸いに非常にいい子守さんがいて家庭のことも全部してくれるんですが、職業婦人としてたつとなかなかやめることができません。ことに先生の場合は、私にある時には自分の給料を大半使つても仕方ないと割切つていましたが、マイナスな点は、子供の育て方で一番始めの長男は母にばかり育ててもらつたので我ままで、おばあちやん子で私は教育者でありながら心のもち方に注意しなかつた、職業と家庭の両立は本当にむずかしいと思います。本当にしつかりした考え方で職業に就かないと駄目だと思う。私は学校ばかり一生懸命になつて子供がおるすになつてしまつたが　ー。
（笑）
村田　古沢さんの場合は教職でいわゆる恩給の問題とかいろいろあるからやめられない。子供ができても、こちらの場合は　ー。
伊藤　それとみてくれるのがおばあちやんですからね。
古沢　戦争中、先生の給料ではとても生きていけないからやめろといわれたのですが、生徒が好きでほかの職業につけないんですね
伊藤　大塚さんも同じような経験がおありでしよう。
大塚　押川さんの意見をきいていますと、進展する社会の中で私たちの常識は大分変つてしまつたのかしらと思いました。というのは妻とか、主婦として当然しなければならないものがあるのではないかいくら収入のバランスがとれたとしても家計まで人様にまかせても主婦としての役目がすむかしらと疑問に思つたのです。

山下さんが親の必要な年令があるといわれましたが、そうだと思います。私もおばあちゃんにまかせつ放しできたものの今になつて反省することが多いのですが、時代がこうなのだとすれば私たちもそれをうのみにしなければならないのかもしれません。

伊藤　逆におばあちゃんではなく、多少とも経験のある人、専門家にあずけるほうがいいという考えだつてあるわけです。アメリカにおけるベビーシスターという考え方もあるけどデリケートな問題ですが。

木下　おつとめに出る婦人の場合保母とか、教員とか、看護婦とかいわゆる女性独得の職業をもつていて、職場で是非必要とする場合と、どんな方でもできるという場合とあります。一番どこに自分の存在の意義があるかということになりますが、それが働く婦人の労働意識を低下させたり真けんに働こうとする婦人の足を引つぱるのではないかと思うんですが　ー。

山下　地域活動がありますからね、家庭の婦人には　ー　それもできないことになる。

浜道　押川さんの場合大学を出て専門的な技術を身につけていれば、それを社会のために生かすことは誰でもできることじやないという意識のもとにやつていらつしやるのでしよう。

相楽　私の弟の家内が押川さんと同じような状況で共かせぎですが経験にとんだ方を頼んでいますが私たちが育てたらあんなにいい子には育たないだろうと思います。弟の嫁は県庁の薬剤師をして生きがいを感じてやめられないんですね。合理的に生活するとかいつて車を買つて、送り迎えもしています。それほどまでにして働かなくてもと思うんですが私ら四十代の年代と、二十代の年代では違うのでしようね。

伊藤　婦人の中高年労働者の一つの職場というものがあります。ホームヘルパーというか、ハウスキーパーといつていいか、押川さんの場合ご主人も教育があり地位もあつて、働かなくてもいいじやないかという言葉はご主人から出ないんですか？

相楽　弟の家内は朝出かける前にちやんと昼のお弁当を、お手伝いさんの分までつくつて、毎日きれいにお便所掃除もして、ああ完璧なら働いてもいいと思います。子供のためにプラスになるでしよう。

遠山　現代の発展した社会の中では女性の手をまたなければならない職業もでてくると思います。あえて女性を家庭に閉じ込めてしまわず本当に職業意識に徹して熱情をもつてやるなら職業をもつことはいいし、社会もそれを要求していると思います。ただ職業をもつている婦人がどういう気持で家庭を営んでいるかということに問題があると思います。子供、夫、姑に対して接触する時間がないというのは時間の問題でなくどれだけ充実した愛情の交流ができるかによつて、近代的なすつきりした家族関係が生まれてくると思います。（拍手）

坂尾　この問題に徳島の地方会議の時にも出ましたが、婦人が働く前提として当人が働くことの自覚をしつかりもつていることが大切である。また家族の協力がなければ絶対になり立たない。家族とか近隣のあたたかい協力にささえられて婦人が働くことは、婦人の地位の向上のためにも権利の獲得のためにも非常にいいことであると確認されました。その中で鍵つ子の問題に先ほど精神的に母と子のつながりができていればもはや鍵つ子ではないといわ

れましたが、留守家庭の子供であるという事実は否定できないと思います。鍵つ子の問題にやはりその対策が必要で、児童館とか子供の安全な遊び場をつくつていただくとかを婦人の団結によつて、社会全体を動かして子供の環境をよくするという方法で求めてゆかなければならないのではないか、と話し合つてきたわけです。一つは私たち勤労者の主婦は今全部が内職をしておるんです。その内職について時間をいただきたいと思います。その実体の統計をもつてきておりますが、私たちのやつている内職の種類に手袋の仕上げ、香川県は手袋で日本で一、二を数えられる生産県ですから、手袋の甲のところにビーズをつけたり、ししゅうをちよつとする、革の手袋にもやるわけです。それからサンダルの甲を組み合わせてつないで飾る部分とか、それから孔版の校正、技術をもつた人は原紙を書いています。和服や洋服の仕立て、それから和服のしぼり、京都からもつてきて、絵羽織にします。それから編物等の内職を私たちのグループではしていますが一日の内職時間が、五時間の人が三十三・五パーセント、六時間から八時間までが四十三パーセント、それ以上もありますがこれが一番多いのです。一時間当りの工賃は二十円までが二十・四パーセント、三十円までが二十三・八パーセントで過半数が一時間の工賃が、二十円から三十円です。一日五時間して百円、一月三千円、多くて平均が四千三百円と出ています。内職で得たお金は、小さい子供をもつお母さんで一日五時間、月三千円で、子供のおやつ代にしています。中学校　高等学校のお母さんは内職の時間も長くなり工賃も多く五千円、六千円となりますが、これは主として教育費用の増大に伴なう家計の赤字に当てている、これが私たち勤労者の家庭の内職の実体です。私たちは始め内職をしているのが恥しいという気持があつてこそこそとやつていましたが、生活の悩みを隣の人と話し合う中から内職をしていることが拡がつて大つぴらになつた。一時間三十円の内職をしていていいんだろうか、目も疲れるし肩もこる、健康上にもいろいろ故障が出てきている中間の世話人を排除して工場から直接もらえるということになつて、順次そういう方向に改めてます。中間搾取をなくすとか、内職といえども動いていることに違いないのだから、内職の最低賃金制を決める家内労働法をつくつていただく動きかけをしているのです。二月二十八日に第二回の内職大会をもつて全国から集つたお母さんの声として労働大臣に要求し、今度の国会に社会党から家内労働法を提出していただきました。大きな婦人の世論が家内労働法をつくらすまでに実を結んできたと思います。やはり婦人の力は世の中を変えるとか、政治を変えるとかいわれていますので、労働者の主婦だけの問題でなしに婦人全体の連体感のもとにお互い婦人の立場を高めたり、守り合つたりするために皆さん方のご協力をお願いしたいと思います。（拍手）

伊藤　家庭婦人の問題では家庭婦人の生活条件、労働条件が一番大きな問題でありますが今のお話で当然テーマに家庭の経済生活に移つてきたわけです。外で動くか動かないかという問題よりも今日のような日本の経済状況の中で家庭婦人を一番悩ましている問題はどこにあるか、底辺とまではいかないでもまじめに働いている勤労者の家庭では主婦が内職までしてゆかなければならないという状態にある。それに対して社会と政治の在り方にもつながつて坂尾さんからのお話しがあつたわけですが、皆さん主婦として

の立場で、今日の家庭の経済生活について、こうあつてほしい、こうなければならないという話を自由にお話し合い願います。

遠山　私は都会と農村の収入の格差に問題があると思います。消費生活は一律であつて収入は都会と農村とは非常に開きがある、それが内職問題とも、出かせぎ問題ともからんでくると思います。

古沢　私は農村におりますがもしも出かせぎがなかつたら、今のように都市化した農村の生活は維持できなくなる。今の機械を使つた農業ができなくなり、子供を高校に進学させることも二十パーセントぐらいしかできなくなる、それが六十パーセントか七十パーセントの高校進学者が僻地の農村にもいるのに、出かせぎによる収入によるわけで、これがいつまで続くか、正常な仕方かどうかということも考えてみなければならない問題と思います。

伊藤　古沢さんのところもかなり僻地ですが、ここで六十パーセント、七十パーセントも高校へゆくという最近私が歩いてる限り、子供に教育をしたいという声は農村のほうに強いと思います。なぜかといえば子供に土地も残さないで出てゆく、よそに出てゆく限りどんな苦労をしてもより高い教育をさせたいというのは親の切実な願いだと思う。

安藤　香川県が教育熱心だといわれるゆえんはその辺にあると思います。香川県に平均五十五アールか五十四アールくらいの耕作面積で次男、三男はもちろん都会へ出さないと生活できないし、長男さえ次の世代はおそらく残らないだろうという不安が起つている。子供だけは教育して自分たちのようなみじめな生活はさせたくないという親の願いが教育熱心になつているのだと思います。農村の労働時間はものすごく長い、私たちはタバコを主として耕作していますが、朝の三時頃から夜の十一時頃までは働き通して、そのあと四時間も乾燥なんかでねむれない、バーナーで乾燥してもある程度注意していないと火事になる怖れがあるしすごい労働が注がれるんです。もう少し所得をふやして労働を軽くする方法があれば農村はずい分明るくなるだろうと思う。日常の生活の中で経済と労働は切実に感じるんです。

伊藤　それだけ農村のご父兄が熱心な教育希望をもつて、皆さんの中にも子供を大学にやるために、心ならずもお父つあんを出かせぎに出したいという作文がありましたが、そうして行つた大学が、果して親や子供が期待するような教育をしているかどうか、金持ちの子供だけが入れる私立大学があるというところにも非常に問題があるわけです。経済生活、物価の問題、消費の問題、都市と農村の格差、それに対して皆さん何を望み、どうしようとしておられるか。遠山さんどうですか？

遠山　農家の経済をどうするかという問題ですが、私の部落は汽車に乗つてかせぎにゆける場所なんです。京葉工業地帯ができてたくさんの労務者を要求していますからで すから常雇いの人夫や勤め人になつてしまうので兼業農家になる、残された主婦では大きな百姓ができず零細農家に転落しています。何人かは純農家でやつてゆこうと努力はしていますが、おそらく将来に転落農家になつてしまうんじゃないかと思います。ですから主婦はどうしたらいいか、収入はきまつているので支出をどう工夫しようかとグループでいろんな勉強をしているのですが、その程度です。

古沢　いなかの人は非常に暮し方がへたなんです、昔からの習慣で交際費が大変かかります。それから嫁ききんといいながら結婚に

たくさんの費用をかける。嫁入りの支度は娘が肩身がせまいというんでたんすが三さお、電気洗濯機、ミシンと大変です。そうしなければ結果的に家族関係がうまくゆかない、そこら辺に農村の因襲の強さを感じます。家計のアンバランスは大てい食費にしわよせがいくんです。それに衣服がとても華美になりました。

遠山　農家がそういうところへ落ちたのは政府の農業政策に欠陥があつたのです。農業基本法を施行して、選択的拡大とかの指導がありますが、工業によつて国を進展させようという政府の方針で農業人口を四割減らすような政策をとれば農民は百姓をやらなくなる。自分のたべる米だけは作るが供出する米はつくらない、そういう農家になつたら今後日本の食料はどうなつてゆくだろう。そういう農業に熱意のない政策もあつて、蔬菜の問題も出てくるのではないかと思います。

伊藤　農村の部会が特別に第三部会としてありますので、格差の問題はここでとりあげなければならないがその問題はそのくらいにして、都市生活も農村も同じですが消費の問題、物価の値あがりは現在主婦の頭痛のたねだと思いますが、消費そのものがマスコミによつて、新聞や週刊誌の広告、ラジオテレビのコマーシャルという形ででたらめにあおられてしまう。それが子供の消費意欲を増強し、家庭自体もそれで動揺してくるという問題もあると思いますが、文化と消費を少し話し合つてみたらどうでしようか。これは子供の教育にしても、家庭のマネージャーたる主婦としても今非常に危険にさらされているという感じがするのです。

大塚　アメリカあたりで捨てる文化といつておりますが、私も今子供が育ちざかりで週刊誌なんかが散らばつているととても気にするのです。どこの家庭でも誰かがおつとめに行つているので週刊誌を買つてくる、そういうものは捨てるとか売るとかすると膨大な数になるらしい。週刊誌は安いがただでは買えませんし、そういう意味で文化が発達したために捨てるものが非常に多くなつたそういう意味でもう少し消費者が考えなければならないと思うが。

伊藤　捨てる文化の話が出ましたが日本の主婦がゴミの処理にいかに困つているかは応募作品の中にありありとみえています。古沢さんが町の代表として屎尿処理場と塵芥処理場をつくられたというのでみあげたものだと思いますが、そういつた消費文化について家庭の主婦として考えなければならない問題がたくさんあると思うんですが　ー。

安藤　要求するだけでなく実行することはむずかしいですね。

伊藤　カキクケコのコがなくちゃね、相楽さんきようは大変おとなしいんですが。

相楽　予算を立てて生活するのはいいことですね。みんな月給がたりないたりないと言うのですが結局は生活していらつしやる、それがふしぎなんです。私もそうなんですが、物価値上げ反対も一回や二回では駄目なんでみんなで何回もやればいいと思います。行動に移して何べんもやればどうにかなるんじやないかと思います。

浜道　政府が発表したが減税によつて値段が下つたものがありましたね。あれをみますと何万から何十万の高級品だけで、私ども庶民の必需品の値下げじやなくて私はちつともうれしくなかつたんです。政府の直接政治にたずさわづている方ならば私たちが苦しいのを知つているのか、どれだけ考えているのか、いろんな問題

があと回しのやり方ばかりしているように思います。

相楽　やはり政治に関心をもたなくちゃと思います。一体に政治家というのは私たち低所得者の生活がわかつているのかどうか考えますね。

伊藤　そういう人が政治家になつているのはどういうことですか？

遠山　低所得者はお金がかかつて立候補できないんですね。

村田　収入をふやすことよりも使い上手を勉強しなければならない。やはり生活設計を立てて、そのように立つた消費でなければいけない、そこに主婦のまじめな生活態度が要求されるんじゃないかと思います。それには見栄をはらない、できるだけ横のつながりをもつてお互いがマスコミにほんろうされないような、いわゆる堅実な家庭をつくるための努力と勉強が必要だと思います、マスコミの誇大広告をもつと規制するものがあつてほしいと思います。子供も学校のうたよりコマーシャルソングのほうがお得意で親もつい引きづられてうたうような、宣伝のゆきすぎ、何にしても不動産会社の広告規制がもつとほしいと思います。私たちのほうは住宅問題が深刻なんですが、苦しい家計をやりくりしながら貯蓄したり、働きにゆくのも、ほとんど住宅を建てるためというのが多いのです。ところがサラリーマンのための分譲住宅とか政府が一緒になつて住宅公団で発売している頭金が非常に大きい。何万、何十万とか、とてもサラリーマンの手の届かないものですね。どうしてそれにサラリーマンの分譲住宅という名目をつけるのか、ふしぎでしようがない。それだけのものを五年かかつてためたらまた倍になつている、そんなわけで夢が一つもない。私の知つていお母さん方でも家を建てたいために鱗工場で働いて日当が五百円。保険もたんにもない。休んだらまるまるひかれ、午後から休めばきつちり二百五十円ひかれます。よけい出してくれるところで六百円です。政府の家屋のための調達資金はいわゆる自己調達でできるような人に大量に流されて切実に家が建てたい人には回つていない。調達の裏付になる抵当物がないから貸りるところがないので実質所得をふやすために都会の主婦は一生懸命なのです。その増えた実質所得もやはり住宅のためにのけておかなければならない、そういうところにいろいろ問題点があると思うんです。

浜道　その血のにじむようなお金を貯蓄しても、物価上昇で貯蓄の利息より上昇分のほうが高いから意味がなくなるのですね。そういうところにも問題があると思います。

伊藤　木下さんも都市的な生活をしておられるのですが、今のような問題はいかがです。

木下　私は環境に恵まれ過ぎていてそういうことに関して発言する資格がありません。

岩崎　こちらも割合にめぐまれているので　ー。

相楽　教育費の問題なのですが、育英資金はいくら貸りられるのですか、三千円か四千円でしよう。それでは足りない。困つている家庭で頭のいい子供はただでどんどん学校にあげて下さるように。学生会館ができて納めるお金が百万円、卒業する時は返してくれるんですけれど下宿代は一万七千円ですよ、特定の人だけがそういうところに入るのでなく、いい子供を伸ばすためにどんどん国でお金を注ぎ込むような政策はないものでしようか？

伊藤　育英資金は大学の場合、特定育英資金で八千五百円ぐらいー日本の育英資金の特徴は月謝の一部を負担してやる程度です。育

英資金となれば生活費をみなければならないんです。たとえば福島とか、山形から大学に出す時に国立に入つても月謝は千円ですから一万二千円で、大したことはないが東京で下宿してやる費用をみてくれなければ本当に勉学資金にならない。外国の育英資金スカラシップとかフエローシップにはいろんな形があり、月謝だけのもある。しかし原則としては食べながら勉強できるように保証されるわけです。そういう点で育英資金も、十分考慮しなければ貧乏人は損をすることになつています。住宅の問題は極端にいえばもつと考えなければならない。都会の働く人たちの町には六畳の間に家族十人というのはざらです。そういうところでは子供のしつけとか、あるいは性教育とかは当然問題にならない、家を飛び出したり子供が出るのは当然で、非行化の巣をつくつているようなものです。住宅政策は日本の社会政策の中でも一番おくれているものの一つです。

安藤　衣生活ですが、和服から洋服になつたが、企業側から流行がつくり出されてそれに振り回され、押し流されていると感じて、たとえばPTAやたんかの会合にゆく場合ものすごく皆さん派手なんです。そういう現状豊かになつたと喜んでいいのか、それとも無駄があるのか少し考えてみたいと思います。

伊藤　お年をめした方も洋服がぴつたりしてきたところで和服が流行し始めてこの頃のおしやれの人ほど和服を着るようになつているんでしよう。今のいわゆる流行にふり回されるというか、そういう面は今日の主婦として子供の教育に関しても関係が深いと思うんですがね。

浜道　お友達からきいたんですが、自分自身は衣のことはあまり気にかけないで極度に節減して、洋服一点ばりで生活しているけども子供のことになるとまどわざるを得ないというんです。今和服が大変さかんで大学の卒業式にも和服の方が大半を占めている、来年は卒業だがどうしようか、といつています。愛情ともつながつてきますが、正しい愛情なのか、溺愛なのか、皆さん判断して下さい。

大塚　私の村の成人式は最初はそうでもなかつたようですがだんだん服装が華美になつて、今は学生でない限りほとんどお振袖です。村でそんなことをやるからつくつてやらなきやならないというお母さんの歎きと一方では娘をきれいに飾りたい親の夢をこわさないでくれと、意見が対立して評議員会でも困つているのですが。

古沢　私たちの山の中でも五、六年前から訪問着で成人式をするんです。婦人の主張大会でも問題になり、つくれないお母さんたちが苦しむから、教育委員会では個人の自由の問題ではつきり決めることはできないが「自粛しましよう」ということで自覚をうながしているのですが、今年どんなふうに現われるか。雪国なので成人式は四月二十九日ですが、おそらく一人も着てこないのではないか。

中村　私の娘はそんなことにこだわらず成人式をやりました。私たちが自覚したいのは流行に弱いことです。かつてフラフープがはやつた時は山奥の私たちも夢中になつてやりました。山のふもとの町では売切れて私は出先の横浜で買つて持ちにくいのに満員電車の中を一生懸命もつてきました。今は洗濯ばさみをつけて靴下つりになつています。フラフープとかだつこちやんとか子供のおもちやでさえ流行にとらわれるのはつまらない。ことに服はあまりに流行に弱く家庭生活にも大きなマイナスになるから、まき込

されないようにしなければ　ー。

大塚　成人式の衣裳も昔は小さいお神だつたが、今はみんなお振袖でしよう。

中村　結局子供たちがどうしてもあれを着なければはずかしいというふうに育つているか、あるいは持つているのでいいとさらつとした気持で出席できるかですね。

伊藤　成人式は二年前にあまり派手になるといつてやめたところがありますね。

中村　強制的にやめさせるのもどうかと思いますが　ー。

伊藤　市民からやはり意味があるからやろうということになつて、とかく派手な服装はやめようとまた市民のほうで申し合わせたところがありますね。

中村　飾りたい人は飾るし、普断着でゆく人はそれでもよし、自由だと思いますが。

木下　衣生活など子供に対する与え方ですね。うちでも女の子ばかり二人おりますから上のおさがりをきせるのですが、それも子供のしつけにつながると思うんです。姉妹お揃いのものを着せるのもいいんですが、姉妹でも顔も個性も違うのですからお姉さんのお古でも喜んで着るようにしつけなければ大変でしよう。これも主婦の一つの在り方だと思います。

相楽　私のほうの成人式は華美になる一方です。成人式は夏にして欲しいと思う、夏ならそんなにお金はかからない。

山下　夏にするのは押し流されてゆくということで自覚する婦人の考え方じやないでしよう　(笑)。　逃避するのじやなく悪いものは排除しなければいつまでたつてもできない。要するに自覚の問題ですがそこまで全部は揃わないから、ある場合には強制的な申し合わせをするか、あるいは啓蒙するかしてゆかなければ個人の自覚にまかせては負けちやう。そして夏のほうがまだいいということにもなり兼ねない。どうして理想を実現するか、時間がかかつても絶望しないでやるかしないとね。

遠山　子供自身が華美にしたいと思つているんじやないでしよう。

山下　そういう親がいて困るんです。やはり啓蒙が必要でしよう。困つたことだがこうすれば便利だということになると、極端にいえば成人式がしよつ中変ることになる、そういうことは本当じやない。

大塚　物ごとを変えてゆくのにいくつも方法がある。私のほうの教育委員会でも毎年平服で出席して下さいと言つているが誰もきかない。夏にやるのは本当の解決じやないかもしれないが一つの解決方法だと思う。

伊藤　「望ましい社会と政治の在り方」はすでに話されておりますし、今までのところをおさらいしますとこう皆さんが期待する子供像、当然教育の話になつて、今日の教育の在り方、教育の中や文教政策の間違いにもふれられた。次に望ましい家庭婦人の在り方としては、主婦が外に出て仕事をもつことと家庭にあるべきだという話し合いの中で、主婦も当然社会的な視野を拡げるために主婦としての役割を果しながら自覚をもつて外に出て働くのが望ましく、そこから新しい家族関係もできるのではないか、大体その方向に話が向いたと思います。ここで社会性の問題が出てきて家庭の管理者の立場から経済生活が物価高の中で、間違つた消費ブームの中でいろいろの混乱を起している。特にマスコミの発達

と消費に関して問題がたくさんあるように思うが、その中で主婦は何をなすべきか、生活の設計を立ててマスコミにほんろうされないような態度が必要であるし、また流行に弱い女性の自己反省が出てきた。経済生活の中で大きな問題として住宅の問題に強くふれられた。それからごく平均的な庶民階層の主婦が内職をしなければやつてゆけない今日の問題に対して家内労働法の必要、その実現に動いておられるという非常に建設的な話し合いが進められてきた。最後に望ましい社会と政治の在り方、この際言つておきたいことを並べていただければ、結論では、こういう話し合いがあつたという意味で有益じやないかと思います。

大塚　成人式でも消費生活にしても自分だけが自覚して解決のつくものとつかないものがある。地方自治体とか、国とかに受けもつてもらうために連帯的にものの解決の仕方を考えてゆきたい。

伊藤　個人でできないことは連帯でやるといわれるが、その連帯をつくるプロセスがなければ駄目で、それをどうやつているのか？

大塚　手近なところではグループで話し合つて意識の向上をはかる。

木下　どこの地方にも婦人会があるがその存在が非常にあいまいだと思う。婦人会がありながら生活改善グループとか、若妻会だとかいろんなグループができているのは、婦人会の存在が結局目的集会でないため浮きあがつているのだと思う。全国的な婦人会の組織をもつと社会性を発揮させるしつかりした目的集会にしてゆく時期にいるんじやないか、と痛感しています。

伊藤　木下さんは地域婦人会に入つておられない？

木下　はい、あの辺りはあるのかないのかよくわかりません。

浜道　婦人会の中に若妻会や、子供を守る会が含まれているんじやないですか？

木下　では婦人会というのは一体なんですか。若妻会があつて、それを統卒する会ですか？

浜道　年令の差があり、各層の人がいるから小分派、グループが必要なのではないでしようか？

伊藤　地域婦人会に入つておられますか？

浜道　地域婦人会の会員ですけれども意識的なものではなくほとんどの人が一応主婦になれば入るので。

伊藤　その中に生花研究会のようなものがあつていいわけです。ここに大ベテランがおられる、古沢さん。

古沢　私は婦人会の会長もやつておりますが、自己弁護になりますが、都市にはいろんな婦人の活動団体があるが、農村では女の広場として地域婦人団体が是非とも必要だと思います。私のほうでは婦人会の中に農協婦人部、若妻会があり、その中にまた生活改善グループがありますが、このグループは二重になつていて婦人会の中に入つていつて一体になつています。その中にまたＰＴＡの婦人部とか、婦人学級もあります。私たちＮＨＫの婦人学級にも入つています。自由にどの会にも入れます。大体それは婦人会の活動にもなつています。婦人会のマンネリズムといいますか同じ人がいつまでもやらなくてはならないのは困つたものでー。

村田　私のところも有名無実の婦人会です。なれ合いの役員ですね進歩のないー、古くからいる工場主とか、アパート経営者とか、鉄工所の奥様方とかが集つてお花見にいくとか、そういうことはかりやつている。そういう親睦団体みたいな婦人会ではと、ふたば会というのができて今八百人ほど会員がいます。それにほとん

ど三十代の子供のあるお母さま方を対象とし若い幹部が集つて、強力にいろんな問題をとりあげてやつています。ところが婦人会からみれば一つの抵抗としかみられないようです。婦人同士の古いものと新しいものとの間にわだかまりがあるのに婦人の徹底しない思想のせいだと思います。

相楽　私のほうの婦人会は町にはなくてはならないものになりました。町の行政の一端を負つていると自任している会長さんがいて民生委員母子補導員などなにか大きな行事をするには婦人会がなくてはできません。遺家族の慰霊祭も婦人会が始め何年かやつているうちに婦人会にばかりまかしておけない、町から費用を出してやろうということになつたわけでー。

伊藤　郡山の婦人会の活動はすごいですが郡山の二つばかり先、二本松の一つ手前に本宮という町があり本宮方式という映画教育があつて、お母さんたちが低俗な映画を排除するために映画館と交渉してもう十年間もやつてきて、ようやく自信ができて今度「心の山脈」という映画をつくつたわけですね。

木下　それでもう目的集会になりませんが、婦人会があまりにも漠然としているので、目的集会であればいいと思うんです。

伊藤　あなたのおつしやることはよくわかるのですよ。地域婦人会は何をしているといえばまさにその通りなんです。しかし具体的にいえばその中の農協婦人部と一緒になにかするとか、生活改善グループと一緒になにをするというふうに各地域では仕事をしているわけです。

木下　それでは農協婦人部として活躍していることは結局婦人会というものになるのですか。

伊藤　ダブツているところとダブツてないところとあります。

古沢　私のところは各種団体と、各グループが単独化すると摩擦が起きる場合があります。摩擦をなくすためにはやはり婦人会の中で農協婦人部をやる人、生活改善をやる人をみんなで相談し合つて決める、みんなが婦人会員だという意識のもとに、一つに結ばれているので非常に仕事がやりやすい。

相楽　私のほうでは婦人会に文部省委嘱婦人学級というのができて文部省からお金をいただいて勉強しー。

伊藤　皆さんが参政権を行使してまる二十年たつた今ふり返つてみて果して今の日本の社会なり政治が、母として主婦として、あるいは女性として願つている方向に動いているのかどうか、皆さんの感想だけ述べていただいて結びにしましよう。参政権も得たし婦人週間も十八回、全国会議も十四回やつた、そういう中から少しずつでもよくなつているのかどうか。

安藤　婦人を考える場合、戦前戦後に分けてみると、戦前の典型的なお母さんというと無知で柔順で、視野がせまくて社会性に乏しい女を頭に描きますが、今のお母さんにはできるだけみんなで話し合つて悪い点を改善して広い心や理解力をもつて一歩でも半歩でも前進しようという前向きの姿勢が感じられるのです。現状がどうあろうとそれだけでも買うべきだと思います。

遠山　参政権を得たことは形はどんなであろうととにかく婦人が自主性をもつてきたかどうかということになると思います。その点この頃の女の人はテレビやラヅオの公開録音などの場合活発に意見をいいますね。それが選挙権を得たことと関連があるかどうかはわかりませんが、婦人が社会的に自分の意見を主張するように

なつたと思います。

伊藤　やはり戦後の教育が大きく影響していると思います。お母さんたちが子供と一緒にPTAなんかで学校で勉強したことはかなり大きな要素になつているんじゃないでしょうか。家庭の団らん円満な家庭とは何かといつたら家庭の民主化と坂尾さんがいわれたがこの点が非常に大切なことです。戦後アメリカから来たネリガンという新聞記者で日本を民主国家にするためにはまず家庭の人間関係の民主化から始めなければいけないと言つた。日本の生活をみて子供の扱い方父と母との関係が全て人間として平等でなければ、子供はやはり父親を中心とする子供になるだろう。すると社会に出てボスになる、だから家庭の民主化から日本の民主化を始めるといつた、つまり家庭の一人一人が対等なら自分の思うことを自由にいえるわけですからね。その点も婦人が明るくなつた理由の一つで、自己を主張するとか、前向きになつたとかということと関係して大切な問題にふれていると思います。そのほかは？

村田　今までとちがつて自己本位の生活から抜け出していわゆる市民性の上に立つた主婦の生活を主婦が意識し、努力を重ねつつあることは大きな進歩だと思います。

伊藤　市民性にのつとつたというのは具体的にはどういうことですか？

村田　たとえばアパート生活だとしますとゴミ処理でもみんなで一緒に大きなゴミ箱を購入して衛生的なものを使つて、それを一回で処理する方法とか、そういうところは多分に向上しつつある。

伊藤　これは東京より大阪のほうが進んでいますね。私も近所で経験しているんですが若い奥さんなど朝夫婦でつとめにゆく時、私のゴミ箱にみんな捨ててゆく、みごとなものですよ。

坂尾　婦人が始めて参政権を行使した時には婦人代議士が三十九名ですか、それから次第に減少していますね。それは今までの婦人がいきなり国会の場に出て本当にその役割が果せたかどうかということが減つた原因の中に大きくあると思います。

伊藤　結局残つた人は戦前から婦人解放運動をやつていた本ものの人ですね、現実問題としてー。

坂尾　それからやはり婦人が批判もされ、自己批判もし、反省もする中から今後出す議員は本ものでなければならんと思います。テレビタレントが一番の得票で出たのは婦人の票ばかりではないと思いますが、日本国民の良識が疑がわれて、選挙に対してしんけんでない面も現わしていると思います。

伊藤　皆さんはマスコミの子供に対する影響を心配されておられるようですが、自分たちに対する影響も考えなければならないでしょう。時間がまいりましたのでまた一言ずつ特別オブザーバーからかんたんにお話を一つー。

竹井　さかんに農村と都会の比較がありまして大変結構だつたと思いますが、前提として農村の生活は低くて都会の生活は楽だという先入感が皆さんの頭の中にこびりついてはいないかと心配になつたわけです。私は都会の生活をしていますが、家計簿をつけて生活分析をしたら大半がたべることにきゆうきゆうとしているわけです。農村の方は働きさえすれば食べられる、その辺がねー

それから自己問題は農村では土地と家があるのが前提ですが、都会の生活では普通のサラリーマンではそれがないわけです。です

から都会の生活は楽だという考え方は危険だと思います。それから政治家に大衆の生活を知らないというふうに言つてますが、それを知らせるのは一体誰がどういう方法、道筋を通してわれわれの生活を知らせるかをやはり考えなければいけないんじゃないかと思います。特に感じたのは皆さんが非常に立派な意見で、高い考えをもつていらつしやるが、婦人大衆の中でそれがどれだけの比率を占めるかとちよつと心配で、おそらく十パーセントにもならない考え方がここで話されているように思います。

伊藤　ありがとうございました。では地婦連の和田さん。

和田　「婦人会は何をしているんだろう」ということが出てびつくりしたのですが、あまりにも婦人会が広く大きくなつておつて、各地域ごとにたくさんあるのですが、私どものほうは地婦連ですが、自分たちの話し合いだけでは駄目だからなんとかしてこれを政治につながらせようと会長の山高しげりを参議員に当選させました。それによつてまず母子福祉法ができましたし、それから売春禁止法、それに青少年の問題、青少年の問題について自分たちで「さくら映画社」をこしらえて、「お姉さんと一緒」とかそういうことをしております。それから婦人有権者同盟という組織は市川先生が会長ですが、これはいい政治はいい選挙からと理想選挙で、市川先生は今回で四回当選させております。それからもう一つ、お話が出た消費者の問題、これは主婦連といつて会長は奥むめお先生でこの方は参議院議員でした。この団体は業者や官庁と折衝しお米の問題や公共料金の問題とかいろいろやつています。お気をとめてごらん下さればおわかりになつていただけると思います。

伊藤　それでは矢島先生

矢島　着飾ることは経済の高度成長の結果ではなくて買わせられる生活だというお話し出たので大変嬉しく思いましたが、着飾れるようなあまり問題のない生活だと思つている方が多いのではないかと心配です。見ざる、言わざる、聞かざるという言葉がありますが、現在は見ざる、言わざる、聞かざるにさせられて着飾るのだと私この間ちよつと思いついたのですが、それから憲法に対しての話があまり出なかつたように思います。現行憲法を守つてこそ婦人の前進があるのだということをもう一べん思い返していただきたいと思います。教育の話はたくさん出ましたが、来年からお使いになる家庭科の教科書の中にある一日の国民一人当りの栄養基準量をご存知でしようか。今まで砂糖は一日に一人が十二・九グラムでしたが来年からは一日に五十グラムになると義務教育の中で教えるわけです。文化国家は砂糖をたくさん消費するといわれていますがこれをお書きになつた栄養研究所の所長さんのところへ伺いにまいりましたら、これは佐藤内閣の砂糖政策だから日本は砂糖を買わなきやならないのだとおつしやつたそうで、そんなことも教育の問題なんかにたくさん出ておりますので是非政策に関係することには気をつけていただきたいと思います

伊藤　お三人ともきのうから熱心にお聞き下さいましてよいアドバイスをいただいてありがとうございました。

―休　憩―

伊藤　傍聴者から質問が出されています。これは原則として皆さんからお答えしていただきたいのですが、選考方法その他の問題があるので私から答えておきます。まず「東京都は全人口の一割を占めるといわれていますが東京都の代表がいないのはどういうわけか、選考方法などもお話下さい」

家庭の主婦の在り方という問題になれば日本全国から全部代表に出ていただきたいが、全国から六十人を選ぶ感想文の募集ですから、一つの県から二人乃至一人を選ぶので、しかし一人もないというところはないんです。東京からはお一人が選ばれている、その方が応募作品の内容によつて働く婦人のところにおいでになつていると思います。選考方法は全国の婦人はどなたでも一定の規定に従つて作文、ご意見を応募すればその中から選考される。今年は三千人近い応募があつたわけです。これは成績がいいとか府県の代表とかでなくて、作文はへたではないが体験とか、意見が具体的に出ているということが選考の基準になつたと思います

それから「婦人会議は十四回を迎えたが、その間に討議された問題がどのように社会に生かされたかうかがいたい」これが第一

それから「今回の第一部会で検討された諸問題を具体的にどのように主婦たちにわからせようとしているか」が第二の質問です。これは痛いところで私は十四回の間六回だけお手伝いしました。その間に討議された問題がどのように社会に生かされているかということはたしかに問題があると思う。私の考えでは全国婦人会議の一つの大きな特徴はマスコミにのることだと思う。労働省婦人少年局というお役所の主催だけでは普及もなにもいたしません。NHKとの共同主催で、NHKは非常に力を入れて作文募集の時から常に放送し、婦人学級でもこういう問題をとりあげながら、セレモニーを全国放送しております。しかも部会によつては、話し合いの模様もテレビで放送、全体会議もラジオで放送され、終つてから座談会があるとか、そういうふうにマスコミにのることによつて一般に普及している。その効果がどのように出てくるかは非常にむずかしい問題で、私はこれは日本の地下水として、目に見えないところで婦人の自覚や地位の向上に役立つていると思う。それから第二の質問ですが、全国婦人会議の一つの特徴に、選ばれた方は府県によつてはまず婦人の集まりをして「こういうことを今度はしてまいりましょう」というようにお帰りになつてから報告会という形で地域の婦人の集まりのためにまたご苦労を願う、という形でだんだんと第一部会で検討された諸問題が一般主婦たちにわかつてもらえるように統けられると思う。

それからもう一人の方から「仕事と家庭と何れが大切か、企業、マスコミに対して婦人はどうあるべきかの問題、社会福祉の問題がまだ出ておりません。それからオートメ化するために夫が出かせぎにゆき、それが浮気のもとになつても困るからオートメーションも少し経済の回る程度にして、夫まで追い出させないようにしたらいかがでしようか」。

仕事と家庭については皆さん一生懸命お話しいただきましたし、マスコミの問題もくどかつたくらいとりあげたし、社会福祉の問題は会議員の方から出ましたのでお許し願いたい。出かせぎに出る夫の浮気は話し合いに出なかつたが、東北地方、いわゆる出かせぎ農民の家庭では非常にこの問題が出ていることはご承知だと思います。

これは夫が出かせぎ先で問題を起すと同時に留守を守る若い家庭婦人とにも問題があるがむしろ本人よりその周囲の人たちに問題があるのをご承知おき願いたい。

消費の問題について「物価の上昇をとめる、特に食糧品の問題、または少なくする唯一の方法は世論をもちあげることだといいますが、家庭の主婦として何か具体的な方法をとつている方があつたらお知らせ下さい。品質標示、グラムなどに対して異議を申し込まれる方がおるでしょうか」というご質問ですが相楽さんいかがですか？

相楽　主婦連合会からかそういう問題をいただきまして、記名をしてあげたことがあります。品質、容量は郡山の婦人会ではやつております。

伊藤　そして自分がたりない時には婦人会の名前で抗議されるわけですね。それは店に対してですか、それとも監督官庁に対してですか？

相楽　店に対する時も監督官庁に対する時もあります。

坂尾　配給米は上米、普通米、徳用米と三つに分れていて、必ず品質表示しなければならないのですが、配給米が果して標準通りのものかどうか時々主婦が行つて確かめなければならないと、お互いが分担していつたり「目方をはつきりして下さい、目印がついていますから」という警告を店屋さんにしているのですが。

伊藤　それではいよいよ最後のコースに入つてこの会議のまとめみたいなもの「私はこの会議でこういうことを得た」ということをお話になると同時に、会議のもち方とか全国婦人会議に対する希望、要望など一言ずつ伺いたいと思います。それと同時に、これだけは言いたかつたということを思う存分言つて下さい。

押川　皆さんの非常に力強い激励を受けてありがたいと思つておりますが、会議のやり方を作文によつて部会と決めずに主題を決めていただいて自分の好きなところに出て発言するようにしたらいいと思うんです。

伊藤　ご発言はごもつともだと思います。特に今年はテーマが全体に共通しているでしょう。農村における出かせぎの問題、都会の鍵つ子の問題と決めてしまえば応募されるほうでもきちんきちんとする。今年は特別の形ですから振り分けられた部会にご不満の方はおありだつたと思います。それよりもこの会議で得たというまとめみたいなものを一言。

押川　子供をもちながら働くことに大勢の方が力強く賛成して下さつて非常に自信をもち得たと思います。

遠山　言いたりなかつた気のするようなところがありますので。それは子供の問題、消費問題、住宅問題についてもまた婦人会の問題についても同じですが、個人は問題をかかげて自分自身で解決するために努力しているが自分一人で解決し切れない問題が必ずどこの場合にもあると思うのです。その場合に一つ一つの悩みを持ち寄つて、手をつなぎ合つて解決してゆくためにと婦人が立ちあがらなければならない。具体的には私のほうは兼業農家で、出かせぎが多く妻に重荷がかかり、子供がないがしろになつてある時期に非行少年がぞくぞくと出たわけです。その時にまわりの人が親の責任だとか、あるいは社会が悪い、マスコミが悪いといつてみんなが責任のなすりつこをやつているが、それではいけないと思うんです。非行少年を出した責任をみんなで　負つていかな

ければならないのではないか、そのほかについても同じだと思います。

伊藤　遠山さんは非行少年に対する予防措置に成功した非常に立派なお仕事をしておられますし、家庭の主婦としても当然のことだと思います。

山下　婦人会議をどのようにして皆さんにつないでゆくかという問題が出ましたが、一年間婦人活動をどのようにやつたか、今年はこういう活動をしてこれだけ実績が上つたということを次の年にいかにこれを進めてゆくか、そこのところがほしいと毎年思つております。また女が出掛けてゆくことに対してお力添えが欲しい。地方の婦人少年室が中心になつてやつていただければわずかずつでも一層効果があるのではないか、と思います。

それから教育問題について、東京都で今問題になつている受験教室とか、教育ママの問題とか、もう少しつきつめたところが教えていただきたいと思います。ここで話し合つたことがどういうふうに一般社会なり婦人の間に浸透するかということですが、実は選考の基礎になるのはすでになんらかのグループ活動をしていることが前提なんです。皆さんもいろいろなグループ活動で話し合つたことなどもお書きになつたと思います。それからもう一つは先ほど遠山さんが休憩中にどこで会えるかわからない人とこんなに仲よくなつてと言われた、これがやつぱり一つの大きな効果です。この十五人は今後とも機会があれば結ばれてゆくわけです。息子や娘の無銭旅行は会議員のうらを回つて歩くというのもありますし　文集みたいなものを出して回覧板みたいにしている人もある。たとえば物価問題ではこういうことをやつたという回覧板でも意議があるんじゃないか、教育問題はあまり深入りすると、家庭婦人は教育だけに限らないし、実に少し入り過ぎているぐらいです。たしかに東京では問題がありますがそういう意味で、時間をはし折つたわけです。

村田　この会議を通じて常に婦人が前向きの姿勢で、主婦、母、妻として主体性をもつことが大事である、そして地域社会の住民として小さいグループでもなにか政治につながる活動を強い信念でしなければならないと思いました。農家の人たちがそういう意味でさかんな活動をしていることをうかがつて、いい勉強になりました。しかしもつと東京とか、都会の主婦から今深刻な住宅の問題、鍵つ子の問題、主婦のつながりなど、具体的にききたかつたのですが、その点もつて帰るものが少ないように思います。

伊藤　もつて帰らなくても考えて帰つてもいいのですがね。

岩崎　私もなかなか外へ出られず、対外的なことにはあまり顔を出しませんでしたので、本当にいい勉強になつたと喜んでおります。

大塚　出席者名簿と見比べて皆さんの発言をお聞きしていたのですが、最初にどなたか非常に皆さん若くなつたと言われましたが、私たちの育つ頃と雲泥の差がある。参政権を得て二十年たつたおかげか、文化の向上のためか、寿命や容姿の若さがのびたと思います。それから自分の常識というか、皆さんのお話をきいて変えなければならないということ、一ばし進んだつもりでいても若いお母さんたちの子供には期待しないという割切つたはつきりしたご意見をうかがつて、私も新らしい時代の親として学ばなければならないと反省したわけです。

古沢　山の中から一つももたないできたのに、こんなにお話し合い

ができて、それに私家にばかりいたものですから、日本中から選ばれた方々が婦人問題をこんなにしんけんに考えているとは、日本のためにすばらしいことで、もつともりあげていただきたいと思います。もう一つ帰つたらもつと勉強しないことには皆さんのお考えにはついてゆけないと思いました。

相楽　私もこんなに晴れがましい場に出席できるなど夢にも思つておりませんし、不安で一杯でしたが、皆さんのお話に感銘いたしました。私はもう少し若いお母さんたちと話し合いたかつた。お姉さんたちと一緒にいて朝ごはんを神棚にあげて、おがんで、昔からの伝統の中で、その権威と秩序の中で育つた子供と、私が分家に出て育てた子供とは全然性格が異なつているのです。私が親に接した態度が、親と一緒にいた時のものが出ているのです。核家庭というお話が出ましたが、私は親と一緒にいることは本当に幸福だとしみじみ感じているんです。

安藤　私はお姑さんと同居で、私が「核家庭」で子供を育てた場合には、およそ人生経験に乏く、今のように子供は育てられなかつたと思います。問題はたくさんあつてもお母さんたちがもつているものの中からずい分教えられ、それが自分の血や肉になり、子供たちのためになつた点がたくさんあります。悪い面は話し合つて改善してゆく方向にもつていつたらいいと思います。

相楽　どこでも家庭家族会議がはやつていますが、これからの家庭はよくなるのではないでしようかー。

安藤　私は農家の主婦で毎日たんぼに出て、あまり人との接触のない人間ですが、この会議に出席して違つた空気にふれて、いろいろな問題に真剣にとり組んでいる皆さんの態度をみて非常に勉強になつた。問題も多かつたが、いろいろな問題にぶつかつた場合みんなと一緒に手を組んでゆこうという気持がわいてきました。

相楽　私と大塚さんが当番をさせていただいて皆さんとせつかくおなじみになつたので今後はどうなるだろう、五年後十年後によびかけてみようじゃないかと話し合いました。その節はどうぞよろしく。（拍手）

中村　私もこういうはれがましいところに出たことがないので不安でしたが、よいお友達がたくさんできて少し視野が広くなつたと自分では思つています。しかしお互いに声をからして言い合つたのですが、その割には私得るところが少なかつた、たにかちよつともものたりない気がします。

高木　こういう会議にはなれておらず、ただとても疲れたのですが一番いいと思つたのは内職の問題で、家内労働法を立法化するほどの努力を積極的にやられたということで、私たちもその問題を語りながらいつもぐちに終つていたことを反省させられました。それからマスコミや流行に振り回されないよう、機械化貧乏や豊作貧乏などについてもつと勉強して賢くなるようにお互いに手をとり合つてゆきたいと思う。

倉橋　私も婦人活動のようなものをしたことがなかつたので、そういうことをやつている方が沢山いることを知つただけでもよかつたと思います。それから理想としていたことを実践された中村さんと同宿できていろいろお話がきけたのは本当によかつた。

浜道　狭い地域の問題しか考えていなかつたのですが、東京を中心とした日本中の方々からその土地特有のいろんな問題、想像もしなかつた婦人の問題などうかがつて、驚くとともにそれを知つて

私自身が啓蒙されたのが大きな収穫だつた。

木下　私もいろんな方のいろんなお話をうかがつてとてもいい勉強になりました。それと今の自分の位置がとても幸せだと改めて感謝の気持を深くしたのですが、同時に自分がなにもやつていないことに一種の劣等感をもちました。帰つたら地域には難生活共同組合という組織がありますから端つこにでも加わつてなんかの形でやつてみたいと思います。それと婦人会議の会議員の選び方が今までなんとなくすつきりしないのですがもつとPRを浸透させることと、会議員のプリントが一部会なら一部会の方のものだけしかいただけなかつたが残念だつた。せめて六十名の方だけでも拝見したいと思います。（拍手）　それとプリントとか資料を東京の会場にきてからでなく出発する前にいただけたらもつとよかつたと思います。

伊藤　非常にいい参考意見でありがとうございました。

坂尾　帰りまして私たちグループの輪を多くして、それをもう少し大きなものに拡げて、婦人が連帯感をもつといい方向に向けてゆきたいことは、憲法にからんでベトナム戦争の問題とか、アジヤの危機が伝えられております今日、本能的に平和を愛する婦人が憲法とか平和の問題について、少しでも話し合える機会があつたら一層よかつたのにと感じました。

伊藤　十五人の方から会議で得たもの、会議に対するご希望をいただいたわけですが今の平和の問題、憲法の問題、実は私がけさほど人間の生命の問題はどうなるのだろうかということを申しあげたのは多少ともそういうことが私の頭にあつたわけですが、私のリードが要領を得なくて、深くおわびを申しあげます。皆さんが非常によく協力して下さいまして、私が一番うれしいのはほとんどの方が同じ程度の時間お話しいただいたのではないかということで、まだまだご不満がおありなのは当然ですが、皆さん方の間で文通なりして、私は始終あちこち飛び歩いていますからまた出先でお目にかかつてお話し合いもしたいと思います。（拍手）

（了）

第二部会

（働く婦人の問題）

会議員

青森　工藤フサ（無職）
宮城　小野ちか（衣類販売業）
群馬　五十嵐とり（無職）
埼玉　笠原　徳（教員）
千葉　宇田川美音子（会社員）
東京　戸板貞子（無職）
富山　太田千栄子（無職）
福井　織田末子（工員）
長野　中野千歳（無職）
愛知　山崎雅子（鉄工業）
広島　大元千紘（保母）
佐賀　上野歌子（教員）
長崎　徳淵和子（社会調査研究所調査員）
大分　甲斐照子（石油販売業）
宮崎　坂田笑子（無職）

リーダー　水木洋子（作家）

特別オブザーバー

黒川輝子（日本キリスト教女子青年会）
末吉ユキエ（全日本労働総同盟）
篠原みつ子（全国友の会）

第一日目　四月十三日　一三・三〇～一七・〇〇

水木（リーダー）

この部会のテーマは「働く婦人の問題」ですが、今日は、このことについてみなさま方がふだんから考えていらつしやること、それからご経験の中から方向を見出すようなお話し合いをしていただくわけですが、そのお話し合いのテーマとして、仮に問題を十項目にしぼりまして出してございますが、もし、まだこの中にもれている問題がございましたら、最後の十項目めあたりでご自由に出していただけたらと思つております。

まずいちばん最初は、「婦人が職業をもつ意義は何か」ということで職業についての基本的な問題です。みなさんが日常の生活の中から具体的にそれぞれ所感文の中にお書きになつていらつしやいますが、こういう会議に出席するということが、いろいろさしさわりがあつたりして、突然いらつしやれない方が、この組の中に多かつたこと。これは所感文の中では理論的、理想的にいろいろ述べていらつしやるけれども、実際の生活の中ではまだまだその段階に至つてないということで、そういう現状を身にしみて感じたような次第でございます。第一項目は非常に素朴な問題ですけれども、どうして、まずこの問題を出したか。昔、私たちの育つた時代には、働く女に鼻もちがならないとか、嫁にもらうなとかいわれて、たいへんに変わり種のように言われましたけれども、戦争中は買出しやら、防火訓練やら、今まで女性の規格版として与えられていた女性の理想像とはちがうものを突如として要求されなければならなかつた。時代が変わると常に婦人に対する要求の出方がちがつてくるということで、戦後は、働くことが当然のように日常化されてまいりまし

たけれども、今私たち女性が働いているということは、まず経済的な意味での安定のためなのか、あるいは、人が働くから、自分も家にいるのは体裁が悪いからなのか、学校を出るとすぐ職に就くという風潮に従つているのか、いろいろ理由があると思うのですが、私たち女性が職業をもつということは果たして過渡的な現象なのだろうか、時代が、社会が、過渡的に要求しているから働くという形で、〝婦人は家庭にかえれ〟といわれているように、家庭に帰るほうが本来の姿なのか、そういうところがあいまいなままに、職業についているところから、いろいろな問題も起きてくるのじゃないか、ということで、非常にABCのAから始まるようですけれども、そういう議題をまず第一に出したわけでございます。

そこで、ここにご出席になつている方の作文の中から、「婦人は働く婦人として今日なにをなすべきか」というテーマで基本論にふれた所感文を出している方がありますので、これから会議をしてゆく上の一つの参考になると思いますので、ちょつと読み上げさせていただきます。

「青少年の非行犯罪が特に問題になつている。現在それと関係があるかのように言われることに、学校教育と家庭の問題がある。家庭の問題といえばすぐ共稼ぎ、謎つ子が問題になり、婦人が働きに出ることが非行を生む大きな原因の一つのようにいわれる風潮がある。婦人が家庭管理に専念しないことは、なにかの形で家庭に悪影響を与えるものだというのである。現在の日本ではやむを得ないが、理想としては、家庭にいるのが子供の教育上からも、家庭管理の上からも賢明なことだというのである。私はこの考え方は非常に問題だと思う。

理由は種々あるが、婦人にとつて、家庭が最も大切なのだという考え方の是非について本質的な検討はどこでもなされていないのである。婦人が家庭管理という仕事のほかに、人間として生涯の仕事をもつことが認められていないように思われるのである。婦人が働くということが、彼女にとつて仕事がどんな意味をもつかという観念からではなく、経済的補助という観念からしか考えられていない。やむを得ない理由（経済的）から共稼ぎをしているのであるという考えほど、仕事に意義を見出している婦人の誇りを傷つけるものはない。婦人は職業をもつ一人の人間としてよりも、女として重んじられているのである。歴史的に見ても、婦人は男性に頼らずに自分の力で考え、行動する習慣はなかつたし、それが女としては仕合せなことだと、周囲も、女自身も思つていた。婦人の仕事もその考え方によつて決められていたが、今日婦人の力が、法律的にも認められて、二十年も経ち、ようやくそれが板につきかけてきたとき、表面的には近代的合理的な装いをもつたといわれようと、過去の婦人の在り方を最良とする動きには敏感になつた。その本質を見究めなければならないと思う。

婦人は家庭にかえれということばが出てくる原因の一つには、婦人を家庭にしばりつけておきたい男性のエゴイズムがある。謎つ子や共稼ぎの家庭の子が非行に走り易いという言い方も、統計的に証明されているわけではなく、教育学的にみても、子供にとつて最も大切なものは、いつしよにいる時間の長さではなく、愛情の質である。このことを、婦人は自信をもつて考えるべきである。

合理化が進めば婦人は職場から追われ、非行が減るといわれるが働くことに意義を見出している婦人はこれに負けないで、家庭づく

りに男性の協力を得るように、男性を教育していかなければならない。

社会に出て働きたいという望みを、誰もがマイナス影響を受けることなくかなえてゆくためには（婦人が社会に出て働くことが家庭にとつてマイナスに作用しないようにするために）先輩の婦人たちが残していつた城塞を、職場を放棄しないで発展させていきたいと思う。」

これは一つの基本的な意見だと思いますが、みなさんのご経験や日常考えていらつしやるご意見をこれからそれぞれご自由に出していただきたいと思います。まず、婦人が職業をもつ意味はなにか、ということからひとつお話し合いをしていただきたいと思います。

上野　このグループのメンバーを見ますと、職業をもつている方がわずか二・三人のように思いますので、私は一応、職業をもつ意義を私なりの考えと、私自身仕事をもつておりますし、私が学校で受持つている子どもたちの父兄の中にも、仕事をしている母親がたくさんおりますので、発言するわけですが私の場合はたしかに、共稼ぎに踏み切つたスタートは経済的な理由がございました。主人が大学に残りたいと申しますので、収入が零という状態の中で、是非とも私が子供を置いて働かなければ生活が出来ないということもありましたけれども、端的に生活のために働くという以上に、職業が教師でございますので、教師の存在が、どのように子どもの人間形成に影響するかという点で意義を認めて仕事を続けてきたと思います。

けれども、私の扱つている子どもの母親の中には、たしかに経済的な理由だけで働いているおかあさんを多く見受けます。経済的な理由で働いているというために、働くことだけが外に現われて、働くために家庭をどう整えたらいいかという面が遅れている。そのために、受持の子どもに、感情生活の面で問題があると思いますけれども、ほかの方いかがでございましょうか。

戸枝　これは私自身のことではないのですが、婦人学級のグループをもつておりまして、グループの中にも幾人か教師の資格のある経験のある方がいますが、やはり家庭をもつておりますと、とても責任や負担が重い仕事には踏み切れないで、責任のない事務のアルバイトなんかしている方がたくさんいます。そういう仕事なら休みたい時に休めるからというのです。今の上野さんのご意見のように、経済的理由だけで職業をもつている人が案外多いということは身近に感ずるのです。

水木（リーダー）　経済的ということとは別のお考えやご経験のある方はございませんか。

徳淵　私の場合は、今家庭第一主義です。家庭が子どもの成長の場である。夫のいこいの場であるということが私の最大の目標で、それを完全に全うして、余つた時間で何かしたいということです。現在子ども二人ですが、生活を合理化して浮き上がつた時間を何につかうか、それを社会に向けて町会の仕事をしているのですが、絶対家庭にひびを入れないという仕事のもち方をしています。

水木（リーダー）　そうしますと仕事の選び方も限界がくるわけですね。そういうことについてどうお考えでしょうか。

五十嵐　私の子どもの問題ですが、子どもが学校を卒業して家庭においてそのまま結婚するというのでは、子どもが修養するのは家庭の中で身近な親兄弟の中にいるのではわがままになつて、社会

的な、人間的なものが養えないのじゃないか。職場にはいれば職場の人たちの中でいろいろ学びとることが多い。それで私、うちでは自分の子どもを勉強という意味も含めて、　もちろんその子どもの学んだ知識とか技術を生かして　社会のお役に立つ、ということがよいのではないかと思つています。女の子が働く場合は、そういう修養面があると思いますけれども。

小野　さつきの話になりますけれども、長女が高校生ですが、子どもが育つ環境からいいますと、小学校の時に男女の差をなくして能力を伸ばすということが考えられます。女だから職業に不向きだということでなく、能力を発見してそれを伸ばして、将来はそれで進みたいということを高校二年くらいになると考えるようになる。それで先生たちのご指導を得て、その道に進む努力は男の子に負けないようにしていると思いますが、その場合当然、自分の身についたもの、学んだものをやはり社会に出て生かすためにはどうしても職業につくようになると思います。そういう形でこれからも過渡的な状態ということは考えられないと思います。将来はもつと婦人が職場に出て働く可能性が多いという気がいたします。

笠原　私の場合は、現在、独身で教師をしておりますから、将来もちろん家庭に入つて幸せな家庭を作るということも女の人の大事な考え方だと思いますけれども、一つの仕事に徹してその中で人生の生き甲斐を生かして社会の一員として経済的に独立して進んでいくという生き方も女性にあつてもいいと思います。もちろん経済的な意味で働いている方もたくさんいると思いますけれどもだんだん、一つの仕事の意義をもつと考えていくというような女性もふえてきていると思います。

私の姪も結婚して先生をしていますが、子どもを預けて、教師という仕事に生き甲斐を感じて、結婚して子どもが出来てもやめないで続けていますから、だんだんそういう世代になつてきつつあるのじゃないかという気がします。

水木（リーダー）　すると、社会的人間の修養の意味があるということ、それから個人々々の能力を伸ばしていきたい。だから職等につくことは過渡的な、経済的理由でないということ。

それから家庭に入つての幸せだけが女の幸せでなく、仕事に生きる幸せもあるのではないかというご意見も出たと思いますけれども、今、経済的な理由で働くということのほうが大へんだと思いますけれども、こういう基本的な認識をもつて働いていらつしやるかどうかということですね。なんとなく周囲のままに流されている。こういうことから職場でいろいろな問題が起こつた時に姿勢がくずされてきたり、横道に脱落していつたりというような現象がおこるのだろうと思うのです。

そこで第二の問題「〝婦人は家庭に帰れ〟と言われている理由について」にふれてゆくと思いますが、女の人は家庭を築いて、今までは家庭を築いて夫に内助の功を示すことが第一義で、職業をもつことによつて、家庭のことが二の次になると、非常に夫や世の中の男性が不満に感ずる。そういうことから、職業に一応はつくけれども、家庭のためには職業を犠牲にして家庭第一で考えていくという考え方が一般的ではないかと思います。

共稼ぎで職業と家庭を両立させているとしても、その比重をどつちにおいているか、どつちにおくべきかについて、もう少し自

由に話して下さいませんか。未完成な意見でもなんでもかまわないと思います。

先ほど参考に読んだ文章の中に、男性を教育すべきだということが最後にありましたが、この意見には家庭第一主義とか家庭のために女の人が職業を二の次にしようということとは逆だと思いますが、それについていかがですか。

山崎　女の人が社会に出て働くということはとても社会的な視野を広くするのに役立つと思います。職場では女の人が社会的責任を感ずるチャンスが非常に多いし、それがひいては家庭にはいつて子どもの社会生活に対する意識を育てる上にも役立つと思うのです。だから、やはり職業に使命や意義を感じて外に出て働こうという方は家庭第一主義だ、それが最上だというふうに考えないで能力をもち、使命をもつた人は外に出て大いに社会のために働いていくべきであると思います。

水木（リーダー）　そのために夫が協力するように教育するということは？

山崎　教育をするというと、言葉が強くなりますけれども、理解を得る。それから子どもにもおばあちゃんにも、家族全体に、自分が働くということを通して成長していつているということを、理解してもらうように努力する必要があると思います。

水木（リーダー）　この中で、〃家庭に帰れ〃ということが女の理想ではないかという意見に賛成の方はございませんか。

徳淵　〃家庭に帰れ〃ということじゃないのですけれども、家庭の生活というものは目に見えて進歩はないのですけれども、二十年たつて子どもが二十になつた時に、母親の役目というのは、長い目でみれば実に大きなものだと思う。社会に出て働いていれば、もちろん見聞も広くなるでしょうが、どういうふうに家庭の管理をしながら、それが達成出来るかというところに問題があると思います。私も二度、三度あつたが、勤めたことはあつたが、いろいろ考えて、どうしても両方は出来ないということでふみきれなかつたけれども、また、家庭だけではもの足りなくて、社会に通ずる窓をあけたいと思つて、家庭で出来るような仕事をしていますが、それで満足しているのです。

五十嵐　私も教員生活三十年近くいたしまして、その間に五人の子どもを育てた経験で考えるのですが、私が社会に出て、現在いろいろな面で活躍して知識を伸ばしてゆくことも大いに意義があると思うが、本当に子どもを生んで乳房をふくませて育てることも大事な教育の仕事だと思うわけです。私の家庭は主人も勤めており、私も教員でしたけれども、これは私が子どもが好きで、教職を選んだわけで、仕事にはうちこんでやつてきたつもりでおりますけれども、やはり子どもを生んで育てるというのは自分でしたい。それで、五人の子どもを育てるために子育ての間は休職といつて、結局三回退職したのですが、子どもを育てるということは男の人には出来ない大事な仕事ですから、それも大事だと思います。

上野　私、あんまり力みかえらないで二つの仕事を二十年近く続けてきましたが、その一つは私が両方とも子どもを育てるということで、母親の役目の延長のような仕事で、他の職業と同じようにこの問題を考えることは出来ないかもしれませんが、職業と家庭生活とをうまく切りかえることは、男の場合でもむずかしいのに

それをうまくやれというのは大きな問題だと思います。ところがテレビのチャンネルですとパッと変えて違う場面が出てくるように、職場の私、家庭の私をうまく切替えるようなかしこさ、知恵を身につける必要があると思います。

私、教員をしながら子どもをたくさんもつて、家庭管理がうまく出来て、ご主人も平和そうにしている家庭を実際にみておいて学級管理などで問題がある教師というのは、家庭生活でもそういう問題を持つている人のような気がいたします。

私は、両立するということがむずかしい、どつちが大事であるべきかということよりも、職業に良心的である人は、家庭生活もおろそかにしない一人だと思います。　自信過剰かもしれませんけれども。

私は親の願いとか祈りとかいうものを知つておりますので、自分の家庭生活が教育という仕事の上でプラスになるようにと思つてやつてまいりました。

太田　だいぶ不景気になつてきたから、都合のいい時に女の人を引張り出して、都合が悪くなつたら家に帰つてもらいたいというような社会の流れがそこにあるのではないでしようか。

織田　私の地方は封建的かもしれませんが、織物業の盛んな所で、女がどうしても働かなければならない。学校を出てすぐに働きに出る。会社に勤めていない人は縁談もないといわれるほどで、共稼ぎも辛いとは思わないし、夫もそれを普通だと思つています。

甲斐　お話伺つておりますと、既婚の方が多いように感ずるのですが、私、独身で働いておりますが、もしもそんなに障害があるなら結婚したくなくなつてしまいます。

もし結婚するなら、主人のほうにわがままを言つて自分の主張を通そうと思います。

大元　自分の職業を考えて独立してやつていらつしやる方は、女性として結婚してもやつていけると思いますが、能力がない人も働きに出ているわけです。そういう場合は、やつぱり家庭のほうが大事だと思います。

笠原　さつき富山の太田さんがおつしやつたが、政府は高度成長政策の時は低賃金の労務者を安いからやとい入れて、今、不景気になつたから、婦人は家庭に帰れと言つているのではないか。

これは、体のいいすりかえた言葉で家庭の管理が大事だと巧みに甘いムードでささやいているのだと思います。ですから、そういうようなものにまどわされてはいけないと思います。

山崎　今のお話に関連して、一方で婦人は家庭に帰れと女の人をしめ出す動きがあるが、それと反対に、現在パートタイマーを募集する広告が毎日新聞にはいつてきます。パートタイマーですと、一時間最高百円くらいですから、一月働いても一万二千円くらいにしかならない。その給与では新制中学校を卒業して初めてはいつた子どもと同じくらいです。ですから、女の人のちやんとした職場を閉ざしておいて、もつと安い労働力を使うという動きが感ぜられてならない。この点をもう一度考えていただきたいと思います。

太田　これは女のほうにも反省すべき点があるのではないかと思います。お金を得られさえすればいいということで、前後のことをしつかり確認しないで勤めに出ることが一部にあるということを女性として反省する時期にきていると思います。

水木（リーダー）そうですね、基本的な、当たり前のことを繰返していわなければならないということは、今おつしやつたようなことだと思います。

小野　今のご意見どうですか。私の地域にある乳児院で実情を聞いたのですが、現在、子どもを預けているおかあさんがたくさんいて、年と共にその傾向がふえるということも一つの見逃がせない現実だと思います。けれども、自分が子どもを生むということの責任を、もつと女の人が本気で考えなければいけないと思います。そういう、本質的な何かが欠けているのではないか。それは教育ばかりともいえない。家庭のしつけばかりともいえない、大きな社会問題の一つではないかと感じたのです。

戸枝　私は、家庭の婦人が職業につく場合に、一人々々が自分の生活をみつめて自分の一生というものに長期計画をたて、習うべき時には習い、働くべき時には働くというふうに、意識された職業をもつことだと思います。

その場の間に合わせで働くということでなくて、結婚する時から長期計画をたてて、家庭・育児・職業のことなど、すべてある程度は意識されてはいるべきではないかと思います。

徳淵　ここに来ておられる方は使命感をもつて働いている立派な方ですが、私の近所で、ある奥さんが最近官庁に勤めたのですが、おかあさんが病気で看病しなければならないというので何日も休んでいます。もう一人の人は、あまり仕事が多かつたから一月でやめたというのです。これでは勤めるということの意義がなんであるかその使命というものがあまりわかつていないのじゃないかと思います。一度勤めても、家庭の事情で続けていかれないという方が多いのを見ますと、家庭と職業が両立するためには、余程しつかりした考えを持つて環境も家庭的に恵まれていないと出来ないのではないか。私の場合も親がありませんし、子どもと夫とそれだけの家庭ですが、それで精一ぱいです。

水木（リーダー）　徳淵さんはさつきから一貫して、家庭第一ということを言つていらつしやる。勤めるということでどれほどでも家庭を犠牲にして意義があるか、ということなのですけれども、私、ちよつと助言しますと、それは現象からはいつていると思う。こういう勤め方だから家庭に問題がおこるのではないかとか、今の職業のあり方とか、そういうものから家庭にひびがはいるとか家庭を先ず第一に考えなければならないという現象からはいつていますね。

それは、あとの項の問題にもふれてゆくと思うが、まず女性は家庭を第一に考えていくべきか、職業は第二義的に考えていくものかという、基本的な問題から検討すると、あなたの場合は職業は第二義的にということですね。

徳淵　そうじゃないです。先生としての技術をもつている方は、社会に出て働くほうがよい。何かをもつている方は立派に職業を果たしていけると思いますが、私のように何ももつていない者は自分の場を完全に処していくほうがいいと思います。それが完全にできれば、社会に出ても完全にお勤めができると思います。現在の立場が完全に出来ないで、社会に出て、何が出来るかという気がするのです。ですから職業をもつ女性として家庭にあるべきか外に出て働くべきかというような使命観は立派にもつていなければいけないと思いますが、現在の私の立場からおして考えて家庭

の問題というものがあまりに大きなものですから、物質的に合理的な生活をして、浮き上がつたものでなんとか満たしているというような現象が大へん出てきている。私の知つている範囲では家庭があまり円満にいつていないものですから。

水木（リーダー）　皆さん方、今、徳淵さんの言われたのと同じご意見の方は世間にたくさんあると思います。その代表者としてのご意見として、言うべきことがあつたらきたんなくおつしやつて下さい。そうすると、一つの問題にふれて基本的な線が出てくると思いますから。

中野　私は、やはり自分の才能を生かして社会に貢献すべきだと思います。

それについては、徳淵さんは条件の悪い中で家庭生活を考えたいということですが、私としてはそういう条件を私たちが整えていくということまで考えて、子どもは才能を生かしていくのがいいじやないかと思います。

笠原　徳淵さんは自分のまわりだけをみつめてそうお思いになるので、もつと広く、女性としてどうあつたらいいのかと考えていただけないかと思います。

徳淵　たしかにそうです。実際自分が家庭の母であり、妻であり、家庭の場にいる時にいつも家庭の雑事に追われるのではなく、合理化されたものの中で婦人が考える時間を作るというのは大事なことだと思います。社会に出て働くのも大事です。私の場合は、何か社会に通ずる道がほしいということで、子どもは今高校二年ですが、幼稚園の時からモニターをやつたのです。それも第一に家庭にひびを入れたくないということで仕事を選んだのです。女が男の地位と同等に働くことはとても大事なことですけれども、身のまわりの人を見ると、あまりに現実に破たんして家庭にひびがはいつている家庭を知つているものですから、とくに強く申し上げたような気がするのです。

太田　現在の職場だけを見て、こうだからこうということよりも、世の中はずんずん動くし、産業構造も変わつていくということをふまえて考えるほうがよいと思います。西欧の先進諸国でどうして女性が社会進出し、それに伴なう問題をどうして処理しているかということを現家としてやつてからいろいろ意見を出すべきじやないかと思います。

戸枝　私は、もうちよつと横の連絡を考えたら打開する道があるのじやないかと思うのです。徳淵さんはお一人で、自分のまわりを見たり学んだりしていらつしやるようですが。

太田　問題があつて困つている者同志が話し合つて、どうして解決すればいいかということで横の連絡が出てくると思います。

上野　家庭生活というものはもう一度考え直す必要があると思います。家庭とはどんなものか。それから、子どもを育てることは母親だけの問題かというと、どうしてもそこに父親の存在が必要です。職業をもつて家庭生活と両立させるのは女性だけでなく、男性も職業と家庭を両立させなければなりません。今の働いている職業婦人と呼ばれる人たちは、家庭というものについての教育を受けないで大きくなつたのではないかと思います。その母親は終戦以来、家庭というものはこういうものだと、自分たちが教わつてきた家庭のあり方を娘たちに教える自信を失なつたまま二十年を経過した。その結果が今出ているのだと思います。

まるで暖かさとか、家庭に求められるもののない家庭が現われているかもしれないと思います。だからそういう現象面でなくて、それこそ動いていく中で女性と職業について考えた方が間違いないと思います。

笠原　私、昨年の夏休みを利用して中国に行つてきました。自分でお金を貯めて、やつとの思いで行つてきたのですが、中国には本当に主婦専業という人は病気の人とか、体の弱い人くらいです。革命後数年ですばらしい国家になつているのです。それというのも、国民の半分だという女の人が社会に出て働いたからだと思います。

工場に行つても職業に男女の差別はなくて、病院にも、あらゆる分野に男と女が同じことをしている。その子どもたちは乳幼児の託児所などで健康に育てられている。そういう素晴しい現状を見て、もつともつと女の人は職業に徹した気持で生きていかねばならないということをひしひし感じてきたのですが、それだけにぐずぐずしていたら進展する社会の中で遅れていつてしまうと思うのです。

山崎　託児所などの施設が中国では可能になつているのですね。

水木（リーダー）　中国には女の人は当然働くべきだという前提があるからです。

山崎　日本の場合でも、現実に経済的な理由で働かなければならない人もいるし、使命観をもつて働く人もあります。その中でそういう設備がたくさんあれば、家庭生活に家庭と職業を両立させていけると思います。そういう設備が今足りないことから、家庭第一主義という言葉が出て来るのだと思います。

徳淵　社会の進展とおつしやいますけれども、社会というものがなんで出来ているかというと一戸々々の家庭で出来ていると思います。ですから、その家庭が明るく健やかに伸びていけば社会も健やかに伸びると思います。職業について働くことも大切ですけれどもそれと全然別個に、家庭第一をというのじやなくて家庭は大切ですから、働くことで意義を見出だせる人は働くし、家庭で本当に子どもに自分の心をうちこめる人は家庭にとどまる。子どもが「おかあさん、ただ今」といつた時に自分が「お帰りなさい」とただ一言でもいいから言えるという主婦があつてもいいと思うんですが。

水木（リーダー）　それはあなたのご経験から出たことと思いますが、私の知つている人で、中年層になつて、子どもは大学を卒業してお嫁さんをもらつたり、嫁に行つたりして片づくと、することがなくなつて、今ご主人もあつて社会的に安定してくるその時に、はたと自分は何十年何をしてきたか、台所と洗濯に追われて頭は退化してしまつた。そしてあたりをみると、自分と同年輩の人が活発に動いたり、建設したりしている。すると、しまつたと思う。ある年令になると大ていの人がそう思うらしい。そういう場合、ある人は趣味のグループにはいつていく。徳淵さんが考えるのは、たしかに育児の問題とか、成長期にある時期の問題で、そういう意見が出てくるのだと思いますけれども、それでは、基本的に、女の人が、自分の子どもが学校を出るころには家庭第一主義として花嫁修業をさせるとか、そういうような教育方針でやつていかれるのですか。

徳淵私もしたいことは山ほどあり、いろいろな機会もチャンスもあ

つたのですけれども、結局踏み切れなかつた。どつちつかずになるのじやないかという気持があつたからです。家庭の仕事以外は全然何も考えなかつたということではなくて、常に何かしようとする気持で浮き上がつた時間を力一ぱい、家庭にひびを入れないでできるようなボランテイアのグループにはいつて母子寮を慰問するとか職業という名前はつかないのですが、そういうことを自分では精一ぱいにしています。

水木（リーダー）　個々の環境にもよりますからね。昔、農家では否応なしに共稼ぎ状態で一しよにやつていた。商店のおかみさんは嫁にくると同時に一しよに働きながら子どもを育てる。いろいろな形態がありますから、それは個人々々のこととして、しかし自分はこうあるべきだという認識だけはもつていなければならないと思います。

それについては今までのお話合いで大体結論は出たと思うのです。

それで、今の問題から発展しまして、第三の問題、女の人が職業について動く場合に「男性とのハンデイキャツプをどうすべきか」これについて生理休暇とか育児休暇とかそういうことから職業の使命観ということになつてくるのですけれども、それについて佐賀の上野さんが所感文にお書きになりましたから、それについて意見を出していただいて、皆さんで話し合つていきたいと思います。

上野　私、仕事の上では男性とのハンデイキャツプがあつてほしくないと思うのです。

女生の特権というのは、女性の甘えになつているのじやないか世の中には、女であるということを売物にする仕事なり雑誌なりが男性によつてあまりにも作られすぎていると思います。一方ではこうして女性の本当の、婦人の地位を高める努力がなされているかと思うが、一方ではおしやれムード、セツクスムードをもつた女性がいて、ことに若い人のための週刊誌などは女であるという特権をふりまわすような甘えた編集がなされている、そこに職業観とか使命観とかいうことについて、もう一度考えてみる必要があるのではないか。

生理休暇などというのはあつていいものかどうか。私はこういうことを女性が旗印にしていたということがおかしいと思う。他の国にはあまりないという話を聞きました。

笠原、五十嵐　ありますよ。

五十嵐　群馬県の地方婦人会議でも職場に動く人たちから、生理休暇のことが大きく出ました。群馬県では、どの会社も工場も一日から三日間あるということです。私の娘が銀行に出ていますが、銀行などは忙しいから月末になつて生理休暇をと言つても許されないし、いい顔をしないのでとれないということです。それから学校の先生も生理休暇をとれない。長い間保健婦をしていた人も人間の母体を擁護する立場から、どんな職場にいても生理休暇は必ずとつて下さいと言つていました。

上野　こうあるべきだという理想はわかります。大きな組織をもつた中では行なわれるが、組織をもたない婦人たちが果たしてそういう要求が出来るかどうかということですね。旗印としてはかかげてもいいと思うが、現実に私どもが月のうち三日の生理休暇をとつた場合に、学校の場合、子どもなり父兄は納得するか。生理

休暇というのは病気ではないから、どうしてもとらなければならないという人は職業につくべきではないと思います。農家の人や商店の人のように、組織をもたないで働いている女性たちがもつと切実にそれを必要としているのに出来ない。そういう所まで下げて、これが及んでいく可能性があるかどうかということ、女性ながら疑問に思つています。

五十嵐　骨をおつて法的に生理休暇をとつたが、女の人がとらない。組織がない所はとれないというが、だんだんに進めるべきではないかという意見が出たのです。

上野　理想としてはわかるのですが、ある大きな工場の話ですが、組合から女性は当然とらなければいけないといわれて必らずとるそうです。そういう矛盾が行なわれている。仕事をしても何も支障のない者がそういう甘えで休むということはこわいと思う。私たち教師が、それは当然の権利だからというので三日間休んだ場合に、父兄や子どもは手をあげて納得してくれるか、それとも、やつぱり女の先立は困るということで女性がふり落とされて、女性の場を狭めることになるか。これは女性とのハンデイに考えたくないと思うのです。

五十嵐　その場合、女が特権に甘えすぎてはいけないというのは、乱用してはいけないということだと思いますが、それには便用者側からも出ていらして、請求されると出しているが、乱用する人はいない。人によつて個人差があるが、長い間に母体保護になるのだから、今何も支障がないから生理休暇をとらなくてもいいというのは間違いだといつていらつしやいました。

甲斐　生理というのは男の人にはわからない。本当に辛いことです。ですから、それはもつと強く主張して、生理休暇をもつととるくらい女は甘えても、まだまだ男の人にはあまりあると思います。

職場の仕事の面では対等にすべきですが、女の生理という面ではもつとハンデイキャツプを強く訴えるべきだと思います。

大元　それもハンデイになるのですか。女性にそういうことがあるとしても、それは男性に比するものではないからハンデイとは言えない。それをハンデイと女性が感ずるほうがおかしいと思うんですが。

笠原　五十嵐さんがおつしやつたように、そんなにきつくないからといつてとらないというのは、年をとつてから非常にひびくということを言われます。職種によつては三日間くらいではいけない場合があるでしよう。やはり生理休暇は当然権利としてとるべきであつて、とれない所はだんだんとれるような方向にもつていくべきだと思います。私は一番辛い日は授業が終つてから早退という形でとつて、他の人に迷惑をかけないようにしています。それから、みんながとるようにしていかないといけないと思います。

織田　私の会社は千八百人おりまして、そのうち八百人が女性で、五百人が若い人です。生理休暇をはつきり認められていながら、実際使つている人は一人もいない。それというのは、その手続きをするのに係の人が男の人です。都合が悪いからという苦情が出まして係員を女にしましたけれども、やはり若い人はいつていけない。それで今のところ生理休暇がありながら一人もとつていません。

もう一つの欠点は、織物工場は大体基本給と請負制になつておりまして、生理休暇をとると六〇～七〇％で実際に働くよりは安

いので、経済的に考えて、とる人がないのじゃないかと思うのです。

宇田川　私は上野さんと大体同じ意見です。

生理休暇は、職場を狭くするということと、男女の同一労働、同一賃金ということからいつて、どうかと思います。

上野　同一労働、同一賃金ということからは、生理休暇はハンデイではなくして、むしろ特権になつています。

三日×十二か月とすれば、とる立場からいえば、一か月留守になつたことになりますから、病的な生理だつたらかしかに企業の方からすれば考えるべきだと思います。だから生理というのは病気なのか、それとも健康なのかということを、女性がもつと考えるべきであると思います。

農村でも五十嵐さん、そういうことが行なわれていますか？

五十嵐　農村は個人営業ですから、そこまで休暇をとりなさいということは出来ないでしょうが、保健婦さんがまわつて指導しているのではないでしょうか。

工藤　私は農家ではありませんが、まわりがみんな農業なので見ていますと、手も足りないので、生理休暇などとつていられない。生理休暇も必要でしようが、勤めている女性が生理休暇をとつていたら大事な仕事はやらせてもらえないのじゃないかと思いますね。

太田　生理休暇は有給休暇ということをはつきり規程しているのでしようか。

水木（リーダー）　有給が多いのじゃないですか。

太田　事業主と話合いで決めるということをききましたが。

事務局　基準法に付、有給とも無給とも書いておりません。今、数字的なものはもつておりませんが、丸々有給の所もあれば、民間の場合、六割とか、全然無給の所、いろいろあります。

水木（リーダー）　運営の仕方にはいろいろあると思うんですが私、ある日、大きな組織の争議に行きあわせたら、女子定年制の問題で二十五才でやめるとか、家庭をもつたらやめるとかの問題で争議がおきていた。そのとき、私は質問したのですが、生理休暇とか育児休暇とか、そういう男性に比して、会社の言い分とすれば、勤務状況からみて多少マイナスであるという点について、どういうふうに考えていますかと言つたら、総攻撃に会つてこてんこてんにやられちやつた。質問しただけで大へんハツスルされる状況だつた。実際問題として、皆さんとつていらつしやるのだけれども、そんなに休まなければやれない仕事でしようかというと、キイパンチヤーなどは辛い仕事だけれど、メートル調べなどの仕事は歩くだけだから、家で雑務するよりも楽だから休まなくてもいいけれども、一律にとることになつた限りは休まないと他の人に迷惑を及ぼすから休むことにしているというんです。すると、その場の仕事のマイナス面はどうしていますかと言うと、お互に助け合つて責任をおえばいいじゃないか、それで男性が理解してくれたらいいじゃないか、というのです。

そこで会社の経営者側のほうに行つて聞きましたら、女性のマイナス点をあげた中の一つに、育児休暇とか生理休暇をとられたのでは、男子と同じようにベースアップといわれても、男女差が出てくるのではないかと言われました。

今度は私が女学校の時代に経験した話ですけれども、一人の女の人がある男の学生とかけ落をして、相手は学生だから自分が働かなければならないことになつた。その女の人は英学塾を出ていたから英語の教師になつて、私のクラスの先生になつた。ところが突如おなかが大きくなつた。するとかなりつわりが強いらしく出産まで休んでしまつた。その間よそのクラスの先生が臨時に教えにきて下さつた。しかし、次から次へと臨時の先生ばかりが補充されるから勉強が進まない。やつとその先生が出てきたら今度は赤ちやんが小便室で泣いているので、授業の途中でちよいちよい先生が行つてお乳をのませるという状態で、卒業するまでにもう一回お産で休んだ。それでついに英語の力がつかなかつたのはあの先生のためだと今でもうらんでいるわけです。

争議でさんざんやられて、帰りにある女優さんたちのグループに行つてその話をすると、杉村春子さんがいわく、そんなこと言つたら舞台役者はどうするの。きようは生理だから休む、じやあやつていられないじやないの。職業によるわね、ということで下がつてきたが、ある女医さんが、生理について、これは病気じやないから、そんな特別な休み方まづする必要はないということをお医者の立場から書いておられる。また一方で、男のお医者さんは、とるべきだという。こういうふうに体験者と学理的の違いがあるのですね。それで私、仕事によると思います。バスの車掌や選炭婦が生理休暇とらなかつたらたまらないと思いますし、事務にしてもその内容によりますし、高度の労働にしてもいろいろある。ここに特別オブザーバーとして労働総同盟の末吉さんがみえていらつしやいますから、アドバイスしていただきたいと思います。

末吉（特オブ）　結論から言いますと、生理休暇をとつて下さいといいます。理由としては、一番大きな問題は健康管理上の問題です。それから、生理日には作業上のミスが非常に多いことです。健康上の問題として、異常出産について調査しましたら、働いている婦人のほうが家庭婦人より異常出産が多い。先ほど、農村の婦人は生理休暇がないじやないかというご発言が、これは任意に中断出来る仕事で、農繁期といえどもたまには休憩してやることも出来る。自分の家庭ですから、やはり生理的にも拘束される程度は少ない。ところが職場で働く婦人は拘束される時間において働いているわけです。やはり生理休暇は母体保護上必要です。職場で何年か過ごして損傷をきたした母体はどうするか。やはり自分で健康管理しなければならない。だから自分の体は自分で大事にしなければならないということになつてくるわけです。

もう一つは、職業によつて格差がありますし、その基準は基準法の細則に書いてありますが、やはり努力しなければ獲得できないと思いやす。しかし医学的にも、労働研究所でデーターを出しておりますが、どんな仕事がヘモグロビンの変化に影響があり、どういう職場で特に生理休暇が実際に必要かというと、九〇％以上の職場で必要と答えています。ところが実際にどうしてとれないかというと、組織の問題、あるいは皆さん方の職場における地位や力の問題、発言能力、などによるもので、あらゆる問題が関連してくると思います。

職場には余剰人員を出来るだけ多く確保して職場の定員制を作ることです。婦人も実績を残しながら、婦人労働者の何％かの余

剰人員を確保するようにして、なおかつ職場の定員制をへらさないように考えてゆかなければならないと、考えております。

水木（リーダー）　同じ賃金をもらつて、当然、人権ですから、とれたらそれにこしたことはないわけですが、私の経験した学校の先生の例のように、能率が低下したとか、休暇の間は余剰人員によつて確保されても、仕事の上でのマイナスは多少ありますね。余剰人員だけで解決つく仕事と、そうでない仕事とあると思いますが、そういうことはどういうように考えていつたらいいものでしようか。

笠原　ここでは基本的な考えを出すより仕方がないと思う。だからやはり生理休暇は基本的にはとるという方向に進むべきで、そのためには定員制の確保が必要で、先生が足りないから生理休暇をとらないのではなく、とる方向に向かつて、それにはどうするかという方向に考えを進めるべきだと思います。人員的に補充するだけでなく質的な面でもなるべく同質に近い定員を確保することより解決策としてはないと思います。

上野　基本的にそういう状態にあることは認めます。でも、それを私たちの側がもつと自覚しないで一律にとるという方向に私たち働く女性がいつたら非常に危険と思います。

職種にもよると思いますが、たしかに重要な責任ある地位は会社でも工場でも女性は敬遠されると思います。中学などの教師にしても、生徒に与える影響がある。思春期にある男の子が、受持ちの先生がいつも休むという事実を素直に受け入れてくれるかという事実を考えますと、そういう基本線はもつていてもいいが、職種によつて一律にすることは間違いと思います。

水木（リーダー）　生理休暇をとつて、その時あなたは家で何をしていらつしやるかと聞いたら、洗濯したりアイロンをかけたりしているという。そうすると、その労働と職場の労働とどうちがうか。たしかに家では自由に休めますけれども……。

上野　映画をみたり、子どもを連れて動物園に行つている人を知つています。

水木（リーダー）　大多数のために生理休暇の獲得は必要だという反面に、仕事の処理の上で問題がおこることもあるということと、それを仕方がないとみるか、悪いとみるか、それは個人の人格によりますね。キリスト教女子青年会の黒川さん、そのことをどうお考えでしようか。

黒川（特　オブ）余剰人員を入れるというのは、なかなかむずかしいけれども、生理休暇ばかりでなく、出産の休暇なども、学校では代りの先生を確保してありますから、うまくやれば出来ると思います。

山崎　一律にとれという組合もおかしいけれども、そうしないと、今まで苦労してとつた権利をとり上げられるということに問題がある。だから職種や、その人の個人差によつて、もつと自由な考えで常識に従つてとつていつても既得権は残つているというふうにしていただけたらと思います。事業主も、組合もそういう方向で話合いをしたらと思うがどうでしようか。

水木（リーダー）　その場合に休まないでもいい人が出てきますね。すると休まないと、休む人に対して工合が悪いということがありませんか。

水木（リーダー）　よその国じやどうですか。たとえばソ連とか……。

末吉（特オブ）　インドネシヤにあります。大体外国にはありませんが、先進国の法律は必らずしも立派なものだとは思いません。むしろ後進国のほうが先進国のよさをとり入れていい法律を作るのだと思います。

中野　私も上野さんのおつしやるように、ことに小学校の先生のような場合、良心的に考えると休めないと思うんですよ。非常に苦痛のない場合はとらないほうがいいと思います。

笠原　生理休暇のことだけ話していると時間がなくなりますから、基本的には生理休暇をとるのが望ましいが、職種や個人差によるから、話合いでとりよい方法で、まわりに迷惑がかからないような方法でということで話をうちきつていただきたいと思います。

水木（リーダー）　じやあ育児休暇もひつくるめてこの話はこれで打ち切つてよろしゆうございますか。

小野　育児休暇について、私の知つている若い夫婦が、子どもが一人出来て、子どもを預けようと思うと大へん高い。それだけでなく、保育所が近くにないので、電話の交換をしていた奥さんがやめたのです。そのあいさつ状を見て、もつと同じ職場で手をつないで育児についても、横の連帯感をもつて復職出来るという形で約束出来ないものかしらと思います。やめたくないということは復職がむずかしいからで、ぎりぎりの所までがまんしたけれども子供の問題でやめていかなければならなかつたというのは考えさせられました。

太田　電々公社には子どもを育てるために二年間、家庭にはいつて休職して、また復職するという制度が確立したということですが。

水木（リーダー）　第三の項目に育児休暇とありますのは、男性の職業と比べて一つのハンデイキャツプになるのではないかということです。今のお話は育児がハンデイキャツプになつたから仕事をやめなければならなくなつたということですね。

山崎　男性と同一に働くということから言えばたしかに生理休暇や育児休暇はハンデイキャツプと認めざるをえないのですか。

甲斐　だから女の人がもつと手をつないで意志的にそれを解決してもらえるようにもつていくよりしようがないのじやないですか。

上野　私の言いたかつたのは、育児休暇をとつたから育児の問題が解決するということじやなく、それから先もあるでしようし、大きな組織をもつている電々公社では組織の力で解決したが、組織をもたない弱い層の人たちを含めて考えて、自分だけよければいいという形でなくいきたいと思います。

山崎　電々公社の育児休暇は無給だと聞いていますが、二年無給で子どもを育てる余裕のある人はいいが、どうしても働かなければならない人のためには、やはり子どもを預ける施設がとくに必要だと思います。

笠原　私たちの職場でも話合つたが、育児二年間たつたら確実に復職出来ても、その間無給では、育児休暇は理想のようだが、現実にはそれではすまされないということで、国家がもつと政治的な解決をして、乳児の施設、児童託児所をたくさんふやして、安い値段で預けられるような方向にもつていくべきであるという結論に達しました。

甲斐　組織のない婦人たちは、そういうことをどこに訴えたらよいのでしようか。たとえば農村の主婦とか、商店のおかみさんたち

とか。

中野　一人でなく大勢の人でそういう問題を請願するという方向に動くことがよいと思います。

徳淵　地方会議で長崎の婦人会の仕事としてそういう要求者が集まつて未亡人とか、家庭婦人が奉仕的に新生児から三才まで五千円、朝八時から五時、六時まで牛乳代一千円は別にして、計六千円で預かつています。それは、一人の声、二人の声が集まつて世論にまで発展して、四百万の資金をえて出来たものです。家庭におりましても、そういうようなつながりをもつということが大切なことだと思います。

山崎　愛知の名古屋とか尾西とか安城とか刈谷とか、いろいろな所で乳児を預かる施設を、個人的に乳児をもつたおかあさんたちが集まつて自分の家を開放したり、どこかを借りたりしてやつているが、赤痢が出たりして、個人的な解決だけではだめだという壁につき当つているようです。ですからやはりそういう人たちが手をつないで地方自治体に請願して予算をとつてしつかりした乳児保育所を作つていくということが今こそ必要な時期にきていると思います。

戸枝　働く女のための職業保険が英国にあるという話を聞いたのですが、育児休暇のための保険は考えられないでしょう。

水木（リーダー）いままでのお話し合いでは、生理休暇とか育児休暇をとるべきか、とるべきでないかということが中心になりましたが、それは女性のハンデイキャツプでない、当然女性として要求すべきことであるとして、それを現実にとつた場合、現実問題として、仕事の上でのマイナスが起きるのではないか、ということで、さつきオブザーバーの方に伺いましたら、余剰人員で処理していけばマイナスにもならないじやないかということでしたが、そのことについて、仕事の上でのマイナス面はそんなにないものかどうなのか。

育児休暇を含めて、女性として、男性に比べて、休暇の条件がついた場合に、当然女性は重要なポストに置かれないのじやないか。そういう問題が起きてくるだろうという予測の下に、そういうことをどう考えるかということです。それは会社側の理解がないからまちがつているのだというふうに片づけていいものなのかあるいは仕事に対する責任というものはどうなるのだろうか。つまり仕事に対する「使命感」というものを大切にするためには、休んだために生じたすきまをどうしたら補なえるものだろうか。あるいはそのままでもできるということになればそれで問題がないわけですし、あるいは一〇〇%の中八〇%しかできないが、それでやむを得ないというふうに考えて、それは自分で一つのハンデイキャツプとして認めてしまうか。そういうことが伺いたいのですけれども。

甲斐　私は新聞社の仕事をしていますが、たとえば本社から、いま事故があつたからどこそこへすぐいつてくれ、という場合にわたしがもし生理の日だから、ふだんは単車かなんかに乗つかつて行けるのですが、それができないから、タクシーに乗ります。すると新聞社のほうでは、できるだけ経済的な面で縮小したいというので、女だからという、そういうところに私はハンデイキャツプを認めざるを得ないのですが、素直にそこを認めてくれる会社になつてほしいと思うのです。もしそのとき、私が行かなかつた場

合には、女だからああいうことだから、やめさせなくてはいけないと言われるかもしれません。

山崎　それはたまに現象面から見るとハンデイキャップがあるにはがいないと思いますが、それをそれだけ提えて、全部の女の人の地位を下げるとか、給料を上げないとか、そういうことに結びつけられては困ると思います。

水木（リーダー）　さきほど、生理休暇をとるべし、認めるべし、認めて休むということになつたわけでしょう。そうでない人をぬきにして、全部がそれをとつたとして考えるということに。

笠言　それはやつぱり男性とのハンデイは素直に認めて、生理休暇をとる。そして、ふだんはできるだけ一生懸命働くということにするよりしようがないのじやないかと思います。

工藤　青森の生理休暇とか育児休暇とかたいへん問題になりまして私たちは育児休暇も生理休暇もほしいんですけれども、自分で受持つた仕事に責任をもつべきだ、そう考えたらめつたに休まれない。ということを言つていました。

大元　ハンデイキャップは職業への使命感には関係ないと思います。それがあるから使命が果たせないということじやない。

水木（リーダー）　いま甲斐さんがおつしやつたのは、現実の問題として、ほかの人が行くということになりますね。すると、そのお仕事がその場合できない。具体的にいうと、やつぱり多少、使命に影響がある。それは大局的にはまた別の問題ですけれども、みなさんの仕事の場において、そういうことが現実にあるのじやないかということですね。

篠原（特別オブザーバー）　私、自分で職業を持つて働いていませんので、たいへん抽象論ですが、ほんとうに生理休暇が必要で女の人が休まなければならないものならばただ甘えるということでなくて、認めていただく。男と女が同種である。ということは、何も彼も全く同じにしなくてはならないということでなくてもいいのではないか。

さつき小学校の先生がおつしやつたようなほんとうに女が母親であることが子どもの教育者としてたいへんプラスになるとか、女でなければできない仕事、女の特徴を生かした職場があるということを考えますと、女の価値というものが、男と時間的にも同じに働くことが男と同等の価値を生みだすということではないか。女がたいへんあてにならないとか信用できないとかいうことでなくて、女としての実力を生かしたところで働く。給料がたとえちがつても、いいではないか。やつぱり子どもをもつた母親であつたならば、家庭第一主義というか、家庭のほうに主力を置きながら、できる範囲の仕事をもつということ。それは決して、仕事を持つちやならないということでなくて、仕事をもつことはたいへん必要だと思いますけれども、男と同じ仕事を持たなくても、女としての仕事をみつけていくということも必要なことでないかと思います。

水木（リーダー）　いまのご意見の中でいちばん大切だと思いますのは、私個人の考えですけれども、たとえ一時間なり半日なり、その仕事に　先ほどの甲斐さんの例で考えますと　そこに参加できなかつたから、果たしてそれがマイナスになるかどうかという問題ですね。今、篠原さんがおつしやいましたように、女の人でなければ、その人でなければ、というかけがえのない存在で

であれば、償うものが十分あるのではないか。

そうしますと、その仕事の使命をはつきり持つていて、しかもその実力を示していればたとえその間に時間がぬけたからといつて、それがその人の存在全部を否定するものではないというご意見になつたと思うのです。

女だからという甘やかされた立場を持つていますと、その時間に参加できないというのですぐ満たされるが仕事に対してもつときびしい考え方に立つていればおのずから、やつぱりあの人がいてもらわなければ困る、簡単に代わりがあるのじやないということになると思います。

それでは次の四番目の問題「若い層の職業意識について」に進みましよう。働くという意識について、若い層が職業につく場合に今では学校を出ると職業につくのが当り前で、箱入りはかえつて幅がきかないというように、昔と考え方が逆転してまいりましたが、現実は、嫁入りの費用稼ぎ、結婚まで、ただ社会を知るという意味で勤める、また、結婚した場合に、共稼ぎをほんとうはしたくないけれども、やむを得ないから勤める、こういうのが、いまの大多数ではないかと思われます。こういう職業のつき方が職場の花とかお茶くみとか、言われる結果にもなるのだと思いますが、企業のほうからいつても早く入れ替つてくれる安い労働力であるという都合の好い面もあつて、いろいろな問題を含んでいると思います。こういう若い層の職業意識について、お話しいただいて、一つの基本的方向を出せたらと思うのですが、いかがでしようか。

上野　「職業意識」というのと「職業への使命感」というのは、同じだと考えますか、それとも全くちがつた立場で考えますか。

〔座木（リーダー）　両方ひつくるめて、いまの若い層のあり方をどう考えるかということです。

上野　私、作日宿舎に着きまして、お手洗を借りたのですよ。共済会館のお手洗をひざついて、便器の一つ一つを磨いているのを見て、なんだかこういう会議に出るために上京した自分の生活態度がうわついているような気がして、この便所を掃除している人たちこそ、仕事についてほんとうに言いたいことがあるのじやないか。涙が出るような気がしました。

その時に私考えたのですけれども、私が教壇に立つて、私でなければできない、子どもたちへの人間教育というものを訴えて、そのままに忙しさとか同僚とのトラブルなどがあつてもそういうものを忘れられる楽しみがあるように、この掃除婦は、おそらく自分が一生懸命便器や床を磨くことによつて、そこにきれいになつたという楽しみがあればいいけれども、もしもそういうものがなかつたら働くということはどんなに苦痛だろうかと思つたわけです。

たとえ、自分が希望した仕事につけないで、やむを得ずその仕事についたとしても、自分に与えられた仕事に、あきらめでなくて、生甲斐をみつけるという生き方、働き方を努力しなければならないと考えています。

小野　若い層の職業意識について考えてみると、現在の社会では、女性と男性を同じ待遇をと叫ばれていても、この仕事に生涯をかけてもいいと思うほどの待遇は女性には与えられていないと思います。そういう待遇によつて起きるさまざまな経済上の問題——

子供を抱えて、とてもこの給料ではやつてゆかれない、等の問題が起きてきましようし、一生その職業に徹して生きてゆこうという意欲を最初はもつていたにもかかわらず、途中で中断しなければならないことになるという実情もあると思います。一つには私たちの時代に婦人が築いてきた歴史にまだ甘さがあるのではないかと考えます。それで、今まで多くの婦人が一歩一歩歩んで現在に残された道を一つのふみ台にして、その上にしつかりした足取りを築きながら一つ一つたしかな足跡を残してゆけば、一生かけてやつてもらいたいというような仕事が婦人にも与えられるのじやないかというふうに考えます。

水木（リーダー）　そうすると、具体的にいつていま、家入りの費用を稼ぐために勤めている若い層の人たちは、一生かけるほどの仕事というものを発見できないということですか。

小野　全部が全部とは思いませんが、多くの場合そうじやないかと思います。そして、使命感につながると思いますが、一般に婦人は職業にきびしくない。自分自身、一つの筋を通して、少々のことには、男性とのハンデイを感じさせないといういき方をすれば他からも認められることになると思いますが、現在はまだ、そういう点に到達していないのではないかと思います。

大元　高校を出たある娘さんが、三月に保母になるつもりで、保育所にいたのですが、一月もたたないうちに、交換手にならないかと、すすめられた。いろいろ考えたが、どつちも捨てたくない。そういう場合に、その人は始め保母になりたいという考えである職場に入つた。たぶん職業意識をもつて入つたのだと思いますが結局、その人は交換手のほうを選んでしまつた。どちらも待遇は同じでしたが、一般社会の考え方に流されたのです。若い人はとかく、ただふらふら、どつちに流されてもいいという気持がある。ですから、皆さんの後について働くそういう若い層を、先に行く皆さんの手で支えてほしいと思います。

山崎　結局、若い人たちが職業意識や、使命感を感ずるまでの教育というか、先輩たちの助言や、先生や親の助言がほしいということでしよう。それはたしかに今の世の中に欠けている。だから若い人たちが使命感をもたずに職場の劣的な職業について、ボーイハントをして結婚するという現象は、実にまわりにいつぱいあると思います。そういう人がいるために、一般の女の人はあてにならないから給料が低くてもいいという捉えられ方をしてしまうと思うのです。

水木（リーダト）　それは、若い人たちは職場にいかないといい男性がみつからないとか、もうすこし格好のいい人のいるところに行くとか、そういう話ばかり多いですよ。

山崎　私の工場は、従業員三十五名ほどの小さいところですが、中学を出た女の人が五、六年前に入つた。その人は全部経理が任せられるほどよくやつてくれたのですが、この間やめたいと言つてきた。やはり、全部仕事を任されたという仕事の負担から抜け出したいということもあるし、もう一つは、結婚適令期になつてからも工場にいると、中学を卒業した若い人がたくさんあとから入つているので、自分には格好な相手がないということで、せつかく習い覚えて有能と認められてもやめてしまう。職業人としての使命と結婚というものを天秤にかけてどちらが重いかということですが、やはりその職場にいる間はまじめに忠実に勤めていただ

かないと、ほかの、ほんとうに働こうと思つている人たちの足を引つ張るようになつて、しまうと思います。

笠原　私も、結婚するまでの腰掛とか、結婚するためにいい条件の職場を選ぶとか、そういうことだけで職業を考えるのではなく、もうすこし仕事を選ぶ上でも長期的展望に立つて、人生の計画として、仕事を選ぶべきで、もし幸いに結婚しても続けられるような仕事を選ぶべきだと思います。

山崎　仕事を選ぶ前に、自分の生き方について必要がある。そして、それに対する先輩や親の手助けとか助言とかいうものがいま欠けていると思います。

上野　私ども職場で先輩として、自分たちの経験を通して若い人に助言することができる時間をたくさんもつべきだと思います。しかしほんとうは、そういう教育は、就職する前に、家庭なり、高校なりでやるべきで、そうでないと、子どもたちは手さぐりで通える範囲とか、収入の面で試験を受けて、通つたところに行くより仕方がないわけです。

戸枝　いちばんの原因は、やはり四年制の大学を出して四月に就職させても、その年のうちに早くお嫁にやらなきゃというまわりの考えが若い人に影響すると思うので、父親なり母親なりの、娘の将来に対する考え方が基本になつているのじゃないかと思います。

上野　女の子でもみな今は就職するという話がありましたが、それは高校卒の場合であつて短大や女子大に進んだ人の間では、むしろ花嫁修業という考えがあるのじゃないかと思います。

水木　昔から女子大出るのは嫁入りの資格というような考えがありましたね。ことに、地方の素封家のお嬢さんにはそういう傾向が強かつた。経済的ゆとりがあつて学校に入れる場合は、そういう体裁の上のことが多いのです。

水木（リーダー）　私の経験ですが、小学校の時の先生が名訓導だつたのです。もしか夫が死んだら、子どもを抱えて体を切り売りしなければならなかつたのが今までの女だつたが、育児の責任は女にもあるのだから、いざという場合は経済的責任を負わなければならないから、技能を覚えておきなさい、とおつしやつた。そのことがずつとあとまでこびりついていました。そうしたら終戦後、その先生の言葉通りに夫が戦死したりなにかして、子ども抱えてうろうろしたということが起つたんです。

職業を身につけることが人格形成に大切ということと同時に、子どもを抱えていく上で生きるよすがとして、武器として大事ですから、子供を単に花嫁修業のために学校に上げたり、そこの会社がいいからと、体裁のためにそういうところを受けさせるとかいう形じゃなく、子供の人格形成期に母親自身も、先生方も女の人たちがほんとうに子どもを育てる基礎として、教育や職業が必要であるという考え方を今日のお話し合いの中にもはつきり頭に入れて真剣に次の代を育てていく責任者となつていただきたいと思うのです。

宇田川　やはり女性には生活の責任意識が欠けいてるのではないかと思います。それで若し女性を使うにも、女性を軽視した仕事にしかつけない。やはり生涯を持つということが大切ではないかと思います。

上野　それから若い人たちが職業を選ぶのに、どんな職業が価値があるかということを知ることが大きな問題だと思います。見た目

に美しいような仕事をあふり立てるようなものが多すぎる。子どもが読む週間誌などを見ますと、額に汗を流して下積みになつてもなにか建設的な役に立つような仕事を選ぶというよりも、テレビに出て一回歌つたら何十万になるとか、子どもにそういうあこがれをあふり立てるようなものがあまりにもまわりに多すぎると思います。それは若い人たちの責任じゃなくておとなたちが自覚して指導しないからではないか。

小野さんの所感文だつたと思いますが、身体障害者の施設ができたけれども、そこに働く看護婦さんや保母さんがいないためにベットがあまつているというのがありましたが、それと同じように、どういう仕事を子どもたちが身につけたらいいかということは、学校でも家庭でも教える責任があると思います。

水木（リーダー） 補足したいのは、社会のあり方が、汗して働いて当然金がいかなければならないところに金がいかない、現実に待遇・報酬ということのあり方がずいぶんおかしいということも言えるのですね。

山崎 それはやつぱり社会全般が子どもの価値観念を狂わせるような現象を見せつけているところに原因がある。だからそういうさか立ちしているようなものを直して働く、それを私たちみんながやつていかなければならないじやないかと思います。それを具体的にどうしたらいいかということがこういう会議で話し合われたらと思います。

大元 私たちの養護施設では、いま給与体係ということが問題になつています。給与体系だけで言うのは危険性がありますが、若い人たちの将来性、再就職ということを考えますと、やつぱり給与体係というものが出来てないとだめだと思います。

小野 若い方のご意見、ほんとうにもつともだと思いますけれども社会全体の責任といいましても、当然家庭で負うべき責任と、学校教育の中で果たされるべき責任があると思います。家庭の主婦がすべて学校教育が悪いからだという押しつけは責任のがれじやないかと思います。もつと家庭の中で生活の中で、子どもたちにほんとうに教えておかなければならない態度、秩序というものがある。それは学校で学ぶことと同じに大切なことで、若い人たちの職業意識が薄いとかいう以前の問題ではないかと思います。

甲斐 適材が適所におりましたら、職業意識というのはつくのじやないかと思うので、そういう意味でも、女子に職場をたくさん開放してほしいと思います。

水木（リーダー） 結局こういうことは全体の人たちが各自の立場で認識をはつきり持てば、それが集まつてきて一つの方向が出てくるのだと思います。いまはマスコミの線で勝手なことをしている、会社の給与体制は男女の間に不均衡なことが行なわれている、家庭は家庭で目先のことに捉われている。そういうてんでんばらばらなやり方がこういう現象をよけい助長させているのだと思います。

いまおつしやつた結論としては、結局みんなが、働くという問題をここまで追いつめて、みんな働かなければならないという認識に到達したと思うのです。

それで次の問題に移りたいと思います。六番目の項目は「学童保育・乳児施設・幼稚園について」ですが、さきほどから、働く婦人の問題として、家庭と鍵つ子とか、その問題と関連した問題

がいろいろな副産物として出ております。この部会に出席された方々の所感文の中には、学童保育の問題にふれて書かれたものがたくさん提出されていました。これからその問題にふれてお話ししたいと思いますが、学童保育・乳児施設・幼稚園などの必要性についての議論の段階はもう過ぎたと思いますので、そういうものの設置について、ご自分で経験なさったこととか現実にこういう問題があるとか、実例とか希望とか、そういうことを活発に話し合っていただきたいと思います。

五十嵐　私、群馬県の○○○町ですが、町に保育園が二つあったが二つだけではとても収容しきれない。通うのにもバスがなければ通えないので保育園に上げられない子どもさんがいたわけです。○○○町といっても農山村ですが、お母さんが、どうしたら保育園をつくれるかを話し合っていた時、たまたま町会議員の補欠がありましたので、そのグループの中の一人を推して、見事町会議員に当選させてその人に先頭になってもらって、町にも働きかけたり、お母さん方が有志のところを回ってお願いしたりして、一昨年、一つ立派な保育園が出来ました。やはりこういうのは、一度にできるということではないのですけれども、みなが話し合って方法を考えて、手を取り合ってやればできるのではないかと思います。

笠原　五年前に、埼玉県から婦人会議に出た荒井道子さんが学童保育の問題を取り上げてくださったので、その声が大きくなって、もはや議論の段階ではないということで、今年浦和市でも予算を取って、私の勤めている矢田小学校で、鉄筋三階建の校舎が出来たので、予算を確保してその一室を留守家庭の子供を預かるためにあてることになりました。専任の保母を二人つけて、四十一年四月からはじめております。

太田　私富山ですが、鍵っ子のことを地域の婦人会が地域の問題として取り上げて社会全体の責任という意味で学校の一室を借りて婦人会員が奉仕するという形式でやっております。それから、児童館を町役場が建設しまして、これは鍵っ子対策ではないが生徒は誰でも来て、遊んだり本を読んだりしてよいというものです。

水木（リーダー）　意外に各地方で、それぞれの立場でそういう進展が見られているのは結構ですが、所感文の中にも折々見かけましたが共稼ぎの人とか留守家族の問題というのが生活水準の高い人たちがさらに収入をふやすために働いている、そういう人たちのためにそれほど楽な生活でもないが、家庭に止まっている主婦が奉仕しなければならないという矛盾に対して疑問が起きている。そういう問題についていかがでしょうか。

太田　ある小学校で、働きに行っているお母さん方がどういう目的で働きに出ているかを調査したら、「よりよい生活をしたいため」が四七％。「社交性を求めるために」が一二％で、どうしても働かなければ生活できないという人よりそういう目的の方が多いという数字が出ています。そういうことから、善意の奉仕ということについて疑問が出てくるのは当然ですが、それをどういうふうに考えるかは、お母さん方の勉強とか、社会連帯責任ということになると思います。

山崎　鍵っ子対策として、そういう施設が特定の人の負担とか犠牲において、維持されているという現状が多いと思いますが、より

よい生活のために、社交性を求めるために出ているお母さんの子どもを家庭にいる私たちが預かるのは割りきれない感じが出てくるので、働きたい人が多くなつているのが今の社会の現象である以上、その施設は、しかるべき所で予算をちやんと組んで、それによつて作つていただくようにするべきだと思います。

上野　育児休暇の時にもそういう話が出まして、これを個人負担とか責任で解決しようとしてもできない問題ですし、母親も、働く以上はやはり働く体制を整えなければ仕事はできないから、お姑さんがいて助かるとか、お手伝いさんをみつければいいということでなく、ほんとうに安心して働けるように、育児の専門職のいる施設を、どの地域でもつくつてほしいと思います。

五十嵐　乳児保育の問題ですが、私たちのグループの話し合いの中で、最近、普通の家庭に子供さんを預けて共稼ぎをしていらつしやる方があります。それは、自分が子どもを育てた経験があるから預かりますという内職で、月七千円か八千円のお金を払うそうです。子どもをほんとうに心身共に健やかに育てるためには、やはり専門の知識をもつている保母さんにお預けしたほうが、子供の仕合せになるのではないだろうか。それには今ある保育園に乳児施設を附設する方向に運動しようとみんなで話し合つて、保育園の園長先生にそのことをお話ししましたところ、最近出来る保育園には乳児施設もいつしよにつくらないと許可にならないそうですが、前に出来ている保育園に乳児施設を作るのは予算の関係でむづかしい。乳児を預かつた場合、保母は八人に一人という基準だそうで、責任もつて預かるのには、医療面もちやんとしていなければならない。だから、もしつくつていただくなら、お医者さんも看護婦さんも確保していただきたいということで、簡単に施設ができないことがわかりました。

それじや私たちも現実の問題としてどうしたらいいかということになりまして、私たちのように子どもがひざから離れて手のすいた者が、保育ママさんになつて――前橋では実施しているが――子どもの育児に対する知識とか、保健衛生までを学んで、働いてるお母さん方のために奉仕的にお手伝いしようじやないか。それを今年度はみんなで検討してみようということになつています。

上野　父兄会などの時にお母さん方に、子どもを肌で育ててくださいと言つているのですが、全部そういう施設に入れて育てるということについて、私母親として納得できないものがあるのですがいかがでしよう。

水木（リーダー）　この施設をつくるということは、当然みなさん賛成だと思いますが個々の犠牲の下でつくつていたのではためだ、もつと公共的に、国やその他の予算の中でやらなければだめである。まずそれが第一です。それに付随して、教育ママさんという問題が出てきましたが、第一として、個人の犠牲ではいつまで経つてもはかがいかないということですね。

五十嵐　あくまでそれは暫定的なもので、予算をとつて施設を作つてるまでには時間がかかるから、その間だけでも子どもさんを預かつてお手伝いしてあげようじやないかということです。

戸枝　家庭保育の制度というのはわりにいいのが出来ています。東京の新宿区ですが、現在預かる人は七人ですが、今年中に十二人に増加するということです。

水木（リーダー）　時間がまいりましたから、今日はこれで閉会いたします。

（第一日了）

第二部会

第二日目

四月十四日

一〇〇、〇〇〜一七、〇〇

水木（リーダー）　昨日はテレビ放送のためにあちらの希望で、五番目の学童保育のほうを先にお話し合いしましたが、それらは飛ばした第五に戻りましょう。これは「中年層以上の職業参加の問題」です。

戸枝　私は家庭婦人ですけれども、何かあきたらないので、将来職業をもてるようにしたい、そういう心がけになつたらいいじやないかという、気持をもつています。それというのは、私婦人グループにはいつて、新宿区の婦人学級の助言などしているのですが自分はとても努力してそれをやつておりますのでそこへくるおかあさん方が割にぼんやり暮らしていらつしやるのを痛感するのです。しかし、とてもろい歩みでも、大勢の人が一歩一歩前進するということはとても社会を進展させていく上に大事なことだと思うので、この人たちをどういうふうにしたら少しでも引張り上げていくお手伝いが出来るかと考えてみたのです。最初のうちは子どもが小さくて時間がないから、婦人の勉強は割にいいかげんなものなのです。区に社会教育課というのがあつて指導していますが、各区によつてまちまちで、きちんとした方針はたつていないのです。そういうのをもつと強力におし進めて、だんだん婦人が子どもから手の離れるに従つて、将来職業がもてるようにきちんと土台を積み重ねていけるような方法をとつていけば、ぼんやりした学習から社会に参加出来るような学習に切替えていけるのじやないかということを考えているわけです。

それで今まで技能教育も職業教育も受けていない婦人が将来参加できる職業として、とても理想的だと思うのが、いろいろあります。例えば、青少年行政とか、社会教育関係の仕事とか福祉関

係の仕事で、今、奉仕的な面で活躍しておられる方はありますけれども、これを奉仕に頼らないで職業という一つの形で確立されてくれば、婦人の職場も拡大されるし、世の中もよくなるのじゃないか。一応社会教育課の担当者に当たつてみましたら、実現不可能ではないというお話だつたのです。

坂田　私の住んでいる所はものすごいいなかなので、本当に必要に迫られて働かなければならないという時期にきて、職場がない。あつても資格とか年令に制限がある。それで私の場合は一番近くにある保母という仕事を、臨時ですけれども、資格をとつてやりたいと思いますが、二十五歳までという年令の制限があつて、はたして資格をとつても雇つてくれるかどうかわからないのです。一方では保母が足りないといいながら、いろいろ制限があつて働きたくても働けないということを、何とかできないものでしょう

戸枝。そのことで、都の地方会議で、資格のない人を補助員として入れてもらいたいという意見も出たのですが、補助員として安い労働力でそういう人を使い出すと、本当に資格のある保母の職場の給与に響いてくるのではないかという話が出たのです。

五十嵐　昨日お話しした保育ママのことですが、前橋で実際やつているのは、三日間の講習を受けて、保育に必要な基本的な知識を学ぶと、保育ママの資格が与えられます。今、乳児施設が少ないので暫定的措置ですが、そういう方に預かつていただくと月六千円くらいで、その他にミルク代などを上げるのだそうです。それには部屋の数とか広さなどの規定がありますが、三人くらい預かると二万円近くの収入があるので、自分の子どもが手を離れた方がそれをやるといいということで、私どもグループの人が、研修の方法について県の婦人児童課に相談しましたら、講師を無料で派遣して下さることになりましたのでそれから研修を始めることになつているのです。

中野　私の場合は内職の問題です。私が長い間教職にありまして、やがて教職から去つた時には本当に自由な立場で読書もしたり、旅行もしたりと、自分の夢として楽しい生活を考えていたわけです。退職して一年くらいはそういう生活をしましたが、生産というと大げさですけれども、何か仕事をやつてみたくなつた。私は年金をいただいていますから、もちろん乏しい生活ですが、一応収入のことは考えないでもいいわけですけれども、やはり人間は何か生産というようなことにたずさわつていないと生きていられないものではないかと考えたわけです。その時内職グループに入つている友だちに誘われてちよつとやつてみたのです。この仕事にたずさわつてみて仕事の楽しさも出てきましたが、賃金の問題で疑問が起きました。こんなに安い賃金でこういう仕事を私のような境遇の者がやつていていいものだろうか。このことによつて内職の賃金を本当に生活の支えとしている人の生活までもおびやかすようなことになるのではないかということが一つ。それからもう一つの疑問は先ほど戸枝さんが言われたように、自分だけが夢にえがいた生活をするものではなくて、もつと勉強の場を与えられない人たちにも誘いかけて、少しでも婦人たちが伸びて会のお役に立つていけるようにお互いにもつていこう。そしてそういう仲間の人たちと仕事をしたい。内職の仕事をしているとそういうことをする余裕がなくなつてしまう。

その二つの疑問が生じたのです。そうして家内労働というもの

が正当に法律化されるためにはどうすべきかということが一番念願にあつたわけです。

それともう一つは先ほどお話が出た奉仕の仕事ということですが、私としては奉仕してもいいという気持もありますが、身近にそういう奉仕的な仕事がないので、内職で得た収入によつて何か福祉のお役に立てようということになつたのです。

五十嵐　それはどんな仕事で、月どのくらいの収入があるのですか。

中野　毛糸のセーターのえりを作つたり飾りを作る仕事です。出来上がるときれいなのでやつていると嬉しくなりますけれども、一月に大体私で五千円くらいです。

五十嵐　同じようなことが私の近所にもあります。住宅地で私が中心になつて初め趣味の集まりで、ビーズのハンドバッグや帯止めなどを作つていたわけです。それが、奥さん方は子どもが学校にご主人がお勤めに出るとひまになるので趣味的に始めたのですがきれいに出来てきたので、これを生活と結びつけて収入を得られたら素晴しいと考え、私が交渉して、今はレースのえり飾りを編んでいます。私は今そのグループにはいつて仕事はしてないのですが、ほかの人に中心になつてもらつてやつてこの間行きましたら会員が百人にもなつている。収入は六千円から一万円あるそうです。あまり安い時には、その人が憎まれ役になつて向こうの人に交渉してだんだん上がつて一万円くらいはとれるようになつたということらしい。趣味もそこまで発展してきたが、収入があるということは自分の生活も豊かになりますから、皆さん楽しく一生懸命やつているわけです。

戸枝　事務のアルバイトの給料は六百円から七百円です。結婚式場の仕事とか、その他、向こうの忙がしい時たのまれるという内職に近いものです。

甲斐　大分県の地方会議でもずい分論議されて、中年層は女として完成された充実した時代であるのに、その時に社会に貢献出来ないことは淋しい。復職というような形ででも、人間らしい社会的な受入態勢をもう少し考えてほしい、それから才能をいかせる受入態勢をなんとかしてほしいという要望が出ました。

五十嵐　高崎は商業が盛んで、大きいデパートがたくさん出来たので、呉服とか用品類にはこのごろ中年の人が大へん進出しています。なるべく中年の方にということで、午前中とか午後とかいう条件でデパートとか証券会社・保険会社などは中年層をとくに募集しているようです。

坂田　ここに出てこられた方はとても恵まれた環境の方だと思います。働くことは仕事の便命とか意義も大切ですが、本当に必要に迫られて働いている人がたくさんあります。未亡人とか、ご主人が失業している方、炭鉱などでももつと低い賃金で子どもの教育とか、家庭が留守になるとか、いろいろな問題もかかえて働いている人がたくさんあると思います。そういう人が本当に家庭をどういうふうに処理して働きに出たらいいか、また子どもの教育にしても自分の地域だけで考えないで現にもつと切実な問題を持つている人たちのことも考えてそういう人たちに少しでも役に立てるような話し合いをしたいと思います。

太田　たしかに内職によつて生活の一部分どころか大部分にしなければならないような立場にある方のことをもつと真剣に考えるのが婦人週間としても意義のあることと思います。

内職の場合、一番問題になるのは中間搾取で、本当の賃金よりかずつと低い収入しか本人の手に渡らないという矛盾です。余裕のある人はそういう面を改善するために働らきをしなければならないと思います。

富山県には内職公共職業補導所が一か所あつて、県内からそこに出かけてなるべく中間搾取のない仕事のあつせんを受けていますが、そういう公的な機関がもつと方々に出来て、本当に困つている人が利用できたらいいと思います。

上野　佐賀には小さな炭鉱がたくさんあるが、それがつぶれて主人が失業して女が生活の中心になつて働いている例が出ています。そこでこんな事実を聞いてびつくりしたのですが、炭鉱の矢対として働く場合に、組合の中で男女の賃金に差をつけるのです。矢対として国から出ている賃金は平等な筈なのに、組合の中で男女の賃金に差をつけているのです。六十歳の男の老人と、三十の女が働く場合の能力において差がないと思うのですが。

小野　私、今のお話と関連して、私の近所で、道路の拡張工事に女の労働者がたくさんきていますが、働いている実際の情況をみますと、男の働きと女の働きとではだいぶ違うと思います。作業場にきて、十一時半ごろになると女の人はお茶をくんだりしている。やめる時間も違う。女の人は少し早くやめてもんぺいをぬいで通勤用のスカートにはきかえたりしてさつさと帰る。そういう中年の働いている人たちは結局、労働意識が低いために、自分たちで賃金を上げられないような態勢に追いこんでいるのじやないかといいます。ほんとうに賃金を男女同一にもつていきたかつたら自分たちの現在やつていることから変えていかなければならないと思います。賃金にふさわしい労働をするのだという意欲をみせてから、同一賃金にもつていくべきだと思います。

徳淵　それは男女の差ではなくて、働くことに対する喜びがない人は、働きに対してそういう態度をとるのじやないでしようか。長崎県も炭鉱の多い地方ですが、本当に私なんかがお話出来ないほど深刻な生活のための働きをしている。同じ女でありながら、世帯をしよつて使命感をもつて働いている。要するに働きに対する価値判断の違いではないでしようか。

中野　底辺の人たちのことを考えるべきだということ、私も同感で本当に考えていかなければならない問題だと思います。それについて家内労働法が正当に法律化されることを願うわけですが、今労働省ではどんな程度に進んでいるのか知りたいです。

太田　臨時家内労働調査会が昭和三十四年に出来ましたが、そのメンバーはそうそうたる人が並んでいるが、実際に働いている方が一人くらいしかいないということが問題だと思います。

事務局　実際内職をやつている方をメンバーにしても解決はむずかしいと思うんですが、答申を出されたプロセスの中で内職者の実情や声も聞かされると思います。

山崎　内職とかパートタイムとか選ばれる時に気をつけていただきたいことは切実に働かなければやつていけない方々の工賃や賃金を、余裕をもつて働く人たちが安易な気持で働いて引下げてしまわないようにしていただきたい。こういう問題も社会的な連帯感をもつて行動されることを中年層の婦人にお願いしたいと思います。

太田　こういうことは公共的な内職相談所などで調査されて、より

切実な方に有利な仕事をふり向けるようにしたほうがよいと思います。案外趣味でやる人のほうが収入が多いということは考えさせられます。

五十嵐　そういう人たちも最初は趣味で始めたが、働きたいという意欲はもつているのです。

戸枝　それは自分のおかれた立場立場で考えるべきで、一つの筋に統一する必要はないと思います。もつと自由な立場で考え合つて横の連帯をとるということでよいのではないでしようか。

工藤　青森に公共職業補導所があるのですが、近所の方々が農閑期にいくらか収入を得たいというので、私が先にたつて行つてみたら、軍手かビーズの仕事しかないのです。農家の人は、少し中年の方ですとビーズなんかやれないので、軍手にしようということで、一緒にやつてみたら一ダース一日百円。朝早く起きてごはんの仕度をして晩も遅くまでやつても百円以上にならないのです。私なんか始めは五十円くらいでした。どつさり背負つてきて、子どもに十円上げて肩をたたかせてやつている。みんなの手前、二か月やつてみたが一か月に二千円くらいよりならないし、子どもを預かつてくれる所がない。おかあさん方は少しでも子どもの教育費の足しにといつて、農閑期になるとやつているので、補導所の方に、もう少し工賃は高くならないかと交渉しても高くならない。補導所の方も一生懸命歩いてくださるのですが。ほんとうにばかくさくなります。自分に合つた仕事はなかなかないです。

上野　佐賀でも大きな問題です。自分に合つた仕事はないのです。それは若い人にもいえることです。へんぴないなかでは、みかんの袋とか梨の袋をかぶせる仕事くらいで一日に三十円とか五十円とか、ひどい話です。それでも何か収入をえたいし、社会とつながる窓を開きたいという意欲を今の三十代、四十代の人はすごくもつているのです。

工藤　私どものほうは去年あたりから軍手はやめて、子どもに靴をもたせて、近くのパンの工場にいつています。ここだと一時間六十円です。でも子どもの学校の参観日なんか休むと工場の主人が「そんなに子どもがいたましかつたら働いてくれなくともいい」と断わるわけです。だから、子どもが病気でも休めない。といつて一時間六十円の収入はほしいというわけです。

水木（リーダー）　今、若い人が大企業に集中している。一方、中小企業などに手不足の面がずい分出てきているから、そういう所に中年の人がはまりこむということになると思うが、それが一部分にはいつてくると今の軍手の話のように悪条件の中で働かなければならないことになる。つまりそれが中年層にしわよせされる。それをどう解決していくかというと婦人問題として組織的な形で運んでいかなければならないと思います。

組織的と簡単にいつても、先ず足元からどういう形をとつたらいいか。地域によつてはさつき宮崎県の坂田さんがおつしやつたように、横のつながりもない所に、農村の中にいる中年層で何かしようとしても、保育の問題一つにしても一人ではどうしようもないという形の場所がずい分あるわけです。そうしてまた、目先の問題としては、本当に底辺の中で、子どもが何人いても、男の人と対等に働きに出ていかなければならないという人がいて、切実な問題をかかえています。そうすると非常に堂々めぐりするわけです。だから一人の考えでは　結論はなかなか出てこないので

す。けれども若い人たちのやりたがらない仕事もあると思うから、そういう仕事に中年の人たちがまわるようにそういうものをもつと具体的に考えてみたらどうでしようか。

たとえば私どもの身近に考えますと、都会辺ではお手伝いさんという仕事はびつくりするほど優遇されています。こういう仕事に面子があつてつきたがらない人たちもずい分ありますが、子どもをもつていて、毎日でなくても、それから日に何軒か一人でもつてまわつている人もあるし、休みたい時は休むという手もありますし、それから肉やさんの場物なんかやるのはずい分いいようです。

上野　地方には開拓するものがなくて、やつぱり果物の袋をかぶせに行くとか、そんな仕事しかないのです。

水木（リーダー）　まさか機械が袋をかぶせるということもないから、誰かがやらなければならないとすると、そういう若い人がやりたがらないことも中年の人がやらなければならない。その場合報酬が問題だと思います。

徳淵　子どもの成長を通して、自分も成長して、その間に自分に何が適しているか、どこでいかそうかという心の準備が出来ると思います。だから自分が働こうという時に、一つの道をみつけて、その道に進んでいけば、専門じやなくてそれに対する考え方が深いということで受入れてくれる所があると思う。現在はそういう心構えが中年層に出来ていないと思います。私の所は下が中学三年ですが、義務教育の間は出来ないと決めていますので、三年を出たらやろうと心に決めています。心の準備さえ出来ていれば受け入れるところはあると思います。

専門的な技術をもつのは強みですから、少しずつ時間が出来て来た時に自分に適した専門を身につける勉強をしながら家庭で子どもを育てていけばいいのじやないですか。

水木（リーダー）　中年の人がこんなに惨めな、涙ぐむような話になるのはなぜかというと、女の人自身の自覚も足りなかつたことが一つとやつぱり歴史がそういう女を作つてきたと思うのです。良妻賢母で、夫や子に従う一方で育つてきているうちに、自已と隔絶して中年になつて、何をやろうかというとき、受入態勢は全然用意されていないので、あつちへよろめきこつちへよろめきして、最後に底辺のつまらない所で苦しむというのは、結局は自分の問題ですから、自分がやはり自覚することが第一ですね。

それは社会が悪いのだと、人の故にする前に、今の中年層のこういう問題は、今までの無自覚性から出てきたことで、何一〇％かの責任は自分にあつたのではないかという、それくらいきびしい批判をもつべきだと思います。そしてすでに今日、そういう立場で来てしまつた人たちに対しては、同性として一しよに考え、道を開いていく。あまりウエットにだけいつていても発展しないのではないか。そういう意味でさつき出た具体的な話で、袋をかぶせの仕は季節的にだめだとか軍手は安くてだめだとか言われましたが、どんな仕事でもこれは満点だという仕事はないと思うんです。はたでみていてよさそうにみえる仕事でも、その道にはいつてみればなんだつてすごい犠牲もはらわなければならない。では、それをどういうふうに考えたらいいか。

大元　若い層は職業意識がないといわれるが、その人たちは今の中年層の人に育てられたわけです。本当に成長した重量感のある人

間性でもつて、中年のひまのある人が若い層に対して精神的な教育をするような方向についてほしいと思います。

五十嵐　たしかにそうですね。それで、働かなくても生活に困らない人は、その余暇を社会奉仕などにいかしていくことも尊いことだと思います。私、毎日のように保護司とか、団体の役員とか、いろいろの役目で会合に代表で出るわけですが、こういう生活でいいのかと、時には疑問をもちますが、十人の保護監察の少年を預かつていますと、ちよつともひまがない。五日も六日も家をあけている間に、家はどうだろうと心配になることもあるが、そういう生活も中年の人にはあつてもいいと思います。

戸枝　今のお話のように社会奉仕の出来る層と、ぎりぎりの生活で社会奉仕は出来ないという層と、それから食べるには困らないけれども収入がなしで働くのは困るという階層といろいろあると思いますから、そのいろいろの筋道をわけて考えていくのがよいと思います。

ではこの辺でひとつオブザーバーのお二人の先生にご意見をお願いしたいのですが。

篠崎（特オブ）　私の属している会は友の会といつて、中流階級の方たちの集まりで、私は昨日から、家庭第一というお話をきいてやはり友の会も同じ考え方で、家庭を本当によくすることによつて社会をよくするということですが、しかし同時に社会を切離しては家庭がよくならないということを申し上げたいと思います。子どもを持つた方が、学校の先生になることによつて、母親でなくてはならない教育が出来るということ。それと同時にその職場を通して自分も育てられることによつて広い視野に立つて自分の子どもを育てることができる。つまり家庭の中にもそれが大きなプラスになるものだと思います。女はどうしても家庭の責任者ですから、社会の仕事を男性と同じラインに並んでしなくても、男の方に協力してやつていきながらやつていく。また家庭の中でも女だけじやなくて、男と一しよに協力してやつていく。家庭をおろそかにして、世の中のために社会奉仕するとか、収入があるからといつて仕事にただとびつくのではなくて、家庭にプラスになるような仕事にもつていくべきじやないかとは思います。

黒川（特オブ）　YWCAでは初めから奉仕ということを大へん重んじて、賃金のためでなく、本当に社会に必要なことに奉仕する。本当の奉仕というのは恵まれた人が恵まれない人にして上げるのではなくて、まわりのひとたちと一しよに社会をよくしていく。ボランテイアという言葉がよく使われますが、その意味です。このごろの若い人たちは奉仕ということよりも、これだけ働いたからこれだけの報酬をほしいというように考える。それは年令や時代の差もあるでしようが、職業ということと、社会をよくしていくための奉仕ということは、時代が変わつてきても両方あると思います。自分だけよくなればとか、余裕があるから奉仕するということでなく、自分のまわりを見まわして手をつなげる人はつないで一しよに社会をよくしていくということです。

水木（リーダー）　私の知つている薬店のおばさんで、ご主人も子どももあつたが、終戦後地べたに物を並べて売つていて、てきやにビンはねされたりしていたが、その後、闇市的な仕事がだめになつてから時々方々の家に手伝いにまわつたりして、働いていました。ですから生活が豊かではなかつたが、積立金をして仲間の

人たちと一しよに団体旅行をするだけが楽しみで暮しているのですが、一か月に一度は必らずみんなで養老院にいく。その時、本当に零細なものをかき集めていく。けれども中流家庭の人たちははあまりそういうことをしていない。そういう人たちの生活は、団体旅行を楽しむこともやつているし、働くこともやつている。しかもお手伝いに行つて、困る家の場合は安い賃金で助けてあげる経済力のある家からはそれに応じた賃金をもらうというふうに、融通性をきかせている。あれをみていると、なるほど余裕が出来たからやるというのではなく、下積みの人でもああいうふうにしている人がいるのだ。みんなが組織化されれば理想的でしようが黒川さんのお話のように、仕事に余裕が出来たからということではないのです。

黒川（特オブ）　社会の連帯責任ということも考えていただきたいということです。

水木（リーダー）　話をもとに戻します。今の中年層の問題、結局一番最低にある、本当に切実に働かなければならない層をどうするかということは、具体的には出てきませんね。今の段階で私どもの力ではどうしようもないことです。けれども、それを促進する方法はないかということで問題が出ているのに、どうしようもないと投げうつてしまつていいのかどうか。何か意見ないでしようか。先ず各地区の末端でそれをほりおこしてきて、それがだんだん横にふくらんできて労働省で、それを取り上げなければならないようにする。

事務局　婦人少年局としては各県に婦人少年室がありますから、皆さんお帰りになつて地元での問題でお考えになることがありましたら、室長のほうに遠慮なくご注文下されれば、中央に吸い上げられますから。

太田　富山県の地域職業補導所には五人しか指導員がいません。県下に五人というのは少いので、そういう予算も考慮していただきたい。自分が予期していた賃金より工賃が低かつたということがありますので、ご考慮いただきたいと思います。

五十嵐　やつぱりどうしても生活のために働かなければならないという方は、どの地区にも民生委員がいますから、相談なさるのがいいと思います。

太田　内職でも収入を得れば、生活保護費を引かれます。

上野　私の地域の炭鉱地帯で、保護家庭になると最低の生活費が支給されますが、何か仕事をして収入があれば、その分だけ保護費から引かれるから、働かないで遊んでいるというのは矛盾していると思います。

水木（リーダー）　電気冷蔵庫をもつているから、保護を受られないということで自殺したという事件がありましたね。

五十嵐　私の知つている人で、子どもが成績優秀なので高等学校に上げたら、学費が出せるくらいなら困る家じやないからというので生活保護費をうち切られるというのがありまして、私たち市へ説明しに行つたことがあります。そんなに規則ずくめでなくて、まわりの人がカバーし合つてなんとかできる方法がないものでしようか。

水木　それにもいろいろ問題はありますが、今ここで話し合う中年層の困窮者というのは、生活保護法としての困窮者のお話ではありませんから、話を戻しましよう。

坂田　生活保護を受けるほどではないが、教育資金なんかがかかるので、それを生み出すために仕事をしよう。たまたま私の場合は保母になつたのですが、これは自分が子どもを育てた経験を通して、忙がしい農家の人が保育所につれてきた子どもを育てて、収入を得ると同時に、自分は自分なりの仕事に対する情熱をもつてやつていこうと思つたわけです。けれども、年がいつているので若い人たちに仕事をとられてしまつたのです。といつても若い人たちが私どもが納得して引き下がるほど仕事にうちこんでいるわけでもないが、資格が高等学校を卒業している人とか、旧制の女学校を卒業している人とかというように制約されている。自分の力で資格をとれるようにもう少し窓を広げてほしいと思います。

上野　坂田さんと同じ部屋で坂田さんの住んでいられる地域の環境を知つたのですが、問題をたくさんもつている地域で、義務教育さえも受けられない環境の中で生きている人がたくさんいる。しかも坂田さんのように中年になつてなんとか一人で勉強している人たちがどう生甲斐をみつけていくかということは本当に大事だと思います。

甲斐　産経会館の中に産経学園というのがあつて、いろいろ習いたいと思う科目がずらりと並んでいる。都会にはああいう便利なものがたくさんあるのに、地方のあつてほしい所にはそういうものがないわけですね。

戸枝　都会では本人が意欲さえあればありすぎるほどあるのですがただそれを漠然とじやなくて社会に還元出来るような勉強をする場を設けてほしいと思うのです。

甲斐　今年、沖縄に行つたのですが、沖縄にシマチャビという言葉がある。離れ島という意味でこういう地区は政治の恩恵はあとまわしにされて、社会のひずみが大きくなつた中で、本当に苦痛をもつている。それを掘り下げてほしいと思います。

水木（リーダー）　坂田さんの場合は一緒にやる人はないのですか。

坂田　宮崎にその資格をとる講習に行つた時に、方々から出て来ている人がいましたが、私より年上の人が多かつた。私、本当に働こうと思つていたんですが、こんなにお金をかけて、本を読んで資格をとらなければならないというのです。そういう人は宮崎県だけでなくどこの県にもあると思います。

　季節保育所はいなかでもだんだん少なくなつて常設の保育所が出来ますが、そういう所には資格のある人のほうが優先的なのですね。その時みんなで話したのですけれども、私たちにだつて、子どもの髪を切つてやつたり、つめを切つてやつたりして、母親から離れている子どもを自分の子どものように世話することくらいできるつて……。

　町ならビルの掃除婦でも仕事の種類はいくつもあるが、いなかでは仕事の種類もないし、内職も材料の運賃がかかるから全然ないんです。

水木（リーダー）　体をもつて自分で出ていくよりしようがないですね。

坂田　そうやつて出ていつたら、家庭をどうしたらいいか。今まではそれだけに頼つて生きてきたような状態ですから。

　昨日、職業をもつている人たちの話を聞いていたら自信がなくなつた。生理休暇にしても農家の人はそんなものとつていられませんし最初第二部会にきて、くる所が違うような気がして、お尋

ねしたら、「働く婦人の問題」といつても職業をもつて働くだけでなくて、家庭で働く主婦もあるし、また収入を得て働いている人の中でも、雇われて働いている人もあれば、自営の人もある。そういうものを全部引つくるめて考えているということでした。自分は職業をもつていなくとも、働く婦人の問題を一しよに考えようという立場の方も、この部会に入つていらつしやる。

水木（リーダー） たとえば独身者が家庭婦人という問題のグループにはいつてその問題を話し合つてもいいわけです。これから働こうとする人でもいいし、そのことに関心をもつている人でもいい。私は中年層の問題は簡単にすらすら通ると思つていましたが一番難関で驚いてしまいました。

上野 一番切実で、しかも特別に資格なしにここまできたことが間違つているのでしようが坂田さんと同じような環境で、そういう生活の繰返しをしてきた人が大部分だと思いますが、やつぱり石は自分に向かつて投げられなければならないのです。

水木（リーダー） それは結果からいうことで、やつぱり歴史が女性というものをこういう状態においているのだと思います。

織田 今までのお話、私の地方では考えられないことです。私の所では大手をあげてみんなが働ける仕事があるのです。うちで内職をしている人は知能度のずつと低い人で、中学で特殊教育を受けて、どうにもならないような人にはミシン工場のけば取り仕事がありますが、そんな仕事は一人前の人の仕事と認められない。まだ、もつともつとたくさんの人が来て働いてもらいたいということです。現に七時間四十五分働いて、女子でも二万五千円、うちの母でも七十ですが、内職で七千円くらいとる。ですから、二万五千円とるならまともな人はとても内職なんか出来ないです。

水木（リーダー） 福井県は織物の盛な所だからそういう所はいいでしようが、みんな福井県に移動しちやうわけにもいかないしね。

戸枝 産業を誘致するよりしようがないですね。

織田 いくら自動化しても仕事はあるといつています。女子の定年は五十歳ですが、定年過ぎても五・六年は使つてくれるし、目さえあいていたらそれ以上は内職します。

工藤 それじやあ青森県の人は知識が低いということになりますね。

水木（リーダー） それはやつぱりその国の豊かさとか、地味とか環境によりますね。

たとえば坂田さんのような問題は机の上で考えても急に解決できないけれども、こういうようによその地域の方といろいろの意味で連絡をとつて相談じ合つていくきつかけだけでも出来たら、それを根拠にして解決の方向にもつていくことも可能だし、ずい分心強いと思います。

戸枝 けれども坂田さんが勉強なさるということについて、何かお手伝いは出来るのじやないでしようか。こういうものがあるという資料を送つてあげるというようなことで。

水木（リーダー） それではこれで午前のお話合いを終ります。

（休　憩）

（再　会）　（一三・三〇～一七・〇〇）

水木（リーダー）　昨日先にやりました六の「学童保育・乳児施設幼稚園」の問題の中で、乳児施設、学童保育と一しよに書いてあるけれどもどうでしようか。一しよでよろしいでしようか。経験、実例、希望、農村まで含めて促進するにはどうしたらいいか」ということについて意見を交換するということで、例という所で時間がきてしまいましたね。

笠原　実例のところで、一部の奉仕にもつていくだけでは継続的なものでなくなるから、市町村地域の政治的な所にまでもつていかなければならないというので、市町村単位として実情を訴えよう、市の予算なり町の予算なりを獲得して、施設を作るようにしなければいけないという所までいつたと思います。

水木（リーダー）公費によつてまかなわれなければ、いつまでたつても発展しないということですね。

太田　公費でというのはまつたく同感ですが、その前に考えてみなければならないことがあるのではないかと思いましたので実情をみながら考えたのです。

それは地域の婦人会の善意でやつている施設で、その地域には百五十人の疎つ子がいましたが、その中から低学年だけの希望者をとつたら、二十人しか希望者がいなかつたということ。それから児童館でやつているのをみましたが、そこで世話をしている方の話に、自覚なしい働いてる奥さんが多く、ずい分問題があるということでした。

たとえば、親が働いているから子供が可哀そうだというので、小遣いさえたくさん与えておけばいいというように、子どもの教育について無関心な母親が多いわけです。もう一つ学校の先生がお世話していらつしやるのも拝見したが、そこでもやはり自覚のないおかあさんという言葉が出ましたので、働きにいつている母親の物の考え方をどういうふうにすればいいか、私は、学童保育と並行して働くおかあさんの教育という方面を合わせ考えてやらないと困る問題があるのじやないかと思いました。

私たちの地方は働くということしか考えないところで、学校にも家庭教育学級やPTAの会議などがあつて、その都度子どもを通じて、是非来てほしいという通知があるが、働くことに追われて出席する人はないわけです。私はなんとか時間をさいて学校に行つて、勉強したり話を聞いたりしますが、その内容は私たち働く親が聞かなければならないような問題ばかりです。けれども、みんなが出席しない理由の一つは、いつも一時から四時までというので貴重な時間を休みをとつて行つても、始まるのが二時、終るのがずるずると遅れるというやり方なので、つい時間にしばられて働く人はもつたいなくなつて行かれない。それから、会社で働いている人は、そういう煩れがましい所に出ていくには先ず着て行く物から劣等感を感じる。どうしたらよいか。それで何かよい策がないかということで、子どもをもつている親に一人一人当つたわけです。最初、小学校に行つている子どもをもつている親を対象に「疎つ子」について勉強してみる気はありませんかと相談をかけましたら、みんな快よく受けてくれましたので、去年の四月に百十人の希望者を集めて、皆の都合がいい日を決めることになりました。二部制の人もあり、全部がでるにはどうしようと

いうことで、月一回、公休日の午後一時半から三時半と決めました。月に一回でも勤業を片手間にしている人もありますので、その都度、今度はどういうお話だからぜひ出てください、というふうにさそつたり、話の内容もみんなの意見の多いものを次回にするというようにしたりして始めたのです。一回目の出席はいい成績で九五%だつた。第二回目はどういうふうにして集めるか、自分のあるだけの知恵をしぼつたのです。それで、次の集まりまでの一か月の間にこの学級のことを忘れないように、毎月その会には必らずアンケートをとるようにしました。たとえば「あなたは自分の子どものかばんを毎日見ているか」とか、「小遣いはいくら与えているか」とか、そういう単純な問題です。また、一週間くらい前になつて、みんなに手紙を出して、「もうお忘れになつていませんか、今度はこういう話をしますから、ぜひ来て下さい」それでも二日ほど前になると心配なので、また時間外にまわつて歩いて来て下さいよと頼んだのです。ここまでするとと無断で休む人はいなくなつて、どうしても出られない人は、理由を言つてくるということで、いつも出席率は九〇%以上でした。そうして二十時間の家庭教育学級の課程を終了しましたが、「子どものかばんを見ていますか」というアンケートの答えでは、見ていない親が多かつたし、またある母親はアンケートをもらつて、自分の子どものかばんをみたら、よその子どもの鉛筆や消ゴムがはいつていて非行一歩手前で救われたと喜んだり、いろいろな勉強が出来て、今年も是非続けてほしいと要望が多いのです。

太田　それは本当に自発的になさつたのですか。

織田　皆さんで考えて集めるのも、手紙出すのも、アンケートも自分一人でやりました。その後、勉強だけでなく、楽しむこともないといけないと思いましたので、「親子でロマンスカーで出かけましよう」ということにして、百円の会費は多過ぎるので毎月五十円の会費にして、足りない分は組合と会社に交渉してそれぞれ三万円ずつ出してもらいました。初めて親子でロマンスカーに乗るという人が四組もありました。それでNHKとか裁判所を見学したりしました。

太田　会社と交渉なさつた時に、会社でどういう態度でした。

織田　会社は教育という名がついたせいか、とても歓迎して、最初から喜んで、会場も無料で提供してくれるし、ノートやまんじゆうを寄付してくれるやらでした。それで一番先に子どものしつけから始めたわけです。

上野　織田さんは会社のどんな地位をもつているのですか。

織田　工員です。組合の役員もしたことがあります。

太田　実に素晴しいことだと思います。というのは、児童館に見学に行つたとき聞いたのですが、児童館は政府や役場から補助が出て建てたもので、迷つ子対策というのでなくて、だれでも希望する子どもは行けるわけですが、そこに来ている子どもを合計してみると、迷つ子の半分しかきてない。あとの半分の子どもは、ピアノや英語を習いに行つたりしていて、うちの子は不自由させてないからそういう所へ行かなくてもよいということだつたそうです。そして、迷つ子のほうが、おかあさんが家にいる子どもよりも服装が派手だという話を聞きまして、そこらに考えなければならない問題があると思いました。

徳淵　話が初めにもどりますが、家庭をもちながら働く場合、本当

に働かなければ生活出来ないということならわかりますが、物質的に豊かな生活をしたいという欲望のために、子どものことを他人にまかせて、自分が外に出ていくということは考えるべきではないと思います。

太田　おかあさんが働く場合、目的意識をはつきりもつて、子どもにもよく納得させ、ご主人にも理解してもらつて働くようにすれば問題はないと思います。

水木（リーダー）　家族教育ということについて考えてみると、各自の家庭で理想的に行なわれるだろうか。また行なわれてきただろうかということを、もつと根本にさかのぼつて言えるのではないか。こんな母親にまかせておくくらいなら他人が責任をもつたほうがいいという家庭もずい分あるのではないでしようか。

太田　それから共稼ぎの場合は、子どもとの接触時間が短いかわりに、密度の高い生活が必要だと思います。それを研究すれば、ある程度カバー出来ると思います。

山崎　今、働きに出るおかあさんが、本当に自覚をもつているかという記事が地域の新聞に出た。鍵つ子が、遅つ子と呼ばれることに対して投書したもので、とても感心したので、読ましていただきます。

「私は小学校一年から中学校一年の現在まで遅つ子として成長してきましたし、私の遅つ子の生活は今後も続くと思いますので遅つ子の意見を申し上げます。私も遅つ子が青少年の非行化につながるという一部の考えは理解できない。では大人や、遅つ子でない子どもには非行はないのでしようか。私は小学校一年から両親の留守を一人でちやんと守れるのだという誇をもつてやつてきました。来客や用件をメモし、間違いなく伝えるために平仮名を覚えて紙きれに書くのが楽しみでした。遅くなつても両親が帰らない夜、台風の時、夕立のとき、病気で学校を休んで寝ている時もそれを辛いとは思いませんでした。辛いのは私でなく両親だつたと思います。子どもだけを残して働きに出られるのは、両親がそれだけ子どもを信頼しているからだと思います。私は両親のこの信頼に応えるために一いつぱい勉強しているのです。遅つ子を心配して下さる皆さん、私は留守家庭を立派に守り、力一ぱい自分を伸ばすよう頑張つていきます。遅つ子は苦しみにも辛らさにも負けない力を両親から学びとつてきました。それは本で読んだり話に聞いたのではないのです。この目で、心で読みとつたことなのです。これからの遅つ子に期待していて下さい」

両親が自覚をもつて働いて、接触する時間が短くても細かい配慮があれば非行化されないと思います。だからといつて学童保育が不必要というのではないが。こういう遅つ子もいるということで、あまりしめつぽく考えないでもなんとかなるのじやないかという気もするのです。

五十嵐　やつぱり両親のあり方だと思います。私たちも母親グループといつていますが、内容は家庭学校のようなものです。これは子どもを心身ともに健やかに育てよう、子どもを幸せにしよう。自分の子どもだけでなく、地域社会の子どもを私たち母親同志のつながりで立派に育てようという目的ですが、この間、碓氷峠のすぐ下の宿場町で、農村地域の方々の話合いの集まりがあつて、私も頼まれて出席しましたら、八十人くらいのおかあさん方が、刈入れで忙がしい中を集まつてきました。私、そういうお母さん

たちが考えていることを投稿してもらつて機関誌を出していますが、その中で、あるおかあさんが、きようは雨が降りそうな空模様なので稲刈りをしてしまわねば困るということで家中の者が田に出ている。しかし自分は話し合いの集まりに出たいという気持で迷つていたら、主人が思いわずらわないで行つておいでといつてくれたので、末の子をおんぶしてかけつけた、というのがありましたが、みんな子どもを預けて、働いている人たちです。農業をやつているおかあさん、それから横川の釜飯弁当を作る会社に働きにいつているおかあさんもいます。その中に、きよう話をするためにひまもらつてきたという低学年の先生もいて、子どものお小遣いの問題とか、テレビの問題とか、しつけのことなどについて話合つて、大へん勉強になりました。私自身も子どもを保育園において働いているので、子どもには全然手がのばしてやれないが、このときの話合いの中でも、家に帰つて子どもと接触する時間は短いけれども、それだけに気をつけてやつているというおかあさんの経験が出て、親の考え方ややり方で子どもがみんなおかげで健やかに育つているし、不良化はしないのじやないかということで結論が出ました。やつぱり父母の生活態度というものが一番子どもには影響するのじやないかと思います。

織田　それから、子どもに実際母親の働く尊い姿をみせることもいいことだと思います。おかあさんがあんなに働いているのだからというので、ちらかし放題だつたのが片付いていたとか、いつも親がいないので道草ばかりする子に、愛の伝言というのですが、小さい黒板に、お八つがどこにあるからそれをたべて遊びなさいというようなことを書いておくと、子どもは、きようはここに又なんと書いてあるかと楽しみながら帰つてくる。それで帰宅時間が決まりよくなつたということもききました。

太田　ある小学校では三百四十三人遅つ子がいて、その中で先生が問題がおきそうな可能性がある子どものリストを作つた。そういう子どもが二十四人いたので放課後図書室を解放して一人の先生が監督することにして呼びかけたが、返事が返つてきたのが十二人だつたそうです。やはりそこらへんに問題解決の糸口があるように思うのです。

富山県ではずい分遅つ子が多くて、六年生で六五%もいるということで、学校でずい分一生懸命対策をたてていますが、その一つに親子視聴ということを呼びかけています。それは親子で同じ番組をみて、そのあとで話し合う。それから二十分間読書。―これは子どもかおかあさんが本を二十分読んで、その間、どちらかが聞いている。そしてあとでそれについて話し合う。それから、親子日記。―これは子どもが日記を書いておいておくと、子どもが寝たあとでおかあさんがそれを読んで一行か二行書き足しておく。すると明日子どもが日記をつける時に、夕べおかあさんが書いておいたことを読む。そういう指導をしていましたが、そのうちの一つでも実行したら効果があつたという実例をみて、そういう技術的な面で相当前進出来るのじやないかという感じをうけたのです。

上野　その線についていけない親のあり方ですね。無自覚な親といいますか、どんなに手紙を出していつでもいいから、ひまな時に相談しましようと言つても梨のつぶてというのがある。そういう層をどうしたらいいかというのが学校側で一番問題になることな

のです。

太田　返事をよこさない十二人のおかあさんというのは、やはり収入が多いほうがいいというので夜遅く帰つてくるような職業についているおかあさんです。遅く帰るから朝は起きられないということで、学校を休む子どももある。そういうのはおかあさんに反省してもらつて、たとえば収入は少なくともつと堅実な職業に変えるとか、考えてもらいたいと思います。

上野　内職であくせくしているような場面がテレビのドラマなんかに出てきて、その時のせりふに「とうちゃんに甲斐性がない」とかいうのがありますが、子どもに働く親に対する正しい勤労観とか、価値観があればいいけれども子どもへの影響がよくないと思います。それはテレビだけの問題ではなくて、おかあさんが愚痴つぼく、そういうことが生活態度に出てくることも問題じゃないかと思います。

水木（リーダー）　母親の自覚は当然必要ですが、最低の中で、ただ金だけとればいいという生活をしている人は、そういう意識もないのですね。ですから、そういう人が母親だからといつて、母親らしい責任をその人に押しつけて子どもをまかせておけないのです。それで私たちとしては、そういうやり方でなくて、足りないものを補なうという形で、子どもにも理解されるのでないと、いつまでたつてもこの問題は、生活とのアンバランスで繰返されていくように思うのです。

上野　そういうおかあさんだつたら、むしろ完備した施設の中で育てたほうがいいと思います。

私の地域に専売公社がありますが、ここは女性の職場ですから乳児から満三才まで預かつてくれる非常に完備された設備があります。ところが私がひまな時に行つてみますと、子どもたちが手をのべて「だつこ、だつこ」というのですね。三十人も四十人もよちよち歩く子がベットに入れられていますが、だつこ、だつこというのは、甘えているのではなくて、子どもが本能として母親の肌を求める。それをがまんさせて、泣いているがほつておくと泣きやむ。すすり泣きながら眠る。そういう生活が訓練になるのか。それとも淋しさの変型が心の中に残つて人間の感情生活を作つていくうちにしこりになるのか、考えさせられて帰つてくるのですが、

水木（リーダー）　やはりベテランの人がバランスを心得てやれば言うことないと思いますが、小児科のお医者さんに聞くと、いろいろ意見があるようですね。

坂田　石浜さんという人がイスラエルのキブツというのを研究して書かれたものを読みましたが、共同生活体で子どもはみんな保育所に預けて、一日二時間ずつおかあさんのもとに子どもを帰すのだそうですが、その子どもたちに全然非行化もないし、おかあさんの個人の個性が全部子どもに現われるくらいおかあさんの影響を受けているということです。

五十嵐　今、施設で人手が足りないということも実際ですね。国の規則で保母の人数は決まつているけれども、今の規則では子どもに細かいところまで世話がしてやれない。施設を作る以上は中の保母の人数を十分確保していただきたいと思います。

水木（リーダー）　今までのお話合いで、六番の(イ)についてのご意見は大体出たと思いますので、ここでオブザーバーの方々にご意

見を聞かしていただきたいと思います。

篠原（特オブ）　私、育児の専門ではありませんので よくわかりませんが、学童とか乳児とかいうのはあまり一括して考えるべきではないのではないか。乳児はやつぱり、乳の出る間はおかあさんの所で育てられるがいいのじゃないかと思いますが、どうしても働かなければならない方のために育児施設が完備されることは望ましいと思いますけれども、学童くらいになつたとしても、おかあさんに意識さえあれば一人で家においてもよいというふうに簡単に、大ざつぱに言えないのじゃないかと思うのです。毎日々々おかあさんのいない所に帰つてくるのが本当に教育的なのか。その子の強くなるためにそれが必要だということも考えられますが本当にその子どもに対して今、現状でどうしてやるのが一番いいのかということをもつと大事に考えた上で、自分の仕事との両立ということをていねいに考えなければならないのじゃないと思います。

水木（リーダー）　現実問題として、どうしてもおかあさんが働かなければならないという、そういう人のことを中心にしてこの保育の問題を考えたのですが。

篠原（特オブ）　そういう方のためには、本当に手をのべなければならないと思います。

その場合、今の生活でどれだけの収入が必要で、それを得るためにどういう方法がいいかということを考える。ただ収入が多ければいいということでなく、間に合う範囲で仕事を考えて、そのために子どもを第二義的に考えないようにしなければならないと思います。

工藤　私の長男は今中学校三年生ですが、その子の生まれる前には学校の先生をしていました。子供が生まれたので退職して四つくらいになつてからお手伝いさんを頼んで復職したわけです。そうしたら任地が僻地になりましたので、毎日通うわけにいかない。そうしたら、男の子なのでお手伝さんの手におえないわけです。一週間に一ぺん土曜日に帰つてくると、近所のみんなに子どもがお世話になつているので、もらつてきた魚を配つて、頭を下げて歩くわけです。子どもは親の目から離れているので乱暴で勝手なことをするのです。収入はあつても、子どもの将来のことを考えたらとても心配になつたので、つれていつたり、いろいろしてみたがどうにもならないので、とうとう学校をやめてしまいました。そのときついた習慣を直すのに、十年かかりました。今十四ですがようやく一人前になつて、よその方に、よくこんなに素直になつたといわれるようになりました。けれども、やつぱり親からまるつきり離すことは考えるものだと思います。

黒川（特オブ）　それは原因で、子どもを預けてもどうしても働かなければならない人もあると思います。うちの近くに子どもをバスに乗せてわざわざ保育所に預けてから働きに出る方がある。そういう人のために公費でたくさん保育所を作るのが理想ですからなんとか与論をそういうふうに向けるようにすることが大切だと思います。

甲斐　私の町に作つたのですが政府の公認にならないのです。

中野　今、学童保育所を文部省で日本中に五百か所くらいは作つています。これをずんずん広げていつてもらうことは大事なことです。しかし、今やつている所にも問題はあるので、それを改善し

てゆく必要がありますね。

太田　学童保育の必要性が、鍵つ子と関連して叫ばれてきたのですが、鍵つ子も大切ですが、さらにすすんで学童全体を対象とした児童館形式のものがふえるほうがいいのではないかと思うのです。

工藤　児童館を建てるということは予算がないのでなかなか出来ません。

戸枝　出来てもやはり家の近くでないと。電車に乗つて行くのではかえつて危険でしようから。

五十嵐　立派すぎると子ども簡単に寄りつかないでしよう。高崎市の郊外ですが、児童館というと、理解しない人がいるから、町内の集会にも婦人会の集会や子ども会にも、どんなものにでも使えるようなものを建てたいということで、区長さんにお話したら、少しでもよければ出しましようということになつて、百万円出して下さることになりました。それを四月ごろ下さるそうですからそれを種子にして私たちが芽を出させてだんだんに育くんでいつて児童館のようなものを作りたいと思つています。そういうような運動は、一つのきつかけがあつたら皆さんで、話し合つて進めていけるのじやないかと思います。

太田　児童館の建設に対しての国の補助は少なすぎますね。運営費にしましても二十万が県から出るだけですが、実際は一年間に八十万円かかります。今全国で八十八か所だそうですが、こういう方面にもつと予算をとつていただきたい。

それから行政面においても、地方の教育課が扱うところと、福祉課で扱うところとあつて、扱う窓口がはつきりしていない。こういう点も国としての態度をはつきりうち出していただきたいと思います。

上野　国の、子どもたちに対する政策が、学校の問題にしろ、表面だけで中味がないような気がするのですよ。児童館にしても、ソ連や中国の話を聞きますと、素晴しい宮殿のような所で、たくさんの指導者がいて自由にやつているのですが、日本では児童館を作つたものの、どこかを退職したおじさんがそこの会長になつてなんの魅力もないような運営の仕方で、しかも遊び道具といえばこわれかけたものがいくつかおいてあるというような状態です。

水木（リーダー）　むずかしい問題で、ここで短時間に考えても、実行方法はなかなか出てこないでしようが、当然施設が公費で各地区に十分作られなければならないけれども、そこにまた、今もでましたように、おかあさん自身がそういうものにあぐらをかいてしまつて、自覚がなくてまかせつきりになつたという大きな弊害が、そこから生じてくるということ。それから、現状下で一つの施設がそこにあるとしても、そこで働く人たちの今の社会的位置とか、広島の大元さんが書いていらつしやいましたように、保母さんの労働時間が二十四時間であるという問題とか、そういう大変な問題があるわけです。そういうことはすべて政治のほうから真先にやつてもらわなければならない大事なことですが、そこに働きかけていくことは、やはり女の人自身の、母親としての立場からの声として反映させなければ、いつまでたつても天降りをまつていなければならないということになります。

山崎　愛知の地方会議でも、やはり女の代表を県会なり国会なりに送らなければならないのじやないかということが出ました。

甲斐　政治はいつも日常生活につながつているので、地方に女を参

加させなければいけない、という意見が地方会議の時も出ました。家計簿をつけるのも政治参加の一つであるという発言がありました。

水木（リーダー）　そういうことについての具体的な姿勢は各地方の各種事業で工夫されなければならないと思いますが、実際に施設を作つていく段階で、いろいろの問題を同時に処理していかなければならないと思うのです。おきてくる弊害にしても、先に考えていただけでは手も足も出ないから、必要の線にそつて、どういう運動をして、どうゆうふうに作るかという足許から運び出さなければならないと思いますから、今日の会議の段階ではそこまでにとどめておきまして、具体的な方法については、もう少し各自の中で燃焼してからでないとカラ回りに終りますから、今こそは、早急の問題として、まず皆の声を反映させる場をもち、それをどういう形で実現にまで発展させていくかということをもう少し具体的に討議したかつたのですが、それに附随する問題が社会的問題としてあるので、今日のお話合いでは基本的には政治につながるというようにおちついたわけです。

戸枝　地方自治で、区というような下の行政基盤でやつていくと、割に声を通しやすいのではないかと思います。日常生活と密着して動いていますから。社会教育の面ですと、社会教育法というのがあつて、社会教育を受ける訓練があるということを知つていると、案外気軽に自分の要求をもりこめると思いますが、実情は、折角社会教育指導主事が各区に二人くらいずついるのですが、自主的に自分のほうから頼んでいくというケースがないらしい。何こうから手をさしのばしてもなかなかついていかない。だからもつたいないと思います。保育所のようなことでも、個々のそういう機関に下からぶらさがつていけば、順々に解決していくのじゃないかと思います。

水木（リーダー）　個人の寄付とか、そういうことばかりあてにしていてはだめですから、本当に要求の届く線にそつてやつていくべきだと思います。

太田　現状をよくみつめて必要度の高い所から順々に手をのばさなければなりませんし、ボランテイアでやつているところへも手をさしのべて、同時に国家としてどういう対策をたてるかという大きな計画も平行的にやつていかなければならない段階と思います。

笠原　運営の面で、日本の児童会館は魅力がない。中国の少年文化宮などは、先生自体が若手のすごく魅力のある人です。文化宮は方々にできているから、子どもは学校から帰るとそこに行つて、大きい人はグライダーを作つたり、ラジオの組立を勉強したりしている。彼らの表情はいきいきして日本の子どものように受験、受験でおしまくられている子どもと違う。あと五年、十年たつた中国を想像しただけでもととても素晴しいと思つて帰つてきた。

山崎　日本ではまだそういう所に専門の指導者をおくほど重要性が考えられていないのですね。

水木（リーダー）　日本には、なんといつても母親にこしたことはないという考え方が伝統的にありすぎたし、専門家は必要ないということも前提にあるかと思いますが、そういうことはもつと尊重しなければいけないと思います。人格的にも、健康管理にしても、精神面の指導にしても、専門家は必要だと思います。

上野　何か予算をいただこうとしても、役所をあちこち歩いて、結

局だめだつたということがある。その間に意欲も情熱も失なわれるようなことが多い。

太田　私がひばり学級を造つたときも、どこに相談に行けばよいかわからねくて、結局、婦人少年室へ行きました。

水木（リーダー）　施設の問題でも、保母の手不足の問題でも、待遇の悪い問題でも、全部そこで認識がストップしていたということに問題があると思うので、先ずそこを振出しとして、PRもしなければならないし、婦人たち自身がそういう運動に参加する場合、レベルの高いものを要求していくべきだと思います。たとえば一般の家庭に子どもを預かるという制度があるが、責任をもつて世話するというのは大へんな問題ではないか。子どもを育てた経験があるからとか、女だから子どもを扱うのは得手だろうというように簡単に考えているが、そんなものではないと思います。これは大へん価値のある仕事であるが、実行していく上に大きな問題がおきてくるだろうということを覚悟し、しかもみんながそれを押し上げてやつていかなければならない。今日の段階は、そういうところだと思います。

一応以上で、この問題を終りますが、次の第七の項目「子どもの教育について」はとばしました。

八番にまいります。「職場における男女差別について」この問題をお書きになつた方に説明していただきましよう。

宇田川　女性には何か男性に頼るという気持がある。これは一番女性にはなくしていきたいことだと思うのです。会社の小さな会議でも、自分の意見はもつていても発言しようとしない。そういう女性の側からの問題と、男女の差別待遇の中で一番の問題はやはり賃金の差別です。初任給は同じであつても、男性のほうが賃金の上がる率も多い。これは生理休暇の問題にもからんできますが。

笠原　学校の先生は比較的男女の賃金が同じですが、教科責任者とか、主要なポストに男が多くつく。それから学年主任でも男の人のほうが重要なポストにつくことが多い。それから教頭になるには校長からすいせんしなければ試験を受けられないが、女の人はなかなかすいせんしてくれません。

宇田川　今までの観念から女だからといつて一口に軽べつされてしまうことが多い。女の人は一人が失敗すると、全部女だからというようにみられるのです。

五十嵐　学校の先生の問題が出ましたが、県によつて違います。高崎の場合は学年主任はほとんど女の先生です。女でも男でも学級を掌握していける実力があれば主任にする。高崎には女の主事も出ました。

中野　しかし全般的には笠原さんがおつしやつた状態ですね。

上野　そういうことはとりまいている男性の理解がなければ、いかに能力があつてもだめですね。しかしまた別の意味で男と女の本質的違いということもあるのではないか。男性の無理解ということもありましようが、私の職場では、女が女の足を引きずることがある。　だから職場でも、女性の進出をはばむものは女性の中にあると思います。

笠原　もちろん、女の先生の側にも反省しなければならないことはあるが。……

水木（リーダト）　やつぱり社会的生活に慣れていないから変な閉ざされた感情だけが先走つて、そういうものがむき出しにされる

のでしよう。

織田　それで男女の賃金が、男の人の思うようになるということですね。それでも女は役員になつていないからなにも言わないわけです。

五十嵐　女の人は組合の役員に出たがらないのじやないですか。

水木　女が女の足を引つ張るというけれども、男が女の足を引つばるというのはひどいですよ。

宇田川　賃金の問題でも、理由もなしに男は女より上なんだという考え方が男の人にはあるのです。

上野　学校は男女同一賃金だから、上席の女の先生に対する若い男の先生の不満はひどい。

甲斐　でもどうしてもかなわない面を男に感ずることはあります。私がやつている新聞の仕事などは、性別が全然なくて、私が男の方と同じものをスクープした時に、私のほうが早くて内容がよかつたら私のほうが勝ちになる。そういうことでは全然負けないがたとえば私に論説を書けとか言つた場合には全然だめです。

水木（リーダー）　それは男だつてだめな人もある。あなたが女性の代表だと思つたらいけない。

宇田川　女の人に出来て男に出来ないことと、男に出来て女に出来ないこともあるわけです。だから、能力の点で賃金の差別をされるのはいいが、女だから男だからということで決められてしまうのは、ほんとうの差別です。

水木（リーダー）　まだ女の人が働き出してほんとうの訓練が足りないし、それからほんとうの職業意識が徹底していないということで公平に扱おうと思つていても、そうしないわけにいかない。あるいは、ほかの女性がそういう印象を与えたために、こちらの女性がそういうように扱われるとかいろいろあると思います。とかく女は情緒的ですから、仕事を感情で処理するという面が強い。それで非常に欠点ですが、またそれをいい面に使つたら、男の人にできないような仕事ができると思うのです。それは時間が解決するでしようから、自覚するということが次の段階に向かつて必要なことだと思います。

男の人は習慣上とか、面子とか、なにか自分の職域を侵害されるという感じで女を見るものですから、そういうところにいろいろ摩擦が起こるのだと思いますが、これは当然実力と自分たちの心構えで、われわれが女性自らがそうさせていくより方法はないと思います。

では次の九番に進みます。今までのお話合いはお勤めということが中心でしたが、こんどは「中小企業および商店の問題」です。そういう問題について所感文をお書きになつた方、また実際にいろいろ苦労をしていらつしやる方があると思いますので、それについて、何でもお話ししてください。

山崎　私、小企業の経営者の立場にある者ですが、実は働く婦人の部会に入つたのでとまどつたのです。私としては、この社会に働く者の立場から企業主のほうになにか希望があつたら聞こうと思つて来たのですが、この中には小さいところに勤めている方がいらつしやらないようなので、小企業がどういう立場にあるかということをみなさんに知つていただく意味でお話ししたいと思います。

上野　私、生徒が集団就職する場合に、そういうところに行くので、

そのお話を聞きたいと思います。

山崎　愛知で地方会議をやつたとき、二十人の会議員の中で半数以上が小企業の主婦または自分で経営するいわゆる女社長だつたのです。これは、愛知県には小企業が多くて、そういう小企業の主婦の希望がいかに切実であるかを示しているものだと考えたのです。うちの工場は鉄工の下請業で、新しく入つた人を入れると、従業員は三十五名ぐらいです。ところが中年層が少なくて、年少労働者が半数以上を占めている。この頃は県外の人がわりに少なく、地元の人を採用するようにしています。というのは、せつかく九州方面に求人に行つて集めてきてもやつぱり定着率がよくない。やめる時にはさつさとやめていくので、せめて寄宿舎にでも入れれば長くいるかと思つたがそうでもない。結局、なにか目的をもつて働こうとしている子でないと長く続かないと思つて、この頃では県内から定時制高校に通うことを条件にして集めるようにしましたら、毎年五、六名ずつ入つてくるようになりましたが、一般的には定着率が悪いわけです。その原因について考えてみると、受入れ側にも配慮が足りなかつたということもあるでしようが、一つには就職してくる子供たちにしつかりした職業観とか、自分でものを考える力とか、欠けているように思う。目的がはつきりしていなくて、意欲も足りないようになつたと、今の子供たちを見ていると感じるのです。しかしよく考えてみると、私たちの企業の置かれている社会の中での位置というものがやつぱりその子たちを、将来に希望が持ち難いという気持にさせるのではないか。それも原因ではないかと考えるわけです。

うちの場合は下請の企業ですから親工場の景気不景気によつて仕事の量が変わるし、下請工賃がだんだん切り下げられてくるし、有利な仕事は親工場がやつて、数の少ない高度な技術を要するようなものがたくさん回つてくる。そうすると、だんだん物価が上がつて消耗品の経費も上がるし、それにつれて工員さんの給料も上がりますから、経営状態がだんだん悪くなつてくる。その中でも親企業から　もらう仕事によつては、新しく設備を整えていくことも必要になるということで、工場経営が成立たなくなる。それから税金や金融の面にしても政府の中小企業対策も、小さいところには適用されない。それにしても賃金などはなるべく大きな企業と大差ないようにしていきますが、ボーナスの面とか、退職金の面になりますと、どうにも子どもたちが希望をもつて働けるほどには払えないという状態です。そういう人たちが二十四、五才になつて結婚する頃になつても、結婚できるほどの賃金が払えないということ。それから住宅なんかでもつくつてあげられればすこし貯金ができれば住宅用意してあるからね。と力づけて働かせられるが、それもできない、そういうことで、その子どもたちに、希望もつて働きなさい。と言えないのです。この人たちが無気力になつて、なんとなくいやになつて飛び出して、転々と職を変えるということが起きてくるのだと思います。その中で企業主の主婦は食事のことや、病気になつた時の世話や、帰省する時にもいろいろ心を使つてやつているわけですが、そういうことだけではとても子どもたちにとつて魅力ではなくなつてしまつているのです。これはもう、一企業主だけがいくら努力してもどうにもならないところに来ていると思うので、小企業に対する政策的な配慮というものがぜひとも必要である。それから一般的な社会福

祉、住宅政策もその一つですし、青少年の対策もそうですし、そういうことがもつと巧くやられるようになつたら、その人たちも希望をもつて働くことができるのではないかと考えたわけです。

水木（リーダー） 組合はあるのですか。

山崎 ありません。小さいところは呼びかけもないらしいです。組合でも作つてやろうという意欲のある子がいればかえつて有難いですが、そういう人たちが少ないのです。

水木（リーダー） 中小企業の現状とかそういう悩みというのは今まで常識的に方々で言つておりますね。その中での主婦としての温情、温かい交流で、何とかしてゆきたい、それしか方法がないというように……。

山崎 やはりその子に働いてもらいたいと思えば、外からやつてもらう条件を待つているのじやなしに、自分たちにできることはやりたいと思つたのです。

水木（リーダー） それにあなたの事業に付随しての施設という問題でしようか。

山崎 それもやりたいのですが、企業の経済的基盤が小さいから、やはり一般の社会福祉政策の助けを借りながら、両方でやつていかなければならないと考えています。愛知の集会の時に、非常に成功していらつしやる五十くらいの女社長さんがいらつしやつて非常に親しみ、尊敬される経営者で、大きな愛情をもつて子どもたちを包んでいけば、子どもたちはかならず一生懸命働くようになるし、仕事も巧くいくのだと言われまして、亜んでいた方たちが口を閉じた形になつたわけです。世間にはそういう方もいるでしようし、企業主としてはそういう努力をすることはもちろん必要で、自分自身反省もしたのですが、やはり切実な悩みをもつている人はたくさんあると思います。

小暮 山崎さんのお話、人ごとではないのですが、人間関係ということがこんな大事な時代はないと思う。それは、今働こうとしている若い青少年の望む職場というものはちよつとわかりかねるところがある。私どもの年代との時代のズレというものをどこかで調整しないと、いくら待遇をよくしてこちらで愛情をもつてやつたとしてもそれがマイナスになつてしまう。たくさんお金をやつたことによつて消費することの意識、ちやんとしたものをもつていないうちにお金を与えられることによつて、さらに悪い結果になることがある。経営者に言わせると、私はあんなに心をくだいて、自分たちの食べないものまで食べさしてしてやつているのにということで、気持が離れてしまつている。むずかしいが最初の段階で、私たちは立派な社会人の相手を他人として認めなければうそだと思います。私の家に来たから家族と同じですよと最初みなさんおつしやるそうですが、そこにすこしまちがいがあると思う。家族としての生活体系の中に入つてきても、完全な他人だから家族の中の他人として認めることが第一条件じやないかと思います。

それで、自由時間がほしいという場合、どういうふうにほしいのか、的確につかむ必要があると思う。待遇改善でも、その人間がどんな人で何を望んで、将来どうしようとしているのかということを的確につかむ必要があると思う。近所でもしよつ中便用人が変わるが、聞いてみると、経営者のいうことと使用人がいうこととは言い分が離れている。うちは商店だから、両方が来るので

たいへん勉強になるが、使われている方は、そういう愛情はうつとうしいと思つていても、そのことを経営者の主婦に向かつて言えない場合が多いのです。それで、青少年のための施設がそばにあればいいと思う。たとえ貧弱なものでもちよつとの時間、同じような仲間が集まる場所を作るのがさし迫つた問題だと思います。

山崎　誰かお友達がほしいのですね。

小野　同じような立場にある人と接触をもつことで、離れていかない。ところが地域の主婦同士の連繋があまり巧くいつていない。主人同士の集まりはわりに多いが、主婦たちが一緒にすることといえばリクリエーションしかない。そういう大事な問題が取り上げられる段階にない。

これは最初に考えなければいけない問題であるが、これも個人として解決できないのじやないかと思う。

山崎　その子たちにほしいのは、適切な助言とか、少年の心のわかる人ですね。

上野　私たちのところに寄せられる手紙はそういうことです。大体そういうところに行く子供は恵まれていない。主婦は親愛を示してくれるが、あの年令は親の愛情よりも友人を求めている。生活様式がちがつて、その家では当り前のことなのに、新しく入つてきた子どもにはなじめない。地元で中学の先生は、都会に行けばお前の運命は開かれる、というように言つて送り出されるが、来る手紙を見るとほんとうにかわいそうです。それでも物きに行かなければならない。そういう子どもたちにとつていちばんほしいのは友達で、それをどういう形でみつけるかということが問題ですが、ともかく健康な方法でなければいけないと思うのです。

水木（リーダー）　私の知つているところでは、道徳の会とか倫理の会とかを作つて、従業員全部が行つて、道徳的の話や、倫理の話を聞いたり、一月か二月目ぐらいにはいつしよに日帰りの旅行したりするのです。

その子たちは自分の生活の方向が決まらないから、そういうところに行つたら何か教えられるかもしれないということをまじめな子は考えるし、あとの大多数は同じ年ごろの友達と遊び相手がほしいということで行く。お手伝いとか女店員はめぼしい少年を探しにいく。やめる。そういうくり返しくり返しでいつている。またある中小企業では、社長以下創価学会です。そういう統一によつて感謝の生活をするということで、条件は悪いけれども、そういう意識で統括される、そうすると若い子たちは人生の目標がないので、いい悪いは別として、青年部がふくらんで大きくなる。意識的に利用するのでなくて、そこの社長はそういう総括の仕方をいいと思つてやつているのですね。

だからいろいろな形があると思うが、使用者として使うのに都合がいい方法をとつているだけなのか、それとも温情をかけている積りでいるのが、果たしてそれがほんとうの温情になつているのか、ということで、それは主婦が一人相撲をしてもどうしようもない。やはり学校でも、大企業のほうに向けることになるのじやないですか。

小野　第一、条件がいいですから。でも、この頃は大企業の頭打ちに対して、中くらいの企業の将来の伸び、可能性を理解して入る人も多いそうです。そういうところではいちはやく能力給とか、能力に応じたポストを与えるということで行かれると思いますが、

零細企業は別の問題だと思います。

水木（リーダー）　お宅の鉄工業では、協同組合のようなものがありますが、そこで子供たちの福祉とか、教育とかやるような……。

山崎　それは運動会とか、通りべんのことしかやられていません。また、岡崎市に、高等学院を作つて、働いている人を週に三回ずつ、三年間ぐらいやるそうですが、あまり行きたがらないのです。というのは、あまり家庭状況のよくない能力的に低い人が多いのでそういう人はついていけない。だから現実に合わせて作ることが大切だと思います。

小野　立派なものを一つ町につくるよりも、小さくてもいいから方々に作つて、そこには指導してくれる一人のリーダーがほしいのです。

甲斐　雇われる方は、集団で就職する場合、勤め先の選択ができるのですか。

山崎　鉄工会でいつしよにとつてわりふるのです。子どもたちを商品扱いにする。私はふんがいしているが、現実としてはそれをもらつてこなければならないのです。

水木（リーダー）　商品なんか、引きぬきもあるのじやないですか。

小野　あります。だから横の連帯感が得られないのです。

上野　従業員が待遇の話をするのじやないかというので、主人がつき合わない。

織田　いまの子どもは希望が大きすぎると思う。こちらは早く一人前になるように考えて扱つているのに、半年経つのに穴あけばかりやらされているから親許に帰ろうかと相談に来る。だから穴あけるのはあなたしかない。ということを言つてきかせたら、そうかといつて、それは去年の四月のことですが、未だが辛棒している。

山崎　うちの場合は技術を教えるから一、二年は利益にならない。始めは失敗したりして、マイナスが多くて、大体二年から三年、四年になつて、大部仕事してくれるようになつたと思うと行かれてしまう。自分は損得という問題じゃなしに一生懸命やつてあげている積りでも、当人は迷惑だと感じているのかもしれませんけれども、しよい投げくわされているような感じです。

水木（リーダー）　これは横のつながりをつくるとことくらいではおつつかないような感じですね。

甲斐　その三十人の中で、常時雇われている年を取つた方はいないのですか。

山崎　四十以上の人が三、四人と、三十代が　少し、それから二十代が五、六人います。そこで落ちついている子は、農家の二、三男で生活の基盤は魂のほうで見てもらえるという人たちです。しかし、県外から来た子とか、施設から来た子の将来を考えた場合に、結婚してやつていけるかどうか心配になります。せめて住むところがあれば、はじめは共稼ぎで、働いて子どもができてもしばらくは働きたいでしようから、どうしても保育園がいると思います。そうすると、やつぱり、大きな社会全体の問題につながつてきますから、そういうところをつなげていくきつかけをつかみたいと思つてこの会議に出てきたのですが　。

甲斐　私はそういう煩わしさをしたくないために、忙しい時だけに臨時雇を頼んでいます。

水木（リーダー）　経済の勉強というのは女の人はどうしても苦手

ですが、自分が研究する立場に立てば経済の発展とか見通しというものがある程度わかるのじゃないかと思いますが、中小企業をどうしたらよいかというような問題は、主婦だけで考えてもどうにもならないことじゃないでしょうか。日本の社会構造から変えていかなければならない問題ですから。

それでは10の「その他各自の相談事項について」に進みたいと思います。どんなことでも出してください。

徳淵　地方会議の時に、職場から若い人たちの代表で出席された方が、原潜が入つた時に、自分が平和に対する詩を朗読したのがテレビに出たのを見て、家の近所の人が赤だという、自分は平和のために詩を読んだだけなのに。だから、赤だ白だという考え方をお母さん方にやめてほしいという訴えを、ぜひこの席で言つてほしいと頼まれました。

山崎　私のようなものがちよつと何かしても、すぐ赤だという人があるのです。自分にとつて、ほんとうに切実なことをやつただけなのに、そう言われたのはどういうことでしよう。

小野　だから大きな声で言いたくても、言えない人が多いために、大事なことが足ぶみしちやうということがありますね。

笠原　埼玉県の地方の議題にのぼつたのですが、私たち、一年に一度作文書いたり、地方の婦人会議に出て来ることだけでおしまいにしないで、恒常的な集まりにしていきたいというので、埼玉県で作文の会を作つて、五回集まりましたが、この機会にそういうことも呼びかけてほかの地方でもつくつたらいいと思います。

小野　宮城県には、この全国婦人会議に出席した人の集まりがあるのです。合計私入れて二十名ですが、〃世界の花の集い〃を年に一回もつています。

水木（リーダー）　それではこの辺で休憩にして、そのあとで総括的なまとめをいたしたいと思います。

（休　憩）

（再　開）

（注）　冒頭、二、三の傍聴者から発言があり、その中に、ここで討議されたことを、報道などを通じて婦人の意識を高めるために役立てるということだけで終らせたくない。とくに緊急を要する問題は、行政面に反映させて実行に移すような方法を主催者側に講じてほしいという意味の発言があり、会議員の中にもそれを望む声が二、三あつた。

水木（リーダー）　小中企業の問題とか、中　高　年層の問題とか、内職の問題とか、いろいろの問題が今まで話し合われましたが、ことに大多数の関心が集中された問題は保育問題だつたと思います。そしてこれはもう論議の段階じやない。それではどうしたら実行できるかということが議題の中に出ていたと思います。それなのに、ここでの話合いの結果は、論議の参考材料として行政面に渡されていくというだけでこの会議に出席された方たちは不安なわけです。ですからせめて、労働省の婦人少年局の仕事の範疇の中に、特別にこの問題に対する出席者の切実な声として、特別条件付きでやつてほしいということを反映させていただきたいと

いうことになるのじやないでしようか。これだけ熱烈な意見が出たのですから……（拍手）。

それと同時にみなさんも地区にいらして、大ぜいの賛同を得て女の人たちがまずこういうことに対して意識を高める。どういう方法で横のつながりをしていくか、一回の会合で終らせないで、文通なりなんなりで、お互いに連絡をとつてどういうふうに問題を進めていくか、を検討し、実行に移していくべきではないでしようか。毎年同じ問題がまたふり出しに戻つた形で討議されるのではちつとも進展しないから、ほんとうは来年の会議員にバトンを渡す形が必要だと思います。そういうことも私たちの声として研究していただいて早急に実現してほしい問題だけは特別に、来年度においてどういうように受けつがれて行政面にどういうふうに成果が出ているか、そういうことを来年度の全国婦人会議に希望してこの会議を終つたらどうでしようか。残つた時間で総まとめをするということになるのですが、私が下手なまとめをするよりも、みなさんが一言ずつでも、こんどの会議に出席されて、婦人の役割というものについて得られた感想なり希望なりを一言ずつ言つていただいて締めくくりにしたいと思います。

坂田　どの問題にもつながる問題として、母親というものがどんなに大事かということがつくづくわかりました。これから先、お母さんになる人にこの気持を伝えたいと思います。

甲斐　女にもいろいろな生き方があるのだなということを感じました。それで私、独身ですから、既婚者の方が多くて淋しいと思いました。けれども結婚した方の感想を聞いて、これからの生活のプラスになると思いました。

徳淵　出てくる前は、いくら自分が視野を広くしても長崎県のことだけしかわからなかつたが、青森、福岡の方のお話を聞いてたいへん持つて帰るおみやげがたくさんになつた気がします。それがいちばん嬉しいことです。自分だけのものでなくて、いろいろなものが自分の中に受け入れられたという喜びを地区に帰つてみなさんに報告して、活動を進めていきたいと思つております。

上野　出てくる前は、いろいろな場面にぶつかつて悩んでいるのは私一人だけじやないかという思い上がつた気持があつたのですが、この会に来て、みなさん私と同じことを考えていらつしやる。私が疑問に思い、悩んでいることはみなさんも疑問に思い悩んでいらつしやる。女性としての共通の問題があるという発見。ほんとうに自分のいいたいことを全部言えたとは思いませんけれども、たくさんの人たちがそうした前向きの姿勢で常に求めていらつしやる仲間がたくさんあるという心強さ、いい勉強になつたと思います。

大元　私は最後に、保母の二十四時間労働ということについてみなさんにお話ししてみたいと思います。

時間的に説明しますと、六時半起床ですが、その前子どもが六時に起きますと六時から勤務ということになりまして、幼児の場合ですと、食事、排便、就寝、衣類つくろい。病気になると全部私の仕事になります。一才から二才になりますとすぐ施設に入つてきますので、昼寝の時間も子どもといつしよです。もちろんおそうじということも大切ですし、夜は、小さい子は八時、中学校に行つている大きい子は九時に寝せます。夜尿の子が多いから、九時か十時に起こします。それから養護日誌、その日にあつたこ

とはその日に書いておかないと、次の日には子供が起きてきますし、洗濯物が山のようになりますから。十一時に寝て六時半。それまでに子供が夜尿や、ものにおびえて泣いたりします。いわゆる二十四時間勤務ということが言えると思います。

そこで労働基準法はどうなつているかというと、休憩を子供の見える範囲でとりなさいとか、休暇がすこしかためて与えられるとかいうことになつているのですが、実態は今お話しした状態です。保母も法律上では普通八時間労働ですが、養護施設という名目があれば九時間までは延ばすことが認められている。それにもかかわらず実態は二十四時間労働になつているということを言いたいわけです。

山崎　私は出て来る前は自分の問題が非常に大きく心にのりかかつていて、それにかまけて甘えているという感じがしていたのです。

今になつてみますと、いろいろな問題がたくさん入つて来て、その一つの問題を取り上げても、地域によつて実情がちがつて、いろいろな意味や内容をもつている。そしてそれらの問題はみな関連のある一つの大きな輪になつているのだということを改めて考えさせられたということです。そしていまいちばん私の心にかかつていることは、いろいろ聞いて勉強して、こんど帰つたら実践のほうへふみ込んでいかなければならないが、さてそれをどうやつていたらいいかということです。

中野　私は去年、おととしと二年婦人会議を傍聴させていただいてこんどは自分が会議員として参加させていただいたわけですが、やはり婦人会議というものは、お互に考えていることを話し合つて、それをたしかめ合うことなのかなという一つの疑問が残つたのですが、さきほど若い傍聴者の方と水木先生から、もやもやしていたものをはつきりおつしやつていただいて、とてもすつきりした嬉しい気持がしております。

織田　私は働く婦人として最も悩みの大きい雇つ子の問題についてなにかもつとよい対策が教えていただきたいと思いました。学童保育という問題をいろいろ教えられ、結局、児童館設置が必要であるということが痛切に感ぜられましたので、いよいよその道を勉強していきたいと思います。

太田　全国からお集りになつたみなさんのお話を聞きますと、地方によつて、抱えている問題がちがうということ、それから質もちがうし、深まりもちがうわけですけれども、やつぱりみんな関連性のあることです。私は学童保育を取り上げましたので、そのことについていろいろ資料を集めたり、本を読んだりして、ぜひとも必要なことであるから、早急に願いたいという気持で出てまいりました。必要だということは去年までにすでに結論が出ているということで、そこら辺が、婦人会議のあり方に私も疑問を感じたわけです。そしてやつぱり行政の窓口が統一されていないということも問題であると思うのですが、そういう点について、ちよつと前進した道ができたように思えますので、その点について期待しているわけです。

戸枝　私も、地方によつて問題がちがうということをいちばん痛切に感じました。私が東京はちがうというと、すこし見方が甘いのじやないかとも言われたりしました。けれども、やはり東京には東京なりの、人間疎外という悩みがあると思うので、ほかの地方の方が、たいして必要じやないかと思われることが、東京では必

要になるわけです。私は近隣同士のつき合いを、今までの都会風のものでなくて、市民生活をはつきり自覚した横のつながりをもつたものにしていきたい、そのためにすこしでも自分が役立ちたいと思つて社会教育の仕事のお手伝いをしているのですが、私は私なりにその道を進みたい、ということよりほかに結論が出ませんでした。

宇田川　私は今まで以上に自分の生活と仕事に責任をもつて、与えられた職務を果たしていこうということを感じました。

それから若い人の職業意識を高めて働く上にすこしでも役に立ちたいと思いました。また若い私が全国の婦人会議に出席させていただいたことに感謝しています。

笠原　私も全国のいろいろなところの人たちと話し合いができたことをとてもありがたかつたと思つております。それから、ことに第二部会のリーダーに、水木先生のようなすばらしい方を迎える配慮をして下さつた労働省に感謝しています。

それで、傍聴者も言われましたように、ここだけで終らないでこの先がどうなのかということを見届けたい気がしますし、さつき友の会の方がおつしやつたように、これだけで終らないで、来年への積み重ねということでこの会がよりいつそう実りのあるものになつていけたらと思います。

五十嵐　ここで取り上げられた乳児体育・学童保育について、一昨年群馬県で、群馬県会社福祉大会が開かれました。そこで世論を起こしてこの問題を政治までもつていこうという目的の大会でした。そのために、昨年は学童保育、幼児保育を取り上げ、設置方を県民合同でやりました。今年は、働く青少年のためにぜひそういう集会をもとうということになつて、気楽に集まつてサークル活動ができるようなものを設置することが大事だという意見を出して県民に訴えたわけでございます。

この会議でもそういう問題がたくさん出ておりますが、私はいつも地域で世論を起こして、なんとかして実現にもつていこうと努力しているのですが、なかなか実を結んでいかないわけです。この全国会議でいろいろお話を伺つていて、結局政治の力で解決することが多いということを感じましたので、そういう力を自分自身つけていく必要がある。一方地方自治体をみますと、私たちのところでは、市会議員を出すということ一つさえ、婦人の結束ができないために実現できていないわけです。その度に、私たちはお互いに出ることを進めあうだけで、いざとなるとみな遠慮するわけです。しかし、いくらいい考えをもつていても、その場が与えられなかつたらそれを実現できないと思います。今度帰つたらみなさんともつとよく相談して、婦人を市会にも国会にももつと送り出すように努力する。自分たちの仲間から直接政治の面で生かしていける人を出したいと感じたわけです。

小野　私は、この会議に前に出席された先輩から、会議に参加する出席者の発言力のすばらしさにびつくりした、というお話を伺つてきましたが、ほんとうにみなさんの発言の中に含まれている内容のすばらしさ、また、いろいろな事情の中から出席された方たちの勇気に心から打たれました。そういうことを心の糧として、自分ももつと勇気をもてるように努力していきたいと思つております。

それから開会式はたいへん感激いたしました。それと、私のよ

うな立場でこの会に来ることはたいへんむずかしいのですが、結婚以来はじめて心から頭を下げるといいますか、夫に感謝しております。

工藤　私は、青森市内という殻から一日も抜け出たことがないのでこの全国大会に来ることはほんとうに嬉しく思いましたけれども青森県のことばが重いので、思うように発言ができなかつたのは残念でした。

けれども、私の悩みが全国の婦人の悩みと同じだということを勉強しましたし、全国の方々とお話しすることができまして私には非常に貴重な社会の勉強になつたということを感じました。地方に帰りましたら、そのことを第一にご報告する積りでいます。

水木（リーダー）　みなさんの忌憚のない率直なご感想を伺いまして、二日間の会議はたいへん長い時間のようでもあり、また、たいへん短かい時間とも言えますが、この間に非常に内容のある、身近な、ほんとうに生活からにじみ出たような問題について、みなさんのご経験を通じての話し合いが行なわれた。これほど充実したお話し合いができるとは私も予想しておりませんでしたし、それからとかく、こういう会に出て話をすると、非常に上手な演説であつたり、あるいは公式的な既成概念で片付けてしまうというきらいがあるものですけれども、婦人の普遍的に高まつてきた意識というものがこれほど身について、自分のことばとしてこれが語られている、というところに、私はたいへんびつくりいたしました。私、ここに臨ましていただいたのは、表向きは助言者とかリーダーとか、全く柄でないような肩書がついているのですが私のような畠ちがいの人間がこういうところに参加させていただいたのは、ただただ、生活の中からほんとうに考えていらつしやる意見を勉強さしていただきたいという気持からです。まとめ役とか、話の中から結論を出すことは、私の任ではありません。みなさんがあまりにも深みのあるいろいろなことばで語られたのでそれを私の通りいつぺんな、下手なことばで総括するということすらが、底の浅いものに感じられるように思うのです。ですから下手なことをあまりしやべらないほうがむしろいいのじやないかということを常に自分に言いきかせて、ここまで議題を進めてきたようなわけです。いよいよ時間がまいりましたので、ここで今回の会議を終らせていただきます。

（閉会　五時十五分）

第三部会　（農漁村婦人の問題）

会議員

北海道　岩崎富満子（農業）
岩手　門屋和子（農業）
宮城　残間久子（農業）
秋田　山内ノブ（農業）
栃木　阿久津ふくえ（農業）
新潟　吉田トミイ（農業）
石川　金平清子（農業）
長野　滝沢歳ミ（農業）
滋賀　布施千代子（農業）
京都　西田多輝子（農業）
兵庫　牛尾正子（農業）
鳥取　山根和子（学生）
島根　梅原絹子（無職）
岡山　塩田節子（農業）
徳島　戒柳（農業）

リーダー　浜田陽太郎（東京教育大学助教授）

特別オブザーバー

天谷泰一（日本青年団協議会）
水島タミ（全国漁協婦人部全国協議会）

相良孝子（全国農協婦人組織協議会）

第一日目（四月十三日）一三・三〇～一七・〇〇

浜田（リーダー）私が浜田です。

まず、一応私のところはこんなところで、そこで暮らすとこんな気持ちになるというお話をされれば結構だと思います。

私のメモは大よそ皆様方のどなたかが、作文の中で問題にされていることを多少言葉をかえて出したつもりで、その意味で、どなたもご発言できる内容ではないかと思います。

日本の農村問題は種々さまざまなものがあつて、昔は日本の農村はこれこれだとどなたかがいえば、全部そのとおりに見えたんですが、今は秋田でいうことが九州では全然役に立たなかつたり、四国の方の話が、日本の農村でもあるのかしらというふうに、違つた農村が生まれています。そういう意味からも、私のところでは、役に立たないと考えずに驚きというか、興味をもつて聞いていただきたい。

最初に取り上る出稼ぎの問題でも、北と東では大へん違つているので東と西の方に討論をやつてもらいたいが、出稼ぎの問題も、いい悪いという答えの用意は一つもしていません。ここは、結論を出すところではないので、それぞれの状況のもとで、こういうことをよその人は考えるんだという事柄を述べていただければ幸いです。

一応予定としては、出稼ぎの問題が、いろいろの問題の基本になつていて、この問題でほぐれをつくて、メモに従つて農家経営の

問題、家庭生活の問題を、徐々にやつていきたいと思います。
出稼ぎというとすぐ東北がいわれるので、秋田から山内さん、たしか出稼ぎのことお書きになつたようですが。

山内　私のところは小さな村で、農業を一生懸命やつていますが、面積は一軒について一町ほどで県外への出稼ぎが多い。三十七年ころは一人か二人でしたが去年は十一人行きました。どうして出て行くのか疑問が出て、若妻グループで調べたんです。私の村は、二十二軒のうち耕うん機をもつているのは十八軒、精米機は、十四軒くらいありました。農機具代に追われて出稼ぎに行かなければならないという人もあるし、また、観光のために行くという人もありました。しかし、留守家庭は、子ども三人残されて老人夫婦がとても悩んでいるのです。
グループでもいろいろ話し合つて、どうしても行かなければならない人は、まず安心して行けるような状態にしてからということにしていますが……。

浜田（リーダー）牛尾さんは、できるだけ婦人は行かないほうがいいとお書きになつたようですが。

牛尾　私のほうは、兵庫県の北海道といわれる辺びなかすみの漁港のあるところから四キロほどはいつた、八キロにわたる長い村で農業にはあまり熱を入れず耕作面積も平均五十アールくらいで、季節労務者として壮年の男子は酒やに出稼ぎに行き、農閑期には婦人も、漁村の漁に流れていく。すると、家庭の婦人の役目が果たせない。
役場の統計によると、酒造が三百十一、水産加工が九百七十七、工場労務が十六、合計千三百五という状態で、大へん出稼ぎが多い。こんなに社会が婦人の労務を要請しており、しかも、農業収入が少なくて、出稼ぎの労賃と、農業収入で生活がまかなえない場合は婦人が出て働くのも仕方ない。しかしそれには、安心して働ける施設を作つていただいたり、婦人自身も家庭にめいわくをかけないような方法を講じて働かなければならないと、私は考えています。保育園がほしいという声が出て、村が長細いために、中央に一か所だけ作つても、送り迎えが必要になり、利用度が少ない。各部落に保育園がほしいという望みがでてくる部落中に作るとすると、八～九人、あるいは二人、三人になります。八～九人でもまとまつた場合は、施設設置に理解を示して欲しいと願つているわけです。

浜田（リーダー）保育園の話は、あとでも出てくると思いますので、出稼ぎの問題を出していただけばと思います。
かすみの漁港は、西日本ではひじように大きな漁港なんです。そのために婦人労働者を必要とする環境が一つあるということを、お含みおきを願いたい。

滝沢　耕作面積は割合少ないほうで、水田が六反歩から六反五畝くらい。それと同じくらいの畑が山がかつたところにあつて、養蚕を主にやつています。
養蚕は大へん忙しい仕事で、そのうえ少しとはいつても田んぼがあるので、夏の生活は忙しい。冬になつても、ここ二、三年、出稼ぎがふえてきました。最近急にふえたのはどうしてかと疑問をもつているわけです。

滝沢さんでしたか、婦人はできるだけ出稼ぎにでないほうがいい、もつと工夫があるのではないかという……。

私は結婚して農家にはいり、それ以前は全然農業に関係のない仕事をしていたので、はいつた当初は農業に対して不平がたくさんあつた。たとえば計画性がないとか、封建的なものが強くて、人間よりも見栄を大事にするという面など。今出稼ぎが多くなつて、おかあさんたちは一応お金が足りないからというけれども、着物自動車とか耕うん機を買うとか、ぜいたくすぎると思われる出費が多い。やはり生活に計画性がないから、そういうことになつてしまうんじゃないか。まねで出るけれども、あとに残つた子どもたちや年老りたちに何の用意もしないで出てしまうところに大きな問題があると思う。

おかあさんが出たあとの子どもたちは、夕方暗くなつても電灯のつかない家の前でしょんぼり立つている。おじいさんやおばあさんには子どもの教育はわからない。子どもに五円か十円を持たせて外に出すので、子どもはお店にくる。出ているおかあさんは、こんなことを知つているのかと、疑問を持つ。出るならあとが困らないような態勢をとつてから出たらいいと思う。現在の段階では、おかあさんの出るのは反対です。冬は、夏の忙しくてできない子どもたちとの、あたたかい交りをまとめてしていただきたい。

浜田（リーダー）もう一人門屋さんからご意見を伺つて、反省なり質問なりをして・・・。

門屋　私のところは、岩手県の南のほうで奥羽山脈のふもとです。一戸あたり一町二反くらいで、所得が少なくて物価が高いので、最近男の出稼ぎがふえ、しかも帰つて来なかつたり、行方不明になつたりする人がでてきて、大へんだというので話し合つたんですが、現在の段階では、出稼ぎをやめることは無理ではないか。みんなが納得したうえでの出稼ぎは仕方がないという気がする。二男三男は就職するために、学校へも入れなくちゃならないし。それにしてもそこに大きな問題がある。

一つは、夫婦の別居、半年後家、三か月後家がでてきたわけで才一夫婦の問題で、次は子どもの教育。おかあさんのいない家庭は子どもが乱れ、農業生産は下がつてきたというように問題が出てきている。

農業は機械化され、家庭は電化され、インスタント食品をとり入れる、そのための現金収入を出稼ぎに求めている。私のところは静岡にそろつて出て行くので結局、子どもは年寄りにまかせる。人間関係はつまらなくなり、女の人は夏も冬もの肉体労働が重なつて、病気がふえてきた、というようにいろいろな弊害がでてきた。

私ども、出稼ぎよりも、出稼ぎのお金を、無駄なく使つているだろうかと考えたわけです。大きな農家の無駄があるのではないかと。家庭生活のみでなく、部落とか、町、地域一帯に冠婚葬祭とか、の問題をとりあげて、消費について勉強しなければならないとか、うちでできる内職もあるんじゃないかということが問題になつたわけです。それから、うちを両親があけてしまうのは間違いだ、子どもたちに何か形として残していかなければとか、あるいは保育所へという話もでたが、出稼ぎは仕方がないと言つていたら、悪循環は続くと思うのです。ここで、どうしても出稼ぎはしなければならないものかどうか、前向きな姿勢でほんきに考えていきたいと思う。

浜田（リーダー）どなたでも私はこう思うというご意見を。

西田　私の地域は、京阪神の消費地に近く、京都へ三十分、大阪へ一時間半です。出稼ぎといつても、通勤ばかりで、今のお話は、ピンとこないが現在の農家の出費が、収入よりも多いし、私の地方のように、通勤できる出稼ぎでしたら、やつてもいいんじゃないかと思います。

現在私のあたりでも、ほとんど共稼ぎで、兼業農家で五～六反をおじいさんおばあさんで飯米を作つている家庭は、いちばん楽です。専業でやつているところが経済的には苦しいんです。昔は息子が農業学校を出て就職するといつても、うちの農業をやれといつたものですが、このごろは、学校でて京都か大阪に勤めてほしいという親が多いようです。結局農家が貧しいことが原因だろうと思うがお互いに弊害をカバーしていつたらなんとかゆけるんではないか。

梅原　主人が農業改良指導員をしている関係上、あちこちに転勤するため、いろいろのところをみていますが米出しの山間地、中腹の地方のお米の収入は、一ヘクタール三十九万円ほどになつています。牛を飼つて七万円、たけのこで三万円、みかんは始めて間もないので、収入はない。山間部で子どもを学校にやるのに、お金がかかり、どうしても出稼ぎしなければならないような状態にある土地柄です。

出稼ぎに行くと、子どもの教育や何かによくないというので、出稼ぎ対策として、婦人が重まつて「しいたけグループ」をつくつて、年間一軒に七万円くらいはいるようにしました。

出稼ぎ先からの仕送りは、一か月一万五千円から二万円くらいしかない。すると、「しいたけグループ」で七万円の収入があがると、出ないほうが家庭のためということで、現在やつています。今度隠岐というところへ引つ越して、また新しい問題がおきました。隠岐はいろいろな交通からも遮絶されている関係上、人間がのんきにできている。主人が出稼ぎで送るお金もわずかですが、海草を取つたり、山へわらびを取りに行つたりしても、食生活は粗末で働く意欲が乏しく、送られたお金も有効には使われない。そうした問題点を、皆さんに聞かせていただけたらと思います。

浜田（リーダー）だいぶ出稼ぎは無駄が多いという話が出ておりますが。

滝沢　京都の方から、農業専業のほうが貧しいという話が出ましたがほんとうに貧しいかどうか。私は兼業でわかりませんが、農業をしながらみると中学から高校に進学する時に、農業高校に行くのは、農業をやるためではなく、成績できめられる。比較的下のほうの方が多い。中には農業をやるという立派な方もいます。しかし、学校を出ると、農業につかずほかに行つてしまう。一口にいつては失礼ですが、比較的能力の低い人が農業に残るそういうところにも問題があるんじゃないかと思うんですが。

吉田　私のほうは冬になると雪が降り、半年失業という生活でほとんど出稼ぎに出ます。出稼ぎはいろいろな問題があるけれども、ほんとうに山間部、必要に迫られてしているわけです。私はその出稼ぎも、農家経営の仕方によつてある程度くいとめられるんじゃないかと思います。

というのは、農業の後継者を社会、あるいは親の立場から一人でも多く育てゝいただくことです。どんな経営方法をやればいいかと自分自身で考えているのですからそれを助成してやることで、出稼ぎもある程度食いとめられると思います。

戒　私のほうも出稼ぎが多かつたが、出稼ぎに行つても、うちにはいる収入はわずかだつた。少しはなれたところは、一日八百円くらい、遠くへ行つて千五百円くらいになるが、むこうで生活しなければならないし、雨の日は休みで大した差はない。そこで私たちのグループで、内職や、副業で働けばよそへ出るくらいの収入があるんじゃないかと、四、五年前から養鶏をはじめました。七十五日ひなで純益五万円くらい、それで肥料も得られるし、うちの仕事をしながらできるし、出稼ぎよりもずつといいんじゃないかと今はだいぶふえています。副業では豚もはいつて女のほうが主人以上にやつてたいへんうまくいつています。

牛尾　農業経営の仕方によつては、出稼ぎも防げるというお話があつたが、零細な農家の場合、自己資本もないし、健全な経営をするためには零細な農家ではそこまで踏みきれないのではないか。だんだん大きい農家と零細農家との格差がひどくなつて、いちばん下の農民は、ほんとうに苦しんでいるということを、この際よく確認して話し合つていきたいと思います。

浜田（リーダー）そういう農家のあることは、皆さんご存知と思いますが・・。

金平　私のところは金沢市近郊の野菜地帯ですが奥能登へ行くと、出稼ぎはたくさんあります。中には、ほんとうにやつていけないので仕方なしに出て行く方もありますが、両親そろつて働きに出て、うちにはステレオを備えてあつたり、何かしらあわない、見栄にとらわれた出稼ぎもあるという話をききました。

西田　私のほうは長期の出稼ぎがなく、ピッタリ感じられないが、女の人でも、土木工事とか、工場とかへ行つています。おかあさんが勧めることによつて、ステレオまではいかないが電気冷蔵庫とか洗濯機などを揃える面があるから、子どももあまり不満ももつていないようです。

塩田　私のところは広島県境の笠岡なんです。部落は五百戸くらいで前は米麦中心の専業農家だつたが、戦後他産業に人が流れ、ほとんどが兼業農家となり、出稼ぎにでるのではなく、近くに通つています。兼業農家でも暇があつたら出て働いていいし、また働かなければ現在の生活はやつていけないんではないかと思います。しつかりした考えをもつて働きに出るならば、いけないことはないと考えています。

浜田（リーダー）今笠岡といわれましたが、あのあたりは、水島工業地区と、今海岸地帯が工業地区になりつつあるところです。そういつた環境の中でお考えになつたことと思いますが、滋賀の方。

布施　滋賀も京都と同じように、長期の出稼ぎはあんまりない。今農業県から工業県にかわりつつあつて、主婦が農閑期に工場とか日雇いで出るという傾向がだんだんふえており、子どもの教育とか、何かにお金がいるからという方もありますが、皆さんが行くからと流行みたいに行く方が多いようです。お年寄りが一年じゆう子どもやうちの中をまかされて、一歩外へ出れば交通事故を心配する。お年寄りが苦労する時代になつた。

所得の問題は奥さんが働いたお金をお年寄りがとりあげて自由に使えないとか、また、たくさんの子どもまでまかしておきながら、お年寄りに渡さないというような問題も起こつている。

浜田（リーダー）十五人いらつしやるが、兼業農家の方は？　八人、半分以上ですね。専業農家の方？五人。それから、ご主人もしくは息子さんが出稼ぎをされた方、（無し）。ご自身がどこかに働きに行か

れた方？三人ですね。
いろいろの立場でいろいろな農村が出てきたようですが、大きくわけて、主婦が出かけるのと、ご主人なり息子たちが出かけるのと二種類あるようです。承つておりますと、主婦が出るのには賛成論が出ていない、男が出るのはやむを得ない場合もあるということらしいが、いかがでしょう。

牛尾　主人が出稼ぎに出るのはやむを得ない事情がたしかにある。が夫婦が半年以上も別居するのは、おもしろくない。そういう主婦に限つて、出稼ぎはやむを得ないという、あきらめの気持ちをもつている方が多い● 何とかして出稼ぎをしなくてすむような農業経営にかえるよう　力していきたいと思います。

浜田（リーダー）だいぶ軟化された・・・（笑い）

山根　私、お話が違うようですが、幼稚園に勤めたことがあるんです● 山村の農家ばかりのところですが、夫婦が出稼ぎに行くと、その子どもが急に落ちつきがなくなり、幼稚園なのに現金の使い方がひどくなるという現象がおこつたのです。調べてみたら、両親が出稼ぎに行つて、おじいさんとおばあさんしか残つていない。物質的にはいいと思いますが、やはり、子どもの教育を考えた場合、……。

阿久津　私どものところは日光に近く、東京都の近郊県にはいるので、出稼ぎはないが、米作りと野菜と、しいたけをつくつています。消費地に近いので、とくに大きな資産家はなく、経済的には平均されて割合恵まれた生活をしているので、皆さんのお話も、あまりピンとこないのですが、今の問題は農家の貧困さが原因ではないだろうか。社会保障制度が、まだ日本は発達していないのでいけないとはわかりながらも出稼ぎに出ると私は感じたんです。そのようなことを私たち婦人が政治的に訴えて、みんなの力で何とか解決がつかないもんだろうかと考えています。

浜田（リーダー）北海道の方はいかがですか。

岩崎　私の住んでいるところは、夕張山脈に沿つた平野で、平均反別四町から十五町経営していますが、四町以下の水田経営はなりたたないので農業高校を出た青年たちは、他産業に流出しています。
たいがいのうちが農機具を入れて、三分の一から半分の家庭が自家用車をもつています。出稼ぎは部落の中でも一人くらいで、別に生活が困るからではなくて、うちにじつとしていられないのだそうです。
しかし凶作の年はがらりとかわつて、女も長ぐつをはいて夕張川へジャリをすくいに出かけます。私は行きませんが、主人も救農事業で仕方なく行つて病気になつてしまいました。
たまに農機具を買つてお金に困るからと二、三人がみんなの反対をおしきつて出稼ぎのようなまねをして、災害をこうむつて、帰つてきました。
皆さんが出稼ぎといつても、あまりピンとこない……（笑い）

浜田（リーダー）同じ日本でも違うなという感じがしますね。たしかに四ヘクタール以下ですと、北海道の場合は、内地の四ヘクタールと違いますからね。今のお話の中で、私気にかかるのは、出稼ぎはいけないのでしょうか。

塩田　私はいけないことではないとはつきり申します。
皆さんの名簿を見るとほとんどの方が何々団体の長、支部長とか、

ついている。私はただの一農婦でこの場に出られるとは夢にも思つていなかつた。ここにご出席の皆さんは、地方でも裕福な方と感じているんです。私のほうは兼業農家で、主人の収入だけにたよつていられない、農業の貧困さが原因です。女といえども、外へ出て働くのはいけないことではない。すべて生活は金がいる。金もうけは男の人にだけさせておけばいいと私は思わない。小さい子どもを年寄りにあずけて女が働きに出るのは、たしかにいけないけれども、出られるのに出ないようにしなくてもいいと思うんです。子どもの教育についても、ある程度の年令に達したら、母親の働く姿が悪い影響を与えるとは思いません。「働かざるものは食うべからず」の原則に基づいても、また子どもを教育の面においても、母親がはつきり自覚してやつていけば決して悪いとは思いません。

阿久津　働くのは人間本来の使命であり実に美しいことで、それによつて得る所得は尊いものであると思う。私のところも兼業農家ですが働いています。そういう姿を子どもに教えるのはよいことだと思うのですが、その反面に、家庭の中の子どものしつけとか、教育とかについてはプラスとマイナスとどちらが大いか。マイナスの面が大きいと思うんです。

梅原　私の家は主人も働いておりますが、私とおばあちゃんとで田が一町二反、畑が五反きちんとやつていけますし、小さい子どももおりますが、わりにひがみのない子どもに育てている自信があります。島根県は災害がとても多く、前年も、その前も災害をこうむつています。それで災害復旧工事をしなければならず日雇いに出る主婦が多いわけです。そこで話す話は疲れているせいか、子どもの教育のことよりも、男女関係になつたりする。また早く帰ればいいがお金をもらうと飲みやに行つたり、子どもが電話口でおかあちゃんのお酒くさいにおいがしたなど、子どもの教育の面で考えさせられる。

また、島根県は、雪も深い関係で、あちこちにまわると、いろいろな面にぶつかります。

浜口　私もニコヨン生活を何か月かやつておりましたが、帰りに飲みやに行くのは、悪いこととは思われない。そうしないと疲れや何かがとれない……。

門屋　皆さんの話はうらやましいほどです。岩手県はもつと深刻です。農家の労働、家事労働と、女の人は今までずいぶんよく稼いだと認められたのはいいんですが女が出てお金がとれるようになつたため、足りなくなれば出稼ぎに行けばいいという考えがでてきた。それくらいならよいが、外でさまざまの男をみて女の気が強くなり、離婚が多くなつてきた。男の人が性病をもつてくるなど深刻な問題に発展しているのです。

冬は雪が半年くらいあるので出稼ぎに行かなければしようがない。また農繁期は想像もつかないくらいに忙しい。その間子どももかまわれない。だから、冬はせいぜい家にいたいのですが、家庭の経済はどのくらいで満足するかを考えなければならない。

阿久津　私は結婚前に学校に勤めたことがあるので、母親はできるだけ子供のそばにいてほしいと切実に考えます。家庭にあつてできる仕事をされるように、皆さんにも全国の方にもお願いしたいのです。子どもの幸福のために家庭の平和を保つためにそうしていただきたい。

浜田（リーダー）牛尾さんのところは漁村が近くにあるようですが、漁村の人たちはしよつちゆう外に出ている、そういう面から……。

牛尾　私は農村のほうで漁村のことがわからないが、だいたい十日くらいの漁で帰つてくるようです。それより問題なのは、農家の出稼ぎで六か月間も離れて一回も合わないというのはおもしろくない。月に一回でも帰られるように、働きに出る方は組合をつくつて、雇主と話し合いをしていただくとか、出稼ぎに行つている父親に子どもが手紙を書くとか、離れていても愛情を確め合う方法があるのじゃないかと……。

戒　皆さんのお話によると、お金が必要で出稼ぎするようですが私のほうでは百姓しているより外でみんなで話をするのが楽しいから、経済的には行く必要はないが行く。お金も使える。何か責任を逃避している感じで問題になつているんです。

岩崎　凶作が三年も続いたときも、女の人は出稼ぎ、男の人は救農土木事業ですぐ家の前で仕事をする程度で、お金にも困つたが、じやがいもやかぼちやを食べる生活の中でも、やはり子どもを守るほうが大切だと内地から募集にきたがだれも行きませんでした。生活のやり方によつては、お金をかけず、子どもを豊かに育てることができるんではないか。

梅原　日雇い労務者の方が家庭に帰つて、大きな子どもでもいれば夕食の仕たくもするでしようが早く食事の仕たくをしようと、買つた天ぷらか、インスタントラーメンかで間に合わせる。お父さんは、その食事に不満でけんかになる。

特別に困らなくても、近所の人が勧めるから私も、人がテレビを買えばうちもと買う人たちが多い。

今私は漁師の多いところにいるんですが、その人たちは、女の方が船長、男の方が機関長でいつしよに船に乗つて出る、家に残つた子どもは、お金をずいぶんもつている。網をひくと、十万から二十万一ぺんにはいるときがある。その子どもが遊んでいるのをみると、悪いほうにいかなければいいなと思うときがあります。

阿久津　外で話をしたり、外で楽しみをみつけるために、主人も子どももかまわず出るという話でしたが、それは、母親の自覚、農村婦人の教養の低さに原因があるのではないか。家庭教育をとおして、女も自覚して、自信をもつて働いたならば、外部から振りまわされることはないと思います。私は教育、人間をつくることを根本にして、家庭を運営していきたい。

滝沢　子どもを育てる一年なり半年は、子どもにとつてかけがえのない時期だと思うんです。その時期には、母親はそばにいてほしい、先ほど零細農業という言葉が出たが、一体どこまでが零細農業なのか。耕うん機を買つていながら出稼ぎに出る。たしかに耕うん機があれば能率もあがりますが、家の経済をよくみて、計画だつた生活をしていけば、出稼ぎをしなくてもいいのではないか。米や麦をつくるときは一握りの肥料によつて出来が左右されるが、子どもを育てる場合には、きようの結果が明日でるわけではないから、おそろしい。

お互いの知恵で出稼ぎをじようずに防いで、子どもを育てる時期だけは、家にいてほしい。もし、どうしても出なければならないときは、みんなで力を合わせて、あとのことも心配のないようにまず子どものことを先に考えて欲しい。

浜田（リーダー）子どものために、出稼ぎも相当考えてやるようにというご意

見でしたが、子どもはそんなにおかあさんがそばにいなければ駄なもんでしようか。

布施　出稼ぎだけでなく、お百姓の日常生活でも朝から晩まで子どものそばにいるわけにはいかない。いつもそばにいなくても、おやつをおいておくとか、暇をみて子どもに接する時間をつくるとか、ご飯のとき話し合うとか、心のつながりを忘れなければいいと思う。

西田　私も今の意見と同じで、京都地方会議で生活改良普及員の方が子どもをほつたらかしておいたら、野性的に育つたが、母親を働く一人の人間としてながめ、尊敬してくれる面もあるので、後悔しないといつていました。私専業農家で朝から晩まで働きに出ていて、子どもをほつたらかしていますが何とか母親の愛情を伝える工夫はないかと家の中に黒板をかけておいて、どこどこの田にいる、帰つたら何々をやつておきなさいとか、お弁当も気をつけて、インスタントものを入れずに、おにぎり一つにも工夫をし、五年生になるが、さびしがらないようにしています。ほつておいても、愛情のもつていき方で、たいして心配ないと思います。

金平　私も野菜地帯で毎日毎日が日雇いのようなありさまですが、親と子のあたたかい心の通つた連絡簿をつくつてカバーしてやれば……。お姑さんと一緒ですので、心配するほどのことはないと思う。

吉田　さつき船乗りの家庭の話が出ましたが、私どもの海岸地帯は耕作面積が少くて、全部海外航路の船員となつていますが、そのおかあさんのお話では、おとうさんがいないから子どもは責任感が強く、自覚があつて、非行なんて考えられないということでした。おかあさんがうちのことでも村のことでも責任をもつてやつている、教育も一生懸命で、子どもはおかあさんの偉さに協力しようという気持ちがあるわけです。やはり自覚の問題だと思うんです。いつか読んだのですが、スエーデンは社会保障の行きとどいた国なのに、青少年の非行とか、老人の自殺という社会問題が多いということです。子どもだつてそうだと思うんです。現在はあんまり子ども中心主義になつているんじやないか。ポイントのはずれない教育をすれば、ほつておいても悪い影響は与えないという自信をもつています。兼業農家の場合、出稼ぎと同じで主人は朝出て行つて夜帰るだけ、私も朝早く田んぼに出て夜おそく帰るのはたびたびです。しかし、主婦のやり方、考え方、子どもの扱い方一つで、立派に教育できると思う。私は子どもの教育、家庭のあり方として、朝ご飯は必ずそろつて食べる。夕飯は主人がおそいという伝達がないかぎり、待つていて一日のできごとを話し合う。教育のことでも私は何も本を読んでいないが、子どもの読んでいる本についてたずね、こう書いてあるとか、子どもは私がたくさん本を読んでいるのだと思つているらしい。時間がなくても自然に教育できます。

浜田（リーダー）おうちにいれば、そんなこともできるかと思いますが、半年ばかりというお話が先ほどありましたが。

牛尾　兵庫県では幼児教育、婦人学級が県のはしばしまで及んでいます。幼児教育を勉強していく間に、集団保育が大切なことをあらためて認識しました。若いおかあさん方の中には、おばあさんに子どもをあずけて農作業をしたり、働きに出かけるよりも、専門の保母さんに立派な教育をしていただいたらと保育園がほしい

という声が出てくるわけですが、おばあさんは、保育園ができると姑の仕事がなくなるからいらんという。ここで保育園をつくつて、集団保育の効果を考えてもいい時期にきているのではないかと考えているんです。

門屋　うちにもおばあさんがいます。一日の生活設計を立てれば、子どもと話し合う時間もあるし、交流もできると思いますが、ただ出稼ぎの女の人の場合、年令によつてその目的も違います。若い人は隣近所が行くからということもあるが、うちの中で姑と顔を合わせているよりも、外に出たほうがいいという人もずいぶんある。三歳児の教育が大事だといわれているとき、年寄りにまかせて出ていくというのは問題です。結局保育所の問題になる。僻地のおかあさんこそ保育所が必要といいますが駄目。男の長い出稼ぎに対しては、子どもを通じて愛の手紙の通信をしようとやつています。

布施　私も十五日間出たわけですが、しょつちゆう手紙を書きました。主人にも娘にも、小さな子どももしょつちゆう手紙を交換しました。

浜田（リーダー）相良さん、全国農協の立場から、いろいろなお話をきいておると思います。今のおかあさん方の話を聞いて、いろいろな方向へとんでいたように思いますが。

相良（特別オブ）　出稼ぎについては、組織の大会でいろいろの問題を出していただいて、婦人部の方が話の場をもつています。お子さんの問題が出ましたが、今全国の農協婦人部で出稼ぎ農家のお子さんの実態を調査しようとしています。東北を中心にして調査が行なわれると思います。

それから出稼ぎに関連して、集団保育の問題が出ましたが、栃木県の農協婦人部では、保育所の問題に取り組んでおり、その結果の一部が報告されています。保育所に通つた子どもの健康、しつけ、食べもの、すききらい、積極性等について、調査によると、七十パーセントがその効果が認められたという報告がきています。

浜田（リーダー）漁村ではいつぺんにお金がはいるということがですが、水島さんいかがですか。

水島（特別オブ）私は漁村の主婦で、全国組織をもつており、皆さんと話し合うんですが、漁村にもたくさん問題があつて、漁があれば一ぺんにお金がはいるが、不漁となればみじめなものになる。何千万円の投資をして網を引いても人件費も出ないで赤字だけが残ることがある。農家の主婦が現金ほしさに出稼ぎに行くというが、漁村の主婦も同じです。消費ブームに流されて、これだけあれば子どもの教育もできるし、生活ができるという設計を立てているでしょうが、それを度外視して、電気製品も隣で買つたからうちもとお互いに競争する。その結果は私の近辺では流産や病気が多い。保健所長が力を入れてくださるが、お金にはかえられない変な病気になる。今年度は長期経済生活をめざしてがんばろうとしていますが、際限ない現金収入を求める姿勢にも問題がある。子どもについてはまじめに働くおかあさんの姿勢がいちばん大事だと思います。子どもの教育の中心的存在であることを責任しなければならない。自信をもつて教育をしてほしい。と皆さんに望んでおります。

浜田（リーダー）出さえすれば金がはいるんじゃないかという気分になりがちだが、それよりももう少し現実的に考えたほうがという意見があ

りました。子どもは離しておいてもうまく行くときもあるし、くつついていてもうまくいかないときもある。北海道から四国まで農村があると感じるわけですね。和歌山へ行つたら、子どもが農業高校へ行くから自分にも畑をわけてくれという農家もあると思うと、山形へまいつたら、働いているおとうちゃんが、まじめな手紙を出しておられるし、集団的な通信をやるということもしておられる。何しろ出稼ぎは、よくもあれば悪くもある。私どももみていて、悪いとも、いいともいえない。ひじように微妙な立場におかれている。和歌山では出稼ぎにでないのかということがある。北陸、東北の方は農家が季節労働であるために半年働けない。そのときどうするかというと農業だけでお金が二百万はいつてもどこかへ行くだろうと想像されます。そうすると、人間は働くようにできている。働いてもいいんじゃないかと思うし、そうじゃない、おとうさんが半年間出稼ぎに出て、半年後家というのも困るというわけで、その地区によつて、私のしゃべることも違つてくる。全国的なお話が出て、日本といつても広いという気持ちをおもちになつたと思います。生活設計で出稼ぎに行つてる方、耕うん機とかステレオとかは果たして無駄なんだろうかということについて、ご意見をいただければと思います。このへんで休憩したいと思います。

（三時十五分休憩）

（三時三十分再開）

浜田（リーダー）ご経験を話し合つていただければと思います。出稼ぎというのは、結論は出ないと思うんです。行政がやれというたわけでもない。農民の知恵からでた自衛手段ですから容易に消えるものではないと思うが、私は全体のお話をうかがつて問題は出稼ぎをしても大丈夫な家庭とガタガタにくずれてしまう家庭がある。また、出稼ぎに行く社会が安定しているのかどうかという感じもするわけです。

私自身も父親が船乗りで、一カ月に一べんくらいしか顔を合わせたことはないが、何とか育つてきた。最初の主婦の問題も、よくお話いただいたようですが、皆さんの出稼ぎで得る現金収入は生活の中のどんな位置をもつているか。いろいろな問題があるようですが、こういう出稼ぎなら仕方がないと思うけれども、もう少し考えなおしたらどうかと思われることも、ぽつぽつでていたようですが、それを集中的にお話願えればと思います。

私の感じでは二番めの農業経営の力を……ということよりも、三番めの、家庭の生活、子どもの問題、夫婦の問題がでやすいように思いますので、二番めの問題をあとにして、三番めの問題にはいりながらすすんでいきたい。

生活設計とかいろいろ出ましたが、現金収入はどこへいくんでしょうね。

戒　出稼ぎによる現金収入は、皆さんにお聞きしたところ、子どもを学校に出す費用が農家ではたりない。自分たちが勉強しなかつた分だけでも子どもたちに教育したい。その他自分ものも買いたい、と。

浜田（リーダー）教育パパ、教育ママが農村にもあるようですが、教育費のために出稼ぎしなければならないんじゃないかという方もあるようですが。

梅原　私が今住んでいる隠岐では、船に乗らなければ高校に行けません。船賃は一回七百円くらいで毎日通わせられないし、高校にあげるには大学にいくほどのお金がかかる。ですから、大半は外国航路に乗るか日雇いに出ても、現金収入がほしいわけです。島根県全体にそういうことはいえます。

滝沢　子どもは何年後には高校生になる、大学生になるとわかつている。生まれたときから計画を立てるべきだと思う。十年ほど前にグループをつくつて、研究会をやり、農村の悪いことを見つけました。子どもが生まれたころはおしゆうとさんが経済を握つている。子のために学資をためようと思つても、できない方もあつた。今はずつと経済が若い人の手に渡るようになつた。事にぶつかつてから出すという農民の無計画さがあつたと思います。

阿久津　全面的ではないが同感です。農家は野菜などの高いときはたくさん収入があつても、それを農機具の購入とか、生活の設計なしに、出費をしてしまつて、子どもたちを教育しなければならないときになつて、あわてる。平等に教育を受ける機会がほしい、それが一つの民主主義でもあると思うので、親が考えるのはもちろんですが、育英資金、奨学資金制度もそういうものもあるので、何でもかんでも教育費を出さなければならないという考えに問題があると思います。

戒　今のお話ともつともと思います。具体的に例を申すと私のところよりも三、四里上へ上がる親類の子どもが勉強がよくできて、村ではじめて高等学校に行つたんですが下宿しなければならん。高等学校から大学へすぐ行き、奨学資金も受けましたが、山の上で収入はきつている。どうしても教育費がたりない。そこへまた弟が今年はいつた、また下宿させればよけいに費用がかかる。徳島に行つている兄のところに入れれば下宿代が助かるが卒業するまでは出稼ぎに行くといつています。それは目的があるからいいと思います。

浜田（リーダー）　どうぞご自由にお話ください。

滝沢　目的があるというお話が出ましたので、うちのほうに耕うん機の代金だけ出稼ぎにでる方があるんです。

岩崎　近所の方は、大農機具を取りそろえて一生懸命やつているが私のうちは大農機具は一つも入れていない。ほかと同じくらいの面積を、ほかの人より働かないで、農機具も入れずにみんなよりも収入をあげてみたいと、主人と話をし合つているんですが、農機具を入れるお金で人を雇つて、全部人に耕していただく。主人に苦しい思いをさせることはないと思うのです。

塩田　農機具は無理しても購入しておくほうがいいと思う。貨幣価値は時によつてかわるので、物にかえておいたら、安心であり、それを利用して耕地を維持することができると思う。

浜田（リーダー）農機具を買うために出稼ぎに行くのはやむをえないということらしいが。

梅原　私も農機具は運転しますし、田植えもします。

浜田（リーダー）考え方の違いはあると思うんです。たとえ十八万、二十万にしても、一軒一軒もつていたほうがいいか……。

岩崎　経営に絶対必要があれば買わなければならないし、一軒で不経済だつたら利用させてもらつたほうがいい。

山内　私のほうは戸数が少ないわりに耕転機を入れています。水が不足で、川から用水を引いてあげているが、それが少しの期間な

ので作業がみんな一緒になつてしまう。一軒毎にもつていないとおくれてしまうし、人数も引つぱられてしまうので、共同作業はやつていません。昔はあまり出稼ぎする人はいなかつたが、今はそのあなうめに出ている人もいます。

西田　耕うん機は、やはり自分のうちにはほしいと思う。隣百姓というか、隣の家がしたからうちもということではなしに、天気が農業では重要ですから、機械がないとやれないし、働いて買わざるを得ない。いなかには案外見栄つぱりのところが、無理して買つている家もあり子どもの教育にもマイナスになつている面が見受けられます。

岩崎　北海道でも同じで、隣が買つたから借金しても買いたいうちはたくさんあります。しかし、自分のうちの経営を実際に考えて買つたのがいいか、買わないほうがいいかは、家計簿を何年も記帳して、その上の結果で一家で相談しなければならないと思います。

浜田（リーダー）もう一つの教育出稼ぎはどうですか。生まれたとき、子どもは大きくなるとわかつているのに、そのときになつて出稼ぎに行くのはけしからん……。

滝沢　農家は一年くらい蚕が悪くてもやつていく。大へん貧しそうだがそれくらいの余裕はできている。

梅原　うちのほうは、農協に半強制的に保険をかけています。これは教育費にしますが、やはりその日その日の教育費がいります。

門屋　うちのほうは、出稼ぎで得た現金は、男の人は経営とか生産面に向け、若い女の人ならば小使いとか簡単な生活費に向けます。相当な年令になると、子どもの教育費に当ているうちもある。私のところは高校に通うと全部で五千円かかる。山の方へ行くと、中学校も下宿になる。下宿が三カ月で五千円。おかあさんがみつしり働いて一万円、二人を学校にあげられる。

浜田（リーダー）宮城の残間さん、のどを痛めていらつしやるそうですが、よろしかつたら、ご自由に発言してください。

門屋　うちのほうでは、生まれたときから教育費をためるために家計簿つけたおかあさんは、実際にいないし、できません。教育費よりも当面の生産をあげるために機械を買うとか、機械は借金しても買う。生活設計はわかつていても実際問題としてできません。

滝沢　教育しなければならない時期になるとできるんだから、生まれたときからやればできるんじやないか。

浜田（リーダー）滝沢さんは子が教育県で、・・・。新潟は子どもが生まれると桐を植えるという風習があつたようですが……。

岩崎　私のところもポプラを植えたり、次男坊の教育費を出すためだといつてきかせると、黙つていても技はらいをしたり……。

牛尾　保険にはいつて、計画的にやつても、私の場合子どもは、三十万あつたら大学へ行けるだろうと十八才満期の保険にはいつたけれども、とてもそれではたりない。一年分にしかならない状態になつてしまつた、そういうことも考えておかなければならんじやないでしようか。

門屋　若いときは小使い銭すらない。四十代くらいまでの間に、どうやら生産関係の機械がはいつて、教育費をと思つたときには、子どもは大きくなつている……（笑い）。

浜田（リーダー）教育出稼ぎは農村だけではなく、都会でもサラリーマンは共済会からいくら借りられるだろうかと出稼ぎをしないでお金を

借りることを考える。そういう面からいうと、都市といわず、農村といわず、教育費に金がかかること自体が問題なんでしょうね。

阿久津　サラリーマンもかなり教育費に使つていると思うんです。ですから農家の方も収入のうちの何割かを教育費にかけるという気持ちになつて、なるべく出稼ぎをしなくてもすむように予算生活をしてほしいという感じがします。

梅原　都会の給料生活で、子どもを塾に入れたり、教育ママさんの生活をなさるのに、どれくらいのお金があつたらできるのですか。

浜田（リーダー）私から見ると無茶なことをしているなと思いますね。金額的にいうと、山の手で学習塾、おけいこごと、学校にお金を出して、月五千円近くは出ているようです。どこからそれが出るかと、不思議に思うんですが、それは出るんじゃなくて出すんだというんです。

梅原　それなら農村はもつと楽でなければならないはずだと思うんですが、私たちは補習塾だけです。椎茸グループでも、ここらで残らなければならないと、何べんとなく話し合うんですが、税も出さなければならないし。

浜田（リーダー）それは、私が反論いたします。私は大学生の奨学金の係を長年やつておりましたが、一体このうちは困つているのかいないのか、判定をくだす場合、農村の方の税金ほど安いものはない。報告書をつけておりますが、それをみると、サラリーマンには奨学金はやれないが、農村の方には、無条件でほとんど差し上げられる。まあ税金のことはしばらくおいてください。

山根　結局どこにウエートをおくかが問題になつてくる。年収はきまつている。その中で生活をする、ある程度初めから計画し、わが家の最低線を出すべきだと思うんです。自分の経営でまかなえなかつたら長期計画になるかもしれない。今働いた現金を追つていたら、いつまでもその生活が繰り返されるんじゃないか。

浜田（リーダー）教育出稼ぎはちよつとおいて、ステレオを買つているとかそちらのほうへ話を移してみましょう。

吉田　総収入が少ないから、必要に迫られて出稼ぎに出るわけで、皆さんお話のように、計画性までいかれず、その日その日に追われているようです。二、三年前に区画整理したら、田んぼを買うほど経費がかかつた。それを何年間かに返していくことになつたがお米の収入からはそれが出ないので、出稼ぎをして、それにまわす人が大半です。

浜田（リーダー）出稼ぎでどれくらい稼いでくると思いますか。

牛尾　水産加工場では、一日八時間で、一時間が四十五円、一日の収入が三、四百円で、一か月大体六千五百円。内職の場合ですと、農家の婦人は、細かい手先きの仕事は向かず、大ざつぱな仕事をして、大体一日が二百円かそこら、したがつて、朝出て夕方には帰る日計いの水産加工場にでるわけです。

吉田　私のほうは、男で一日千円くらい。やはり男は遊んだりして使うんで、月々二万円も家に入れてくれれば上等。女が働きに行くとお金は少ないけれども、とうちやんよりかあちやん行つてもらいたいという希望があつて、このごろは県外へも三十くらいのお稼さんが出ていくようになりました。

浜田（リーダー）私が行つたのは山村でしたが、冬は雪が四メートルくらい積る地域で、まじめなおとうちやんが六カ月でもち帰る金額が十万

から十五万、月に二万がいいところだという。この方の場合はひじように几帳面に入れておる方で、息子や娘が行かれた場合は、半年で一万円を入れれば上等だということです●東北の場合は、六カ月で十万から十五万が相場だとか。

金平　耕うん機でも二年かかります。

岩崎　耕うん機でもその他でも、仲よく隣と使い合う。自分だけ先にやるという競争心をおこさなければ、出稼ぎに行く根本原因が解決すると思います。

滝沢　金額の問題ですが、女の人がうちから通つて、冬の間で二、三万稼ぐわけですが、私は、冬じゅううちにいますが、その間に消費生活の一年の計画をたてます。着るものとかずつと整理して、二、三万のお金はそういう計画で浮いてきていると思います。

岩崎　家庭の管理をちゃんとやれれば、出たつていいと思います。

金平　出稼ぎの金を耕うん機を買うのにあてる場合でしたら、作付けの反別を少くしたり、何軒かで共同してやつたらいいと思います。

戒　私のほうは畑が多く田が少なく、平均五反くらいですね●二十軒あまりで大型の耕転機を二台と、もみすり機がそろえてある。その補助もあるし、とてもうまくいつています。

金平　苗代にしろ何にしろ、無駄が多く、共同化してやつたら、ずいぶん無駄がはぶけると思います。

浜田（リーダー）その反論は

梅原　それは田んぼが乾田ならいいが、湿田の場合は時間がかかるんです。これくらいはまる中を（もものへんを示す）テーラー押すんですから。牛がいると、エサを刈る、そのために朝の三時半ころ起きてテーラーに乗つて、子どもが学校に行くのに間に合うように食べさせる。それにお米は一日でも早く出したほうが値段がいい。田植えは共同でしますが、機械は、はじめは共同でしていても、人が早くやれば自分も早くやりたくなる。待つていられなくなる。

浜田（リーダー）梅原さんのお話は十分うかがつたんですが。

塩田　私の地区ではある程度の生活水準まで上げるためには、出稼ぎのお金を生活に使わなければならない。教育費にもあてはめなければならない現状です。

門屋　私のほうははじめは機械は共同がいいといつたが、消耗品のために、一緒にやると駄目。自分のところをやつて一日も早く出稼ぎに出たほうがいい。一日千円になるから、一日でも早く行きたい。機械を買うくらいのお金はすぐでる。そういう考えです。前に役場で大きなトラクターを入れた。それがいちばんよかつた。

吉田　共同は理想的かもしれないが、やはり早く自分のことをして出なければならないという考えがあるので、二反、三反くらいでみんなもつて、朝やつて昼間働きに出る。耕うん機を買うと働いて出るお金だけプラスしているわけです。

金平　私のほうも一軒に一台耕うん機をもつていますが、はじめのうちは三人で農協から融資をうけて、その返済が終わらんうちに駄目になつて次のを入れる時は一人一人になりました。野菜地帯で田んぼに裏作もするので、一人一台でないと都合が悪いんです。

戒　うちのほうはよその半額以下の賃金だけもらつて機械の消耗費にあてています。田んぼが少ないので、出稼ぎに行きます。先輩農業員が作業員となつて指導してくれます。大ぜいで買うので金額は少ない。

岩崎　私の村では国家から近代化資金として、たとえば一千万の機械とすれば五百万補助がでます。その半額を幾軒かで負担して、仲よく共業化をやつて生活はぐつと楽になつたと喜んでいるところがあるんです。

浜田（リーダー）全体で共同でお買いになるにしても、最初のお金は作れるのでございますか、五百万円……。

岩崎　農協からの貸付け金もありますし、出稼ぎをしないように知恵をしぼつています。

戒　田植えを競争でするということでしたが、私のほうは用水で上の田んぼから順々にはいつていくんです。

吉田　田は二、三軒共同でやります。水は用水です。順番ではありません。

西田　共同は理想的だと思いますが、耕地面積も同じでないと無理じゃないか。耕地面積と仕事の能率ーこれは私自身の問題ですが、私は京都市内で大きくなつて、農村にはいつたので、田植えも皆さんの三分の一くらいしかできないので、共同は理想ですけれども、私なんか入れてもらえません……。

岩崎　能力に応じて田植えは一日二千円ですから、人並みに植えれば二千円、半分しか植えられなかつたら千円、仕事をしただけ…。

塩田　私共同の問題で話があるんですが、明日にまわしましようか。

浜田（リーダー）皆さんのお話があるんですが、農機具を一人一人買うために出稼ぎに行くのはどうかと思うという説と、やむを得ない、私の土地を見てくれというご意見と二つに分かれたようです。農業経営に関連して出稼ぎに行くというご意見は、ほぼ出尽くしたようです。そのほかに、先ほどから繰り返すようですが、隣が行くから私も行く、若い人は遊ぶのが魅力ということも出ましたが、そのへんはいかがでしようか。やむを得ない、ぎりぎりの出稼ぎは目をつぶろうというお話はそれなりの理由がある。もう一度考えなおしたらということも考えられる。そうかといつて農村でもステレオを聞こうということは、けつして悪いことではない。となると、自分の生活水準を考えるといつてもそうもいかんようですが、いかがですか。

阿久津　生活補助を受けている方が冷蔵庫を買つたら、ぜいたくだと取り上げられたということがありましたが、生活補助をうけていながらいけないということは、ないと思います。それから精神的な面でも、ステレオで流行歌を聞いて、一日の労働の疲労をいやし、あしたの生産の活力を求めるなら、また必要じゃないかと思うんです。その場合に、新しいものでなくても、中古品で買うとか、やはり人間は何か慰安を求める本質的なものがあると思います。波に流されて買つているような気がしても、その人にとつて、必要なものなら、いいと思います。

浜田（リーダー）布施さん、さつき私が留守したので自動車が買えたといつておりましたが。

布施　家計簿からみると、まだまだ車は買つてほしくなかつた。主人も勤めていますし、お酒を飲むわけではないし、飲んでうちへ帰つて、あばれられるよりはと、あきらめています。

塩田　皆さんのお話を聞いていて、裕福な方たちが多いということと、何かあまい考え方をしているような感じがするんです。新聞をみても、もつともつと農村問題は深刻じやないかと思うんです。現に政府も、そのために構造改善事業を呼びかけたり、手

をさしむけているんですけれども。

岩崎　構造改善事業で、北海道では四町以下の経営規模なら将来希望がもてないので、やめなくちゃならない。

塩田　出稼ぎに行つて、人間であるかぎりある程度の生活水準に達したいという欲望はある。

浜田（リーダー）話を少し整理して、教育のために出稼ぎに行くという話と、農機具を買うために行くという問題と、ステレオを買うために出稼ぎに行つたつていいじゃないかというーこれは一体がまんすべきものなのか、いくらでもお金を追つかけて取りなさいということなのか、適当なへんで満足しなさいということになるのか、これはどうなんでしょう。

吉田　若い人は取れるだけ取ろうという野心がありますが、年をとると、ある程度とれたら安定した生活をしようという考えと年令によつても左右されます。

浜田（リーダー）ある程度取れれば、それ以上行かなくてもいいという意見が出た場合吉田さんがお考えになつて、それでは出稼ぎに行くなというのはどれくらいの線でしようね。

吉田　私のほうでは、百万円くらいの収入があれば、五人くらいの家族で、出稼ぎに出ないと思います。

浜田（リーダー）今吉田さんがお出しになつた線より低い線か高い線がありましたら。

岩崎　北海道は生産費が五割ですから……。

浜田（リーダー）内地の場合は六十万・・・。

塩田　生活は金銭で割り切れるものではなく、土地土地、家々、その人々で、レベルのおき方が違うと思うんですが。

山根　最低生活費をいろいろな方法で算定してみた場合、私のうちの場合は、現物収支含めて、使うお金が八十万、すると、家族がめいめいのほしいものを買つていたらたいへんなことになる。それで、まずどれだけ必要か計画を立てることが必要だと思います。

浜田（リーダー）出稼ぎがいい悪いという結論を出す必要はないが、一軒一軒によつて違う。その違うのをあげていけばきりがない。大よそ、出稼ぎしないほうがいいという場合もあり、しなければ食べていけない場合もある。そこで、何かの水準を描いておられる、その水準をーたとえば百万以上、山根さんの場合は八十万。もし仮りに百三十万から百万くらいの収入を頭に浮かべているとすれば、五百五十万の日本の農家で、その八割くらいまでは出稼ぎを認めざるを得ない。

岩崎　欲深い一生を送るよりも、自分たち夫婦子どもの生活を大事にする暮らしに重きをおくほうがいいと思うんです。お金を追つかけるよりも、貧しくてもそこには楽しい生活がある。

滝沢　ステレオのために出稼ぎをするのもいいと思うのですが、ただ、それを飾りものにしていないで生かさなければ意味がない。

門屋　それぞれのうちには、いろいろの目的があると思うんです。うちを修理するとか、その人の納得のいつた出稼ぎなら、それも仕方がない。バランスのとれた生活であつてほしいし、みんなが満足する点をあまり高く望まないで、うちの経済を考えて、満足点を見出すべきではないか。その時点に立つての出稼ぎはいい。政府の政策は、農家の戸数をへらすのを目的にしているので、岩手県は農政にあつたやり方をしているのではないかと思います。

岩崎　それははつきりしているんでしようね、先生。農業人口をへ

らす、だから出稼ぎも仕方がない……。

浜田（リーダー）農林大臣がこないとわかりませんね（笑い）。

門屋　米作だけにたよるからいけない。冬期間もできる酪農や養鶏もして、いろいろやつてみたけれども、農作物の値段が安定しないので、安定した生活ができないところに問題がある。

浜田（リーダー）年令別の出稼ぎは考えなければならない中年の方は考えてやつているが、若い人は考える人が少ないという意見がでましたが。

天谷（特別オブ）　私は農業でないんで、実感じやないんですが、今の高校の入学率とひじようにからまつていて、地域地域によつて、考えるポイントが違う。また皆さんのお話になつた中で、実際に青年たちは青年たちらしくやつているところもあります。出稼ぎに行かないように……。家庭の不安は大きい。生活の向上ではなくて、生活の安定を青年たちは考えている。

地域に部品工場をもつてきて、遠くまで出稼ぎにいかないという山形県の例もあります。農業の仕組み、女子青年の立場、母親の生活の歴史などを勉強して農家の一女子青年として、どうしたらいいかという学習の段階もあります。正直いつて、生活の向上じやなくて、生活を安定させるような考え方をしたい。物価の問題もひじように青年たちは悩んでいます。老後の問題、行政制度の問題、この三つをどうしても抜かしちやいけないというのが、この三月に行つた研修会の中でだされたんです。

浜田（リーダー）お金を追いかけるよりも、生活の安定といいますか、人間関係がうまくいくことを青年諸君も考えているというお話が出ましたが、一つの意見に対して反論がありましようし、また、その反論の反論があるかと思います。私はできるだけ自分の意見はいわないようにしてきたつもりですが、私は、出稼ぎにはある一つのイメージをもつておる。それは農民の考えだした、いわば農民の自衛態勢から生まれた一つの方策である。このことは、強く考えておくべきじやないかと思う。構造改善だとか、近代化資金とかは、行政の面からきたもの。しかし働いてお金を入れるというのは、これは農民の考えたこと。これは一概にいいとも悪いともいえないじやないかと思います。生活の安定は口でいうほどやさしいことではないし、ある程度のお金がなければ、やはり安定できない。

それから先ほど農家をへらすんじやないか、あるいは酪農も、鶏もやつてみた。けれども価格が安定しないとおつしやる。しかし農業は企業にならなければいけないという意味は、価格は不安定だぞということにすぎない。稲作は企業じやない。現在の時点では価格の上がることをいつている。ほかのものは酪農にしても、ブタにしても、価格が上がり下がりするのはあたりまえだということを、頭にこつこんでいる。安定した価格にする努力はしなければならないが、価格は変動するということをはつきり覚えておくべきです。

主婦は計画性がもてるのかもてないのか。もとうとしてももてないのか、はじめから放棄しているのか、放棄させられているのか、煮つまつた問題点のような気がします。

もちろん政府に要望すべきことは、当然それぞれの地域で要望しなければならないが、自分のうちに火の粉の振りかかつてくる中で考えていくとすれば、とれない財布もとらなければならない。立てられない計画も立てなければならない。その中で、どうして

も出稼ぎしなければならないものはするといつた幅の広い目で、各地区の状況がでてきたので、そのへんで私の勝手ないい分を述べさせて頂きます。出稼ぎに出ているおとうさんもしつかりしてもらわなければならないし、残つたおかあさんもしつかりしてもらわなければならない、半年おとうさんがいなくてつぶれるような家庭はつぶしてしまえ、たかが半年の間うちが守れないようなおかあさんを廃業しなさい。私は基本的にはその考え方は間違つていないと思うんです。子どもも、夫婦のこともたいせつです。しかしそれよりも、自分のうちを守るんだという姿勢がおかあちやんにもてるかもてないか。幸か不幸か農家のおかあちやん連はそういう生活になれていなかつた。漁村のほうは、結婚したときからなれておりますが。

二、三年前は出稼ぎに行かなかつたといわれましたが、ここ二、三年急激に出稼ぎがふえている。この二、三年のことに耐えるおかあちやんが一体何人いるかという点も、考えてみてほしいところです。お話くださつた点は、今後の農村の女の方々が十分考えていかなければならないことだと思います。これは田んぼの広い狭いにかかわらず、考えていかなければならない。出稼ぎの問題は糸口と申しました。夫婦の問題、老人の問題、共業の問題など出稼ぎの中から出た問題点を今後お話し合いをしてもらいたいと思います。

私は皆さんの所感文を拝見した結果、ひじように驚いたことがある。農家の主婦は、今までは八割までが悲しいことが書いてあつた。こんなにつらい、こんなに貧乏だというお話が普通でした。ところが、今回は八割が逆にこうやれば出稼ぎしなくても何とか経営できる。農家はみじめじやないんだという所感文であつた。これは皆さんが、生活の程度が高いのか、農家についての見方が転換してきたのか、いろいろ見方があると思いますが、今後ぼつぼつお話し合いをしていただければ幸いだと存じます。

第三部会。

第二日目
四月十四日
一〇・〇〇 一七・〇〇

浜田（リーダー）きのうは出稼ぎを一つの糸口にしたわけですが、わが国の農業が現在直面しているさまざまな問題点が、どこかに農家の主婦の仕事にひつかかつてでてきているということがはつきりしたんじやないかと思います。その糸口から今度はもう少し中身へはいつていきたいと思います。

二番目には、農家の主婦が今三ちやん農業とか主婦農業とかいわれているが、そういつた婦人が、農業経営でどのような役割りを負わなければならないかが中心に据えてあつたのですが、三は経営と切り離せやせんが、一応、従来主婦の仕事といわれていた家庭生活の内面的な問題で、親子の面も夫婦の面も見なおしていかなければならないという段階にもきているので、やはり切り離せない感じがしますので、話題は一応二の経営から元どおりはいりたいと思います。残間さん、のどは少しよくなりましたか。農家経営のところで拝見しておりますが、その中で・・・。

阿久津　主人が学校の先生をしていて、主婦農業の代表的な生活をしていると思う。家族構成は父と母が七十五才と六十八才、子どもたちが高校に二人と中学が一人。田を七十アール、畑を四十アールの耕作をしているのですが、一昨年から家庭のきりもりと農業の経営いつさいをまかされています。肥料の設計とか、品種の選定、地ならし、収獲から販売まで、ほとんど一人で計画を立て

てそれを実行し、家庭作業と農作業と両方に追いまくられているわけです。どうしてそう仕事をしなければならないかと、ときどき考えるんですが、子どもの教育が問題になつてきて、また家も三十年も経て改築に資金を要しますので追いかけられるような生活になつてきました。その中で私は、主人も勤めから帰つてあまり不満のないように、子どもたちにも、両親にも迷惑をかけないように、自分の体にも無理のないようにと頭において、できるだけ出稼ぎをしないで収入を考えるやり方をしています。

浜田　(リーダー)ご主人お勤めは昔からですか、最近ですか。

阿久津　前には朝鮮の総督府に勤めていました。

浜田　(リーダー)あなたの農業は昔からですか。

阿久津　私はもと学校に勤めており、こつちへ帰つてから始めたわけです。農業のイロハから本を見て、主人が農業学校に行つているのでアドバイスしてもらつて、実際私がやつています。

浜田　(リーダー)いつごろから全部あなたの手に移つたんですか。

阿久津　一昨年ごろからうちの改築資金が—これは私たちが勤めた金と共済会から借りたお金で、多少不動産もありましたが、全然あてにしないで、自分たちの収入だけでやつたんです。

浜田　(リーダー)西田さんも非農家からお嫁に行かれて、今主婦農家だと思いますが。

西田　私は水稲が百三十アール、五十アールを野菜をうえて、結婚したとき主人は京大の大学院に在学中で、農村で暮らすとは思つていませんでした。主人の父が村長で、飯米を作るだけだつたんです。私たちがいなかに帰つても食べて行けないし、何とかしなければとやり出したんです。

最初主人が胸を病んで家に帰つたのです。はじめての農村生活で主人は病気だし、苦しんだんです。はじめは主人が高校に勤めて兼業でしたが、だんだん田畑などふやしていくと人手がいり、私があまりできないので経費に追われてしまうので、高校に勤めているよりもやめたほうがいいと専業になつたわけです。お互いに責任を分担して水稲は主人の専門でもあるので主人にまかせて、養鶏部門は私が責任をもつて千五百羽ほどいますが、朝から晩まで仕事に追いかけられていても責任をもたされるので、仕事のやりがいもあるし、楽しみも見いだしています。販売は主人はきらいで、私がいつさい引き受けて県にも出したり、車で三十分もすれば京都の中央市場に行けるので、自分で運転して持つて行きます。

吉田　小さいときから農家に育ち、農家に嫁いで、中心になつて働いています。私は、農業の仕事も家庭内の仕事も、いろいろ勉強しながら働いています。

浜田　(リーダー)ご主人は、仕事を分担されてやつているのですか。

吉田　分担しないで、毎日一緒に出て一緒に働いています。

浜田　(リーダー)今三人の方がそれぞれ違う経営の中での主婦の立場をお話しになつたんですが、これを糸口にどうぞご自由に。

金平　私は今までお姑さんや夫のいうなりにしてきましたが、専業農家の方も兼業農家の方も、農業経営の一つの柱となつていくところに、自分もそれを自覚し、また楽しみもし、労働にも耐え得る意義もあると思います。

浜田　(リーダー)金平さんのところは兼業ですか、専業ですか。

金平　専業で、野菜とお米が半々です。

浜田（リーダー）ご自分では経営の中にどれくらい立ち入つていると思いますか。

金平　主人はいませんが、主に畑をしています。自分が今まで経営をいつさいやつてきて、そこに喜びもあり、自覚もし、はりあいもあります。

門屋　私はずつと横浜で育つて、農業は全然見たことがなく、どんなところにお米があるかと思つたくらいです。終戦後年寄りがやつていた農業を受けついで、二年くらいは年寄りとやつたが、あとは自分でやつてきました。昔と今と農業がかわつて、経営も農薬とか肥料とかあらゆる面でむずかしくなつて、農家の人たちも勉強しなければやつていけないのではないかと思う。それと機械化しておかあさんたちも暇ができたようだが、男たちがいないので、精神的に苦労が多くなつた。教育とか経済とか、女がやつていかなければならなくなつた。男にいわせると、男なんかいなくても機械があるし、田植え、稲刈りも、女だけで農業はできるようになつたというのです。女が勉強するので利口になつてきたといわれている。今の百姓はわりに暇があるんじやないか。私は一人で一町歩くらいやつているが、婦人会に、月に十日くらいでてもやつて行ける。上手に使つたら農家は主婦一人でやつていけるんではないか。耕地面積にもよるが、経営も、農業の収入は自由なんですが、主人の収入で生活をして、農業の収益は家を建てるとか、子どもの教育費にためています。

浜田（リーダー）兼業と専業の方と主婦の立場が違うようですが、生活費は主人の収入で、農業は自分で働いて投資したり、あるいは将来の設計を考えたりというふうなこと。それから専業で一緒に仕事をしても、経営の主体者となつて考えていくという、ちよつとこれは違うような気がするんですが、そのへんどうお考えになりますか。

塩田　私のところでは、前は米麦の専業農家がほとんどでしたが、現在は兼業農家がほとんどになつています。私のうちでも年寄り夫婦は専業農家でした。ところが主人の代になつて、兼業になりました。私は純粋な百姓の娘でした。嫁いできたときに、しゅうとが、私に、おまえの主人は勧めているので、わしらが年とつたらおまえが農業経営の主体となるのだからと、きものかわりにトラクターを買つてくれました。ざつと十五年前です。父は当時五十五才で、農機具を使う能力も体力もあつたが、全然力を出してくれない。外で覚えた技術を私に教えてくれた。研修会にもどんどん出してくれました。当時はむごい父だなと思いましたが、現在は感謝しています。そのとき父がトラクターを使つていたら、私はおそらくまだ手を出さなかつたろうし、現在はまだ元気でも、いつどうなるか不安ですし、そのときになつて使えるかどうかわかりません。父母はまだ若いが、経営の主体は私にあります。結婚して五、六年で参加したわけで、農業経営、家庭の管理の責任者というのではなく、家族みんなそれぞれ協力者で、事務は私が家計簿をつけるとか、品種の改良は主人が外へ出てやつていることを帰つてきて相談しながらやるわけです。

梅原　私も都会から行つたときは、低抗を感じて泣きましたが、私のほうは農業経営といつても農地が少ないし、平地でないために、ぎりぎりいつぱいの生活で、農協でタケノコのかん詰めを加工して農業収入をふやせるようになりました。それも五、六年前から外部へまで買いに行つて私たちはゆでたタケノコの皮をむいて、

男性はかん詰めにしたり加工しています。そうしてみなさんの知恵と共同の力で収入を生み出しています。

技術の導入も、女も進んでやつています。テーラーなど婦人会で講習して使う人はたくさんいます。

浜田（リーダー）あなたは経営の主体ですか。

梅原　私は前年の八月に転勤してきて、今はしませんが、以前、私とおばあちゃんが主体となつて働いて、主人がその方面の仕事ですから勉強している片わら私も教えてもらうのですが、おばあちゃんは私や主人が書つたのでは納得しないので、有線がいつたと申して、近代化に目を向けています。

岩崎　私も参加はしますが男が主体です。技術を身につけようという女は少ないようです。みんな男にもたれかかつている。私は自分のことなので勉強もしていますが。

浜田（リーダー）いろいろな状況がお話されましたが、私は二つほど大きな問題を引き出してみようと思う。一つは、主婦農業、女と比較的若い子どもでやらなければならないということを最近いわれてきたんですが、皆さん方の場合どうなんでしょう。昔の主婦農業と、そういわれ出した最近とひじょうに違いますか。感じとしては。

吉田　かわつたと思います。昔、同じ専業で主人と二人で働いていても、耕うん機を使うとか農薬散布という重労働は男がやつていたが、このごろは耕うん機も女が使うようになつてきて、とても女がやり手になつたとは思いたくはないが、必要に迫られてやつています。

浜田（リーダー）この問題を出したのは、兼業がふえて、主婦が農家の主体とならざるを得ないので、どうせなるんならちゃんとしたものになろうとしてかわつたのか、兼業農家でなくても、私は農家の主体になるんだと、女の方が出てこられたのか。

西田　私はあとの場合に属するんです。耕うん機でも、私にできないことはないという意地もあつて、負けん気でやつたのが。

岩崎　男と女の体がちがうから、体力に応じてしなければいけないと思う。負けん気を起こさず自分のできる範囲内で主人を最大限に助けようと思つて、女だからとあまやかされることのないように技術をみがいて、営農の相談もかけられるように、一生懸命勉強しようと思つている。

浜田（リーダー）兼業にしろ専業にしろ、女の人が負けん気でも何でもいいが男がいらんというふうになつていくのが主婦として確立していく方法なのでしょうか。

門屋　私の地域はその両方からきている。男がいなくなつたので女がどうしてもそうしなければならないのと、専業のおかあさんたちも、負けていられず、結局細かい肥料設計とか経営をやつている。昔は細かい調査はおとうさんがいなければわからないのを、今はおかあさんがいなければ返事ができない。大きな機械でも、中央にたのめば教えにくる。あとは女で十分だと。でも、これでいいんだろうか、やはりウソじゃないか。仕方がなくてこうなつたとしたら、女は家庭に帰らなければいけないと思う。

戒　私のうちは田んぼ、畑で九反くらいです。はじめは主人が勤めていたが、親たちが八十才以上になつたので、やめて専業になりました。すると現金がはいらなくなり私のほうは手が空くようになつたので、主人の月給の半分でも生み出そうと、十年くらい前から編みものの内職を農閑期にして、主人の月給の半分、一万円

から一万五千円くらいもうけます。主人が農業に興味をもつているので、兼業の奥さんが忙しいのをみて、共業組合をこしらえたらと、麦は早くから共業にしていた。また、稲にしました。私は共業は皆さんと一緒にはしますが、主人が肥料や農薬を指導するので、私はもつぱら奥さん業。

浜田（リーダー）門屋さんと戒さんがお話しのように男まさりというか、世間的にいうと、共業の問題はあとまわしにして、今の問題を、滝沢さん。

滝沢　私は、主婦業と農業とを同じくらいの重さに考えていいと思うんです。ですから分業する場合にも、主婦業、たとえば炊事とかお洗濯とかを主人が外に出てする仕事と同じ重さでやつていつて、私が両方受け持つているんですが。

塩田　現在女が農業経営に進出しているのは、やらなければ仕方のない状態になつておる。どうせやらなければならないなら一生懸命研究してやるべきだと、考えているわけですが。

浜田（リーダー）仕方がないことがなくなれば農業をやらなくてもいいということですか。

塩田　そうじやない。やらなければ生活がなりたたない状態になつたら、一生懸命勉強しなければならないのが根本ですが、現在男女平等の時代にです。男が身につける技術を女がつけられないだろうか。女が農機具を使えば男まさりと思いながら、自動車を女が乗りまわしても何ともいわない。

浜田（リーダー）男がいらんことになると、男の方は気楽ですね。農業は女にまかせておけばいい。おれは外に出て働く場所がある。はなはだ男は都合がいい。

戒　無能な男が多くなる……（笑い）。

塩田　そんなことじゃない、地方会議で女性は男性化した傾向があるという話がでたが、私は絶対にそういうことはないとお答えした。現にテーラーも使うし、オートバイにも乗ります。けれどもそれは私自身の自覚の問題で、あなたはいらないという態度はとつていません。

浜田（リーダー）農業は女房にまかせておけばいいんだといつて、ほんとうにやつていけるものなのか、それが主婦の役割りが農業経営の中でがつちり上がつたことになつたかどうか。

布施　主人が農林省の統計調査局に勤めておりますが、以前は農業の指導者をしていたんです。ところが姑は七十八才で現在農業にタッチしませんが、すごく達者で、前は農家の主体となつていました。当時私は子どもの世話や家事に追われていました。姑が弱つてきたので、私が主体とまではいかないが、責任をもつてやつている。私が肥料設計とか、普及員の指導のもとに意欲的にやるようになると、主人は勤めの責任も重くなり、うちが顧みられなくなつた。けれども日曜日だけは耕うん機を使つてもらう。平均五十アールほどの山の間の田んぼで、ちよぼちよぼしていて、女では無理なんです。

浜田（リーダー）すると布施さんは、そういう状況になつたからやつているということになりますか……。

岩崎　私のほうでは女の人が機械を使つたり技術を身につけている人もあまりいません。男の人がしています。

西田　男まさりという言葉が出ましたが、結局女がそこまでやると自信とファイトをもつて、はじめて男がいらんのではなく、男の

段階に達する過程であつて、女が何でもやれるようになつたら夫と協力してやつていく、決して男がいらないという問題ではないんで。（笑い）

梅原　私も同じ意見で、女が勉強して農業がわかると話がまとまりやすいんですね。うちでは土曜日でないと主人に手伝つてもらえないが、私が家事が片づくまで待つています。肥料は何をまくと、普及員をしていたのに私にきくんです。それで夫婦一体になつていて経営にプラスされていると思います。

塩田　主人が勤めていますが、よく経営を知つています。というのは、私が大体主体になつてやつていますが私が米の品種や出来ばえの比較など話をしますと学校で友だちに聞いて、品種をかえたらなどといいます。父や母にも、今年はどうしようかと相談します。みんながどんなものを植えて、どうするということを知つている。

浜田（リーダー）山根さん、お若い方がこれから農業にはいつていく場合。

山根　皆さん経験から話しているんで口だす余地がないんですが、男まさりという形でなく、お互いに責任をもつてやるには、女も男と同じレベルになることが必要だ。もちろん体力的な違いはあるが、男女共学十六年やつて、個人差はあつても男女差はないことを知つていますから、女も男と肩を並べる、それでこそはじめて責任をもつ家庭経営、農業経営ができるんじやないか。

浜田（リーダー）皆さん方がお嫁にゆかれたとき、農家の指導者は多分こんなことをいつていたと思うんです。主婦はせいぜい養鶏するくらいに農家がなつてくれればありがたい。田んぼに出て、いわゆる重労働をやらないのが、農村婦人のいちばんしあわせな道だ、そういう形に農家をもつていけないものかと。それが途中でかわつてきて、自分も農業経営を身につける、主婦の地位が上がるのだから農業技術をお勉強なさいとかわつた。それがさらに、農業生産力を上げるのには主婦が積極的に農業技術を身につけて、農業経営者になつていただかなければならないと、仕方がないからやつたのかも知れないが、いろいろなやり方がでてきたわけです。幸か不幸か私わかりませんが皆さんのお話を聞いていると、とにかく技術は身についた、農業の経営を女子にまかせてもかまわないんだ、ということになりますが、完全な両立は女性に負担がかかりすぎることは目に見えているわけです。

両立する形を追い求めていくのがいいのか、それともご主人は別の仕事をもつて、経営は私がやるというのがいいのか、これからも考えていかなければならないのか、それとも今は仕方がないからと考えているのか、そのへんでもう少し話をしてみませんか。

阿久津　私は今のところ仕方がないからはいつたというところです。経済が安定しておりませんから、あと十年間子どもの教育のためにがんばろうと思います。長男はただいま中学の一年ですが、私がいつも人間を作ることがたいせつだと申しているせいかおとうさんのあとを継いで先生になるというんです。私のような生活を長男の嫁にさせたくない。できることなら、主婦はやつぱり主婦業にウエートをかけるべきだと思います。できるだけの教育をして、長男が教育者として立派に生活できるならば、農業はやめてもいい。主婦が農業を本格的に取り組んだとしても、男性にはかなわない。

浜田（リーダー）長男の嫁にはさせたくないというご意見が出ましたが。

阿久津　体が疲れるので、主人が帰つても不遜な態度が出る。すると、主人は、やつてくれるのはいいが、働いていることを鼻の先きにぶらさげないでくれと。働いてしかられて……。お金が足りないと働かなければならず、先祖代々伝わつた土地は手放したくないが、老後は恩給で生活できるし、長男は世界中どこへ行つてもいいと思つています。

門屋　私のところでも、婦人の地位が上がつてきた。女の人に聞きますと、自分たちにまかされたから楽しいと。一時はあそこの嫁さんは耕うん機を使うと、言われたが、それくらい女が主体になつていながら、耕うん機や何かは使わない。体力が違うという。そんなものを使う暇に、家事とか育児とか教育という分野がある。体をこわしてまでしなくてもいい。

専業のおかあさんに聞くと、やつぱり家庭の主婦でありたい、

岩崎　専業農家ですが経営面積が多くて忙しくても、女はやつぱり家庭管理が大事だと思います。それに主力をおいて、あまつた時間を男の経営に力を貸しています。

山内　夫が勤めていますが、お互いの立場を理解して、女は女、男は男の仕事をできるだけ協力してやつていきたい。

西田　土地を広げて多角経営をやつていると、理想どおりいかない。結局忙しさに追いまくられて、主婦業をやつていきたいが、実際の問題としてできない。結局農家が貧しいことに原因するんだろうと思う。

岩崎　私のうちも働かなければ食べていけない。北海道の全道大会でも主婦の家事労働が取り上げられたが、やはり、北海道の男は女の労働に期待している。それで酪農をやつている。長男は、農業学校で女を過労から解放しなければならないと習つてきて何とか自分の母親にもそうさせたいという気持ちが、私はよくわかるんです。女があんまり出ていくと、男はああよかつたと思うんじゃないでしようか。

滝沢　私は兼業ですが、主婦業を大切にしたい。全然農業をしたことがなく、結婚してはじめて農業にはいつて、姑に六、七年ついてやつたんです。そのときはただだらだら仕事をするので疲れたが、私にまかされてから技術員に指導してもらつて、土地設計とか、土地の改良とか、やつてきたが、新しいものを取り入れるという生きがいがあつたために、年寄りとやつているときよりも楽しく、経営をかえてから、収穫がふえてきました。それからお金がほしいので菊の栽培をしたけれども、二年ほどしたら忙しくて、主人が帰つてきても、あまりかまわない、お年寄りとはぶつかる、うちの中がきまずくなつたので、やりすぎてはいけないと、二年間でやめてしまいました。山がかつたところなので、手にあまつて、よそに半分お貸しして、手のかからない栽培をしたり工夫して、主婦業のじやまになるところは削つてきました。耕うん機も四、五年は自分でやりましたが、これも最初の元気のあるころより疲れて仕方がないから、すててしまいました。どちらかといえば主婦業を大切にして、農業を整理してきているつもりです。

浜田（リーダー）きのうから引続いていろいろ意見が出たようですが、答えはでないようですね。男と女は能力差はないことは確信されたと思いますし、農業の仕事にしても、今の段階では男の体力を必要とすることもあるが、大半は女の技術が向上していけば、主婦でやつていけるということまでは、お互いに確信できたと思います。

それじゃ一体どういう能力で、どうやるのか。専業もあれば兼業もある、仕方がないというのもあれば、できればやめたい、いや協力していきたいというのもあるようですが、これはあとでもう一度お話し合うことにして、とにかく現在やつている、やつてるなら現在の時点でうまくいくようにしなければならない。話題をかえて、こういうふうにやつているからうまくいく、これは問題点で困るということを話し合つていただきましようか。

塩田さん、共業の問題が方々から出ているようですが。

塩田　私のところは以前とは違つた形で共業をやつています。私がやつてよかつたことを皆さんにぜひ知つていただきたい。資料をもつてきたのですが。

（プリントを配布）

現在の日本では主婦業と農業を両立させなければならない状態だと思う。そのためには、仕方がないからやるという考えでなく、どうやつたらいいかを考えるのも、婦人の大きな役割りだと思う。私たちの地方は、兼業農家がほとんどです。兼業農家でも農機具を使えば、何とかやつていけるが、田植えの時期には人手を借りなければやつていけない。しかし他産業への移動で人手を入れることがむずかしくなつた。それで人手不足の対策を、同じ悩みをもつグループが最初四人で考えたんです。プリントの最初の作業上の申し合わせを考えてやつたんです。時間の関係上説明をはぶかせていただきます。とつてもいい結果が得られて、急におかあさんが主体になつて農業経営をしていた方や急病で田植えができない方から、グループに入れてほしいと。私たちはお互に両親をかかえているのでただ田に植えるだけでなく、グループに加入していただいているわけなんです。そして結果は資料に書いてあるような状態になつたわけで精神面では、よかつたと思われる点がかなりありました。

大体そういうことですが、家族構成や、農業経営の規模が、ABCDEグループ員別になつているんです。田植えを中心に共業にしたんですが、田植えを反別ごとに計算して家族全員が労力を提供して、労力に応じた賃金の支払いを受けるところに特徴があるわけで、これにはくわしく説明がいるんですが。

阿久津　共同作業と共業の違いはどこにあるんですか。共業は資本も土地も全部提供して、その上に立つてやることで、この場合共同という気がするんですが。

塩田　共同作業です。

門屋　これならどこでもやつてます。

塩田　私たちの地方では最初の試みとしてとつてもよかつた。田植えを一反した場合に日記をつける。何日に一反、それは誰が植えた。次には二反、それはどこのうちで、誰と誰が植えた。田植えがすんでから、まとめあげて、一反支払う賃金はいくら、植えた方でそれを割つて、次の一反はどうと、計算して精算する。すると、人数のわりに反別が多くても少なくても、病人が出ても途中で抜けても、日当わり、反別わりでいいわけです。

浜田（リーダー）今のお話はかつての手間なえを少し金銭が合理化したいという点が出ていると思う。

もう一つふに落ちないのは、田植えをやつてくれるのかといつたときは、私のほうも老人をかかえているんだから。ところが金銭をみますと、植え代がグループ外の受けつけということになると、

グループの方がどこかへ田植えをしに行くのか。

塩田　最初グループを四人で作つたが、人数がもう少し多くても経営がなりたつというので、その方を入れたわけです。大体それだけでやつているわけで、一年やつてみたら、ほかから手伝いにきてほしいという申し入れがあつた。田植えに行く場合ある程度の人数をそろえなければならないので、グループの人で植えに行くわけです。

浜田（リーダー）そこは、共同作業の話を承るときに重要なポイントになると思いますが、先ほどのお話ですと、主婦業と農作業と何とか両立させるために共同でやろうという考え方と、そうじゃなくて、その村のも引き受けようということになると、確かに収入は多くなるが出稼ぎの一種と解釈されても仕方がない面がある。

阿久津　私たちの場合は、同じような共同経営をするのですが、目的は、婦人の労働の軽減と、時間の節約で、他のところを引き受けては労働の軽減にはならないのでおことわりしています。

塩田　私たちのグループも、あなたのような目的でやつているので、出て行つたからどうということではない。

阿久津　私は能率をあげただけ休んでいいと思うんです。

金平　私のところは田植えに能登からたくさんきていたが、接待から労賃から帰りのおみやげ代から、ものすごくかさんだんです。それで、部落全部二十四軒共同で、四軒ほどに分けて、一番手、あと、先きと一週間も違いますし、苗の成育の具合いをみて、人数割りをして、反別によつて、五人、多いときは八人とか十人、少ないところは三人くらいにして、やつています。反別の少ないわりに労働力の多かつた人はお金をもらえます。部落の外へはお金が出ません。

浜田（リーダー）金平さんのお話は人手不足を部落全体で解消するために、ほかへ金を払うよりは、部落内でやるという。

梅原　田植えはやはり共同作業でやつています。しいたけの場合、八人で構成されていますが、出資でなく借り入れ金でまかなつていますが、労働のできる人はでて賃金が払われるわけです。すると、私たちのように兼業農家はでる時間がないので、仲間の人たちに労賃を払つているので問題はない。収入が黒字になつたら、そのあとを、出た日数と、あまり出ない人の日数を、六分、四分の計算をやつております。

浜田（リーダー）細かい経営の問題は別なところでご討論願うことにして、ものの考え方になると思いますが、ご婦人の立場として、たしかに塩田さんは工夫なさつてやつてこられたんですが、皆さんご心配なさるのは、よそのグループにまで行くと、せつかく生み出した暇がなくなるんじゃないかということが一つと、それから農繁期に一万数千円の金がはいるということになると、はじめの意向がどこかに消えていつて、とにかく稼げるじゃないかとはじめと逆な方向になるのではないかということですよ。

家庭のこと、ご主人や子どもにその時間をさかなくてもよかつたのか。それから、せつかくこれだけのものがはいつたんですから、これを気の毒な方の労賃に向けるのか。

戒　私のほうは女ですと四、五人ずつグループになつているんです。きょうはこれだけということになつたら、日があまつてもよそへは行きません。健康を第一に考えています。お金は欲ればきりがないが、主婦の立場として、家庭管理の役割りがあり、それが

全部健康を土台としていると考えているので、あんまり無理はいたしません。

塩田　自覚の問題です。それに流されてはつまりません。それは考えています。

浜田（リーダー）ほかに何か共業的なご婦人の立場で、考え方の工夫のようなものを少し出していただけませんか。

滝沢　私たちは実際にやつてきたんですが、共同作業は二十五年くらいになります●五年ほど前から手不足が出ていますので、十戸でやつているんですが、二十人くらい一度にたのむから、ぜひ来てくれという農家が出てきたんです。はじめは一日くらい行つてあげようと話し合つて三人くらいお手伝いに出ました。ところが、重荷になつてきたのか、出られない人が出てきて、一昨年あたりから、引き受けても困るからと、お引き受けしないんです。もしお願いしたいなら、個人の立場で頼んでくれといつているが、ほとんどの主婦の方は出ないですね。それは自由になつています。

浜田（リーダー）その点塩田さん、お帰りになつてお話し合いになつてください。心配なさつているわけですから。

塩田　グループをつくる前は、人に植えてもらつていた。それが安心して田植えができる、前には、田植えというと戦争気分になる。よそがすんでからでなければ人もたのめないとか、いらいらした。グループができたのはそれがもとなのです。田植えばかりでなく、あらゆる面に利用しているわけです。

私のほうは蚕を飼つているが、一人手が二時ほどほしいときがある●グループの手があいている方にきてもらう。あいている日をきいておく、一日いらないので無駄がない。グループの特徴は、経営が違えば違うほど、労働力の配分が違うことです。

浜田（リーダー）その点は認めていると思う。それがグループ外の仕事にまで手を伸ばしていくとおかしなことにならないかという心配なんです。

そのほか、保育園とか、そういう共同も考えてもらいたいということをお書きになつた方がいますので、そのこともあわせて家族にウェートをおいて。

門屋　私のほうも共同でずつとやつている。稲刈りも、田植も短い時間にやらなければならない。私のすぐそばで、早くやつて、米全部出して自分の食べる米を買うというような、共同作業をしたところがある。そうなつたら、共同にしばられて、主婦業ができないじゃないかと思う。実際にそういう問題がある。

経営している人に聞えたら、賛否両論が出た。共同作業をしたら主婦業は前向きになるのか。それとも……。

浜田（リーダー）共同という言葉は昔から気やすく使われ、昔は手間がないという形で、一種の共同をやつた。共同は、あれを近代化すればいいという方もないではない。あるいは逆に、共同にすれば何でもうまくいくという見方もでている。しかし実際に共同経営、共業をして、経済的にうまくいつてもつぶれるのはなぜかということです。一つの集団、一つのグループには、きまりも必要で、自分の勝手にはできない。そのへんが共同を考えるときに、一体どこまで個人の意思を認めていけるか、認めなくてもやらなければいけない。これはリーダーのグループのつくり方だと思う。

主婦を前提としてグループをつくる場合には、残念ながら今の日本の社会では、きまりをどの程度きびしくするかを、男の場合よ

りも、深く考えないと、部落の会長がリーダーになると、強制力を出さなくとも受けるほうが出されているように感じることがまだ多い。門屋さんのお話のように、スパッとお答えしにくいが、リーダーになる方が、個人の生活や主婦の立場を、よつぽどご存知でないと困ることが起こると思う。

共業も主婦業と農業経営を両立させる一つの工夫でしょうし、主婦が農業経営に力をだすと、働いていることを鼻の先にぶら下げるようになるというー農業経営にこんなに力を入れているけれども、家庭の中で夫婦のあり方をちよつと考えなければならないということについて、何かありませんか。農業の仕事は、ご主人と主婦が昔は一緒にやつて、一日中顔を合わせて仕事をしていて、その間に何となく意思が通つた方もあるし、また逆に顔を合わせているのに、よくわからないという夫婦のことも考えなければならないと思いますが。

残間さんの所感文の中に、将来夫婦生活は考えなければならないというヒントが出ていたようですから、お話していただきたいと思います。私も出稼ぎ先からのたよりなど読ませていただくんですが、ご夫婦で農業経営に力を入れる主婦と、外で働いてこられるご主人と、いろいろな面でゆつくり話し合う時間はあるんですか。

戒　はじめ主人が勤めていたときには、お父さんが若かつたので一緒に仕事に行くんです。話もしないし、私が体が弱かつたので、つらかつた。主人が勤めをやめてから、私につらい仕事はさせない。

阿久津　顔を合わせることはないんですが、夕食のときは家族七人全部顔を合わせます。食事が終つたら、みんなで約一時間くらい、話し合います。私たち夫婦は聞き手になつたり、相談にのつたり時には、テレビのホームドラマを話題にします。家を建てましたが、この家は、第一の条件を健康で明るい家庭において、全部の部屋が東南に向けて開けてあり、太陽の光がはいるように細長い。設計は主人と私と家族ぐるみで、みんなの主張を取り入れ、予算とにらみ合わせて作り、客間はないんです。農業をしていると、お客さんは年に二回か三回しかない。私は年中地下たびなので応接室を土間にして、時間外の方はそこで応待しています。部屋は全部個室にし、子どもたちにはできるだけいい部屋を、床の間つきのいちばんいい部屋を与えました。許可がなければ誰の部屋にもはいらない。しかし、ばらばらにみんなが個室の生活をしていると、じつくり話し合う機会がなくなつたことに気がつきました。それで、食後の時間をみんなで話し合つて、そういう中でまとめていくように心がけているつもりです。

浜田（リーダー）吉田さんいかがですか。専業にしておられて。

吉田　個室はありませんが、茶の間に大ていいますから、始終いわんでものことまで話しています。

浜田（リーダー）午後の糸口に反論を一応出しておきますが、お二人から、ひじようにご夫婦の間が近代化してうまくいつているという話が出ているようですが、私は都会の主婦や農家の主婦と話し合う機会が比較的多いんですが、そういうとき、二十分たつとでてくるのは亭主の悪口ばかりなんです。そういうことは、今の移りかわる農家の中で、皆さんが両方のお仕事をやつておられて、こうやりたいんだが家庭の中ではなかなかうまくいかない。それには亭主が一つからんではいないか。私は農家の亭主は少し意気地がなさ

すぎるんじゃないかという感じがする。両親のいうことに、都会の男子に比べてすなおすぎる点もある。だから私たちはこうしなければやつていけないということを話し合つていただければと思います。

再開（十三・三〇～一七・〇〇）

浜田（リーダー）午前中に御夫婦の問題が出てきましたが子供もひつかけてお話し合いを願いたい。皆さん子供のある方もいるでしょうし、家事の都合もありましょうし苗代も始まるでしょうが、家庭をどういうふうにやつておいでしょうか。

阿久津　事務引き継ぎをしてきました。

浜田（リーダー）どなたがしてくださいましたか。

阿久津　主人と母です、子供達には自分のことは自分でやるように、農作業はメモして頼んできました。洗濯は出かける前に入学式なぞ重なつたので、普段はやらないのに主人がやつてくれました。

浜田（リーダー）ほかの方いかがですか。

西田　苗代はしてきました、洗濯は子供が私が留守ですとしてくれます。

岩崎　お手伝いさんがおりますのでお料理から一切全部お願いして子供達には仕事の分担をはつきりさせて紙に書いて張つてきました。

滝沢　最初の予定は長女が一緒に東京へ来る予定だつたので妹に留守番をお願いしましたら急に長女が来なくていいようになつたのでちようど都合よくいつた、お洗濯も長女にさせます。農作業は主人が全然手を出さないのでいつもお頼みする御近所へ種はまいてきたので水の管理と雨が降つたときのことは頼んできました。

梅原　海を隔てておりますので六日の朝早く立つたんです。家へ帰るのが二十日か二十一日ころになる予定ですが、おばあちゃんのところに小さい子を預けて参りました。おじいちゃんもおばあちゃんも今度の会が有意義に終わるよう祈つてくれました。主人は行く先き先きの予定を手紙で家へ書いてきますので行く先き先きへ頑張つてくれと主人の手紙が先に来ております。

布施　留守の間の農作業は大体計画的にやつてきたつもりで、洗濯などは銘々にやるように頼みましたし、特に家計簿が留守の間空白になると困ると思つて娘や主人に書いてもらうように帳面をつるしてきました。

山内　私の場合今はあまり忙しくないので、畑苗代はできたんですが、水苗代をしなければなりませんので出発当日の午前中苗代をしてきたんです。あまり無理しないようお母さんにも頼んできましたが、子供が今年一年生になつたばかりで十日も経つていないんです。準備の方が心配だつたのでお父さんにも頼んで皆んな準備してきたんですが、夫が勤めているのでワイシャツなどお母さんにお願いしてきましたがまだ不安でたまらず早く家へ帰りたい。

岩崎　私も十日くらいは病気で入院したと思つてやるからと父さんに言われたんですが、忙しいのがわかつているので夕べも早く帰りたいといつていたくらいです。

山内　あまり忙しいので行かないといつたんですが、子供が一人しかないのでお産で休んだと思えばといわれて出てきました。

門屋　今一番苗代が大事なんです。気になつて来られないんじゃないかと思つたらグループの方達がみんなやつておくから安心して行つていいと応援して下さて出てきました。家の中はいつも婦人会に出ているので大して気になりませんが、子供達皆んな学校へ出てしまうのでおばあさんから喜んで行つていらつしやいと言われたときには、うれしかつた。

塩田　ちょうど農閑期で大して忙しくはなかつたが、せいぜい農作業のやりくりをしてこようど、出発の日の昼まで麦の耕作してきました。父や母はそう無理しないで発言の用意をしていかぬと困らぬかとやきもきしてくれたんです。農作業のあと手入れがあるが、グループの方にお願いしてあまり無理しないように、と言つて、グループの方からその点は安心してくださいと励まされて出てきたんです。家計簿も一応話し合つて夜つけるんですが主人や子供に忘れずに毎日つけておいてくれるよう言つてきましたのでゆつくりお話し合いをして帰ることができるんです。

浜田（リーダー）よその部会では出てくるのが問題だつた方もあつたようでが、この部会の方は割合に楽だつたようですね。

阿久津　普段骨を折つているからその分をね……

浜田（リーダー）お話しの中で子供のことがひつかかつて出てきたようで、おばあちゃんに預けるというお話もあつたが、おばあちゃん子になるんじゃないかというのが日ごろの農家の方々の御心配じゃないか、そういうことをお書きになつた方もありますが、この辺で少し問題をこちらに向けて……

阿久津　両親は私に農作業をさせない積りで育てたので私がとつい主人とたんぼに立つたときの姿を見たら涙が出る程ど悲しかつたそうです。終戦直後で農業も相当やつたのですが、主人はただいまほとんどしません。とついでちょうど一年目に長女を、三年目に二番の子供を出産しました。それまでは父と母と一緒になれない手で農作業をしたのですが、だんだん生活の中に育児が大きな比重を占めるようになつてきた。母は何といつても女は子供を育てることが大事だから農作業は次にして育児を先に考えるようにといつてくれたんです。私もそれが理想でした。子供を抱いて寝ると暖かいというが、それは子供の体温を取つてしまうことだから孫は抱いてあげないというんです。父も母も教育についての関心もなく、取り上げてめんどうも見ない、冷たいなと感じたこともあつたが、今考えてみると自分で全責任を負い、失敗したこともあつたが、子供たちも自主的に育つてきたし、おばあちゃん子にならずに済んだのは幸いだと思つています。その点から考えるとお嫁に行つてすぐに農業の仕事に入つて育児ができないのは気の毒だと思う。おばあちゃんの手で育てられて、親の意思が育児に反映されない、今までの生活が悲しいと思います。

山内　ばあさんは今六十ちょつと前ですが、またその上のおばあさんが七十四才ですか、そのおばあさんに子供を預けているんです。秋田ではばば育て子といいますが、そうなりがちなんです。そのばあさんは弱くなつてしまつて中のばあさんがやつてくれ、私は働くのに一生懸命です。ですから老人学級のようなもので子供の育て方を覚えていただきたいし、私達もまた勉強して指導をしていきたいと思つています。

阿久津　申し落としたんですが、一番下の子が中学に行くようになつているので、精神的にある程度のポイントをつかんでいい環境を与えてやれば何とかなるという立場で、経済的にもお金が必要だということを話し合つた上で農業の全責任をまかせてもらい、経済の一切をまかなうようになつたわけです。

梅原　はずかしい話が一つあるんです、私がお嫁に来たところは、おじいちゃんが勤めていて、おばあちゃんも私も農業をするんですが、おばあちゃんは、私のおばにあたり、私が来たときに四十

代で働き盛りでした。子供を産んでもおばあちゃんがしつかりしているために背中に負われる程度の小さな家を作つてもらつてそれに子供を入れて田畑に出たことがあるんです。三人ともそうして育てたんです。そのときに私は母として何を子供に教えてやるべきかと考えたんです。ただぼかんと見ていても退屈しまうので小屋の中へ本を入れて読む力を小さいときからつけました。玩具も組み立て形式のものと、絵の書いてある本などを与えてだんだん読む力をつけるように仕向けたんです。今は五年生と二年生と六才の子供ですが、いつも一人で何でもできる子供に育つております。

牛尾　私の方は大へん封建制が強いといいますかおばあさんが相当力を持つています。若いお嫁さんが婦人学級で育児の勉強をして参りますと、おばあさんの教育法では満足できないためにトラブルが起きるわけです。それを若いお嫁さんが言つてはおばあさんに世話を見てもらえないし困ることがあるのでいつそのこと保育所に入れて経験者に育てていただいたらという意見が強く出てきたようです。

梅原　私がはずかしいと申したのは、そのころの自分の自主性のなかつたことです。そのあとに一人、二人とふえるうちにお便所に紙を張り出したり、いろいろ育児の本を持つて行つたりしておばあちゃんに協力してもらいよくなつたんです。

浜田（リーダー）午前中の運営を私が中心になつてやると比較的育児の方の手が抜けてしまう。育児に強く出てくると運営がうまくいかない。皆さんそれぞれのお考えをお聞かせいただきたいんですが。

牛尾　育児で最も大切な時期があつて、そう長年にわたるものでないと思います。私はよく言うんですが子供はいい工合いに育てておかないとあとでみんなが困るんだから、米や麦は少しくらいできが悪くても子供のできが悪いよりはしんぼうができるのじゃないか、子供第一主義でいきましようと。

山根　私も子供の教育に母の手が必要な時期がある、だれよりも母親が育てるのが一番望ましいと思うが、おばあちゃんの手であろうがお手伝いさんであろうが母親の計画のもとに育児方針がちやんとしておけばいいんじゃないかと思います。農業はもとより、共かせぎなど女が働きに出る場合には四六時中ついていられないが、夜だけでもその方針を使える方法はないものだろうか。

塩田　私も同感です、子供の教育はただ母親だけではいけない、また子供の教育は大事な時期はあるがその時期だけが大事じゃないんです。成長する過程にいつも大事なんだという意味で家族みんなで話し合つてやるべきで、年寄りがしようがだれがしようが、母親のしつかりした考えでどうにでもなることだと思つている。

岩崎　私は連続三人生れたので、育児に追われましたが、子供第一に考え営農は第二にした。子供の養育の全責任は母親にあると考え、おしゆうとさんは私の協力者の立場に立つていただくようにお願いしました。おしゆうとさんがとても利口な方で、少し小さいときはきびしい育て方がいいとか食事のことも注意して下さいました。

浜田(リーダー)ご近所でもそうですか。

岩崎　いいえ、ご近所ではおばあちゃんの子供のようで、お母さんはお嫁にいくようになつた娘がふとんや丹前をどんなものを持つていくか、知らないおうちが多いです。

門屋　子供が小さいとき、中のおばあさんがからだが弱かつたので子供の養育をして、私は出て働いていましたが、朝とか晩とか草取とかのときに子供のそばでいろいろ話し合つたのです。大きくなつてさほどおばあちやん子でもない、今東京に来ているがおばあさんを一番大事に考えているような手紙をよこして甘やかされたのが悪かつたとは思わない。近所ではほとんどがお嫁さんが働いておばあさんが子守りです。若い人が子守りしておばあさんが働らくわけにもいかない。最近はずつと変わつて育児の会なんかあるときはお嫁さんたちを喜んで出しているようです。おさいふはまだおしゆうとさんにあるところが多いんです、すると学校で使う費用でも母親がやれず、結局子供はおばあさんの言うことなら聞くがお母さんの言うことは聞かないと、それが困るとみんな漢いています。

阿久津　私岩崎さんと同感で、子供の教育の責任は車の両輪ではないがやはり両親が持つべきで、その中でどちらかといえば母親が責任を持つて見るのが理想じやないかと思います。

吉田　私の家も農家で自分の子供はこんなふうに育てたいと考えてもできません。小さいときは年寄りに預けて夜寝るときとか朝起きるときに、自分の思うことを話し大きくなれば家内じゆうで話して子供の教育を考えていきたい。

滝沢　私も子供第一に考えてきたが、お百姓していると、どうしても子供を年寄りに預けるようです。ところが子供を育てる時期は嫁に来て三年で、子供は私がこういうふうに教育したいといつたつてお年寄りにすなおに取つていただけない、そういう苦労をしたので、子供を小学校へ上げるころにこれは嫁の口から出すんでなく、おしゆうとさん自身が勉強してきて、そういうふうにしていかなきやいけないと年寄りの授業参観日を作つていただいたんです。結果は年寄りは喜んで学校へ行つて、昔と違つたんだなとわかつてくださつた。最近では年寄りの会を作り、自分から進んで小学校の先生なんかに来ていただいてお話を聞くようになつています。

布施　外で働いていると子供のことがお留守になるし、子供にかかつているとこつちがお留守になるということをお話したいんです私も年じゆう忙しがつていますが、実際の自分の生活をもつと見つめてみようということで生活の時間調べをしたことがあるんです。そのとき育児家庭教育が十七分という数字が出て驚いた。全体にそういう時間を持つていないんです。それでできるだけ子供に接して気をつけるようにしたのですが、秋は、日曜日でも同じだが子供が今まで遊びに行つてしまつたのをたんぼに連れてきて仕事をさせるだけでなく、私が稲刈りしながらいろいろお話し合つたりしてできるだけ接する機会を見つけるようにしました。それから隣の若い夫婦は勤めに出ておばあさんが小さいころから二人の子供さんを育てた家庭ですが、おばあさんが育児の本を借りてお嫁さんと二人で読んでるんです。お嫁さんから子供の教育についていわれると気にさわることもあるでしようがおばあさん自身が本を読むいい御家庭を知つています。

西田　私の地域でも祖父母学級を小学校でこしらえています、おばあちやんも必ず出席して理解がとつてもよろしいんです。私が子供に教育することには全然おばあちやんタッチしません。上の子が生れたころはいなかへ行つた当座で百姓もようせず家で家事を受

け持つて子供の教育をしていたので大きくなつて下の子と比べると依頼心が強いところがあるんです。農業へ手を出してから放つたらかしの状態ですが、かえつて自主性が強いしそう心配したこともないと思う。ただほつたらかしじゃなしに、母親がたこの糸のもとを持つていて、あやつているといいますが、そういう気持で愛情さえ持つていたら時間がなくても教育の心配はないと思います。私養鶏をやつているので玉子を晩にふかさせなければならず夜は忙がしいが、子供をそばへ置いて、玉子をふいている箱に詰めるんです。時間がないといいながらも教育の面ではそう苦痛は感じておりません。

浜田（リーダー）皆さんお話を承わつておりますとそれぞれの御家庭では比較的問題はない。おしゆうとめさんがよかつた、それで解決ができる場合もある。しかしおしゆうとさんが当たらなかつたらどうだろうということが一つと、それからお話の中に御亭主全然出てこない。嫁入りそして二・三年じゃ嫁の口からはとても言えないというお話が出たが、そのとき御亭主は何しているんでしようかね。

阿久津　長女が入学するときに主人は全然心配していないようで私が一人やきもきしていたんです。二番目の子の進学になつて、二番目で気が楽だと私が言つたら主人がほんとうにそうだなというんです。長女の進学のときには心配したんですかといつたら口には出さないがちゃんと心配している、子供の中に根性を打ち込むのがおやじだというんです。だからおやじの分野とお母さんの分野とはやはり違つてくる。

浜田（リーダー）亭主が言うことはきまつている。黙つているけれども気にしているんだよというのは亭主の常套手段だと思います。きようは婦人の立場とかどういうふうにやつていくかというときに僕らでやるからお母さんはさびしいかもしらぬが子供の基本線はまかせてもらいたいと、お母さんに頼む方が私は黙つている亭主よりかはましではないかと思うんですが。

牛尾　その点農家の長男は非常に弱いんじゃないかと思います。何か親に頭が上がらない。もつと強く言つてくれたらいいんじゃないか、私はしゆうとさんがおらないので経験はないが、どうもそうなんです、そう言つてほしいんだけれども主人がなかなかばつと言い切つてくれないそうです。

滝沢　初めのうちはおしゆうとさんたちにすなおに取つていただけない、かえつて嫁にかえつてくるおしゆうとさん自身が自分の考えでやつたんだというほうがいい。私も初め何べんも経験したがやつぱり主人が言わない方が家庭は円満にいきます。

山内　あんまり主人がお母さんに言われるとかえつて気を悪くしてしまうんです。あと押しされていると思つて、息子でもかわいくなくなつてしまうですからそういうことはなるべくしたくないんです。

滝沢　うちの中がほんとうに円満になつてしまえばいいですが、子供を育てる時期はまだ三年や五年でとてもそんなところまでいつていません。

岩崎　でも自分の子供ですし、うまくいくようにお嫁さんの方からおしゆうとさんに働きかけなければならないんじゃないか。

山根　私は岩崎さんのように思います、悪くなることばかり考えていては……

金平　おしゆうとさんなりの育児の仕方、勉強などいろんなことを

していますが……

岩崎　おしゅうとさんは、こうして失敗をしたこのようにしていい子に育てたという話を私に聞かせてくれました。そこで私の希望も話して、とにかく親子夫婦が一人の子供をりつぱに育てるという目的があるんですから何もむずかしく考える必要がないと思つて過してきました。

浜田（リーダー）亭主はやつぱり黙つていてくれた方がいいと・・・

滝沢　よかつたんです。

岩崎　主人は主人の意見を述べました。

塩田　子供がよくなる、ならないはその家の問題ですから、お互いに話し合つて主人はもちろん嫁の立場でも母、父の立場からも言います。お互いが同じ目的で理解し合つて考え合つて教育する必要があるんじやないか、そのためには嫁の立場としても母の立場としても勇気を出して話し合う努力が必要じやないかと思います。

浜田（リーダー）それはお説のとおりなんですがね。

吉田　若い夫婦で初めて子供を持つた人はあんまり口出ししてもらいたくないと私も思います。せがれが言つたことはすぐ嫁が言つたと取られ、せがれがほんとうに言つたことでも誤解されるわけです。子供の小さいときにはおばあちやんまかせにして父親も母親も自分の子供だからこうしたいなどとなるべく言わない方がいいと思います。

滝沢　岩崎さん、山根さんのおつしやるとおりの理想を持つてその道を踏んでみました。親とも、主人にも話しました。その結果はおもしろくいかなくて私としゅうとの間にみぞができる。しゅうとは決して悪くないが嫁に言われると何かおもしろくない、そして子供にあたるんです。子供がおかあちやんとおばあちやんが仲が悪かつたときはこんな小さい子でも家を出たくなつたと言つてます。私そのとき子供を理想的にどうこうすることよりもうちの仲がよくなることが真つ先だと痛切に感じて和解を先に取り、理想をあとに廻しました。ただ自分の体験ですから皆さんの理想はわかりますが、私は理想どおりにはいかなかつた。

浜田（リーダー）そこで問題なんですが、理想は理想だけれども思うようにいかないんだという、これから生きていく新しい世代の若いお嫁さんのあり方という……

滝沢　それは私含んだつもりです。その方法として授業参観日を作つてお年寄りたちはずいぶん変わつてきたし若い人たちもずつと変わつてきております。

山内　やつぱり話し合つてだんだんよくなつてきていると思うんです。

牛尾　お年寄りを教育されたということでしたが、私社会教育の方にお願いして懇談活動でお年寄りの啓蒙をしていただいておりますが、一回や二回、たとえ三回やつてもそう効果が出てこない。それでお嫁さんはお年寄りには責任ある教育はしていただけない、やはり子供は母親が育てたいという強い要望が出ている。これは母親の手にゆだねるように、それが女の生きがいではないかと思いますが。

浜田（リーダー）これから農家の花嫁に多分おなりだろうと思うんですが、それじや行くのやめたというかもしれませんが、山根さんいかがですか。

山根　真の母と私でさえ意見の相違があるんです。ましてや小さい

ときから生活方法が違つたところで育つた人たちが一気にどうしようとしても無理だとわかつているんです。その社会教育も必要ですが家の中で毎日顔を合わせているのだから一口でも多く話し合いすれば何とかならないものか、そうしたいと思います。

山内　だんだんそうなるがすぐにはできないと思います。

山根　すぐにはできないのはわかつているんです。ですから黙つておれば何とかしてもらえる、うまくいくだろうという消極的な方法じゃなく、ぶつかつて破裂してもいい、ぶつかりながらいきたいと思います。

西田　ぶつかつてきともに受け取つてくれるお母さんとそれをまた……

岩崎　そういう生活の知恵が必要だと思うんです。やつぱり技術があるんじゃないでしょうか。

浜田（リーダー）いろいろ技術を駆使しなければ、しよせん他人が一緒になるわけですから非常に問題があると思うんです。私は考え方としてはぶつかつて破裂しても仕方がないじゃないかという気がするんです。円満にやらなきゃ、円満を考えるのは主婦だと、これもわかる、でも円満だけでいくと繰り返しをやらざるを得ないし、しゆうとめさん自身がショックを受けることもないという点からいくと、嫁の言わせたことというのが当然出てくる。しかし嫁が言わせたことはあくまで亭主がそう思うことだと思つていただかないと工合いが悪いんじゃないかと思うんですが、どんなものでしようか。農家の場合は別居という形はできません。家族の形態を調べてみると、戦後変わつたと申しても農家の場合は御両親との同居率はむしろ逆にふえております。だからどんなに若い方が亭主と二人だけの生活をしたいと思つてもそれは無理な願いで、やはり同居させる家庭へ入つていかなければならぬだろうと思う。そのときに影で慰める日本的伝統もやらなければならぬ、主婦の考え方としてはどうかなと思うんですが。

吉田　私は波風の立たない円満な家庭の中の子供はすなおに育つていくと思います。大きくなればすなおに育つている子供は一人で判断力もつくし、自分でも考えが出てくると思う。今は皆さん勉強しているから子供の教育の面もいろいろ考えておつて、お母さんこういうふうにしてくださいというお嫁さんが出てきましたが、ぶつかつてまでそうすることは私望みません。

岩崎　先におしゆうとさんの言うことに従います。それから自分の言うことをだんだんに聞いていただくようにしましたのでたいてい聞いて下さいましたよ。

吉田　話し合いをしてだんだんわかつてくれば、わからないお母さんばつかりありません。最初から私の理想はこうだからこういうふうに育てるという嫁さんはとても農家には向きません。

門屋　私は生活の単位は夫婦と子供だと思う。幾ら農村でもそれだけははつきり頭に入れて、円満ががまんにつながつてはいけないと思つている。それでも年寄りから子供を取り上げるというか、年寄りは孫を育てることを楽しみにしているのだから、その気持を汲んでやつて、祖父母学級や若い人の学級で聞いたこととか小さい日常のことからお互いに何でも話し合つていつて子供の教育のことを取り上げていけばお互いが理解ができるんじゃないか。できなくても私などが年寄りになつたときに備えて趣味とか経済力とかをたくわえておいて、子供の教育は若い人にまかせる、そ

うなつたときに初めてほんとうの正しい夫婦と子供が生活の単位ということになるんじやないかと思つています。

岩崎　そんなに困りません、この問題は。

浜田（リーダー）それでは最後の方で嫁不足とかあと継ぎが言うことを聞いてくれないとかいう問題についてお話しをしていただきましようか。吉田さんが興農館高校の話を御説明になつておられたんですが、あそこは女の子も育てているのですが、どうでしよう。

吉田　大てい長男、長女がこの学校に入学するのですね。校長先生は長男、長女だけではなくおじいちやんもおばあちやんも来て下さいというお話だつたそうです。農業後継者の教育が一番大事だと思いお願いするわけですが、その教育は、明日の農業経営を目ざしてという明日やあさつての農業学校ではなく、その学校を卒業すれが農業をこれからやろうという大きな希望と理想を持つて出てくる。そういう子供が大ぜいできていつたら農家の後継者がしつかりしていくんじやないかと考えて。

浜田（リーダー）ちよつと御説明しますが、興農館高校というのは、全国で最初の年で五個所次の年に七個所できました。全寮制の農業高等学校の一つです。新潟の場合は特別で、各県に伝習農場というのがあるが、あの伝習農場と高等学校とを一緒にしたのが興農館高校、これは新潟だけですが、そのために去年からちよつと違つておりますが、それまでの学生さんは伝習農場にいた方がそのまま高等学校の一年生かいし二年生に横すべりしています。高等家校は文部省の直轄で規則がこまかくあるのですが、それを幅を持たせたいと三年制になりました。半年くらいは農家へ実習させる特別許可を取つて高校経営をやつているのが興農館高校で、入る方は大学を特別に制限を加わえているわけではありませんが、一応ここを出れば必ず自営農家になる。そこの農業を引き継いでいくことを言わず語らずに制約されている形で教育している農業高校で、一般の農業高校とはちよつと違います。吉田さんがおつしやつているのは、その辺の知識を頭に入れて置いていただきたい。

戒　私は子供を育てたことがないので黙つていたんですが、私の方では農業高校にしろ高校にしろ、長男でも大学へ行く人もあるが、出たらみんな給料取りにしてしまう。あとはどうするのかなと思いますが、みんな給料取りにしてお嫁さんは農業する人をもらうと思うんですが、自分の娘はもう百姓へやらないで給料取りで二番目くらいで気楽なところへ世話して下さいと、皆さんの方はどうなんでしようか。

金平　私の娘も二十九ですが、その娘が嫁にいつたあと一人も部落で農家に行つた子がなく、みんな町へ行つています。よその青年団の集りになぜ百姓をいやがるかと聞いたらうちのお母ちやんの姿を見ていると、絶対に百姓はいやだと、第一に時間のけじめがない、暮れるまでやつている、どうしても百姓をしたくないというんですね。もう一つ百姓はもうからぬといつも母さんが言つている。聞いている子供が百姓をする道理がないと　無理もないと思います。

滝沢　私は息子に、一度も百姓をやつてくれといつたことはないし私自身もにわか百姓で心底から子供に百姓になつてもらいたいと思いません。ところがその息子が大へん土が好きで、高校生ですが畑の一部分にかぼちややすいかを作つてみたり、稲の苗を畑に植えてみたりいろいろしています。今のところ大学は農学部へ行つ

て園芸を入れた百姓をやりたいから畑は手放さないでくれといつていますのでどなたか周囲ですばらしい経営を見せてくれれば私も自信を持つて、百姓をやつてみなさいといえるけれども、今は言えないんです。子供は高校を出て大学は行けるか行けないか知れないが、希望どおりにいけば農学部を出たときにほんとうにやりたいというかどうか、ほんとうに子供が大学まで行つて百姓やるならばやつてもいい、とめようとは思わないが、腹の底ではしない方がいいような気持です。

岩崎　長男が中学二年のときに将来の方針をきめて農業をやりたいというので借金をし農地を拡大しました。借金はすぐ一年くらいで返せましたが農地を拡大したところが消毒に農薬をたくさんつかうので危険な職業だと思うようになつたんです。うちでは種馬鈴薯を作つているので、水銀剤を相当使つています。それからダイジストンという土壌を消毒する薬、BHC、DDT等たくさん劇薬を使うわけです。それで子供がおなかのところが痛いと言い出したんです。名古屋の商大の千島先生にうかがいましたら手の皮がむけたり肝蔵が痛くなるのは農薬中毒の疑いがあると言われました。私は農薬のことを全然知らないで農業をしていましたが、もし農薬のために子供のからだが侵されていくのならせつかく思いたつた農業でもやめさせてほかの安全な職業につかせた方がいいのではないかと一時深刻に考えたことがあります。

浜田（リーダー）非常に重要な問題だと思いますが、農業の問題はほかの公害も同じように考えるべきだと思いますが、使う方にはパーセンテージで指示して、安全確率が九九点幾らある、だからだいじようぶだとくるわけです。四日市の煙の害にいたしても鉄鋼所では九七％までちゃんと煙塵は取つてある、三％は人畜無害であるというんです。ほかの薬もそうだと思うんです。大体よくきく薬というのは毒薬的なんですね。からだにきく薬にしろ稲にきく薬にしろ諸刃のやいばを買つているわけですね。水銀系統の農薬の製造をもう少し考えなおせという指令が各農薬会社に出ていますが、一挙に今の水銀剤を切りかえる新しい農薬はまだ考えられないという、これを一斉に切りかえるのにどのくらいかかるかという話題が今農薬界をにぎわしいますが、その間の問題が非常に重要でこれから農業に携われる方はことに農薬剤が日本の場合労働力を軽減する上で非常に重要視されるわけですが、その使用その他に関しては十分連絡を取つてやつていただく必要があるんじゃないかと思います。

岩崎　うちでは農薬については七年ほど前から真剣に勉強してよく注意していたはずなんです。よその同じ面積を経営しているうちに比べて半分か三分の一くらいしか使つていない。それでも年間の農薬代は五万から七万円くらいはかかるんです。それを家族だけで散布するので時間が長いこと、また暑くてもその時期にしなければ病気が広がるのでやはり相当の無理がかかつていると思います。それに主人が砒素剤を多年使用したので断定はできないが農薬中毒の疑いが濃いです。私のうちでは大へん困つておりますが、同じような現象が方々で起る可能性が強いのではないかと心配して作文を書いたのです。

浜田（リーダー）最近、農薬関係の方で一休どうするかと非常に問題になつておりますが、今まで作つたものを全部廃止するわけにもいかないし、かといつて人命にかかわるものを放つて置くわけにもいかな

いというのでしかるべき政策が近々には取られるだろうということくらいで、私も農業の方を詳しいこと存じません。農業のことはさておいて、さつきの問題ですが……

阿久津　農業の後継者という問題ですが、職業の選択は自由にすべきです。農家の長男だから必ず農業につかなければならないと親の方から押しつけるのはいけない、しかし現在のような小規模の経営では農業に魅力もないし希望も持てないような感じがします。人間として生れてきたかいがあるように生きようじゃないかという山本有三の言葉を読んだことがありますが、農業に希望が持てるようになれば優秀な人材が農村で相当活躍をするんじゃないかと思います。それには生産コストを下げて収益が上がるような農業の形態を政府の施策として実施して欲しい。私たち農民も目先きのことばかりにとらわれずに受け入れ態勢を確立してやつていつたなら北海道のようにその経営規模が大きくなつて相当経済的な余裕も出てくると思います。

吉田　やつぱり教育の問題で、ことし初めて興農館高校を出てきた人の話ですが、その人は一人つ子で将来農業を継いでもらおうと思つて学校へ上げたわけですが、帰つてきたらうちも新築していい嫁さんをもらおうと思つて、うんとお金をためて卒業して帰つてくるのを楽しみにしていたそうです。子供は帰つてきてお父さんこのお金は全部私によこしてくれ、自分の思うような経営方法をやつていきたい、うちはどんなうちでもいいからと息子が意気込んでいるというお話を聞きました。そういう子供を育てていくことが願いです。農業構造改善といつてもそれを受け入れる人がなければ幾ら政府でいい政策を立ててもプラスにはならないと思います。子供の教育に重点を置いてほんとうに農業をやろうという子供を一生懸命育てていつてもらいたい。

浜田（リーダー）お母さんとしてぜひ後継者になるような人間を作れときつい言葉で言いますとそうなりますが、農家の主婦の立場として。

吉田　うちの子供はオートバイとか自動車がなければ百姓しないのという人がいますが、中学出たばかりの人はそういう希望は多少あつても、それをどうという考えはまだないと思いますから、農家の後継者になるような学校なら入れたいという希望者がたくさんいて、約倍くらいあつたそうですが、そういう人が全部入れるような施設を作つてもらいたい。

浜田（リーダー）こつちはあまりしたくはないが子供がそう言うならやつてもいいなというお話がありましたが、吉田さんの方では子供に農業をやりなさいとおつしやいますか。

吉田　子供が月給取りになりたいといえばさせる気分はございますが、やはり長年農業をやつてきたので続けていつてもらいたい、長男としても百姓になるようにすすめてあと取りになつてもらいたいと思います。

岩崎　私はそうは思いません。今はしたいと思つていてもその時期になつてしたくなければあと継ぎはしなくてもよいと考えています。また時代が変わつて農業所得と他の産業との格差がもつと開くかもしれません、そのときには子供の思うとおりにさせたい、子供の一生は一回限りですから親の考えで子供の意思をしばることはだめだと思います。

浜田（リーダー）しばるという意味じゃなく、農業が好きになるように教育をしていくのだと吉田さんはおつしやつたと思いますが。

岩崎　親がよければ子供は黙つていてもあと継ぎをしたいと思うでしようし、私のうちではあまりよくないが、次男坊も農地を買つてくれさえすれば百姓をしたいと。

金平　その子に農業させたいなと思つて小さいときから農業に対する夢やら計画やらを話して興味を持つように仕向けていくと後継者の問題もなんとかなりますね。

岩崎　無理に仕向けなければなりますね。

吉田　私は他一人で上の子は高校を出ましたが、あまり百姓を希望せず事務なんか頼まれていたが、ぜひほしいという人が出てきて、娘をよそにやつたわけです。あと取りをよそへやつたわけですが下の子が百姓したいと小さいときから言つておりましたので上の娘は手離しました。私は子供が進んでいくのをしてはいけないという気持はありません。ですがやろうと思う人にはどこまでも援助していきたいと思つています。

西田　あまり都会との開きがあるし自分も苦労してきたので本心はやらせたくないんです。女の子二人いるんですが、できれば田舎にも居つてほしいが、子供の希望次第では都会へ出たいと言うなら出してやるつもりです。

岩崎　農薬で知らないうちにからだを侵されるというので長男に卒業したらすぐ郵便局に使つていただくようお願いしておいたらどうかと話しを持ちかけてみましたら、サラリーマンはいやだとはつきり言うんです。うちの中の経済を全部農業簿記で計算しているので一カ月の収入を全部サラリーマン並みに計算してみるとサラリーマンになれない、今にいい薬が出てくるだろうから僕は百姓をやめないというんです。

塩田　皆さんのお話を聞くとお百姓はいいかもしれませんが、労働の他産業との違いたとえば同じ十万円を取るために働く労力にしてもお百姓だつたら根限り働かなきやならない、サラリーマンならさほど働かなくてもいい、そういうことからして若い人は、都会にあこがれております。でも私は全国的に考えて農家の占める位置は大きいんじやないか、母親がもつと考えて後継者を作るように教育しなきやいけないと思つています。今は家族制度が崩壊したような形になつているが、これは家族制度にも、私自身等の老後のことにもつながることで、農家に生れたものはどういう形であつても、せいぜいあと継ぎをさせる方向に持つていくべきだと思います。

山内　子供はまだ小さいんですがいつも聞くんです、大きくなつたら何やるのと。すると母さん手伝うというんです、お父さんは毎日勤めに出て私が働いているのがかわいそうだと思つているんでしようか。これから夢のようなものですがもつと耕作面積も広げて食事など一緒でもいいから若い夫婦だけで楽しめるような生活にしていきたいなとも考えています。

塩田　自分自身は母親の立場、主婦の立場で住めるようないい環境とかよい条件を作るべく努力していきたい。

門屋　私の方では若い人もどんどん出稼ぎに行つてしまつて後継者問題も大きく出ているんです。中学校卒業者は幾らも残らないし、高校出や農業高校出た人も別の職業に行つてしまつて後継者がないわけです。そのためいろんな問題が出ていますが、やはり子供には自由に職業を選択させていいと思うし、後継者にも農業の後継者と農家の後継者があり、農業の後継者は必要だと思う。つま

り農業をやろうという意欲に燃えた、夢とか希望とか信念を持つて、農業の使命、意義をはつきりつかんでいる青年で、また技術とか労働力を兼ね備えた青年ならばほんとうの農業の後継者であつて、そうでない農家の後継者はいらないんじゃないかと思う。そういう農業の後継者さえあればこれからの農業は変わるんですよ。小さな農家の後継者がぐずぐず墓場のためのあと取りの苦労をする必要がないんです。その能力を別の方へどんどん伸ばしてやればいいんじゃないですか、意欲に燃えた青年だけが農村ですばらしい農業をやつたら日本の農業は大丈夫だと思います。

塩田　お宅の方は農業の後継者がおありなんですか。

門屋　いないんです。ないけれども農業が変わるんじゃないかと思います。たとえば私の方で総合開発が行なわれています。何十町歩というのが拓けて農業の形態をみんなが欲つしなくても共同にしなければやつていけなくなる、そうなればそこに農業のほんとうの後継者が必要となる。企業として考えて今までの農家は頭を切り変えなくちやいけない段階に立つているんじゃないか。

布施　私の部落は五十九戸で山と山の狭いところで耕地面積も平均の五十アール程度ですが、子供さんが割合に頭がよくて土地の高校を出て都会の大学へ入れると帰つて来ないんです、そちらに家を建ててお嫁さんをもらうため、だんだん土地も売つたりして結局八十幾つかのおじいさんとおばあさんが無理をして働いている。それを息子さんが帰つてきては持つて行つてしまう。最近では都会の生活も経済的にやりにくいから全部売つて年寄りも来いという手紙が来たが、町に行きたくないという。家が三軒あるんです。幸か不幸か私のところは高校は出したが大学へやるほど頭がよくないので汽車で十分ほどの工場へ通つている人です。主人も汽車通勤で日曜とか休日とかは二人で耕うん機を使つて私のできない仕事はやつてくれるんです。お仏壇をお盆に掃除すると十何代続く系図を息子が見たり蔵へ入つてよろいとかかぶとを見てここの長男だという気持を持つているらしい。小さい弟に私はこんな雪のあるところで暮らさならぬがお前は、北海道でもアメリカへでも行けるように勉強せなあかんぞと言つているのを耳にして、私は安心した。私に続くお嫁さんさえもらえればとそうむずかしくは考えておりません。

門屋　私のうちはいいかげん土地や山があるが、女の子だけで、大きい子は東京の大学を来て絶対に百姓やらないがここの土地へ帰つて来るというんです。私は農業が変わるときにも土地だけ持つて配当者になればかえつてかあちやん農業で苦労したよりも収入があるんじゃないかとも考えているし、後継者が必ずしも農業をやつている人から出るとは限らないと思います。

岩崎　先ほど塩田さんが、行政面にお願するといいましたが、それでよいのかと思いました。農林大臣が変わるたびに農政の方針が変わるのが心配なんです。水田農家は米作を保証されているので安心だと思うですが、畑作農家や山間地方の人たちは自分の作つた作物の値段が幾らかわからない不安な生活です。そういう点をもう少し考えていただくため、まずしい農家の人が団結して政治に働きかけることも必要なのではないかと思います。ばらばらでいるから農民は生かさず殺さずではなくて農民は生かさず殺されてしまわれるかもしれない。

戒　私も同じ考えです、今度初めて国会に野菜生産安定法が出さ

れたそうですが、それを一日も早く設定していただきたい。最低格価が保証されれば生産コストを合わせることができますがどこまで下がるかわからないとなるとよう作れません。そんなこともみんなで請願すべきだと思います。

塩田　私は行政面で何とかして下さるだろうという気持で言つたのではなくお願いするという意味でです。

門屋　総合開発になつたときに新生活運動の共同推進地区になつたのです。お父さんたちと若い人たちを集めて後継者について話し合つたことがあるんです。何百町歩と広がるこの土地で大きな農業をやつてみるものはないかと質問したらやるという人が一人もないんです。後継者をどこで養うかが問題です。親も家庭も学校も社会もだと思いますが、そういう気持を持つた優秀な青年がいたなら町や部落や方々で育英資金を出しどこまでも教育し、必ず村に帰つてきて農業のために尽してくれるようにしなければいけないかと思うんです。

吉田　新潟県にできた興農館高校に入ると全部そういう気持になつてくるそうです。

梅原　主人の立場が、大臣が変わるたびというか、世間の流れによつて教えていくのが苦しいように感じております。主人から直接聞いたことではないが私察しますに、現在農業をしている父親たちに意欲がないことも後継者の少なくなる原因の一つじゃないかという感がするんです。親が子供を拘束しなくなつた。目的を持つて責任のある仕事を父親が今までやつてきたかどうか、小さい農家の後継者の場合、そういつたことから後継者が少なくなつているんじゃないかと思います。

岩崎　農地の均分相続があるからあと取りもだめだと考えている長男もいるというんですが。

浜田（リーダー）質問したいんですが、一つは多少皆さん意見の違いもありますが、それぞれ後継者についての御意見を承わつた。御主人も皆さんとほぼ同意見と考えてよろしいんでしようか。

吉田　主人も家族もみんなそう考えております。地域の婦人会の活動もそんなふうに考えていると思います。

滝沢　うちの場合は私が嫁に来て、主人はあのうちに生れたもので、私は子供が外に出てもかまわないと思つていますが、主人はうちから通えるところにいるよう希望しています。

阿久津　私は全面的にうちにはいなくてもよろしいといつています。

岩崎　私が出発する前の晩に、北海道は四年に一度は必ず凶作を克服するために毎日努力をしているにもかかわらず来る。そういうときの農民に対して政府はすずめの涙ほどの共済金をくださつて、お金は貸してくれるが金利をだいぶ取られる。普段一生懸命食糧生産にはげんでいるものをもつと大事に考えて、凶作のときにお借りしたお金には金利はとらないでほしいと、機会があつたら話してきてくれと頼まれて参りました。

浜田（リーダー）金利さえ払わないで済むなら御主人はやはりその仕事をやつていく人間がいてくれた方がいいと。

岩崎　ほんとうに困るんです凶作のときには。

西田　私は子供の希望通り都会へ出たかつたら出たらいいと思つていますが、主人も現在の社会の構造の中で農業が現在のような状態だつたら子供の好きな職業に進ませてやりたい、しかし老後は自分の家へ戻つてきてほしいと思います。

浜田　（リーダー）二番目の質問ですが、先ほど雑談のときに農業高校の悪口がだいぶ出ておまかせするわけにはいかぬという御意見の方が強かつたように思いますが、ちつとも出てきませんけれどいかがですか興農館は別としても。

梅原　農業高校は大学へ上るための高校のような農業高校がたくさんあるように思いますが。

岩崎　私の村では純農村の花嫁教育ですね　農業の後継者のある次男、三男は成績が優秀でも落としてしまうそうです。

浜田　（リーダー）農業高校を出た人間は農業をしてはいけませんか。

梅原　そんなことないでしようね。

山内　やつぱりやろうという人がやつているんじやないでしようか。

浜田　（リーダー）あの人は秋田でしよう。岩手の方もいらつしやいますが、東北の農業高校はちよつと違つて、おそらく八〇％が農業をやるようです。六割から七割農業から逃げ出すのはむしろ西なんです。同じ農業高校と言つても、たとえば京都にしても桂の農業高校なんかちよつと違いますね。その辺で農業高等学校そのものが何をやるところかあやしいんですね。進学するのが普通高校なら農業や工業は異常高校という名前をつけなさい、反対なのは異常だからなんだ、普通高校を進学高校と名前をつけたらいかがですかといいたくなる現状が高等学校そのものにあるわけです。それから皆さん方が子供さんを上の学校におやりになると一体高等学校とは何なのか、義務教育の一種だと割り切るのか、ちよつと違うというお考えになるのか、その辺御婦人の立場としてグループなどでお話し合い願えればありがたい。男の方の問題が出て、長男はそういうふうに仕向けてなつてくれるかもしれないが、その子供にお嫁さんが来ないと、行政的にもお嫁さんを作ろうかなどという話もあるようですが、いかがですか。

山根　原因はいろいろあると思う、まず農家の封建性から始つて母親を取るか夫を取るかということも起つてくる。これは小さな問題かもしれないが、物質的な問題もからむんです。私の友達もどんどん結婚しますが、嫁入り道具に六十万、七十万ちよつとかけたら百万で平均七・八反くらい作らなければいけない。子供を三人嫁がせたら家がつぶれるとは確かだと思う。いろんなものを売つたり借金したりして作つているようです。友達の結婚式に調度品を見せてもらうがふとんだんす、洋服だんす、整理だんすとたんす類の多いのに気がつく、これに住宅問題もからまつてくる、従来のたの字形の住宅では収納庫がない、着物をたくさん作ると入れる場所が必要になつてくる、そういう大きなむだに気がついて結婚式までに一ぺんに揃えようとする。母からお前には学校でかけたんだからそんなところには行つてくれるなと言われました。私も農家は好きですし夢のある農業の経営をやりたいと思つておりましたが、いろいろな物質的、精神的なことも大きな問題だと思います。

浜田　（リーダー）こういうお嬢さんもいらつしゃる。今のお話をお聞きになつて私の来たときにはああだつたが今は違うとか、そんなことしなくても農家の花嫁は成り立つとか、御感想があると思いますが。

戒　私の方でしたらこのごろは昔の倍くらい道具がいる。冷蔵庫もふえたし、娘さん自身が持たせなかつたら動かない。うちはよく仲人をするが、たとえばミシンにしてもあるから持つて来なくてもよいといつて自分が持つていかないと使いにくいということ

になる。娘さんの方にも問題があると思います。もらう方はこのころは欲張つていません。あるものは持つて来なくてもいいというお方が多いんです。

浜田　（リーダー）成さんがお嫁に来られたころの農家よりも今の方が金がかかるということを裏付けたようですね。

山根　嫁入り衣裳を調べたんですが、農家の主婦の衣裳は和服の袷類が五十枚、農服類が三十枚、桁が違うんじゃないかと思うくらいですが、実際たんすが三さお、四さお満員になるくらいです。

岩崎　私は終戦後満州から引き揚げてきたのでお嫁に行くときは針一本持つていませんでしたが寒いこともなかつたし風邪も引かず困つたことはなかつた。そうして二十年経つたらじやまくさいと思うくらい物質が集まつてきたんです。今のお話をお聞きして本洲の人はずいぶんむだなお金を使つている、隣と競争をする心を捨てない限りはいつまでたつても……

浜田　（リーダー）それはおつしやる通りですが、持たせてやる母親からいいますと娘は財布を握れない、家へ帰つてブラウスを作つてくださいとは娘も言いにくい、だから持たせてやろうと。

滝沢　私は現金で持つていつた仲間で、こうり一つきりです。その現金も昭和二十年の末に結婚したので途端に封鎖されて何の役にも立たなくなりました。私は着物もたんすも持つていかないのには理由があつて、先が大へん古いうちで、がらくたが何かとあるからいらないというので本気にして持つていきませんでした。あとで聞いてみるとやつぱりいなかではそんなことはずかしいしおしゆうとさんたちにもいじめられるそうですが私は一度もそういう目に合わなかつた。

山内　うちの人は農家としては理解のあるので嫁に来るときにはあまり持つて来なくてもいいと言われましたが、一通りのものは買つていただきました。不自由なときもあつたが実家へ帰るときはお金をもらいます。来たころはうちのお母さんがかすりとか作業着とかゆかたとか買つて下さつたのでそれで間に合わせてきました。今は買つてくれます。あまり持つていかなくてもだんだんそうなつてくるんじやないかと思います。

浜田（リーダー）若妻会ではどんなお話ですか。

山内　全然買つてもらわない人も二、三人あるんです。もう一人は少しは持つてきたが、持つてこなくてもいいといわれ、秋とか正月、盆は五千円から一万円くれるという人がいます。

山根　私の立場でしたら買つてもらうのはいやですやつぱり自分…

山内　うちの場合私を連れていつて買つてくださる。

山根　やつぱりそれは自分の経営内じやないでしょう、お母様の家計の中の小使いで、そうしてお上げになるんでしょう。

岩崎　お嫁に行つた次の日から労働しているのですからその労働に対して正しい報酬を上げるべきですしもらうべきだと思います。うちでは毎年来ている労務者にも規定賃金よりよく働いて下さつた場合には私も含めてみんなボーナスがいただけるんです。それは自分の自由なお金で何を買おうといいわけです。そうするのがあたりまえじやないでしようか。

門屋　私の方ですとお金でも物でもないような気がする。もしそれだけのお金があつたら何か技術を身につけてやつたら女でもいいのじやないかと思います。もしも運が悪いときには一人立ちしていける技術さえ持たせてやれば親として一番安心じやないかと思

います。

浜田（リーダー）山根さん言つたことは多少ほかの地区でオーバーに聞こえるところもあるかと思いますが、もしそういうことがあるなら嫁不足もしようがないと……

阿久津　物質的なことばかり出ていますが結婚には相手がいる、その男性の人格が全然問題になつていないんですが。

浜田（リーダー）まだならないんです。

牛尾　私のところは嫁の来てがない大きな一つの原因は出稼ぎなんです。結婚して間もない若い嫁さんでも主人がすぐ六カ月の出稼ぎに行つてほんの一回か二回しか帰つて来ない。

浜田（リーダー）男の方でこんな話がある人ですよ、農家に居すつぱりだと嫁さん来てくれぬと。どこか出た先で気に入つた娘を見つけ国へ帰らなきやいかぬからおめえもついてきてけれやと嫁っこ見つけたと。それほど深刻ではないんですかここでは。

門屋　私の方でもそういう話がたくさんあります。だから親も積極的に出して素敵な人があつたら連れてきていいといいますよ、それで来た人はけつこう農業をやつていく。

浜田（リーダー）今各県で農家へ来る花嫁を養成しようという動きがないことはないんです。そういうことはどうなんでしょう皆さんのお立場としては。

戒　ふういう機関があつても入る希望者がいなかつたらどうなるんでしょうか。

浜田（リーダー）それはお父さんやお母さんがおまえは農家へ嫁ぐんだと小さいときから話して中学校を卒業したくらいで農業の見習いに行つちやうわけです。本人の意思二割くらいであと八割が御両親の意思で花嫁さんを作つているところは方々あるんです。そういう方が卒業して嫁に行くとみごとに三ちやん農業をおやりになる。何でもやります。そういう訓練してます。それからしゆうとめさんと亭主の間をまるくおさめることを完全に身につけた花嫁さんがいる、そういう学校があります。

塩田　母親が嫁不足にしているように思うんです。息子の嫁には百姓してくれる人をもらいたい、自分の娘には百姓させたくないみんなそうした考えを持つているから大きな社会問題になつていると思う。息子に農家へ来てくれる嫁をもらいたかつたら母親自身が自覚しなきやいけないと思います。

戒　小さいときから百姓はつまらぬとか苦しいとか子供に吹き込んでいるのではないかと思います。お母さんが家庭そのものが農業は楽しいというようにしていると子供は楽しいものだなと思うようになると思う。私の生れたうちは貧乏でしたがみんな健康で一生懸命働くんです。おじいさんはいつも鼻歌で仕事をしている、働いてお金ができると地面を次々と買つていくし私は子供心にもうちの家族が百姓をとても楽しんでしているように思つた。母親もあまりつらいと言わず、百姓は苦しいものという観念は少しもなかつた。それで同じ村の百姓の家から縁談があつたときに何の抵抗もなしに行きました。当時主人は軍属で北京に行つていたのでそつちへ行くが十年くらいで必ず帰つて来るということでした。十年経たないうちに終戦になつて帰つて参りましたが。

滝沢　母親が百姓はこんなもうからぬひどいものだなどと始終言つておつてはだれでもそこへ来たがるわけがありません。

西田　私もいなかへ行くなんて想像もしていなかつたんです。初め

五年ほどは何べんも一人で帰ろうかと思いましたが、自分のした仕事の成果が農業ははつきり現われますのでそこに楽しみを見出してどんなことでもやつてみようという気になつたんです。

梅原　外部から行つたからよけい感ずるんじやないでしようか。私いつも農家の人はやる積りで努力しているのに上から押えつけられているみたいで伸びようがないような気がします。だから私指導する立場にあるときにはこれをどうはねのけようかと最初は思つていたのですが、はねのけるのは疲れてしまうのでそれをどう利用してやろうかしらという考えに変わつてきました。これは外から来たからだろうと思います。

滝沢　私は行くときやりたいだけ職業を続けていいといわれたので好きなだけ教員をしていようと思つていきましたが、子供ができた途端に無理だからやめろといわれておもしろくなかつたんです。農業に変つてからも最初抵抗を感じましたが子供を教育することと植物を育てることと共通した面があります、そういう意味で今私のやつている程度の農業ならば家庭の収入の主になるものじやないし、趣味よりはずつと荷が重いけれども楽しいと思つてしています。子供に百姓がいやだという顔をしたこともない。しかし男の子が一生をかけてやるほどのものでないと思います。プライドの問題はほかのお勤めの方に対し劣等感を全然持つておりません。農業をしている方がどうして劣等感をお持ちになるのか、私には理解できません。

西田　私も百姓を始めたときには京都で同窓会があると百姓しているとはずかしくつて言えなかつた。でも百姓におもしろさを感じ始めてからどこへ出ても胸を張つて百姓をやつていますと言えるようになつたんです。

門屋　私の行つたのは終戦の年で食料不足だつたからこそがまんしたが、今なら絶対にがまんできないと思います。だから今の人たちがテレビや都会の影響で百姓をきらうのは無理がないと理解できます。今でも横浜に来ると一番いやなのはきたないこととさびしいことが身にしみてくるんです。皆さんおつしやるように生産の喜びが確にあると思いながらも未だに横浜の女学校の同窓会に行けない。

岩崎　何がきたなくて何がさびしいんでしよう、土は何もきたなくないですね。

梅原　私たちくらいの年令になるとそういうことを感ずるのも少なくなりますが、それをいかに吸収するか気持の持ちようで私は変わると思う。

塩田　どうせ抜け切れないものだつたらよりよくしようと思つてみなさい、そこに生きがいを感じてきますよ。

滝沢　私は主婦専門業よりよつぽどいいと思います。

岩崎　主人はことしはいもをたくさん作るとか豆をたくさん作ろうとか言うんです。私は豆は凶作には弱いからビートがいい、安全コースだからといつたら、主人はうつ向いてする仕事は苦しいからいやだという。その苦しいことを私がするからというふうに自分の思う線に大体近づいていくことができます。結果はかなりの収量が上がります。そういうところにはとてもほかの職業に見られないおもしろ味があると思います。

浜田（リーダー）どうやら花嫁不足は多少マスコミの誇大妄想もあるが皆さん方自身が劣等感を持たないこと、そうして嫁さんをもらう態勢さ

え整えればそんなに来ない場合はない、いわば皆さん方が主婦としてあるいは農家の立場を堅持しておれば道は開けていくんじゃないかという答に近いものが出たような気がするんです。私自身も花嫁を無理に作るのはどうかなという気分を持つていて、農林省から相談を受けるたびにおよしなさいと話しておつたんですが、いささか意を強うしたような気がいたします。やはり二通りあるように思いますが、いやだいやだといつている人間ほどむしろ逆にその中に飛び込んでいくと見事なことをなさるということが一つ、それから無理やりに作るべきものではないという意味で花嫁問題も皆さんが考えていただけるなら一番いい解決じゃないかという気がいたします。

天谷　（特別オブ）お話をお聞かせいただいて非常に参考になりました。今まで私たちの方は青年時代の人だけしか考えられなかつたんです。農業とか農村の貴重な経験を積んだ方の話し合いの場は初めてなのでそれだけに収穫があります。皆さん自身がせつかく煮詰めたものを水をさすようで大へん恐縮なんですが、どういうことを一番に今の青年運動の中で考えられるかということを一つ、二つ、中心にして話してみたいと思います。青年問題の中で一番正面に出してくる問題には他産業との所得格差です。その問題を追つて論争しているわけですが、農業だけで見てはなかなか見つかりません。ですから私たちは青年活動を非常に広くやつています。その中で農業を広く見ようという活動があります。これは文部省など蓄産行政委員会などの協力を得て国内研修、遠いころは海外へ出ていますが、農業を自分の町の農業からほかの町や村の農業、それから農業開発でなくて工業地帯も見てみようという活動もしています。もう一つ農業の問題を政治的に解決してもらいたいと、いわゆる政策の変更を要望する青年も非常に多くなつています。しかし実際は自分の村で部落推せんがまだ残つておつたり町会議員とか市会議員の選挙の場合に青年たちが考える人たちが依然として出て来ない。まず第一に多くの人から選ばれるべきだという要望を青年たちはしており、その中で選挙の条例を制定しよう、具体的に岩手県が五年くらいやつてきておりますが－選挙条例というと立会い、選挙公報の発行、これをやると農業を守つてくれる議員がはつきりわかる、教育の問題、子供の問題も大事だと、そういう運動としてしております。それから農業から離れて行つてしまう、これは所得格差のためですからとめることができない。しかし農業から離れていく青年たちの生活はどうなつているだろうかということもこと三年ほどかけて調査をしてみました。たとえば大企業に勤めている農村の子弟はどうなのか、経済優先の中で育年たちが働かされている、これはどういうことなのか、そんな勉強もしております。たとえば一軒の農家に三人の子がいて一人が残つて二人は他産業に行く、その場合にどこに行くかということが大事な点なんです。具体的には三十四年に滋賀県で調査した。そのとき青年がほかの産業で働いている労働条件が非常に悪いだけでは済まされない、そういうことを事前に青年が学習しておればああしまつたと思わなくて済む、その中で一番問題になつたことは、農村の娘は高校に入れなくてもいいという考え方がその地方にはまだ残つておつたことで、これに対してはやはり男女同じように教育をしたい、たとえ親もとから離れても幸福に暮らすことが基本的な問題になると、考えてほしいとい

うことも三十四年に調査をしてきました。先ほど移家の嫁のことで山根さんとほかの方の意見がだいぶ衝突したようですが、農家に嫁に行く場合に大きな問題は、結婚を通じて親と子の対立が非常に出てきます。具体的にいうと福井県が結婚推進委員会を作つてこの問題に取りかかつております。本人同士の間では結婚を通しての生活設計を考えておるが、親が世間体があるというので結婚式とか結婚披露に莫大な金をかけてしまう、これがやはり青年の主体性を侵している、ここに封建的なものがまだ農村に根強く残つていることがありありと出ています、それに青年が屈してはいけない。もつと勇気を持つてぶつかつていけと。その中で具体的に出たのはお嫁さんが持つてきた道具を全部見せてる、まんじゆをばらまく、村の端からは車を下りて嫁ぎ先まで歩いてみんなに見せる、それから一週間くらいはお客を呼んでお酒を注ぐのはお嫁さんの仕事なんです。そんなことが福井県の結婚をめぐつての青年の調査の中には出てきました。これはない地域もありますが、まだまだ結婚を一つ契機として青年の主体性が侵されていることが非常に多い。それから基本的人権とは何かということは青年たちもせつかく学んでいます。それと今言つたこととのみぞはどこにあるのか、それも大事なところだと思います。もう一つこれは千葉県が比較的工業地帯に近く嫁入りするために他産業に働く場合があります。三年働いて自分で結婚費用を貯金した農村に帰る青年たちもいます。全体を通して非常に参考になつた。私たちの娘や青年たちにも大いに伝えて一緒に手を取つていきたいと思います。最後に沖縄の農業の方々が一日の生活を七十五円くらいでやつているんです。同じ日本の中でこれはどうなのか、自分の農業のこともありますが、農民全体が一丸となつてやつていくのも必要で農業の問題の中では真剣に取り上げています、やはり農民としての生活の中でお互いに手を取り合つていけるものはどれとどれなのか、それを具体的にどうやつていくかを勉強しています。正直言つてまだ勉強の段階ですからこれから皆さんの尊い経験を十分に生かしてやつていきたいと思います。

水島　（特別オブ）あと継ぎの問題で私の意見を少し述べさせていただきたいと思います。私は日本の産業の将来を大きく目を開いていきたいと思うんです。耕地面積も狭いしますます人口増加の傾向ですし、その中で日本は農業中心じやなく工業に移行するのが産業の将来だと思います。私も漁業をやり農業をやつており子供は四人ありますが、男の子がたつた一人で大きくなると何になるのと聞きましたら、中学時代からエンジニヤになりたいというので、工学部を出て造船の方に勧めております。私は子供の才能と希望によつて何の産業でもいいから才能をいかすことが大事じやないか、家の後継者ということにとらわれないでいいんじやないかと思います。息子は結婚しておりますが、たつて帰らなくてもいいと初めから宣言しております。私は農業で家も耕地も山もありますがだれか村の人に分けてお上げしてもいいし、家も公民館に寄付することも考えております。九十一になる父も母も承知してくれております。私の根本の考えは日本の産業の将来を考え、自分の家に固執しないで遠くから朝晩おがんでくれればそれでいいという考えです。それから私しゆうとめの立場にも、嫁の立場にもおりまして同居はいたしておりませんが、嫁の気持、しゆうとめの気持の両方を知つているような気がします。その立場で孫

の守りはやはり嫁にまかすべきだと思います。私は出発点での育て方は私はこういうふうにしたい、私に主体性を持たせて下さいと申しましたところ理解してくれました。その前提には信頼される嫁になることだと思います。嫁の言うことには間違いがないという信頼を前提に計画的ですが、そういう行動を起こして全責任をまかしてもらつて、おばあちやんにはあまり口出しさせない形を取り、年寄りが一緒でもあまりわざわいされなくて暮らして参りました。若い方はやはりそうであつていいかと思います。平和ということもそういう下地を作つて地固めをしておいてつつかかつていく山根さんのああいう情熱が大事だと思います。

浜田（リーダー）いろいろ御意見もあろうと思いますがこの辺で終わりたいと思います。

第四部会（市民としての問題）

会議員

秋田　小野寺キヨ（無職）
茨城　大森キク（農業）
群馬　高木千鶴子（無職）
石川　深田恵美子（無職）
山梨　戸泉恵美子（無職）
静岡　桜井陽子（農業）
三重　川瀬鈴子（無職）
奈良　植田秀子（無職）
和歌山　高田千代子（無職）
広島　長本清子（無職）
山口　羽仁美津江（無職）
愛媛　阿部典子（無職）
高知　田村八重（無職）
福岡　平尾朝海（無職）
熊本　坂本田鶴子（無職）

リーダー　岩井弘融（東京都立大学教授）

特別オブザーバー

桑野千代（日本基督教婦人矯風会）
本尾良（日本婦人有権者同盟）
中村紀伊（主婦連合会）

第一日目（四月十三日）　一三。〇〇～一七。〇〇

岩井（リーダー）　私の役割はいわば交通整理でして、お話し合いをなさるのは皆さん方ですから、出来るだけ活発にお願いします。それから、あまりむずかしくなく、なるべくわかり易く話したらどうかと思うので、ざつくばらんに、自分のわかる言葉でお願いします。

最初に先ず、是非こういうことを自分は言いたいという材料をもつていらしたらお教えいただきたいと思います。

第四部会のテーマは　市民としての問題　で、この会議を進める上の手だてとして一応十一項目のトピックを出しておきましたが、これは参考として私が机の上で書いたものですから、あまりこれにとらわれる必要はありません。むしろ皆さんの中で、ここでとくにこういうことを話したい、とくにこれだけは言つておきたいということがありましたら遠慮なくおつしやつて下さい。皆さんが書かれた所感文は拝見しておりますから、これに関しては一応わかつているつもりです。

阿部　私、所感文のおしまいのほうにおかあさんパトロールについて書いたのです。これは学童が登校、下校の時に交通事故をおこさないように、また、途中で悪遊びをしていないかということを注意したりするためにやつたのです。最初は社会的に好評を受け、参加者も多かつたのですが一年もたたないうちにおかあさん方の顔ぶれが決まつてしまいまして、結成当時には、各家庭から必らず順番に出るということだつたのですが、それがくずれて、今では役員だけしか出てこないようになり、順番制が実行出来なくな

つてしまいました。そういう場合どうしたらおかあさんが動いて下さるか、私の指導の仕方がいけないのか、そういうことについて皆さんのご意見を伺いたいと思います。

長本　これは第二部会と関係があると思いますけれども、働く母親がふえて、その方たちの中にいろいろな問題があると思うのです。外に出て働いている母親も、家庭にいる地域の婦人も、お互いに市民ですから、たがいに連携して問題を解決していくべきだと思うのですが、その連携がどのようになつているか伺いたいと思います。

高田　私も長本さんと同じような意見なのですが、やはり働くおかあさんとその子どものことについて伺いたいのです。

岩井（リーダー）　たとえば鍵っ子のような・・・・

高田　えゝ、そうです。

植田　私は、ある程度子どもが成長して、母親としての現役を卒業しましたので、初めて社会につながりをもちました。そこで母親失業の時期を社会奉仕ということで、皆さんに目を開いていただきたいということを呼びかけたいと思つております。

桜井　私は現在、小さい子どもを育てていて、まだ市民の中にはいつてお話できる人間ではありませんが、私のそばにおこつたこと、あるおとうさんが重症身心障害児の子どもを殺したのですが、この方は自分が頼れるものがなかつたので、考えに考えたあげく殺したということなのです。その時にもつと地域の婦人たちが婦人の問題として一諸に考えてあげたかつたと思つたのです。私が子どもを三人育てながらこういう問題をとり上げてきたということは、いつ交通事故などで、自分の子どもが同じような運命になるかもしれない現在では、それと、自分の問題として広い目でみてゆかなければならないと思うのです。それで、全国的に重症心身障害児の問題と組織的に取組んでいる方がありましたら、その取組み方について教えていただきたいと思います。

戸泉　今のお話に関連のあることで、私は山梨重症心身障害児を守る会について所感文に書いたのですが、母親が社会奉仕に参加するということを皆さんで考えたいと思うのです。重症児に限らず、婦人がせめて月に一回でも奉仕の日をもつてくださるようお願いしたいと思います。

深田　私は消費生活の立場をよくすることについて所感文に書いたのですけれども、同時に供給者を制するという意味で、よその県ではどういうふうにしているか、ご意見を伺いたいと思います。

高木　これはむしろ第一部会に関係があると思いますが、今、マスコミなどで女は家庭に帰れとか、女子大生亡国論などということが言われていますが、女の子を育てる上でどういう心がまえが必要かということを教えていただきたいと思います。

大森　現在、保母が非常に要求されておりながら少ないということと、今の若い方たちが少ない子どもを育て上げて、それから何か社会に奉仕したい、中年になつて、保母の資格でもとつて奉仕したいという気持がありながら、その若さを使う場がないということから、保母育成のためのものがほしいという要求があります。

岩井（リーダー）　一応お話しになりたい点を伺いましたが、今おつしやつたことや所感文だけでなく全般的に広く取上げてゆきたいと思います。

それから、討議の要点としてここにトピックをあげてあります

が、初めにちよつと説明しておきましよう。

一、〃よい市民とは何か。よい市民となるための婦人の役割は。

これはあまりむずかしく考えないでゆきたいと思います。

〃これと二番目の、〃どのようにして新しい社会的連帯意識を培うか〃ということは実は一つで、一しよのような形で最初にスタートを決めてゆかなければいけないので、まずこの二つのことを話し合つておいて、いろいろな問題が出たあとで、もう一度、〃ではよい市民とはなんだろう〃ということにもつてゆきたいと思います。

三番目の「地域社会でよい近隣生活を望むにはどうしたらよいか」ということは、隣近所の問題です。

四番目は〃地域社会における子どもの問題と婦人の集団活動のあり方について〃それは地域社会全体の子どもの問題で、特に子どもの問題をめぐつての地域の問題は相当あるのじやないかと思います。

それから五番目は　消費生活と婦人の集団活動。　消費研究などもおやりになつているようですし、これは日常の暮らしの問題です。それには当然生活様式の問題、あるいは物価問題がはいつてくると思います。

六番目は〃共同の福祉と婦人の集団活動〃これは保健、衛生の問題、老人の問題といつた社会福祉の問題です。家庭生活と関連する問題も当然出てくると思います。

それから七番目が〃学習活動と婦人の集団活動〃学習活動というのは自分自身の問題、今ここでしていることも学習活動の一つですが、自分自身を向上させることをグループでやる場合の問題当然テレビやラジオなどマス・コミを通しての学級活動も出てくるものと思います。

八番目の〃地域社会での集団活動における職業、階級の違い、世代のへだたりなどはその活動にどんな影響を与えているか。また、これを克服するにはどうしたらよいか〃地域活動をする場合、いろいろな環境の方がいる。たとえばこのグループでもいろいろな年令の方がいらつしやる。年令によつて考え方も違つてくる。それをどうしたら円滑にまとめてゆけるかということをお互いの体験で話し合つていたゞく。

九番は、〃地域生活において、ＰＴＡ・婦人会などの諸団体の関係はいかにあるべきか〃ＰＴＡとか婦人会、町内会といろいろな集まりがあるが、その間の調整というものをどうしたらよいか。

十番目は〃婦人の団体活動と自治体との関係について〃実際に社会活動をすると、市町村、県などといろいろ関係をもたなければならないが、そういう自治体と、婦人団体との関係。

十一番目は〃都市の発展と市民生活〃で、この中に三つの問題があげてある。一つは、日本全体が急速な勢いで都市化しているので、それにからんでいろいろな問題がおこつてくるだろう。これは当然農村にもその影響が及んで、たとえば都市の主婦と農村の主婦の交流とか、大都市のまわりにいろいろおこつている問題をとり上げる。それからもう一つは特殊な問題として団地の問題。三つ目の〃その他〃は公害の問題、住宅の問題。こういう問題を今日、明日の二日間に論議する予定ですが、皆さん方のご希望で省くとか入れるとかいうことも出来るかと思います。

家庭とか職場とかいうよその部会でとり上げている問題もこの

部会の問題と無関係ではないと思いますけれども、あまりそちらに深入りしない程度で、ある程度まで関連させてとり上げてみたいと思います。

それでは早速、一番目から始めます。

〃よい市民とは何か〃 市民というと都市の人と考えるかと思いますが、市民というのは、言いかえれば〃社会人〃 ということだと思います。よい市民というのは〃よい社会人〃 といつていゝと思います。みんなが幸せになるという意味を含んでいるわけです。

〃よい市民となるための婦人の役割 この〃よい市民〃のなかには夫も子どもも含めますから、夫も子どもも自分もよい市民にしなければならない。そういうことを含んでおります。だから、よい市民というのは女の人ばかりを考えているのではない。多少婦人の場合には特殊な条件がある、日常生活の範囲が狭いためにややもすると利己主義になつたりして、外に向かつて開いていないということがある。知らず知らずに自分の子どもだけはということで利己主義になるというような 訓練不足でよい市民になれないということがある。そういうことを頭において、われわれが市民というと何が頭にくるかということを考えてゆきたいと思います。

婦人が今まで閉じられた社会に住んでいたと言いましたけれども、今は大分変つてきたのじやないか。時代はむしろ、開かれた中での市民活動というものを要求しているし、現にここへ出席しているということは大へんな市民活動をしているということです。あるいはまた、PTAに出ると地域社会に交流をもたざるをえなくなつて目が開かれていく。実行力も出てくる。昔の、私の祖母とか母ですと、家庭の中で一生を終つているが、今は大分変つているると思います。しかし無目標ではいけないので、どういうようにしたらいいか。そういうことでやつていただきたい。

〃二番目の〃 新しい社会の連帯意識では、身内のことは考えるけれども外に対しては壁を築く、また、上のものにまかれてゆけばいい、というのがあるのじやないか。連帯意識を培うにはどうしたらいいかということを話し合いたいと思います。

それからもう一つ、この会のもち方ですけれども、話上手、聞き上手であつてほしいと思います。つまり、自分の意志をはつきり人に伝えられるようにして、人に迷惑をかけないようにする。聞く方はよく聞いて上げる。自分の体験を無理矢理他人に押しつけてゆくだけでなく、よく聞いて上げる。これも一つの大切な市民訓練であると思います。

では、いま私が話したことに引つかかりのあるようなことをお話し下さい。

長本 私は二年ほど前に広島市内から郊外に転出したのですけれども、越した秋の秋祭の時に、住んでいる地区の違いということをしみじみ感じました。というのは、広島市内の町内会では、毎月会費を集めていて、秋祭りの寄附金は会費の中からまかなつてくれますが、郊外のには、昔ながらの風習が残つていて竿をたてるのに百円、神主さんのお祓い代で百円ということで八百円もかかりました。それでこのままではお祭りで破産するのではないかということで地元の古い方と新しい者で一諸に話合つてみました。そうしたら、地元の方も心の中で負担だと思つていたが習慣で出していたので、来年からは町内会の会費の中からまかなおうとい

うことになり、今はお互いに助かつているのですが、やはり自分だけが幸せになることでなくて、みんなで手を握らなければいけないということを感じました。

羽仁　私たち、よい市民になるために選挙の度に公明選挙をしましようと皆さんに呼びかけているのですけれども、私たちのグループで婦人議員の方とお話をしたとき、公明選挙では婦人議員はどうしても当選しないというのです。こういう問題について他の地方の婦人議員さんはどうなのか、話をお聞きになつた方がございましたら教えて下さい。

阿部　今の選挙の問題ですが、地方会議にまいりました時に、ある村のリーダーの方が訴えたのです。選挙が最近あつた時に、候補者の家族がリーダーの所に来て、一しよに戸別訪問に行つてくれというのを断つたら村八分のような扱いを受けたのだそうです。

坂本　やはり選挙に関係があることですけれども、私たちはやはり自分の権利を大切にしなければならないと思います。というのは自分の権利を大切にしないという所から変な議員も誕生すると思います。私どもの熊本では暴力議員の誕生というはずかしいことで名前を売つてしまいましたけれども、それも各自の自覚が足りない、権利を大切にしないということからおこつたのだと思います。私どもの地域は住宅が急激にふえているのに、道路が悪いのです。すると感心できない議員が、道路の悪いのにつけこんで砂利を運ぶ車に乗つてきて顔を売つてしまう。そしてまた次に当選するということで悪循環になつてしまうのです。私は、自分の与えられた権利を守つて、変な人には入れないということにすればそういうことは防げるのじやないかと思つております。

桜井　やはり選挙の話ですが、私の住む小さい町で、婦人会とか草の実グループ　などの人たちといつしよに選挙をよくする運動の一つとして公報発行の運動に署名したらこれが議会にとり上げられて、四月十七日の選挙に間に合つたのですが、その時婦人会とか、小さい私たちのグループで、公報が発行されたのを見て、どういう人たちが出ているか勉強したのですが、小さいことでも一つのことが出来たのがよかつたと思つています。

植田　婦人の意見を是非政治にいかしていただきたいということから婦人会の会長を町会議員に送り出そうという運動が盛り上がつて、それが成功して町会議員になりましたが、そういう方に婦人の生の声を反映させて活躍していたゞくことを話合つて、いい結果が出ています。みんなの積極的な熱意さえあればもつと婦人議員を多く出せるのではないか。女の心の狭さから足を引つぱるということをやめて、ぜひ盛り上げていきたいと思います。

岩井（リーダー）　いろいろの問題が出ましたが、少し整理をします。

最初申しました話し上手、聞き上手になつていただきたいということは、はつきりした意見を人の前で出せる、個性がはつきり出るということで、聞き上手というのは協力がよく出来るということです。その目標が幸せになるということですが、同時に民主的でなければならないということがあると思います。

それから、自分も市民として成長し、みんなも成長してゆくということがある。そうしてそれを考えるだけでなく実行してゆく必要があると思います。が、今出た問題をみますと、秋祭りのお話のように住んでいる地区が違うと、片一方では昔ながらの伝統ー

ーこれも一つの団体活動だと思いますが、そういう慣習の中で生活している。それが新しい人とうまくやれないという、新しい連帯意識と古い連帯意識とのぶつかり合いが出てきたと思うのです。これはどこの地域にもある。必らず摩擦が出てきますから。その次の選挙の問題。これも同じようなことがあつて、下手をすると村八分になる。これもある意味では古い連帯意識が選挙の中に出てきているということじゃないでしょうか。

最後に、女の心の狭さということも出ましたが、そういう所にしぼつて、お話し合いを願います。

最初の問題ですが、昔ながらの習慣をやつている所で新しいことをやろうと思うといろいろ問題が出てくると思いますが。

植田　冠婚葬祭も年々派手になつて、個人的には悲鳴を上げていても、いざとなると家の格式が上だとか、下だとかいつて、だんだん派手になつていくのでとうとう地区の婦人会が立上がつて新生活運動というかけ声はあげましたが、声だけで実際には何もやつていないのです。それで、自分の地区だけでなく町ぐるみの活動にしようということになり、町長にかけ合つて県知事を迎えて、新生活運動が発足しました。それで、三月からお葬式の飾り物など質素にして、それで浮いたお金をいかしていきたいということで初めました。あまり急にやると失敗しますから、無理にならないようにだんだんやろうということで、みんなの声が集まつたところでやつたので、成功したのだと思います。

長本　広島市内で婦人会長をしていた時に、そこは団地なのでいろいろな土地の人が集まつていて、いわゆる冠婚葬祭の方式が違いますので、一律に、お見舞はこれくらいときめ、お返しなしということで相談しましたが、今だにそれが続いていて、負担が軽くてすむと喜ばれております。相談するといいことがあるという例だと思います。

坂本　私は従来からその土地に住んでいる人間の一人ですが、私どものほうでは冠婚葬祭はそう派手ではありません。ところが団地の方は、方々から来た方の寄せ集めですので、あまり深入りした交際はしないという方が多くて、隣の家で亡くなつた方があることも知らないということもあるそうです。私どもの地方ですと、習慣で近所の人が集まつてお葬式をしたりしますが、それほどでなくても「何かご用があつたらしましよう」という程度の交渉はかえつて喜ばれているという話を聞きます。

岩井（リーダー）　古い習慣でも、お互いの助け合いということは悪いことではない。一人でやれないことを助け合つてやる。団地などの場合はまた違いますが、新しい人たちとの突破口をつくることも大切ですね。古い習慣の中には、続けていつていいことと、同時になくしてゆかなければならないことと両方はいつているのじゃないかと思います。一掃しないと、切角新しいやり方を取り入れてもすぐぶつかつてこわれてしまうということも出てくる。その中から本当の開かれた市民、外に広がつてゆくような目を作つてゆくという考え方もあります。

高田　私どもの所は住宅街で約二百軒ほどあります。地方選挙に関連した問題ですが、この人は道路をよくしてくれるとか、川を綺麗にしてくれるとか、いろいろ体裁のいい条件をもつて、お願いしますと頼んでくるが、さて当選してしまつたらもう何もしてくれないのです。この間も私共クラブの総会の席上で、高田さん立

ってくれたらと、これは笑話ですが、ともかく、おかあさん方が自分たちの考え方を取り入れてくれる人を出したいという気持を持つようになったところまでこぎつけてきているのです。それで、そういう人を見出だすにはどうしたらよいかということを、皆さんにうかがいたいのです。

田村　私のほうでは選挙のとき、この人ならと思う人をいくら出そうとしても当選しないで、こんな人は困ると思う人が通るのです。

羽仁　婦人議員に聞きましたら、婦人には財力がないために、男の人がお金で婦人の票を買いにくると、一夜にして足を引張られてしまうそうです。やはりお金がついてまわるのですね。

小野寺　議会に婦人を送るというのは私どもの町では困難です。それで、議会を私たちのものにするために議員の方々と話合いをしております。すると婦人がそれだけ関心をもつているということで、ずい分最近は気をつけてくれます。それから婦人が議会を傍聴することが一番よい方法だと思います。

阿部　投票した議員がどんな仕事をしているかをみることが一番いいことですね。

戸泉　ある代議士を訪ねたら朝からいろいろな人がお願いに来ているのです。そうすると、代議士さんに何か頼んで、それをやってくれたら次の選挙にはその人に入れる。私はそういう考え方に抵抗を感ずるのです。選挙をする時に、たのんだことをやってくれる人を入れるのがいいのか、そういうこととは別に人格者だから入れるのがいいのか、大きい目で見て立派な人に票を入れたいと思うけれども、そのへんを皆さんはどう思いますか。

岩井（リーダー）　よい市民になるためにはどうしたらいいかということには、大きな問題もありますし、また身近な市民の問題もあると思います。広い意味の問題から今度は少し身近な問題をどうぞ。

高田　土地を提供してもらつて児童遊園地を作りました。皆週に一度順番制で掃除に行つたり、年に二度草を取つたりするのです。また、子どもが帰つたあとの片附は私がやるのですが、年度がわりで忙がしかつたので、私が掃除をちよつとさぼつたら、ある方が、「このごろ高田さん掃除しないのね、会長やめたの」というのです。しかし会長でなければできないという仕事じゃないし、自分の地区を大切にする意味からみんなで協力してやつてもいいと思うのですが、呼びかけるというのもちよつとおこがましいような気もするのですが。

戸泉　すぐそばに小さな公園があるのですが、ブランコのそばにガラスの破を入れる箱があるので、ブランコのそばが破片で一ぱいになつてあぶないのです。それで近所のグループ三人ばかりで朝早くおきて、みんなが寝ているうちにガラスを処理したり、花壇をきれいにしたりしました。一年ほどしてみんなで町内に婦人部を作りました。そうしたら、地域のことを考えるようになつて、あそこにガラスをおくのはまずいからということで取り除けられ、二年、三年たち、現在は地域で交替で掃除をして、花壇は七つの組が順番に、草をとつたりということで地域全部でやるという形になつたのです。こんなふうにもつてゆけたら理想的だと思います。

高木　よい市民になるということの根本は民主々義に生きることだと思います。人に迷惑をかけないとか、人にしてほしいと思うこ

とを先ず自分でするという精神だと思います。どの人にも共通することは時間の観念とか生活の整理が大事じゃないかと思います。

平尾　子どもによその家の悪口は言わないこと。それから往来の犬のふんを毎日もつて帰つて捨てること。その二つを実行して、来年くらいからは次のことをするというように一つ一つ段階を経て、私が先ず実行して子どもにもそういうようにさせるということを考えています。

岩井（リーダー）　今、他人に迷惑をかけないということが大事ではないかということが出ましたが、皆さん方がよい市民を作るのですから、まず子どものしつけから考えなければならないのではないか。電車の中でも靴をはいたまゝ座席に上がるとか、乱暴な大人が出来上がるのはおかあさんにも責任がある。よい夫を作つてゆくということもあるかもしれない。やはりその中心は自分だというお話が出てきたと思います。

桜井　主人とはいやなことも話しますけれども、子どもの前では絶対に言いません。

坂本　人に迷惑をかけないということは大賛成です。子どもの問題が出ましたが、歩けるような子どもはあまり腰かけさせないで立たせておくほうが体のためにいいと聞いております。子どもは膝もとに抱きよせてやりましよう、ということを話し合いまして、そういうことを実行しております。やはりこういうことはおかあさん方が理解して、実行したらいいと思います。

岩井（リーダー）　電車の中で外国人のおとうさんと小さな子が座つていたが、中年過ぎた婦人が乗つてきたら、子どもを立たせて、「どうぞ」と譲つてくれたという話をききましたが、こういうことも市民生活の基本の心がけとして大へん大事だと思います。

桜井　そういうことは子どものときから知つておく必要があるから、おかあさんがよくしつけなければいけないと思います。いま子どもの中でネパールに古切手を送る運動がありますが、幼稚園に行つている子どもで、おかあさんが手伝つてあげればできますからこういうことで少しでも人のためになることを子どものときから習慣をつける必要があると思います。こういうことについて、参考になるようなことを聞かせていたゞきたいと思います。

植田　そのお答になるかどうかわかりませんが、私は子どもに、人に迷惑をかけない、争いごとをしないというようにしつけたのですけれども、学校に上がつて集団生活をした場合に、男の子ですがおとなしすぎて、とてもついてゆけないのです。私の教育方針が間違つていたのかな、この生存競争の激しい時に困つたなと思つたのです。たとえば、かけつこをして折紙を拾つて帰つてくる競争の時なども、一番あとまで待つているのです。あとで聞いてみると、みんなが拾うのを待つていたというのです。小学校の間はもどかしくてたまらなかつたのですが、中学校・高校になりましたら、やつぱり私の考えは間違つていなかつたと思うようになつたのです。それは私が外の生活をもつようになつた時に、暖かい気持で眺めてくれて、安心して社会奉仕の仕事をして下さいと作文に書いたのです。中学校の先生からも、このような作文を書くお子さんをもつたことを祝福してあげたいといわれました。うちの子どもは出来が悪いから、私は肩身の狭い思いをして、子どもを不足に思つていたのですが、それは違つていたことがわかりました。

岩井（リーダー）　今のお話は大へん大事な所にふれたと思います。というのは日本人に欠けているのは市民意識だからです。家中心の習慣の中で長い間生活してきて社会的な生活を知らないという伝統があることが一つと、戦後の特殊事情があつて人のことなどかまつておられなかつた。あまりお人よしでも生存競争に負けるということはあると思うので、そういう点で親としての悩みもある。

子どもがエレキを弾くので近所がうるさいでしようと言つたら、うちの子が楽しんでいるのだからいいのだという考え方をしています。そういう子どもが社会に出て、ほんとうに上役としてやつてゆけるだろうかというと、お人好しの困り者、ある程度の広い社会性のない人間では競争でも負けてしまうということではないでしようか。

桜井　急がばまわれ、損して得とれということを身をもつて子どもに教えてまいりました。

岩井（リーダー）　子どものことをめぐつて、よい市民になるためのしつけということが出ましたが、たとえば公衆電話で話をするのに女の方が長い。それはある意味での市民性が欠けているのではないか。母親自身にも自分の問題としていろいろあると思います。いつも家庭の中で生活していると、大勢の人もそれぞれの問題をもつて生活しているのだということがわからなくなつてしまうということがあると思います。

高田　ＰＴＡの会合で先生を一人占めにして話している光景を見てつつしまなければならないし他の人のことも考えなければいけないと思いました。

長本　私の家の前に住んでいる方が留守をしたあとに集金人がきて、何度も足を運ぶのは困ると怒られたり、また、怒られた奥さんが立腹して私に訴えたりということがありましたが、集金日は前に表示しておいて、その日に留守にするなら、何日に来て下さいと貼り紙しておくとか、気を使えばいいと思います。さ細なことが非常に婦人にはぬけているのじやないかと、私も含めてそう思います。

阿部　私のほうの地域では留守の時は集金人が、何日に伺いましたけれども留守でしたという札がおいてあつて、今度いついつ伺いますと書いてあつて大へん便利だと思います。

深田　私どものほうでは公共料金の集金は日が決まつているので留守にする場合はご近所にお願いして外出します。

羽仁　そういうことは地元市役所の窓口に行つて町内会なり婦人会なりがかけ合つたらいいと思います。

高田　この間も電気の集金人が、お隣さんが留守だから立替えてもらえないかと言うので立替えましたら反対に奥さんに嫌味をいわれました。「集金人さんならいつまで待つてといえるけれども、奥さんに立替えてもらつたら待つてもらえないから立替えないで下さい」と、言われました。集金人が気の毒だと思つて立替えたのですが、辛い思いをしました。

岩井（リーダー）　自分もよい市民にならなければいけないが、まわりの人がなかなかいうことをきいてくれないでは、どうしたら自分だけでなくまわりの人に及ぼしてゆけるかということはどうですか。たとえば公園の掃除などを自分たちが始めて、それがだんだんうまくいつたというような例は。

田村　自分たちの店の前を一メートルずつ余計に掃くことにしましようということにしたのですが、なかなかそれが実行できないのです。何べん掃いてあげても知らん顔している人もありますが、そういう人にははつきり言つて上げたほうがいいものでしようか。

植田　いなかの墓所は広くて草が繁りますので、婦人会で毎月一回自分の家のお墓だけでも掃除しようということでやり出したら、お隣が綺麗になつたら格好が悪くて草がはやしておけないということで皆がやり出して綺麗になつたのです。そしていつも花をたやさないようにと種子をまいたら「その花ならしおれないでいいですね」とほめられました。蚊の撲滅ということからも、花を植えるのがいいと考えて植えたのですが、どうぞ皆さんも広めて下さい。

阿部　婦人団体で年二回、家庭の中で不要になつた衣類を供出するようにしたのですが、たいへん成績をあげております。それを施設や老人センターに贈るようにしております。

長本　今の所に二年ほど住んでおりますが、初めは隣近所にどのようにものを言つていいか悩んだことがあるのですが、気がついたことから周囲に話してうちとけるのがいいと思います。

田村　婦人会員が、不用になつた物を集めておきまして、火事のあつた所とか、非常に貧しい所とかに上げております。そういうものを上げる時は、みんなに集まつてもらつて、洗つたりアイロンをかけたりして、きれいにしてからあげます。一昨年もおふとんを三枚、衣類を百七点上げて喜こばれました。困つている方には、ばかにしたと思われないように気をつけて上げるようにしております。

岩井（リーダー）　特別オブザーバーの方でご発言なさることがございましたら。

本尾（特オブ）　最初に選挙の話が出まして、婦人議員をもつと大勢出したい、それにはどういう人を出したらいいのかということでしたが、組織的にいくらか名の通つている人で、学識のある方でしたら、それ程困難なくみつけられると思います。また、そういう方を組識の中で育てて押し出すような方法をおとりになつたらいいと思います。

それから、選挙にお金がかかるから婦人議員が出られないと言いますが、政党が国民のためというよりも党利党略ということから選挙にお金がかかることになるわけですが、そういうことをするのは男性が多いわけです。そこで、婦人議員は、男性のそういう汚なさのうわ手をゆくような考え方をもつていただきたいと思います。

田村　婦人会から出る場合、婦人会として推せんしたら違反になるでしようか。

本尾（特オブ）　後援会のようなことですか。

田村　婦人会長を出すような場合、副会長が責任者になつたりということは出来ないでしようか。

本尾（特オブ）　法的には差しつかえありません。しかし、理想としてはその方を広い範囲から出すためには婦人会長の席をはずして、広い範囲から推せん会をつくつて、みんなの総力でお出しになつたほうがいいと思います。

岩井（リーダー）　選挙のお話はそれくらいにして、さつきの話合いの続きに戻りましよう。

植田　婦人会で学習することで地域をよくしていこうということで、「みんなの体」ということを学習しました。そして町内の小学校の児童の体格について調べましたら、ある一校の児童だけが胸囲が広いのです。その原因を調べたら、その学校だけプールがあつたのです。それで完全な体格の発育のためにはプールも大事だということで、プールを作る運動を婦人会で力を合わせてそれを実現しまして、全部の学校にプールが出来ました。やれば、町が財政的に無理だということでも可能になりますので、婦人会の学習を地域の幸せと結びつけていつたらどうかと思います。

阿部　一番初めのお話のとき、植田さんが母親の失業時代という意味の言葉をお使いになりましたが、もう少し具体的に説明していただけませんか。

植田　昔は早く結婚して、若くて母親になつてたくさん子を生んだので、長い母親時代がありました。すると、末の子どもの最後を見とどけないうちに年をとつて死んだり、長男に末子を托して隠居したりということで、母親は現役からすぐ老後に入つてしまうことが多かつたのですが、現在の女性は娘時代から母親時代があつて、子どもが少ないのに寿命が伸びましたので、母親として子どもを育て上げても養老院に行くには早いし、子どもに見てもらうにはまだ若いという母親時代と老後時代の間の時代が出来たわけです。それを母親の失業時代といつたのです。

阿部　婦人として喜んでいいわけですね。

植田　一番幸福な時代じゃないですか。その幸福を社会のために奉仕してほしいということを書いたわけです。

大森　小さい子が一人か二人あつても自分にはまだ三人くらい子どもの面倒をみる余裕があるという場合に、自分はなんの資格もつていない。それでおそまきながら勉強して資格を得て、体のあいた時に社会的に何かご奉仕をしたいという気持をもつている若い方々も多いと思いますので、資格をとるための施設があつたら教えていただきたいと思います。

戸泉　私のグループの三十四才の奥さんがつい最近試験を受けて保母の資格をとつたそうですが、去年の八月の休みに一週間ばかり講習を受けて、あとは本で勉強して三月に合格したのです。もちろん努力もいるし勉強もしなければならないし、オルガンやピアノも弾けなければならないのですが、そういうふうにして保母の資格をとることも出来るわけです。年令は四十才くらいまでらしいですが。

植田　「市民として」という部会に出席するということで、皆さんに地方会議の時に意見を聞きましたら、四十過ぎの年代の方はなんらかの形で社会に奉仕したいという気持があるのです。でも社会奉仕をしようと思うと金がかかる、保母さんの資格をとろうと思うと年をとりすぎている。奉仕はしたいし、内職をしないと子どもの教育は出来ないし、というような意見が出ました。すると、一部の方から、社会奉仕はお金を使うことではない、何も元がいらなくても出来るという方がありました。団地の奥さんでしたが、家族構成が若夫婦になつていますので、団地にいらつしやるお年寄を誘い出して、一週間に一度くらい年寄の足のとどく範囲の所に連れていつてあげる。お寺や公園へ連れていつてあげて大へん喜ばれているという例もききました。そういうことはお金をかけなくても、一日ひまを作つてあげれば喜ばれる。社会奉仕という

ことはお金を使うことでもないという発言がありました。

岩井（リーダー）　私がそこで一つ気になる点は、そういう新しい考え方の方がいらっしゃる。ところが一方には、なんでもお金がないと出来ないのだという考えがあるのではないか。また、お金を使わないとけちなことをしているとか。

植田　お金のある人はお金を出して社会奉仕をして下さい。時間のある方はひまを奉仕して下さいという仲間のアドバイスがありました。

阿部　お金で下さいということは間違っていると思います。

岩井（リーダー）　一部の人ということでなくなってくるし、時間とか生活の整理の問題などにもちょっとからんできますね。面倒くさいからお金でという場合もありますし、強制されて困るからお金でということもありますね。つまり、広い範囲の人にそういうことを及ぼしてゆく場合に、生活の仕方が違う人に強制することになりますから。

阿部　私は日程を作っておいて、家庭の中は何曜日にどういうことをするというように計画に合わせて行動しております。

戸泉　山梨重症心身障害児を守る会の会長になると突発的な仕事が出来てきます。だから予定をたててやるのもいいが、家庭が先ず大切ですから、家庭のことを先ず私なりにきちんとして、主人からも不平が出ないように、子どもも間違ったほうにゆかないように心を配ってやっています。ある一部の方から、戸泉さんは金とひまがあるから出来るという声を聞くと悲しくなるのですけれども、先ほど、お金を出して、仕事を人に代ってもらうのは社会奉仕ではないとおっしゃいましたが、私は、お金で奉仕するならそれでも結構、ひまを奉仕して下さればそれでも結構と思います。

阿部　同じ町内で団体行動をとる時に、私はお金でというと、実際に奉仕が出来ないから、一応出てきて同じようにしていただきたいのです。寄附の時はお金の差はあってもかまわないのです。

岩井（リーダー）　地域によって違うでしょうね。

高木　時間を守るという問題と、生活の時間の整理ということですが、私の場合一月の日程を作っておいて、決めたことは予定していますが、不意のお客さんがあると困るのです。私のグループは二百人ばかりいますが、電話で都合を聞いてから訪問するとか、十時前には訪問しないというようにしております。

小野寺　私はお金も何もないので、出来る範囲で和裁の内職をやっています。それで、社会奉仕というとなかなか容易ではないのですが、自分は子どもを育てるために組織の中にはいったわけです。学歴もありませんので、いろいろ学習させていただいたりするので、それに対する何かのお返しという形で奉仕しております。家族の理解のもとに、奉仕で昼ま時間を費やした場合は、夜、少し無理ですけれども内職をやっております。収入にはあまり影響させないように努力しております。

植田　時間の整理ということで、前の全国婦人会議で自由時間のテーマがありましたが、その時に学習して、自分なりに計画してやったのですが、忙がしい忙がしいと言っている人が、私が一反の田んぼを耕している間ずっと立話をしているのです。私が婦人会の会長をしていた時に生活の合理化ということでアンケートをとったのですが、実際の生活とアンケートの集計がかけ離れている。アンケートでは明るい結果が出ているのに、自由時間が少ないのです。四時間以上自由時間をとっている人というのは数えるほど

しかありません。その結果をまとめて学習しました。教育ママさんも結構だけれども、子どもが一人前になつた時に、結局母親は一人になるから、やはり今のうちに勉強して自分も実らせないといけないということで、生活時間の合理化の学習をしたのですが、アンケートを書くために考えたらずい分無駄な生活をしている。あれから五年間、私自身も家の切り盛りが時間的にうまくなりましたが、誰にも平等に与えられた二十四時間を、どのように合理的に使うかということが、その方の老後の人生が実りのあるものになるかどうかのポイントになると思いますので、各地域でこの問題を取上げていたゞきたいと思います。

大森　農村婦人の余暇と都市婦人の余暇と比べますと、都市の婦人には、たくさんの余暇が出るわけです。その余暇を、農繁期の子どもとおかあさん方に手を貸そうということで、私は季節の託児所をやつたのですが、余暇を生み出して奉仕して下さつた方の中にも問題があつたわけです。それというのは、自分の子どもを預けておいて内職していた方があつたからです。すると、奉仕した方の中には、私だつて一日内職をすればいくらいくらになる、というようなことを言う人もあつたわけです。しかし私は、同じ女性という立場に立つて、同じ女性が私たちの奉仕によつていくらかでも仕事が出来たら、そして、私たちのそういう暖かい気持を皆さんにわかつていただいて、いつか、今度は自分に時間の余裕が出来たら奉仕しましようという暖かい気持を一人でも多く持つてくださるようになつたら、初めて明るい社会が出来るのじやないかという気持でやつたのです。

岩井（リーダー）　時間が一段落になりますので、今までのところを整理してみますと、よい市民になるというのは、たとえば他人に迷惑をかけないということ。それから他人にしてほしいということを自分で先ずやる。ただここでちよつと気になるのは、迷惑をかけないという消極的なことで、実は一番初めに言つた、個性がはつきりするとか、責任がはつきりするとか、独創性があまり出なかつたのではないか。これは非常にむずかしい問題です。われわれの世界の中で、他人に迷惑をかけないという場合、自分が先ずちやんとやらなければいけない。よい市民になるためには開かれた社会をもつということと、子どもに対してしつけをきちんとやつてゆく。しかし、それをまわりに及ぼす場合にいろいろの隘路が出てくる。古い慣習とぶつかることもあるだろう。又は考えの違う人が出た場合、強制してはいけない、心が大事なので、それぞれの方法でやつてゆくことが大事ではないか。たとえば学習してゆくということも一つの方式じやないか。

さらに広く政治という問題が出てきました。

簡単に総括しますとそういうことになるかと思います。

今までのところは、始まりの部分ですから、そういうことを目標にして近所のこと、地域のこと、その他消費生活の問題、福祉の問題と、婦人活動について話し合つているうちに、またいろいろな問題が出てくると思います。それではこれで休憩いたします。

（休　憩）

（再　開）

岩井（リーダー）　今度は、今までにも少し話も出ておりますけれども、主として近所の市民、隣近所との問題です。よい市民であ

るためには先ず近所のおつき合いという問題がある。もちろん近所の生活は地域によつていろいろ違いましよう。たとえば団地のような所では、あまりつき合いのないために困るということもあろうし、また所によつてはつき合いがありすぎて困るということもありますが、市民である以上当然いろいろなつき合いがあると思うので、どんなつき合いがいいか、また困つた問題があるがどうしたらいいかとか、何でも自由にご発言下さい。

羽仁　私の町では、まず昔の隣組単位のつき合いがある。それから農家だけのつき合いとして、昔の農業組合、それから昔からいる人たちの小さな小組合といろいろな組合があります。それのどれにも顔を出さなければいけないのですが、どれもやることは大体同じですし、会費も納めなければいけない。そういうことはどういうように合理化していつたらよいでしよう。

岩井（リーダー）　お宅の住んでいる場所はどういう所ですか。

羽仁　昔はわら屋根でとびとびに家のある農村だつたのが、だんだん工場が出来て、殆んど住宅になつて、マンモス住宅が出来ています。昔から住んでいる人は地主でお金もあるし実績もあるわけです。あらゆる層がはいつてきていて、新しい人たちは新しい会だけにしかはいつていません。昔から住んでいる方は新しい会とも合流しなければならないし、昔からの小組合にも入つているということです。冠婚葬祭は昔からの方としかつき合つていません。

阿部　地方会議で出た問題の中で、転勤で地方に行つたらどういうグループがあるかわからないので、知らしてほしいという訴えがあつたのですが、どういう方法をとつておりますか。

坂本　私どものほうも大へん発展して住宅が昔の十倍になりましたので、町内も半年くらい前に三つにわかれました。そういうところですから昔の人は十分の一で、勢力からいうと新しく来た人のほうが強いわけです。新しく来た人はサラリーマンが多くてとくに組合関係の仕事をしている方が多いので弁のたつわけです。町内の話合いの時に、組合の人が来ますと土地の人は言いまくられて自分の言いたいことも言えないというような状態です。こういう場合、お互いに理解し合うには、話合いの機会を重ねて共通の問題を見出すことが大事だと思います。たとえば新しい住宅が出来ますと、道路も整備しないうちにどんどん自家用車などがはいつてきて道は泥んこになつてしまいます。そういうのをどうするかというのはお互いに共通した悩みですから、そういうことと取組むということから連帯意識をもつて仲間意識をもち合うことが出来ます。下水なども早速問題になりました。私が道路より前に取上げたのは、急に人口がふえたために主人や子どもが出勤や通学のバスに乗れなくて毎日遅刻するということが起こりましたので、これも皆に共通した問題ですので、会社にかけ合つてバスを増発してもらいました。このバスは私鉄のバスですが、市営バスより割がわるい料金なので、私どもも同じ市民として市民税を納めているのだから市営バスを入れてくれというのでいま陳情しております。

長本　今のお話のように私のところでも共通の課題を取上げて皆で一しよに改善しました。やはり大部分がサラリーマンの家なので、婦人が半数以上応援して、進出してくる工場を調べに行きました。それは婦人がいたために成功した例です。というのは男性が調査に行くと上つ面だけ見て、これくらいならがまんできるだろうと

いつて帰りかけましたが、婦人が裏側へ行つて近所の風評を聞いてきて、洗濯場も風向きによつては全然使えなくなるというようなことがわかりまして、最後の話合いの場で工場側に「もしくるのならこういう公害を防ぐ設備をしてくれ」と言つたら、そうするからこらえてくれということになつたのです。それから、水道の水を工場に引いてしまうと、現在でさえ末端に行くとチョロチョロしか出ないのに私どもの水はどうなるだろうか、というような工場ができることによつて生じる問題を全部書類にしてもつてゆきました。すると工場のほうも、様子をみてみようということで、第一歩が皆の共同問題で成功しましたので、それからは、昔の農家の方と新しく移つてきたほうとが仲よくなりました。この間も納税組合を作つて、それから返る見返りを町をよくするために使おうということで納税組合を作りました。何かにつけてお互いが話合う機会を作つてゆくことが、社会的連帯意識を養う手つ取早い道だと思います。

岩井（リーダー）　今までのところをまとめると、隣組、農協、いろいろな団体があつて、むしろそれにおつき合いするのが大へんだという話、それから、転勤した土地でどんなグループがあるか知りたいという問題、熊本の方からは、むしろ土着の人より新入りの人のほうが強いという逆の結果について、それから公害から守つてゆくために農家の方も含めて一しよにやつたというお話が出ました。

坂本　前からいる人と新しい人となんとかして親密にしようというのでスポーツの親善試合をすることを考えました。女の人もバレーボールをひまひまに練習しておいて、下手くそがご愛敬というようなチームを、地域を六つにわけてつくりました。優勝カップをかけて、毎年やつております。近くにある放送局の運動場を借りて一日がかりで試合をしましたら、お互いに知り合うことが出来て大へんなごやかな空気になりました。今年で三回目を五月にやります。

岩井（リーダー）　リーダーがいいということもあるのでしようね。それはそれとして、一番目の団体がいろいろあつて、おつき合いが多くて困るという問題など、農村地区の方はどうでしようか。心の中では負担を感じているけれども言つてしまうとあとのつき合いがまずくなるということがあるのじやないでしようか。

植田　私も若い時は生意気に、もう少し合理的にならないかと思つたのですが、だんだん年をとつてきて、年寄というものも人間関係の潤滑油じやないかと割切つて、適当におつき合いの格によつて身分相応に、見栄をはらないようにしています。そうすれば、そんなにむずかしいことではないです。

岩井（リーダー）　適当　がむずかしいところですね。

小野寺　その部落に部落会というような組織はないのですか。

羽仁　私のほうには自治会があります。

小野寺　そこでとり上げてお話合い出来ないものでしようか。

羽仁　理屈ではわかつていますが、年寄の方はやはり昔のやり方で冠婚葬祭をしたい。たとえばお隣でどなたか亡くなつたら家族ぐるみでお手伝いにきてしてくれますが、新しくきた方はたゞお葬式に参列するだけです。昔からの家でも、若い者は新しいゆき方がよいと思いますが年寄が一しよだと新しいゆき方では満足しないのです。

岩井（リーダー） 若い方は昔通りにやりたくとも、経済が許さないということもあるかもしれませんね。考え方ももちろん違うでしょうが。

羽仁 お宮を新築したりというような時は、土着の人には、うちが古いから何万円というように決めてくるわけです。

岩井（リーダー） 角がたたないで、しかもうまくいくような方法はありませんか。

坂本 農村地域にあるお宮などは在来住んでいた方でもつというのがどこでも多いようです。私のところではお宮を修理するときは町費の中からも幾分のお金を出しますが、足りない分は氏子というか、在来の方から出して、あとから来た方は、信仰は自由だというので強制はしません。

岩井（リーダー） その場合、ある程度勇気を出して言ったらどうしようもなくなりますか。

羽仁 そこがむずかしいのですね。

岩井（リーダー） 新しいやり方の人がふえてきたら、ある程度かばってくれると思いますが。

羽仁 私たち若いグループではそういうことをとり上げているのですが、男の人やおばあちゃんたちがやっぱり昔なりに見栄をはりたがるのです。無理をすると、内輪がもめますから、そこの所がむずかしくて本当に困っているのです。

小野寺 私のほうの地域では、老人の方々が自分たちがあまり年代がずれないように老人クラブを結成して、よく若い人たちと交流をもったりして学習をしています。

高木 さつきから伺っておりまして、むしろ新しいものと古いものとのむずかしい問題があるほうが連帯感があると思います。私どもの所は桐生で、女の働く所ですから経済力もありますが、土地が古くて、昔からの人が多いので、問題意識が芽生える時がないのです。ある意味では私どものほうがむずかしい問題を持っているのではないかと思います。

阿部 一つの話題について話し合うということは理想的ですが、実際に会合の時出席率が悪くて、いつもくるメンバーは決まってしまうので、出て来ない人たちと共通の話合をすることはむずかしいのです。出席した人たちだけで何かを決めてしまうと、あとで批判が出るのです。ですから、会の運営がむずかしいのです。

岩井（リーダー） 二番目の転勤したような場合に集まりのあることをどうやって知ったらいいかということについて、何かありませんか。

田村 それは公民館とか社会教育課とかに連絡をとれば教えてくれます。

高田 「市政月報」と「県民の友」というのが月に二回ほど各家に配られますから、そこへ公民館とか市の機関を通じて連絡すると、出してくれます。

戸泉 NHKの婦人学級なんか一番はいりやすいし、学習しやすいグループだと思うのです。また、NHKに申込めばすぐその地域のグループを紹介してもらえます。

岩井（リーダー） 今の初めの二つはまたあとで出てくると思います。

それから先ほどの熊本の長本さんのお話と、広島の坂本さんのお話なども、「都市の発展、団地の問題」、などでも出ますので

その時にやることにします。それから「地域社会での集団活動における職業・階層の違い、世代のへだたり」などに関係のある問題も明日にまわしまして、今度は要点の4の「地域社会における子どもの問題」をめぐつて、自分の子どもだけでなく地域の子どもということで、実例などをお話合いしていただきたいと思います。

田村　私どもの地域には婦人学級がありまして、半農の農村で、ご主人が勤めていて、奥さんが百姓をしているが、百姓だけではやつていけないので時々奥さんも日雇いにも出るというような所に見学に行きました。そういう所では、鍵つ子対策はどうするかと言いますと、誰かが家に残つている家庭に皆子どもたちが行つて、お八つくらいは一しよにしてもらつて、勉強させてもらう、ということで村ぐるみでやつています。そういう家庭がほうぼうにあります。大へん理想的でいいと思いました。

阿部　今の問題をもつと掘り下げてほしいと思います。それは自発的にやつているのですか。

田村　家庭学級が出来ていて、その学級の中でやつているわけです。別にむずかしい決めというのはなくて、「あんたおらん時によこしなさいよ」、「きようは頼みますよ」ということでやつているのです。

高田　そういうのは、私の地区ではむずかしいと思うのです。というのは共稼ぎがほとんどだから、自分には子どもがあつて、よその子どもということになると負担が大きくなるのです。そういう形にできれば理想的だと思いますけれども。

長本　私の知り合いの子ですが、その家は経済的に非常に困るというわけではなかつたのですが、母親がカーテンを縫う内職をしていて、縫い上がつた品を持つてゆく留守に、子どもにお八つとかお金を置いてゆくと、近所の悪童がそれを知つて、そそのかしてそのお金を持ち出させたのが始めで、家の物を持ち出すくせがついて、家中の貯金箱の鍵をあけてお金をもち出すようになりました。話を聞いた時に、婦人会で何とか手を打てばよかつたのですけれども、もう少しということで、しばらくそのままにしておきましたら、それが非常に悪くなつて、今ごろは家によりつかないということです。連帯意識で芽のうちに早く措置を講ずればよかつたと、今になつて後悔するのです。そういうことがあつてから、近所にも働く婦人が多いので、道で行きずりますと、うちの子どもは一人でいるけれども、どうすればいいでしよう。」というようなことをいわれますが、個々別々の問題としてもつているけれども、周囲のものに意志表示がないから周囲の者は知らないわけです。それを社会との連関において一しよに考える機会を作つてあげたらいいかと思いますが、皆さんはどうしていらつしやるか伺いたいと思います。

高田　先ほど、託児所の問題で、ついでに自分の家を解放してよその子どもさんを一緒にみてあげたらという話が出ましたが、私のところで六畳と四畳半を板の間にして託児所式にして、せめておかあさんが帰るまで、役員さんがまわりもちでみようという所まで進みましたが、資格がないというので許可がおりなかつたのです。ある程度の貯えがなければいけないということで、せつかくそこまでこぎつけたのにだめになりました。地域のために活動するのですから、なんとかして許可してもらえたらと思います。

高木　どういう場合に資格がいるのですか。

高田　一人の子を預かる場合でも資格がいるのです。ある程度経済的な裏付けが必要だとか、家庭状況・家族構成とか、家の広さとか、保健の知識も必要だとか、そういう話を聞いただけでいやになるくらいむずかしいのです。

阿部　保育ママさんというのが東京で出来つゝあるという話を聞きましたけれども。

高木　桐生でも保育ママさん制度が出来たのです。ある期間講習を受けてやるのです。私もそれに申込みましたが、それが実質的に採用されていないのです。というのは、子どもを預かる費用が月三千円では預かれないし、また子どもを育てた経験のない人ですとやれないというようないろいろむずかしい問題があるのです。私、終戦後十年間、家を解放して子どもたちと遊んできたのです。多い時は二十人くらいで、図書館から本を借りたり、みんなが出来る楽器を借りだりしてやりました。年令は六才から中学生までいました。

高田　夏休みに子どもの話合いで、家を解放して打楽器を習わしたことがあります。夏休みが終ってからも子どもがやりたいというので続けたいと思いましたが、場所がないのが一番の悩みです。

長本　実はそういうものは本当は地域で考えなければならない問題だと思いまして、この間、町内会長さんと役場の方に話しに行きました。何ごとも何かおこつてからでは後手ですから、議員さんをみんなでつき上げるのが有権者の責任じゃないかと思うのですが、まず町内会長を動かして、婦人のグループを作つて、みんなで力を合わせてその問題にとり組もうということになりました。

岩井（リーダー）　今、主として鍵つ子が問題になつておりましたが、もう少し広げて、地域の遊び場の問題とか、その他子どもに関連していろいろあると思いますが。

高田　私どもは一言運動から始めました。あそこの子どもとは遊ばないようにという気持はわかりますけれども、その気持をおさえてとにかく「お早よう」の一言から始めていきました。そういう子には特に自分たちが言葉をかけるようにして、その子と会つた場合には少し遠くても一しよにその子の帰るほうを歩いてゆくというようにしてまいりました。所感文にも書きましたように、実社会に出てその子が表賞してもらうようになつた時に、この一言運動が少しでもよい結果をもたらしたのではないかと思いました。どんな悪い子どもでも、あの子と遊んではいけないというのでなしに、よいほうに引つ張ろうということで運動を続けています。

小野寺　終戦後、非行問題が大きくなりましたので子どもの仲間づくりをやつて、悪い子も仲間に入れておりますので、自然にそういうことは解決しています。

羽仁　中学生になると、近所の友だちと遊ぶ時間がないのです。こういう状態はどういうように解決していつたらいい問題でしようか。

岩井（リーダー）　PTAなどで、子どもの頭をよくする話は出ますが、非行少年をどうしたらいいかという話はなかなか出ないのですね。今の中学のお話でも入試ということが関係している。本来なら中学生だつて遊びたいのでしよう。

高田　ジュニアリーダーというのを作りまして、二十になる前の子を入会させて研修会をさせたりしています。中学二年くらいにな

ると自分の考えで出てきて割合うまくいっています。

岩井（リーダー）　非行少年の場合、保護司とか民生委員とか、地域に補導する組織があることを、案外知らない方が多い。

それから学校の先生が中にはいるとうまくゆく場合がある。非行少年の場合には親には強いから、むしろ、そういうルートを通したほうがいいのではないか。善意だけではなかなかうまくゆかないと思います。

遊び場の問題でも、親は自分の子は可愛いけれども人の子までなかなか手が届かない。

深田　旧軍隊の練兵場あとを、戦後住宅地にして、最初は六十世帯くらいだったのが、十年後には四倍くらいにふえましたので、町会を十班にわけて作っております。婦人部は町会と別な独立会計で組織して、一年交替で役員を選出しております。その選出方法は十班の中から当番で、毎年順番に役員を出すのです。戦後出来た住宅地ですから、早く住んでいる方と顔見知りになるように、一年交替で皆に役員になってもらっています。そこで子ども会を組織して、世話をする方も、とにかく順番にやっていただく。

子ども会は小学生から中学生まで、年間を通じていろいろなレクリエーションとか簡単な学習などをやっています。

植田　私の地方では問題児というのはその本人の少年自身よりも家庭に問題があるのです。隣近所の善意でどのように子どもを庇護してやっても家庭の親なり兄夫婦なりの少年に対する気持がもう少し暖かいものにならない限り、善意だけでは解決出来ないという問題があるのです。かわいそうだからといって引き取って工場で使って、よい子にしようと誠意をつくしても、また深みに落ちていく。そういう親たちは少々の話合いでは救いようがないのでさじを投げたという話をきいて、善意ということの限界を思い知らされているのです。

田村　問題の子には問題の親がふるということは先ず考えられます。私の扱ったケースで、父親が刑務所に行って、兄弟が施設に行っていたが、父親が帰ってきて子どもを引きとった。しばらくはよかったが、二、三か月すると盗癖が出たので、再び父親の所にもどさないということで又施設にもどして市の高等商業に入れました。成績もいいのに、また父親が勝手に学校をやすませて船に乗せて又失敗した。こちらが誠意をもってしても親に問題がある時はむずかしいものです。

高木　よくおかあさん方との話合いに出ますが、住宅の問題があるというのです。二間くらいのところに三夫婦もはいっているという例もききました。また労働時間の短縮ということも影響してくるのではないかという話もありました。

岩井（リーダー）　ちょっと関連があるかと思いますが、不良文化財の問題があります。学校の近所にストリップ場が出来て、その看板を見て通るから、それをのけさせようという問題はありませんか。

高田　和歌山県庁の前に二十才未満が入場出来ない映画館が出来ました。そういう地区のおかあさん方が立上がりましたが、法律的にすれすれの線でやっているのでむずかしかったのです。こういう映画を朝まで見ている男の人が何百人とかあって、一晩のうちに入場料が十倍にもあがるから、普通の映画を上映するよりも利益がある。それをあなたたちはどう考えてくれるかという所まで

きてしまいました。ではその利益を考えて、いい映画を上映してくれれば私たちがPRしていきましようということで話はうまくいつたのですが、しまいにはテレビをみていたほうが楽だからということでだんだん行かなくなり、これもなかなかりくつ通りにはいかないのです。

坂本　新聞社の前にあまりひどい看板が出ていたので、抗議しましたら、看板をとり下げないで上に紙をはつてあるのです。そして婦人会からこういう抗議が出たという記事が出たら、かえつて逆宣伝になつて、みんなが見にいくようになつたのです。

高田　学校の前の電柱にまでポスターみたいなものをはつたのでおかあさん方が、県庁に話をもつていつて、県庁を通さないとはつてはいけないということになりました。

坂本　エロ、グロの雑誌がはん濫しました時、おとうさんが外でそういうものを読んでも、それを家にもち帰らないようにという運動をやつております。ブリキで作つたかんを置いて、その中に捨ててもらうようにしています。

高田　悪書追放の運動が一年に一度、一週間あります。悪書を広場で燃やすのです。それで、わるい週間誌は本屋の店頭では目にとまらないようになりました。

坂本　床屋にそういうものが置いてあることを発見したのです。床屋には子どもも行くから、中学生などはそういうことに興味のある時期ですから、そういうものはおかないようにしてもらうということも効果があると思います。

植田　非行少年について、このごろ体位の向上に精神的な内容が伴わないというような子どもがおりますので、性教育ということについて、母親が性のことを口にするのを不潔のような態度でなく、積極的に性教育を受けて、子どもとさりげなく話し合つて疑問に答えてあげる、正しい知識を与えてあげるということが大切じやないかということで、映画と、専門の先生に来ていただいて勉強しました。子どもと明るい所で話し合えるようなふんいきが子どもの気持をゆがめないのじやないかと思います。

岩井（リーダー）　お話が風俗を矯正するということになりますので、矯風会の方、一言どうぞ。

桑野（特・オブ）　世の中から悪い習慣をとり除こうという運動で一生懸命ですが、性教育は小さい子どもから盛んにやられています。文部省で綺麗な本を出していますし、矯風会でもつくつております。

それから一つは未成年の酒・煙草の問題があります。これは、不良にならない前の教育が大切だと思います。とくに学校の先生が先ず酒の知識をもつて、青少年の教育の一環に加えていただきたいと思います。

長本　私の地区では昨年高等学校の生徒が集団で不良グループを作つていたということがありました。着替えの衣服を持つていて、学校の帰りに途中で着替えるのです。どこでそういう悪いつながりが出来たかというと、ボーリング場とか盛り場にこつそり行くことからそうなつたのです。男子学生の場合、煙草を吸うことが、不良化してくる初めの状態じやないかと思います。家庭の教育と学校の教育とてんでんばらばらのような気がしますので、手をつないだ教育が大事だと思います。

高田　今年の初めに、未成年者に煙草を売らない運動をしました。

そして駅で宣伝のマッチとビラを私たち母親クラブの会員たちがたすきをかけて配りました。煙草小売業者にも、未成年者に煙草を売らないということを掲げてもらつて割合効果があがつているようです。というのは、学校の補導の先生にもはいつていただいて、話し合いの結果、未成年者に煙草を売らない、買いに行かせないということをモットーにして進めているからだと思います。

岩井（リーダー）　主婦連の方も、何か今のことに補足でもございましたら。

中村（特・オブ）　今の問題は矯風会でよくやつていらつしやいますが、私たちも若い主婦の間で勉強しております。子どもたちの体がよくなつて大人になるのが早くて、女の子は年々初潮をみるのが早くなつている。そういう問題を、やつぱり現実をよくふまえて理解しないとわからないのじやないか。また女の子のことは母親も自分が通つてきたことだからわかるが、男の子のことは知らない世界だし、今までは男の性の問題は女には知らされないできた。アメリカなどではマリッジカウンセラーというのを作りまして、結婚生活の正しいあり方を指導しています。男の子の性の導き方は父親にも協力してもらつて、そういう問題の話相手になつてやる。また、そういう指導をしてもらう運動をしたり、母親が進んでそういう問題をよく理解するための勉強をします。

それからもう一つは、体と心が平均して発達するように、今の学校の教育問題なども検討していかないと、ちんばな子が出来てしまう。それからまた、青少年がそういうエネルギーを他で爆発出来るような運動場だとか、いい意味での遊び場がほしい。私はまだ子どもが小学生ですけれども、それでも雨が二日も続くと兄弟げんかが始まるという経験があります。お天気がよくて外でころげまわつてくればさつぱりするというようなことで、エネルギーを発散できるような競技場、運動場、小さい子どもの遊び場を、国が力を入れて考えるような政治をしてくれないと、この問題は解決しないのじやないか。私どもはそういう勉強をして、政治で出来るだけ解決してもらおうという運動をしております。

岩井（リーダー）　健つ子の問題から始まつて不良文化財の問題、そして最後に、子どもの健全育成が大事じやないかというお話になりましたが、そういう意味で、春休み、夏休み、冬休みの子どもの健全育成ということで何かありませんか。

坂本　団地で子ども会を作つておりまして、夏休みに一回ずつ親子揃つて海水浴に行くことにしております。その費用は、みんながいろいろな品物を月賦で買うので、その集金を婦人会でやつて、その手数料をもらつて、という組織がありますので、それをためてまいります。五分の手数料としてふとんなんかを売りますと三十万円くらいがすぐ出てしまうのです。そういう手数料をためて親子で海水浴を楽しもうということをやつております。

高田　和歌山市の母親クラブが後援して子どもたちにキャンプやキックの試合、ソフトボールの試合などをします。それから親子のレクリエーションとしてハイキングをします。夏休みの割合ひまな時間にそういう地域ぐるみの活動をし、その時だけはおかあさんが健つ子を心配しなくともいいように全部の子どもをつれてゆきますから、それで割合に成果があがつています。

高木　始め子どもを遊ばせたことから母親たちの話し合いの場をもてるようになつて、毎月集まつていますが、去年の夏休みに塾の

問題でいろいろ話し合つたのですが、お金がかかつていけないという子もあるので、私の所を解放して一週間に二回づつ宿題をみてあげるということにしたのです。地区の高校生や大学生が奉仕的に出てくれて、そこへおかあさん方も勉強に来て休み中に方程式をマスターしたということなのです。それから不思議に家の中の切り盛りがよくなつたということで、思わぬ副産物が出来たのです。

岩井（リーダー）　逆に子どもから教えられたという面白い例だと思います。

平尾　クラブ活動を盛にするように何かおかあさん方がなさつたらいいと思います。中学校、高校ぐらいは必要だと思います。

高木　中学校・高校を出た人たちが桐生で働いておりますが、慰安旅行の時お酒をもちこむのです。職場にはいつた場合、未成年者のお酒が公然化されています。それが問題だということが話に出ても、体に及ぼす害は社会人でも学生でも同じでしようということだけで終つてしまうのです。

桑野（特・オブ）　そういう場合、飲んだ未成年者より、飲ませた者が罰せられるのです。たとえば会社で持ちこんだのなら社長さんとか責任者が当然罰せられていいのです。子どもの福祉を守るということは大切な法律なのですが、お見逃しが多いので困つているのです。飲ませる大人が悪いのだということを覚えていていただきたいと思います。

高田　修学旅行の時に先生がクラスの子どもにお酒を飲ませたのを見たと子どもが言いますので、投書箱に投書しましたが、その後なんの反応もないのです。

桑野（特・オブ）　PTAの問題として取上げて注意を促がしていただきたいと思います。

岩井（リーダー）　きようの問題は、近所の問題、子どもの問題ですが、これを素材にして明日もやつてゆきたいと思います。

（第一日終了）

第四部会

第二日目

四月十四日

一〇・〇〇～一七・〇〇

岩井（リーダー）　最初に、昨日話し合つたことで補足・訂正がありましたらどなたでも。

坂本　子どもの問題ですが、最近町から離れたところに団地や住宅がふえてきて暗い所が多くなつています。暗い所は子どもの不良化のもとになりますので、暗い所をなくすという運動をして警察にお願いして防犯燈をつけるという運動をしております。とくに学校の暗い所が悪用されますので、そういう所を気をつけるようにしています。

大森　鍵をもたない農村の鍵っ子について茨城の下館市では児童館を建設して、子どもたちのために非常に役立つています。

小野寺　子どもの遊び場ですが、学校にプールがなかつたので、町に呼びかけて皆さんの協力を得て、小学校・中学校の四つの学校にプールを建設しました。プールには管理人を置いて水永の指導もしてもらつております。

岩井（リーダー）　それでは補正はその程度にとどめまして先に進みましよう。

市民活動というのはいろいろな所に発揮されているわけですが、とくに戦後は自分たちの暮らしということを中心にして、主婦がいろいろな地域で、集団で、あるいは個人で、いろいろ関心をもつようになり、消費生活に関しての活動が盛になつてきたのではないか。これは戦前と違つた特徴だと思います。そこで消費生活面における市民活動」について最初にとり上げてみたいと思います。

所感文に石川の深田さんが消費研究会のことをお書きになりましたから、その話を手がかりとして進めてまいりましよう。

深田　最初は物価高で、なんとか生活を安定させようということで、それには先ず商品に対する関心をもたなければならない。それには商品に対する知識を深める必要があるということで、先ず一番生活の必需品であるお米に目をつけたのです。量として月一人十キロという枠をきめていますが、十キロといつても計量器が正確であるかどうか。私どもの手もとには大きな計がないので、グループでお風呂やさんの体重計を利用させてもらつて計つてみたのです。ところが二十一人の中で、十四件が量目が不足していて、正当なものは七件だけでした。多いのは三十キロの中で一キロからの目べりが出たものもありました。それで、お米やさんに反省してもらいたいというので、直接食料事務所や県の農林課にお願いして、県庁・市役所の農林課の方、それから業者の代表と消費者代表で懇談会をもちまして、量目の適正な配給をしてもらうように申し入れをしました。品質は、石川県は生産県ですからわりにいいお米が配給されているのですけれども、それでも内地米だけでなく準内地米をまぜて配給されるので農林課にお願いして品質の調査をしたところ配給米としては適切なものであるという結果が出ました。

そのあと、調味料・お砂糖・醤油について多くのメーカーを調査したかつたのですが、衛生研究所の調査手数料の関係で、限られたメーカーの物の調査しかできなかつたのですが、特売品の安いものと、定価販売のものと品質差があるかどうかを調べてもらつたところ、品質に差がなくて、業者が大量に仕入れて値段を調節するから安くなるので徳用品であるということがわかつたのです。

牛乳についても、検査の結果、大腸菌がいて味がよくても安心して飲めないということで、保健所にききましたら、毎月定期的に、販売されているものを抜取り検査をしているからそういうことは絶対ないというのですが、現に私どもが衛生研究所で調べてもらつた結果では大腸菌や細菌が規格以上あつたものですから、これらは保健所そのものが信用出来ないという形で六回まで検査したのです。それで、菌のいたメーカーは市の衛研課に行つて技術指導を受けて涙ぐましい努力をした結果、大腸菌も細菌数も規格以下になり、零に近いところまでこぎつけました。相当費用もいつて辛いこともありましたが、無駄でなかつたと思つて喜んでおります。安いものを買いたいというだけでなくて、私どもがそういうことをしたことによつていろいろな知識を得られたし、また、メーカーにも刺激を与えてよいものを作つてもらうように育成するという意味で、そういう活動を続けてゆきたいと思つております。

岩井（リーダー）　実例をあげながら話して下さつてありがとうございました。安いものを買うということはもちろん大事なことですが、同時に生産者に対しても刺激を与えてゆくということ、そういう実例、あるいは今のお話に対するご意見、質問等ありましたら。

高田　和歌山で買物をしましようという運動がおこりまして、商店主と私ども主婦が会合に出席したのです。その時、特価品の品物について業者から説明してもらつたり、デパートと個人の店と、買物をするのにどちらがいいかということから、デパートと個人商店の値段のきめ方などについて聞かしてもらつたりして、大い

に買物の参考になりました。

長本　私どもは安く物を買うということで広島におりました時、共同組合的なものを作つたのです。私ども社宅に住んでおりましたが、定年になると出なければなりません。ところが物価が上がるのに追われて貯蓄までゆかないのです。それでどうかして収入の中から少しでも残る方法はないだろうかということを皆で話し合つた結果、消費組合のようなものを作ろうということで、会社に呼びかけて、厚生課にも何度も足を運びました。そのうち商人が聞きつけて、私ども十人ほどがつるし上げに合いました。そして、皆さんが望んでいる値段で売るから、それに協力してもらいたいといわれたり、肉やからは　婦人会の役員は夜歩くと危いぞ　などと脅迫めいた話も伝わつたのですが、その熱意を会社のほうでもくみとつてくれまして、建物・水道・電灯料などは会社がもつ、その代り買いに来なければ作つても意味がないからということで、二千軒の社宅のものが協力するということで消費組合が出来ました。出来てみると管理上の利点や、問屋から直接仕入れるということで値段が安いのです。それが周囲の店の刺激になつて、みんな安く売るようになりますので附近の人みんなで恩恵を受けました。こういうことは最初はめんどうなこともありますが、みんなが助かつたし、安く買えた分をいくらかずつでも貯金しようということで、六、七年になりますが、今も繁盛しているということで、よかつたと思つております。

岩井（リーダー）　石川県の場合は婦人会を基礎にしてやつたのですか。

深田　婦人会の中の消費生活研究部が中心になつていたしました。

坂本　熊本では市に婦人学級がありますが、消費者学級と銘うつて文部省の指定学級になつております。そこではいろいろ消費についての勉強をしますが、新製品が出まわるとまずそれがどういうものかを知る勉強から始めて、業者や商工会議所の方との話し合い、工場や牛乳の処理場などの見学、また、消費社会学などの勉強もいたします。中で、食物に混入されている着色・脱色・防腐剤などの検査をしようということで、主婦連でやつていらつしゃる食品検査室のようなものを設けました。専門家ではないし、主婦連のような立派なものではありませんが、牛乳の検査とか、持ちこまれた品物の色素の検査などをします。自分たちでどうにも出来ないものは保健所や、大学の薬学部の教授にお願いして検査していただきます。そうしてやつているうちにお味噌の中に脱色剤や防腐剤が混入されていることなどもわかりました。こういうものについてそれを長い間とつていると肝臓の病気になるということも考えられるということでしたので、脱色剤などは味噌の中に入れないでほしいと業者に申しましたら、他府県のものもはいつてきていて、色の白い味噌のほうがよく売れるから、自分の所の製品だけ脱色剤を入れないわけにはいかないという話です。実際に工場に見に行きますと、脱色剤を入れると気持が悪くなるほど味噌が白くなつてしまうのです。私たちはそういう薬品を混ぜた味噌を知らないで色が白くて綺麗だからいい味噌だろうと思つて買つていると、知らず知らずのうちに毒されるということがありますから、一地方だけでなく、国で皆一せいにそういうことをやらないようにという運動をしていたゞけたらと思います。私どもも、新潟でやつておられるような、自然食運動を自覚して進め

てゆきたいと思います。

深田　私どもも去年の十二月にお正月用品二十二品目をより出して色素の検査をやりました。その中で黄粉だけが公定外の色素が使つてあつて違反でしたが、あとは全部公定の色素で害はないということでした。その時も衛研の方が言われましたが、見た目にけばけばしいものはさけたほうがいいということでした。

岩井（リーダー）　それでは今の問題について主婦連の方にお聞きしましょう。

中村（特・オブ）　主婦連では無着色運動は以前からやっておりましたが、たくあんにオーラミンという色素が使つていたので、この問題について、業者と長い間話し合いをした結果、オーラミンは今は使わなくなりました。今使つている黄色は許可色素です。私ども二、三日前にこのことで、厚生大臣の所に伺つたのですが、私どもがいくら有害だからいけないといつても、それが公然と許可されているのでは、その許容範囲で使つている限り取締まりようがないわけです。厚生省で発表している資料によりますと、一日に私どもは七十種類もの添加物を食べているということです。おみおつけの中、醤油の中。またお米の中にも農薬などもありますが、一つ一つは許可されていて直接すぐに病気にはならないけれども、七十種類ものものを毎日食べていて、それが少しずつ体の中に残つた場合に果たして体にそれが影響してないと言いきれるかどうか。農薬なども水俣病などで、亡くなる方が出たりして初めて水銀がお米の中に残つていて害があるということが言われるようになつた。何か日本の政治は犠牲者が出ないと根本的な対策をしてもらえない。家族の中で誰かが病気になつてからでは手遅れだと思うのです。ですから、あやしいと思われるものは早くやめてほしいということを今盛に言つているわけです。厚生大臣もなるべくそういうのは今年中にもへらす方向にあると言つておられましたが、去年、赤色色素が二つ禁止になつたことを考えますと、よくないから禁止になつたので、そういうものをなぜもつと早く禁止できなかつたかと思うのです。ズルチンなども日本とドイツだけしか許可されていないのです。ドイツでは量の規制があるのに日本では野放しです。これも今年は禁止にふみ切るようにするとのことでした。

新潟でやつている自然食運動では、無着色のものを買うといつても、業者がある程度量がまとまらないと作つてくれないので、グループを作つて、何十人で月にこれだけのものを食べるからそういうものを作つて下さいといつて、県外の業者にもお願いして共同購入をしています。そういうところまでいかないとなかなか無着色のものを食べることが出来ないということをご報告します。

坂本　今のお話のように、許可された食品でも、知らないうちに体に蓄積されるというところに恐しさがあると思います。最近はやつているはぶ茶にも着色してあるということで、薬になるべきはずのものが体を痛めるというのでは困りますから、私どもはもう少し食品に対する認識を深めて、恐しさを知つてそういう運動をおし進めなければいけないと思います。

熊本市ではかまぼこやさんに毒々しい色を使わないように協力を呼びかけて、今のところでは成功しております。

岩井（リーダー）　桜井さん、農家のほうでは消費生活はどうですか。

植田　農薬の水銀剤の問題ですが、水銀剤が農家の生産に画期的な役割を果たしてきましたが、今はその弊害がいわれています。といつてその農薬を使わないと稲が病気におかされて減収になる。しかし、まだそれに代る新薬が出来ていない。すると農民は生産を上げるためには農薬を使わざるを得ないのです。毒だというデーターが出ているのにまだ禁止されていませんので、今年もまだ水銀剤の注文を受付けているようです。こういうことは誰が犠牲者になつて、どこでストップしたらいいのか、一農家の主婦がどうこういつたところで、どうにもならない。一体これはどこで解決してもらう問題でしようか。農民の悩みと消費者の被害とどちらが優先されるべきでしようか。

岩井（リーダー）　主婦連の方に今の問題を伺つてみましよう。

中村（特・オブ）　農薬の問題も、この間厚生省でお話が出たのですが、結局、農業に限らず、産業の利便と私たちの安全ということが並行して行なわれていない。産業開発の車だけがまわつていて、国民の安全とか人間尊重ということがあまりにも後まわしになるようなびつこな発展の仕方をしているところに問題があると思います。

建築にしても、建築法で二十階建、三十階建のビルが許可されたけれども消防自動車の予算のほうは三年後の今年の予算でやつとついたわけです。この間川崎で火事があつて消防自動車が行つてもはしごが届かなくてたくさんの方が死んだ。結局便利なことだけは進んでしまつて人間の安全のほうはいつでも後まわしです。こういう矛盾は至るところにあります。農薬の問題も、厚生省で安全で、かつ、お米がたくさんとれるように研究していただきたいと思います。

平尾　私の住んでいるところは住宅地で、親が家を建ててくれて、そこに若い人が住んでいるのですが、若い人たちは生活が苦しくても見栄があるので、消費者共同組合とか婦人会の活動が出来ない。なんとか食べられるし家があるのでそういう活動が育たないふんいきにあるのです。おまけに野菜は毎日売りに来るし、大きなスーパーマーケットが二つもあるので、いつもいいものを食べてお金がないという生活をしているのです。

岩井（リーダー）　今までのところを整理をしながら考えたいと思いますが、最後の所では、物がたくさんあつてお金がないという消費生活自体の本質にかかわるような消費欲求の肥大があるが、それに堅実な経済がついていけない。つまり現在の日本には消費の氾濫という現象がある。

そこで、暮らしの自覚のための勉強が必要である。いろいろな面で新製品や特価品を勉強することも必要だし、さらに商品検査をする。検査機関として、主婦連には大きなものがあるが、各県でもおく必要がある。

さて、そういうことをする場合、個人では出来ないので、横のつながりをもつことが問題になつてくると思います。広島の場合社宅で勉強されたし、地域々々の実情で違うと思いますが、これはまだ十分論議されていないと思います。

また、相手に働きかける場合、対業者関係が一番むずかしい。業者におどされながらやつたけれども成功したという話もありましたが、実行の仕方について具体的にもう少しくわしくお聞きしたいわけです。たとえば横のまとまりをどういうようにもつてい

つたか。また業者とどういう戦いをして勝つたとか。

それから地域でのPRはどういうようにしたらいいか。こういうことが問題になつて出てきているのではないか。

さらに根本的にいいますと、主婦連の中村さんが言われたように、農家の生活をかけた産業発展と、市民の安全に矛盾が出てきている。非常に大きな問題です。これは消費生活の面だけでなく、建築の面、交通の面など都会では一ぱい矛盾があります。常に安全問題が産業技術の発展に即応しないために、市民はおびやかされながら生活している。これは基本問題だと思います。

そういう問題に関連して横のつながりとか、相手方との戦いとかいうことで具体的に進めていきましよう。

小野寺　物価が高い高いというだけでは解決しないので、婦人会・公民館との共催で消費者の集いをもちました。そして、上手な買物をするにはどうしたらいいかということを話合つていろいろ問題が出されたので、それを解決するために業者と、商工会の支部長、農協の組合長、鉱山の供給所の代表などの方々に集まつていただいて話合いをしました。それで私たちの町にも物価対策協議会が必要だということで今準備に取組んでおります。それから町当局に消費者の組合を先ず作つてもらいたいと申し入れております。秋田市にはそれが出来ていて、主婦の方々のエプロン会議を作つて品質調査・物価調査などをやつております。隣近所の町村の物価を調べて町内の物価と比べて調べておりますが、そのことによつていくらか物価は下がつております。まだ始めたばかりで、大きな効果は上がつておりませんが。

長本　先ほどのお話しました消費組合の場合もいろいろ隘路もありましたが、そこに住んでいる者の階層がいろいろ混つていることがむずかしい点でした。いわゆる現場の工員階層と職員、課長、部長までが混然と住んでいまして、階層の上の者は数も少ないし、それほど必要性を感じないが、中くらいの層が一番多くて、一番苦しいわけです。それをうまく調整するということが最初の問題だつたわけです。これは話し合いによつて上の人たちも応援してくれることになつたし、婦人会に入つている商店の奥さんたちも主旨には賛成だというところまでゆきました。ところが今度は業者が組合をバックにしておどしてきたので、女のことですからおそれをなして、やめてしまおうという人も出ましたが、結局は自分の生活は自分たちで守ろうということで、私は業者の会に出ましして、私の家の家計をざつくばらんに話して、一人あたり日にこれくらいの副食、主食費しかとれないということを細かく説明して、私たちの苦しさを訴えましたので、商人の方もこちらの生活の苦しさがわかつたのか、さわがなくなりました。倒産する商店が出るのではないかという心配もありましたが、一軒倒れただけで、いまだに仲良く共存共栄しているそうで、勇気をもつてやつた婦人会の勝だと思つております。

桜井　まだ実際に自分で財布をもつていないからあまり生活のことはわからないのですけれども、農家の立場から伺いたいのですが、商人の方にも生活権というものがあると思うのです。農家の私の姉が、お節句ごろわけぎを二十把作つて売りにいつたら五十円でしか買つてくれなかつたのです。店やとの取引きだつたらそういうことはないのです。だから生産者と消費者だけじやなくて、中間の利潤ということも、国や地方自治体などでもつと考えていた

だきたいと思うのですが。

事務局　今までのお話に関連して、経済企画庁の中に国民生活局というのがありますので、ご紹介したいと思います。企画庁では、生活環境整備、消費者保護についての仕事を三十六年から初めて去年局が出来まして、仕事を充実させる体制をとっています。やがて府県単位に消費者保護に関する課を作るということですので、情報として簡単に申し上げておきます。

田村　私は物価高には、家計とにらみ合わせてつましく暮らしてゆくことが必要だと思います。

それから今までのお話で、主人に相談したということを一度も伺いませんでしたが、私は何をするのでも主人に先ず言うのですが、皆さんはどういうように処していらつしやいますか。

岩井（リーダー）　今、ご主人との相談ということが出ましたが、おそらく皆さん相談なさつたと思います。田村さんの言われた意味は、ご主人にも協力してもらえば、もつと強くなるのじやないかという気持だと思います。

それからもう一つ、生活意識という問題ですが、これは先ほど農家の桜井さんがまだ財布を持つていないとおつしやいましたが、生活様式はどういうようになつているのですか。

植田　私は奈良県ですが、結婚して十五年間、姑がいる間は財布は持つたことがありませんでした。その間まわりの人を眺めてずい分わびしい思いをしましたけれども、その間に第三者として管理面とか経済の知識を吸収しておいて、自分が当事者になつた時に、失敗しないでやれるように、基本的なものを身につけるようにしました。それに、財布を持つていないと、お金に対して血まなこにならないで静かな立場で批判が出来ますので、自分が実際にやるようになつたとき、失敗せずに家計が計画通りにできました。今の若い農家のお嫁さんも、やたらに財布をほしがらずに、この嫁なら渡しても大丈夫と思われるくらいの実績を積んだ上で経済をまかされたほうが円満にいきますし、自分も危なげのない経済生活をやつていけると思います。

長本　主人との相談ということですが、主人と私はふだんは二人三脚で、私の足りない所は主人がよく知つていて補つてくれます。何か団体行動をする時に、主人の理解なしに奥さんが先走つていくことはいけないので、私どもの所では先ず趣意書を配つて家庭で話し合つた上で署名をとりました。そして、ご主人も代筆でなしに自分で署名することにしていますので、ご主人のバックアップが強かつたわけです。

岩井（リーダー）　今までのお話の中で、一番大きな問題は産業発展と安全の矛盾という問題ですが、これは他の問題とからんできます。子どもの問題にも地域社会の問題にも公害の問題にもはいつてくるわけですが、これは基本的にどう考えたらいいか。こまかい点はいいですから、物の考え方について、伺いたいのです。

高田　物価が高い高いと一人一人が言うのではなくて、皆が相談して、安い物で買うようにするとか、月給で足らないから主婦が働きに出たり内職するというだけでなく、食品を買う時も、栄養から考えて、高い肉の代りに、安くて栄養のある肉でまにあわせるというように、主婦たちがそういう面での話合いをして、もつと頭を働かせるということだと思います。

阿部　内職がはやつておりますが、工賃が非常に安いのは業者がも

うけているのではないかと思います。内職しているのは消費者だから、業者がもうけて消費者が困つているということになります。

坂本　熊本の婦人会は会員に会員章というものを発行して、この会員章を持つているとなんらかの特典があるのです。たとえば、この会員章を示せば、パーマをかけるのに二割引になります。娘さんや息子さんが結婚する場合、衣裳を借りる場合も二割引です。会員章を持つているということによつて会員であるという自覚を高めると同時に消費生活にも役立つわけです。

羽仁　昨日熊本の方が婦人会で品物を売つてそのマージンでいろいろな事業をなさつているということですが、私たちもそういうことしたことがありますが、そうすると、どうしても買わなくてもいい物まで義理買いしてしまうことになつて、自主的な消費生活が出来なくなるのです。婦人会のそうしたあり方がいいか悪いか、どうも疑問なのです。

坂本　義理で買うことはやめて、やはり自分が必要なものだけを便利に利用するようになつたらいいと思います。

深田　私どもの婦人会の会費は年間百円で、会員は二千人ですが、会費だけでは　年間の行事がまかなえませんので、やはりそういうことをやつて手数料でまかなつてゆくという形をとつてきましたが、会費を上げても、これはやめたほうがよいということで、最近はなるべくさけております。

岩井（リーダー）　私が伺いたかつたことは、生産者側と消費者側との矛盾も出てくる。しかし、主婦連のご説明もあつたように、農薬にしても、撒く時期とか、今後工夫されてゆく可能性もある。いくら多量に生産されても、有毒ではお米として通用しないわけですが、実際問題として、そういうことは世間にたくさんある。しかし、どつちをとるかというと、安全ということに相当ウエイトを置いていくべきではないかと思うのです。

話の内容が暮らしの問題からだんだん、共同の福祉という問題に移つてきましたから、六番目の「共同の福祉と婦人の集団活動」に進みましよう。

「共同の福祉」についての問題は所感文の中に多かつたのですが、プールをつくつたお話、それから心身障害児の問題、盲人への点字奉仕の問題、それから平尾さんの場合は北九州市を住みよい町にするという問題でしたね。それでは、特殊な問題ですけれども、心身障害児の話からはいりましようか。

桜井　私の住んでいる町で実際におきたことです。おとうさんが病気になり、奥さんはいない。それで年とつたお婆さんが重症心身障害児をかかえていた。おとうさんは思いあまつて、自分の子ども殺したのです。その時に私は、もつとみんなで考えてあげられないものか、婦人たちがもつとこういう問題に目を向けるべきではないかということを考えてきたら、この募集を聞いたので書いたのです。静岡県の藤枝市の出来ごとですが、ここではこれを機会に心身障害児を守る会が出来たのです。今まで重症心身障害児には年金もなかつたのが、今年初めて出るようになつたのですが、それも所得二十万以上の家庭には出ないのです。

この会が出来てから、家でみられない方は市の総合病院の病室をあけていただくことになつたのです。東京だけでなく、各県に

施設を造つていただいて、家の者がいつでも面会できる、そして、私たちがお手伝い出来るような施設を協力して造るようにとお願いしたいのです。

岩井（リーダー）　戸泉さんのほうはすでに組織をもつていらつしやいますが、どういう機会からできたのか聞かせて下さい。

戸泉　それは、私がそういう子どもをなくしたことがきつかけです。重症心身障害児という言葉は児童福祉法の中には使われていません。身体障害者福祉法と精神薄弱者福祉法という二つの法にもとづいて障害児の対策が行なわれているのですが、重症心身障害児というのは身体障害者と精神薄弱者の両方にかかつているので、こういう児童を扱つてもらう施設がないのです。重症心身障害つまり、社会や政治からおき忘れられていた存在だつたのです。児童福祉法には、すべての児童は体が不自由な場合、精神が不自由な場合には保護が与えられるとうたつてあるけれども、実際には重症心身障害児には社会復帰が不可能ということで今までなんにも行なわれないのです。まだまだ世間一般には理解されていないと思いますので、この部会の皆さんが、ご自分の県でこういう問題がとり上げられる時には積極的に効果ある援助をしてほしいということをお願いするわけです。

岩井（リーダー）　共同の福祉というとむずかしい感じがするかと思いまして、わかり易くするためにまず身近な障害者の話から始めていただいたのですが、それ以前にわれわれが地域で生活している中でいろいろ問題があります。たとえば、子どもを、害になるようなものから守ろうとか、あるいは保健衛生のために薬を散布するとか・・・・。心身障害児の問題は最近クローズアップされてきましたが、私が昔、特殊教育というものに関係して、ハンデイキャップのある子どもたちと接していたころは実にじみな仕事でした。最近急に派手になつたのはマスコミがとり上げたからだと思いますが、実はそういう子どもたちが数がわからないほど沢山いるのです。しかし今までは自分の子だけで一ぱいで他人のことは構つていられなかつた、それからもう一つは今までは家庭の枠でやつてきたが、もう家庭の枠だけの問題ではなくなつているということもあるのではないか。さてそれで施設ということになつてくると、今度は皆さんの問題が出てくるわけです。そういうことを含めて「共同の福祉」と言つているわけです。そういうことで、いろいろ問題をお出し下さい。

植田　施設の慰問をしたりして、実際にそういう運動に参加して、婦人会とか社会の善意だけでは解決出来ない、政治につながつた力がないとそういう人たちは救われないということを痛感しました。

羽仁　私どもグループで県下の原爆の方に福祉の手をさしのべようという趣旨で、原爆を受けた方にその時のお話を聞いたことがあります。けれども、原爆に会つた方は、娘さんの結婚にさしさわるから、原爆に会つたということは伏せて下さい、といわれたことがありました。

戸泉　今、伏せてという言葉が出ましたが、自分が心身障害児実態調査をした時に、そういう子どもがいるということを世間に知られたくないという方がありましたが、そういう気持の方はほんの二、三％で、むしろ、そういう子があることを知つてもらつて対策を講じてもらいたいという人のほうが多かつたと思います。私

はそういう考え方のほうが新しいゆき方ではないかと思います。

長本　地元では原爆ということは通常で、私の主人もそうですし、一ぱいおりますので、かくそうとは思っていないのですが、むしろ他府県での評判が原爆を問題にするのだということです。というのは、原爆を受けた者は子どもが出来ないとか、白血病が出てくるのではないかとか言われますが、原爆被災者同志結婚しても子どもが出来ております。ただしこの原爆で近ごろ思いますことは、原爆にかかつて気の毒だというのでただ慰問して下さつたり、八月六日を中心にお祭騒ぎが行なわれることは、むしろ迷惑で、それよりもつと根本的に生きてゆけるような解決法をつけていただきたいと思います。原爆スラムといつて、悲惨な生活をしている方たちがありますから、そういう方のことをこういう機会にお願いしたいと思います。

羽仁　「伏せて下さい」ということを守るべきか、それとも今のお話のように積極的なゆき方のほうがいいのか。

桜井　藤枝市の重症心身障害児を守る会の会長さんが言われたことなのですが、重症身心障害児をかかえている親ごさんは本当にそつとしておきたいという気持なのですが、それは日本人の特徴で、一時の感情であるから、その次にある暖かい本当の心を知らせてあげてほしいというのです。そういうことで私も考えたのは、いつか自分の子が交通事故を受けることだつてあるのだから、みんなの問題として考えてゆく時に、そこに政治が前に出てゆくと思うのです。しかし、個人的に伏せてほしいという時には、その人の意志もくみとる必要があるのではないでしようか。

大森　私はらい病で隔離されている方々を毎年訪問しているのですが、手当が早かつた方は今ではみんななおつていますが、その方たちが一番望んでいることは社会復帰なのです。男の若い方は東京とか大阪とか繁華街に、自分で覚えた技術をもつて社会復帰している方もありますが、女の方は世間の白い眼がいやで隔離された施設に残つている方もあります。私どもは機会あるごとに皆さんにそういう病気は遺伝ではない、手当が早ければなおるものだということを説明して、同じ人間として、そういう忘れられた方々の幸せのことも考えてあげたいと思つております。

岩井（リーダー）　今、同じ人間としての幸せということが出ましたが、これはやはり一つの基本になるのじやないか。それでないとなぜやるのかという疑問も出てくるわけです。極端に言えば自分だけよければいいということも言えるわけです。しかし、「人間としての幸せ」ということを出発点としても、いざやつてみるといろいろ問題も出てきます。また、福祉活動を広めてゆく上で一部の人のお涙ちようだいではいけないということです。そういう活動の一つとして、献血の場合はどうですか。

高木　交通事故がふえているので、三十九年に町ぐるみで血液型を登録しました。日赤のセンターに問い合わせたら、献血しなければ登録できないということで、助け合いということから百二、三十人が献血しました。それから、献血の場合だけでなく、ＰＴＡの成人教室とか婦人会の会合などに出てくる人はいつも同じなのです。それで、いつも出席する人たちが核になつて、地域ぐるみで小さな所から一人でもれるところのないように参加してもらうということを念じてやつていますので、何をやつても割合に徹底します。

高田　献血のことでお話が出ましたが、うちの子どもの学校の先生が交通事故で血がほしいが足らないということが学校から報道されまして、地区のおかあさん方に相談をもちかけましたところが、「私は自分でさえも血が足らないのに人に上げる血はもたない」というのが一人や二人ではないのです。だから群馬でうまくいっているということですが、それはどういうようにやっているのでしょうか。私は血液の登録をしておりますが。

高木　技術というほどではありませんが、終戦から二十年、いつでも自分は世間の人みんなが幸せにならなければ幸せにならないのだということを地域の活動の主眼として積み重ねてきたので、共同で肌に感ずるという問題をとり上げたことは大ていうまくいっております。献血運動に付随しまして、献血するとはり切ってきた人が、比重の問題で献血を許されなかったことから、健康管理ということを知らされて、やっぱりおかあさんが無理をしすぎているということがわかったという収獲も出ております。

坂本　以前は集団検診という問題ととりくんでおかあさん方の病気を早期発見して、すぐ入院したので案外早く退院出来たという話もありました。集団血献もやっておりますが、その血液を調べてみますと、案外奥さん方の半分以上の方が血液が薄いということで驚いております。それは栄養が足りないからか、あるいは美容上から節食をするためかと思いますが、母親はとくに健康でなければなりませんから極端に節食は避けなければいけないと思います。

それからもう一つ、熊本市では、し尿処理場が足りないで、素堀の所へ捨てる所があります。私どもは猛反対をしましたけれども、捨てる所がないからということなのです。捨てる量が多いのであふれてしまって、それが自然に市役所の前の川に流れこむようになってしまっているのです。ところが大雨が降りますと川の水があふれて毎年水害が出ますが、熊本市にあふれた水はそれがまじったものですから汚なくて衛生的にも問題だというので市役所に何度も陳情したことがあります。それでもう一つの浄化装置を作ってもらったのですが、また人口がふえて、それでも間に合わなくなりそうです。し尿の処理ということは大都市の大きな悩みの一つだと思います。

桜井　私自身も献血の登録をしましたが、この前国会で献血の血がベトナムに送られているとかそういう話を聞きましたので、そういうことでは喜んで献血出来なくなります。そういう不安をなくすように事実を知ることも大切じゃないかと思います。

高木　やはり地区からそういう声が出ましたので、日赤センターの事務の方に説明していただいたのですが、実際血液が足りないからそういうことはありえないのだと言っておりました。

岩井（リーダー）　それでは午前の会議はこれでうち切りたいと思います。

（休　憩）

岩井（リーダー）　いよいよ最後のコースに入ります。思う存分お話合いを願いたいと思います。

先ほどは共同の福祉ということでいろいろの問題が出ました。重症心身障害者の問題を皮切りに、献血や原爆の問題が出て、同じ人間としての幸せというものをみんながもてるようにしてゆき

たい。そういうことが原動力である。そのために福祉活動を外に向かつて広げなければならないのではないかという、やり方まで出たと思います。引き続いておう少しその面で足りなかつた点などを補足してから、次の問題に移つてゆきたいと思います。大体四時までにあらかじめ予定の議題十一番までを一通り終えて、そのあとご質問を受け、あとの一時間の中で総括をしてみたいと思います。

地域なり社会の共同の福祉という問題はまだ他にも、たとえば民生保護の問題とか、あるいは不遇な老人の問題とか、いろいろあると思いますが、何かありましたらどうぞ。

田村　保護家庭ですが、保護費をもらうにはちよつと収入があるという中間にある人の苦労のほうが大へん大きいように思います。こういうものはどういうように措置したらよいでしようか。

戸泉　私は重症心身障害児のことをやつていますが、その子どもを、病院や施設に入れる時に医療費が問題になるのです。保護家庭であれば国で援助してもらえますが、そうでないと半額自己負担になります。そうすると三万円から四万円かかりますから、四万五千以下くらいの給料では子どもの医療費に三万、四万はとうていいだせません。保護家庭にはいらない家庭の場合は案外むずかしくて矛盾を感じます。

岩井（リーダー）　おそらく現在の制度の中ではそういうことがたくさんあると思います。少しでも収入があると工合が悪いということが。年寄の場合でも、養老院といつても、無料の養老院とか、お金をたつぷり持つて入る養老院とか、上と下で極端に違つています。無料のほうは全然持つていないのでなければだめですし、そこに日本の社会福祉の大きな盲点というものがあると思います。

本尾　制度は大へんよくても運用の面で問題があると思います。ですから、どしどし注文を出さなければいけないなと感じます。

岩井（リーダー）　それに関連して、共同の福祉を進める場合に、民間の民生委員というような福祉担当の人との問題が一つと、もう一つは自治体つまりお役所との問題とあるように感じますが、その点いかがでしよう。

長本　私は民生委員はしたことはございませんが、私の友だちの場合を考えますと、ご主人がなくなつて奥さん一人ではやつていかれないというので保護の対象にしてあげたほうが子どもさんたちのために幸せだと思つたのですけれども、当人は、一種の恵みのように思つて、どうかしてやりますからといつて断わるのです。それから民生委員が生活保護を与えることにしますと、今度はお金が足りない時にしよつちゆう借りにくるというのです。民生委員にしても一軒、二軒のことではないので大へんやりにくいという問題もありました。

戸泉　民生委員とお役所のことで感じたことを所感文に書きましたが、私が心身障害児のいる貧困家庭にお手伝いに行つていた時のことですが、その地区にも当然民生委員もいるので、そういう家庭があるということは耳にもはいつているし、当然市の福祉事務所にも行つているのですが、生活保護でせい一ぱいの一万八千円あげていたのです。それが、私がお手伝いにいつたということがたまたま朝日の「おんもに出たい」という記事に出たために、それを知つた市の福祉事務所と県の児童相談所で、なんとかしなければならないということで積極的に動き出して、その二人の子ど

もは入院することが出来たのです。新聞に出たということで、そういう処置がとられたということは何か矛盾だと思うのです。お役所という所はつてがなければやつてくれないのか、新聞にとりあげられたから病院にはいれたのか。前からわかつているのに、なぜ、最初から出来なかつたものかと、矛盾を感じたのですが。

桜井　静岡県の藤枝市の場合、そういう事件があつたことに対して住民が関心をもつて、そういう子どもを守る会をつくつて、県の議長会に重症心身障害児対策についてという要望書を出しましたら、考えてくださるようになつたから、そういうふうに、みんながまとまつてつき上げてゆくのも大事じやないかと思うのです。

坂本　婦人学級で話し合いの時に、私たちの老後ということを話合いますが、その時に団地に住んでいる人と、家屋敷も財産も相当ある昔からの地つきとでは、老後の心配に対する考え方がずいぶん違うのです。アパート生活をしているような人たちは自分の子どもの教育とか現在の生活に精一ぱいで、老後の貯蓄までは手が届かない状態にあるのに子どもは大きくなつて独立してしまう、貯蓄はあまりないし、年とつたら老後はどうしようということが心からの心配なのです。養老院などの施設に行くのは味気ないし、いい所に入るにはお金を一ぺんに何十万も入れなければならないということで、老後の心配は深刻です。そういうことに対して皆さんはどうお考えですか。子どもにみてくれというのは言いたくないという気持はだれにもあると思います。

岩井（リーダー）　これは家族にも関わり合いがありますが、同時に地域の共同の問題でもありますから、若い方と年輩の方と両方から話していただいて、考えているか伺いましよう。

植田　私どもの地域は皆さんよく働らく所で、お金をもうけることと子どもに注ぎこむことだけでいつぱいで、自分の老後を考える余裕さえないのです。そういう方に、子どもはやかて離れていくもので、時代の流れにさからいきれるものではないから、そういう覚悟を今からしておいて、子どもに注ぎこむ幾割かを金銭的にも精神的にもたくわえておきなさいと呼びかけているのですが、四十代前半からそれ以前の方は自分の老後ということについては、農家であれ、給料生活者であれ、真剣に考えています。けれども現実は教育費に追われて貯蓄に手がまわらないので、みんなで社会福祉運動を盛り上げようという気持は、自分の切実な問題として、みんなが持つております。若い方々は大体そういうふうです。

桜井　私は今、両親と同居しておりますが、両親は一生懸命主人を育ててくれた方ですから、みるとかみないとかじやなくて、心の問題も共同の福祉の問題と共に考えてゆくべきだと思います。今は孫をみてもらつていますが、ずつと長生きしてもらつて、経済的な心配はないから充実した日を送つてもらいたいと思つています。

田村　今の時代は子どもの数が少ないから、子どもが学校を出てからでも十分老後の構えが出来ると思います。老後を豊かにするために、施設の子どもに手紙を書くとか、何か仕事をみつけたらいいと思います。自分が健康でさえあれば、老後の生活はやつていけると思います。どうにもならなくなつたころには、子どもが一人前になつているからみてくれるだろうと思います。そういう解決はどうでしようか。

岩井（リーダー）　実にこれは恵まれた家庭ですね。若い人もよけ

ればお年寄もいいという最上のケースが出ましたね。

小野寺　私どものほうの川は水泳禁止で子どもが泳げないのです。私どもでは毎年、おかあさん方の日ごろの悩みを聞いてそれを解決してゆく目的で母親の集いをもつております。その時、お風呂の話が出ました。鉱山に働いている方は会社の経営の風呂があつてただではいれますが、一般の日雇いの人はもらい風呂をしていたわけです。それで、公衆浴場を作つてもらいたいという声がそういう方から出たのです。それで婦人会の力でやろうということになり、皆さんに、風呂のある家庭、もらい風呂をしている家庭が何軒あるか、それから風呂に一週間何回はいるか、また、仮に公衆浴場が出来た場合、どのくらいの料金が適当かというようなことをアンケートをとつて、議会と当局に請願書を出しました。それが、二年目には土地をみつけてもらい、三年目には水道とか設備をしてもらつて、やつと公衆浴場が出来たのです。私たちが鉱山のお風呂に入れてもらうと二十円とられますが、公衆浴場は十五円で、それに十枚の券を買うと二枚のサービスがあるので十二円で入れるので、皆さんに大へん喜んでもらつております。これは保健衛生にも寄与出来て大変よかつたと思います。

田村　設備費はどこで出すのですか。

小野寺　町で全部もつてくれます。

岩井（リーダー）　他に同じような問題はありませんか。何か共同の福祉ということで、広い社会全体を考えてやつたことがありましたら。

　では話題を少し変えて、今まで、子どもの問題から始めて、自分たちの暮らしの問題、共同の福祉の問題まで話し合つてきたわけですが、そういういろいろなことを進めていくにつけて、集団で、団体、あるいはグループで協力してやつてゆかなければならないということが出てきますが、そのためには一部の人だけがやつたのではだめで、みんなが勉強しなければならない。一方ではマスコミの働きということもありますが、そういう中で婦人学級などの、婦人団体活動をやつてゆく上の学習活動の問題にはいつてゆきたいと思います。どういうようにやつているか、また、仲間の啓蒙というようなことについていかがですか。

戸泉　家庭にいる主婦が社会に目を向けるようになつたのは、もとはといえば婦人学級で目を開かれたからです。私どもは六人の小グループでやつていますが、その他にもＮＨＫ婦人学級特別交歓会などがあつて、そこで会つた方たちとも話し合つて友だちになり、その人たちと女性史を勉強する会をもつたりしています。そういう、いろいろな学習グループの中から気のあう同志が集まつて学習をするという場合はうまくゆくのですが、一番最初の地元で作つたグループは、六人が全部同じ気持というわけにいかなくて、いつも先に立つた人たちが、ついていけない人たちに気兼ねするというような工合で、学習活動といつてもなかなかむずかしいものです。

　それから、私たちが「守る会」を作つた時は、ＮＨＫ婦人学級で知り合つた人たちがこういう問題を自分の問題として考えて下さつたから出来たのであつて、そういう意味ではやつぱり何かもつている人はどこへ行つても道が開かれるし、何かが出来るのだということを思います。

岩井（リーダー）　いわゆる井戸端会議をだんだん大きくしていつ

て、もつと高等なものに実行力をもたしたら、そこに学習ということばがはいつてくると思うのですが。

高田　私たちの活動も最初は隣近所の井戸端会議からということで、それをだんだん大きくして、今では会員がたくさんになりました。全体会議は月一回の例会をもちまして、それ以外に六人か七人の班でテレビの同時視聴をしたり、中央の会合のある時は順番に班から出て行つて勉強します。すると今まで出るのが嫌いだという人も自然に出て行くようになつて、「今度は私、体がすいているから出さして下さいね」と言つて講演会などはいつも出席率がいいのです。だから、一番初めの井戸端会議が大事だということを痛切に感じました。

田村　私どものほうは反対で、前に大きな婦人会があつて、それが出席率が悪くなつたので会をわけたのです。大体漁師の多い所は料理講習と衛生の話、それからおかあさんと先生の会を一月に二回、その人たちの希望によつて作つたわけです。それからもう一つは読書グループで一冊購入する度に一人十円で回読します。そういうように、大きかつたものがわかれたけれども、それなりに綺麗にいつています。

坂本　熊本は大きくいいますと、市の婦人会連絡協議会に婦人学級があります。これは文部省委嘱の消費者学級で、各校区から二名ずつしか出られないので、各学校で婦人学級をもつていても、最初は申込者がたくさんありすぎて、二クラスにわけるほどでしたが、だんだん出席者が少くなつて、今、一応おちつきました。

〃主婦〃というテーマで、〃主婦の健康〃とか〃主婦の交際〃、〃主婦の社交〃、〃主婦と美容〃、〃主婦の知つていたい法律〃、〃電気知識〃というように、いろいろなものに取組んで三年間続けております。団地の方と在来の方と一しよにやつておりますが、とくに老後の問題や主婦の交際の問題で、両方の人の考えが全然違うということを知つてびつくりしたわけです。とくに交際なんかは団地の方はご主人本位、あるいは自分本位の交際をする。ところが昔からの家は家本位、親せき本位ということで、あまり話が違うので、二つにわけましようという意見も出たりしましたが、何回もやつてゆくうちにだんだん顔なじみになつて親しみが深くなつていつて、お互の生活が理解出来るようになりました。今では、一しよに施設を見学したり、友だちのふえるのを喜びあつています。

高木　私のグループは地区で一人もこぼれないようにというのが目標なのです。よく集まつてお話をするのですが、学習活動というのは受けうりでないものを話し合つているうちに出てきた問題にぶつかつてゆくようにするのですが、地域ぐるみというと、実質の人の集まりですから、まとまるのに時間がかかりますけれども、かえつてそのために進歩が早いのじやないか。そういう意味で学習活動ということを考えています。

植田　私ども十年ほど前に婦人学級をやり初めて、一時は盛でしたが、今はそれがあきられたというのか、それよりも内職が忙がしくなつたために、そちらのほうが低調になつて悩んでいるのです。各婦人学級で健康ということについて学習して、子どもの体位に気づきプールを設置したとか、上水道の設置とか有線放送とかいろいろ学習して、それが婦人会の活動に実現されて高く評価されたのです。それは過去のおさえつけられた家から解放されたいと

いう婦人の願いがたまたま婦人学級ということで実現されたので出席率がよかったのだと思いますが、高度の文化生活をするには主人の給料だけではやっていけない、あるいは多角経営ということで主婦は内職、あるいは農家であっても米ばかりでなく野菜や花などを作り出したので忙がしくなってしまって、勉強よりも金もうけのほうが優先されます。それで稼いだお金は遊ぶためとか、電化生活をするために向けられます。こういう問題をどうしたらいいか。これは時代の流れが変ってきているからでリーダーのまずさという問題じゃない、もっと社会的な問題だといわれましたが、今そういうことで困っております。

岩井（リーダー）　おそらく農村部会でその問題が出ていると思うのです。

戸泉　それは都市でも同じことで、最近は出てこなくなりました。内職をしたり、パートタイムで勤めたりということで、それは全国的な傾向じゃないでしょうか。

高田　同じ地区で、隣近所で時間の都合のいい時に一時間から二時間くらいの短い時間で話合いをして、それを月一度の例会にもってゆくというようにしたら、割合よくいっています。

長本　私も文部省の婦人学級を受けたこともありますが、ああいう勉強はその方々だけの学習にとどまらず、その方が地域に帰って各地においてそれを伝達するというのが本当じゃないかと思います。すると、その方々を中心にして各地域で小さいグループを作るのは上からの紐つきでなしに、本当に自分から望んだ勉強を自分たちの考えでおし進めてゆくようにするためのさそい水だと解釈したいのです。そこには、立派なリーダーがいなくとも、自分たちであっちにつき当たり、こっちにつき当たりして、かえってそれなりに勉強の道も出来てくるのではないかと思います。そういうグループを作るごとに、婦人会長とか町村主事とかいう方がもっとかげで応援して下さるといいと思うのです。かえって立派な指導者に頼りきった学習だと、個々の人がしっかりしないというようになるので、結局私どもが願っているのは自主的な学習方法を手助けしてもらうような方法です。

羽仁　婦人会がスムーズにいっているお話を聞いて美しく思います。私どもはＮＨＫの婦人学級でいろいろ勉強しておりますが、自主的に法律の問題、精神衛生の問題などをグループで勉強しております。婦人会のほうにそういうことをもちかけますと、エリート的な見方で、あなた達と頭の程度が違うのだというような態度で全然私たちの言うことを聞いてくれないのです。私たちはみんなで一しょにやってゆきたいと思っても、そこの所がなかなかうまくゆかないのです。

桜井　私は農家の若妻の会のことしか知りませんが、野良仕事・育児・炊事に追っかけられて忙しいけれども、みんな寄り合いたいというので一月に一回集まることに決めております。子どもを連れてお守りがてら行って、愛の献金運動とかお茶飲み話とか、普通の話をしているのです。それでも楽しいのです。そういう時にかげで応援して下さる方をお願いしたいと思います。

岩井（リーダー）　今までの所で、先ず母体というものとして井戸端会議のようなものから作ってゆく。時間を制限しながら自然な形でやってゆくとか、実情に即して小さいグループにわけてみる、そういうようなやり方が出ましたね。

それからＮＨＫその他の婦人学級、マスコミを通しての母体がいくつかある。

それから勉強の仕方として媒体というか、テレビならテレビを通してその材料でやるということと、自分たちの必要に即してとり上げてゆく。たとえばお料理、子どもの健康というようにやつてゆく。そういうことが一応出てきますが、もう少しそういうことを深めてゆきましよう。

坂本　私どもの地方でも、役員をしている方が内職やセールスなどで忙がしくなつて役員会にも出席出来ないというようなことがだんだんおこつてきて、役員の交替をみたということが何回かあります。私の地域では新しく家を建てて越してくる方がたくさんありますが、そういう方たちの中には大へん教養も生活の経験も深くていろいろいい知恵をもつている方もあります。それに時間的、金銭的にも余裕もある、指導的な立場に立つても困らないような方たちなので、そういう方々がすすんでそういう役をひき受けて下さるように会報などを通じて皆さんに呼びかけていますが、まだあまり成功しておりませんので根気よく呼びかけております。

岩井（リーダー）　そこでもう一つ問題が出てきましたね。これは学習活動と関連するので予定にはいつていませんが、市民的な活動をするような場合に家庭生活との問題があるので、この際、そういう問題についても取り上げてみたいと思います。皆さんもこうやつて出ていらつしやるのは大へんだつたと思いますし、それにはいろいろ工夫があつただろうと思います。その工夫の二、三を伺うと同時に、地元でも市民活動をする場合、必ず家族生活とぶつかつてくると思いますが、それをどうしていらつしやるか。

最初に、苦心してここに出ていらした方のお話を伺いましよう。

高田　上の子が高校に入学したのが九日で、私の出てきたのが十二日で、お弁当を作るのが心配だといいますので、日数だけの献立を全部書いて置いてまいりました。品物は、近所の会員さんにお願いしてまいりました。近所の方が協力して下さいましたので安心して出てこられました。

阿部　私も高校にはいつた子を置いてきましたが、不安なので、二日ほど前にほうれん草のゆがき方や玉子焼などを急に教えて、五日間の献立表を作つて、いよいよの時はインスタント食品を使うように言つてきました。

植田　今まで家庭の中の生活ばかりでしたのが、去年、地域婦人会の仕事を受けまして急に家をあけるようになつたわけです。最初、月の中二、三回だけといわれたのが、多い時は半月出るのです。出かけるからといつて家の中をおろそかにしないという約束をしたので、眠る時間をつめても掃除、洗濯等　よく体がもつなと思う生活をしていたのです。ところが今度は、こちらへ出席の通知をいただいてえらいことになつたと足がかたがたふるえちやいました。主人が帰つてきて、こういう機会はあと又あるかどうかわからないからということでようやく納得してもらつたのです。それからが大へんで、毎日の仕事をしながら、洗濯したり、部屋の中全部整理しました。出発の前夜も、行くについての資料の整理をしていたら、主人がコーヒーをわかしてくれたり茶わんやサイフオンなんか洗つてくれたのです。そんなことをしてくれたことがないので「どうもすみません。申しわけありません」と私は平あやまりにあやまつたら、「申しわけないと思つたら行くな」と

いうのです。でも電報打つたらもう簡単にやめられない、と言つたら、「なにがなんでも行くな」と言うのです。それでも、朝になつたらけろっとして大阪駅まで送つてくれましたが、私は前日の夜になつて行くなといわれて、ほんとうにどうしようかと思いました。

桜井　私は一番条件が悪いと思うのです。小さい子どもたちが三人いますし、母も血圧が高いのです。たゞ黙つていられなかつたので書いて出したら、こういうことになつたのですが、主人の両親や夫がはげましてくれて、勉強して来なさいと言つてくれましたので嫁にいつた主人の妹に頼んで今は安心しています。

高木　群馬県だからというわけではないのですが、私はとても恵まれています。私どもは疎開者で、生活には恵まれていなかつたのですが、私の留守の時は、男の子ですが、みんな割烹着をかけて主人と手ぎわのいいものを作つていますので、食事のことは心配はありません。ただ心配なのは、食費の膨張です。五日間で半月分くらいかかるのじやないかと思います。

平尾　私も三つの子どもがいますが、絶対に行きたかつたので、主人の気分がいいようにして、それに帰つて来てすぐ言つたらだめだと思つておさえて、「行きたいけれどもどうしましよう」と言つたら「行けばいい」と言つてくれたので、子どもは朝会社に行きがけに母に預けて、帰りにつれて帰つて夜はみて下さいと頼みました。夫は営業マンで、ことに夜遅いので、この機会に子どもと父を結びつけようと思つたのです。

岩井（リーダー）　今度の婦人会議のような場合は非常に特殊な場合であつて、ある意味で恵まれた場合で、行くだけの価値があるということで協力して下さるけれども、地元の活動の場合はそうはいかない。それで一番問題になるのは、隣同志が協力しないと、市民活動がうまくゆかないのじやないでしようか。

高田　内職に洋裁をして五年になりますが、この仕事にかかりますと、その時間だけ家庭的な仕事に穴があきます。仕事をしなければ収入はえられないし、外に出ていつて活動すれば、両方にはさまれて靴下のつづりも五月来したことがありません。だから収入がそのほうに出ていつてしまうほどなので、収入を考えるよりも、無駄使いをしない方法を考えて来ました。仕事をすると睡眠不足でやせますし、子どもは「靴下をつづつてくれたらいいのに」と言いますので、家庭と職業活動とは一致しないということをつくづくこのごろ考えました。これを他の方にお願いしても、やつぱりその方がそういうことになるのじやないかと悩んでおります。

植田　私は外とのつながりをもつて家庭と社会とを両立させようとしてきりきり舞いをして、睡眠時間を削つて、家の中から不平が出ないようにと注意してやつていますが、二年間の役の間は、家の中の仕事はあとまわしにしても、責任上ルーズな仕事をしないようにしています。けれども次に役を受ける方がまた同じ苦しみをするということを考えると、中年の、時間的にゆとりのある方に社会的な活動をしていたゞけたらと思つてそういう提案をしたのですが、時間のゆとりが出来た頃には活躍する意欲とか熱意とかがある程度そこなわれている。少し無理でも若い年代に活躍してこそ婦人会は発展するのじやないかという反発もありますが、私は家庭に無理なくうちこめる人が骨折つて下さるのがいいと思います。

岩井（リーダー）　話が日本人の家庭生活の問題になつてきますね。

長本　私も社会的なつながりをもち出して七、八年ですけれども、外に出るとどうしても時間が足りなくなります。最初は家の中に不足をおこさないようにと考えたのですが、そのうちだんだん、家族の者が私のやっていることを見て、あれじゃあ負担が多かろうと思つたのでしょう。それまでふとんにさわつたこともない主人がふとんをあげたり、早い時は「風呂は僕が湧かしてやろう」と言つてくれますし、今度の場合も大学に行つている女の子が夕方は手伝つてあげるから、ということで出てきたのですが、真剣に家庭の中のこともやつていこうと思えば二人分、三人分の働きがなければ両方は出来ないと思います。手の届く限りは周囲が助けてくれるということで私の場合は助かつております。

岩井（リーダー）　家庭の中のご主人と子どもとのあり方、その他特殊なやり方でうまくいつているという例がありませんか。

田村　外出の予定表をカレンダーの中に書きこみます。それから、なるべく主人を外に出すようにすすめます。主人が出ていきましたら、私があとから出るようにしております。

岩井（リーダー）　それはなかなか手がこんでいますね。

戸泉　私も会長になつてから忙がしくなつてしまいました。主人は夜が遅いので、昼間は出られますが、四つの女の子がおりますので、この子が幼稚園に行つている間は私の自由時間で、お掃除もしないで出かけてしまつて、子どもが帰つてから掃除や家事をするというようにしております。会の仕事をやることで主人から不平が出てはいけないと思いまして、主人のことには非常に細心の注意をはらうようにしています。そのためか、以前よりも夫婦の間は円満になつたという副産物が出ました。

高木　PTAとか地区の活動で忙がしくて出かけることが多いのですが、自分で取組もうという意欲があつたら結構うまくゆくのじやないかと思います。時間を生み出すということで同じことに二度手をかけないとか、家庭の仕事のやり方も要領よくなつて、子どもたちがそれを見て家庭教育の面でプラスになつていると思います。

小野寺　私は母の協力で婦人活動をするようになりました。皆さんに出て下さいと願われるのだからこんな幸せなことはないということで出たのですが、主人を納得させる方法として、会に出て帰つてから会の内容を話して、その会の理解をもつてもらうようにしました。近所の方も、子どもが小さい時は見てくれましたし、内職がたまつて容易でなくなると副班長さんなどが来て二、三人で手伝つてくださるということで幸せな立場にいます。皆さんに理解してもらうことが一番大切じやないかと思います。

阿部　小学校四年になる子がありますので、一か月の日程表を二十か目くらい作つておくのです。朝起きる時間から夜寝るまでのことです。それに合わせて毎日やらせて、子どもの行動を私が留守の時でもちやんと出来るようにしてあります。一か月すんだら日程表を見て、ちやんと出来たかどうかみんなで話合いをするようにしておりますので、安心して出られます。

岩井（リーダー）　ご主人の理解を得るとか、ふだんからそのために子どもの教育をしておく、また、自分でいろいろ工夫して時間のやりくりをする、主人に対して充分注意をはらう。そういう主人であつてはいけないのでしょうが、日本の現状ではまあそういうところだと思います。

この問題は日本人の家庭生活とのつながりが多いと思うし、市民活動のポイントはここにあるといつても過言ではないと思います。

坂本　社会活動を進める上で、役員や会の世話役の方が嫌気がさないようにするということが大切だと思います。それには時間を守ることです。たとえば三時までと決めたら、どんなに残りがあつても次にやることにして、三時でやめるということが大切だと思います。ずるずるになりますとみんなが嫌気がさすのです。時間の励行が一番大事だと思います。

岩井（リーダー）　これは同時に市民生活の上で大切なことで、合理的なやり方ができる人がいい市民でもあるわけですからね。

小野寺　時間の問題ですが、今までの婦人会活動の中では始まる時間は書いてあつても終りの時間が書いてないということが出席率に影響していると思いますので、最近は私のほうでは終りの時間も書いておくようにしております。

阿部　井戸端会議を高度に進めてゆくという話ですが、レベルを上げてゆきますとそれについてゆけない方が離れてゆくのです。すると少数の方で高度の勉強を続けてゆくのがいいか、それともレベルを下げてみんなで幅広くやつてゆくほうがいいか、ご意見を聞かせていただきたいと思います。

坂本　たとえばAクラス、Bクラスというように、だんだん進んだ学級を作つていつたらどうでしようか。私どものほうではそうしています。

阿部　そういうようにすると気持のつながりが離れてゆくことがあるのです。

坂本　そういうことのないように、一年に一回グループ発表というのをしています。たとえば、コーラス部はコーラスの発表会をしています。そうするとみんな意欲が出てきて好評です。

高木　グループの目的によつて内容は違つてくると思います。私どもはいつも地域の問題と取組んでいますが、　高度　という意味が私にはよくわからないのです。地区には大学の先生の奥さんも、働いている方もいますしいろいろですが、女の人が政治に目を開くということは高度も何もないと思うのです。政治に目を開くとか、この問題を自分たちで解決出来そうだとか、為政者に働きかけなければいけないことだとかいうことの判断は、軒並みのグループで出来ることだと思います。

阿部　子どもの問題、教育の問題になると出席率がいいのですが、私たち岩波新書を読み合う会をしていますが、ついてゆけないというおかあさんが出てきて続けたい人のほうが少ないのです。あんまり少いと講師の先生に気の毒なのです。

高木　学習活動というのは考え方が二つあると思うのです。そういつた特殊なサークルでしたらグループの人たちで話し合つて、もう少し程度を下げてもみんなでやるか、このままでゆくか、皆の意見できめたらいいと思います。

岩井（リーダー）　さて、そういうようにしてやつていくと、集まりにみんながどうしたらうまく出てくるかという問題が出てきます。それと同時に、いろいろな職業の方や、階層の違う方、若い方や年輩の方などいろいろな人がはいつているためにうまくゆくという場合と、まずくゆくという場合とあります。こういうことは地域で実際に運営する場合にあると思います。それをどういう

ように調和してゆくか。

坂本　職業や環境の違いということから趣味・し好の違いということが出てくると思いますので、グループ別の学級を作ること以外にないと思います。演劇の好きな方は演劇グループにはいる。教養の違いがあつても好きだということで一致しますね。年令的に開きがあつても一つの好みの上で年令の差が気にならなくなると思います。読書のグループは市の巡回文庫から二か月に一回六十冊ずつまわしてもらつて読書の感想を発表し合う。一年に二回ほどみんなで同じ本を読んで　あまり高度じやない本を相談し合つて選んで、その本についての話合いをします。

岩井（リーダー）　学級の話が出ましたが、これを広げてＰＴＡとか婦人会での悩みごとがありませんか。

戸泉　私どもの地区には昔婦人会がありましたが、何かの下請団体みたいでうまくいかなくて消滅してしまいました。最近、私どものやつている小グループが花を作るということから始まつて、地域にやつぱり婦人部があつたほうがいいじやないかということで、私たち小グループの者が年輩の方に声をかけて地域の婦人部を作つたわけです。百二十軒ばかりの、戦後建てられた棟割二軒長屋という住宅地域で、いわゆる婦人会活動をやつてきたのですが、最近は出てくる方は二十人くらいで顔ぶれも同じということで、何をやつてもあまりうまくゆかないでがつかりしているのです。最近は勉強しようと思えば新聞もテレビもあるから家で勉強出来るのだという考えも多いらしいのですが、連帯意識というか顔つき合わせて話が出来るようになりたい、小グループのサークル活動とは違つた意味での網羅活動が大切だと思うのですが、一生懸命努力してもなかなかうまくゆかないのです。

深田　私どもの地域では公民館とＰＴＡと婦人会と三者共催で家庭教育学級というものを毎年五月ころから九月ころまで月に二回ほど集まりをもつております。大体年代別ですけれども、ジュニアママクラスで乳のみ児をかかえているおかあさんたちのために中年の子どもに手のかからなくなつた方が別室で子どものお守をして下さるようにしてあります。満六十才以上の方のためには寿学学級というのがあつて、いろいろな施設を見学したり講義を聞いたりという形でやつております。

阿部　ＰＴＡの会合には出席しても婦人会には出席しないというおかあさんが見られますが、これではいけないと思いまして婦人会からの呼びかけでＰＴＡのおかあさん方のコーラス会を設けました。歌うことによつて結びつきが出来まして今では大へんうまくいつております。

高田　私のほうでも、婦人会の出席率が少ないので、学校に呼びかけて、学校の先生にお願いして、地区でいろいろ婦人会の行事のある時に先生に出ていただきました。するとＰＴＡのおかあさん方も出て来ますが、先生が来ないと出席率が悪いので、なんとかして先生に一人でも多く出席していただくようにということで一生懸命になつております。

田村　私どもは婦人会と女先生との会をもつています。よくある母と女教師の会というのとは違いまして、どちらも尊敬をもつて話し合おうという会です。これは、普段は別々に会をもつていますが年に一度だけ一しよに大きな会を開くのですが、これは子どもの先生と母親という立場で話し合う会で、子どもを連れてくるお

かあさんのためには保育室を作つて、なるべく多数出席していただくようにしておりますが、なかなか盛で毎年よく集まります。この会は政治的に働かなければならない時に役立つわけです。たとえば遠距離の子どもの通学費の問題、保育所増設の問題などはこの会で市に呼びかけて解決するようにしております。

大森　茨城県では八つの婦人の団体があつて、それが連絡会をもつて、子どもの教育の問題とか健康管理の問題とか目的を同じくする問題はいつしよに取上げて大きな事業としてやつておりますし、また各都市でもそういう婦人団体の連絡会をもつていて、同じ目的の行事は各々共催で行なうというような機構になつております。

高木　地区ぐるみの三百人から四百人の集まりですが、一月に一回以上役員会をもつて、その時話し合つたことを短く簡単にガリ版で印刷して、皆に配つて、それを徹底させるようにしております。

岩井（リーダー）　ＰＴＡの場合に実行委員になつて苦労したとか、考え方が違つて困つたというようなことを少し出して下さい。

高田　実行委員の会合で寄附金の問題がとり上げられた。それは補習の先生にお礼するためで、その割当てのことで話し合つたのですが、保護家庭や、出せない家庭もあると思うのに、頭から金額をきめて上の方から天下りり実行委員にいわれたので、女ですからだまつていましたが、一応三年生全員の父兄にどの程度なら出せるかということをアンケート的にきいてから決めていただきたかつたのです。

岩井（リーダー）　新聞なんかにも補習授業をめぐる問題があつたと思うんですが、会長さん、副会長さん、会計の方あたりの考え方と実行委員の考え方がくい違う、あるいは商店出身の方とサラリーマンの方とくい違う、そういう場合がずい分あるのじゃないかと思います。

長本　プールの建設の費用のことで、市で出すお金では足りないので皆で分担することが上のほうで決まりまして、私は学級の委員だつたので話を聞いただけで、町内は小学校に行つている家は千円、ただし月払いで半年間に出す、子どもが学校にいつていない人は気持だけでいいということで、役員奉加帳を持つて二、三人で組んでまわつたところが、「なんで私たちがプールに寄附をしなければならないのか、子どもは行つていないのに」と言うのです。その外、いろいろ文句を言つた人が何人かあつて、結局、二、三人寄附しないという人があつただけであとはのみこんでくれたのですが、社宅ですから会社の組合に、寄附は強制してはいけないということになつているのに半強制的だつたということでもめて、半年以上かかつて難儀をしたことがありますが、今考えるとやり方が間違つていたのではないかという気がします。

高木　市で当然やることをＰＴＡではとんどやつて、いつでも解決に苦しむのがＰＴＡです。こういうことについて幹部の人たちに理論的にもつていつても、こちらは少数ですから、「可愛い子どもを教育するためには」ということで押し切られてしまう。ＰＴＡに対して公費がいくらくるのかすら公開されないのです。

岩井（リーダー）　学校なり教育委員なりの考え方が問題ですね。

戸泉　私どもの住んでいる地区でやつぱりプールを造ることで、上の方で決めて、町内に住む者は各戸千二百円ずつ寄附するということになりました。私どもに相談なく上からの割当てでしたが、反発もなく一応それは通つたのですが、ＰＴＡの役員から抗議が

出てもめたけれども、結局、父兄は一口五百円以上ということで押し切られました。けれども最低の五百円は出しにくくて、結局千円以上出すようになってしまいました。PTAでは、教育費は当然国ないし市で出すべきものなのにいつもとられるということで不満がたくさんあったようです。

羽仁　中学校ですが、いろいろ寄附があるのは大へんだから、年に二度ほど生徒と一しょに地区地区で廃品回収をして、それで得たお金で学校で必要な物を買うようにしております。

高田　私どものほうでもそういうことをやったのですが、業者の組合が市に苦情を申しこんだので、業者の生活をおびやかすから廃品回収はやってはいけないということが公布されました。府県によつてちがいがあるというのは、市政が悪いのでしょうか。

岩井（リーダー）　PTAの話が大分出ましたが、どういう考え方をすべきかというのは今後もう少し研究していただくことにして、ただ地域によつていろいろ違うということですね。で、先ほどの発言のように町内会を利用したというのは誤りだつたというお話もあつたと思うんです。そういうことをご参考になさりながらやつてゆきたいと思います。

　では、次に、若妻会というような世代の違う層のことは婦人会の中でどういうようにやつたらうまくゆくか、というような点ではどうでしょうか。

桜井　私どもの若妻会は本当に小さくて、婦人会にもはいつていないのですけれども、近所に婦人会として生花の会がありますので、そこへ入れていただいています。これは一つの目的をもつている集まりなので、世代の隔たりというものはありません。生花のあと落書帳をまわして、私がここへくるのに詩を書かせてもらつてそれをリーダーの方に読んでいただいたりして楽しく、年代の差なしにさせていただいております。

岩井（リーダー）　茨城の大森さん、ご年輩の立場から、農家ではどういうようにしているか、お話し下さいませんか。

大森　私たち過去二十年来、よりいい家庭を作ろうということで勉強してまいりまして、最近は〃地域を明るくする〃ということでやつておりますけれども、今の若い方の中には、はつきり打算的に割切つて考えていらつしやる方もあります。私は奉仕的なこともやつておりますけれども、私たち年寄が、今の若い方々のために、私たちの社会のために、お互いの幸せのためにというような暖かい気持をもつて奉仕的な仕事をしているということをわかつていただきたいと思います。たとえ、今わかつていただけなくとも、その方たちが、自分の子どもを育て上げてひまが出来た時に、あの時自分は助かつたから、私も今度はあの時の恩に報いたいというような暖かい気持が流れたら、この社会も明るくなるのじやないかというような気持で若妻会の結成をすすめております。すでに出来ている所もあります。とかく婦人は視野が狭いとか、考えが浅いとかいわれますが、もつと視野を広く、高くもつて世間を見つめてもらいたい。そうして利己的な、自分の家庭のことばかりでなしに、みんなの幸せのためにというような考えを一人でも多くもつて下さるように、若妻会の誕生を心から願つているものでございます。

岩井（リーダー）　ただ今、若い人は打算的だというお話がありましたが、幸いこの会は若い方から年輩の方まで、各層の方がいら

つしやいますから、今度は若い方からみて、若い人のために年寄でやれることは何かというようなことをお話し下さい。それから、いま大森さんが、今の若い人は打算的だといわれましたが、そのことについても・・・・・。

羽仁　私、戦後の混乱の中で娘時代を過ごしましたから、両方のことがよくわかるのです。姑と一しよに暮らしておりますと、とにかくいいことが多いのです。しかし昔の人は、とかく自分が体験してきたことを押しつけよう、自分の枠の中に入れようとするわけです。そうすると、若い者は理屈ではわかつていても、こちらのほうが新しいのだという反発心が自然に湧いてきます。そこで摩擦がおこつてくるのじやないかと思います。

坂本　私は九年前に四十三才で婦人会長になつたのですが、若くみられてしまつて、若い会長さんになつたからというのでお年寄の会員さんが三十代、四十代のお嫁さんに代替りになつたわけです。この方たちが見学などに行く時は、お姑さんが孫のお守をしてお嫁さんを出して下さるわけです。若いお嫁さんが温泉旅行をしている間、お姑さんは家で留守番をしているということを聞いたので、最近はお姑さんのほうがいじらしくて、感謝の意を表さなければいけないと思うようになりました。それでいま、お姑さんだけの旅行を計画しているわけです。

岩井（リーダー）　田村さんの所感文に「一人でやつている孤独なお年寄を考えて・・・・」というのがありましたね。

田村　まわりの人で私と同年輩の人がずい分堅い殻の中にはいつているような気がするのです。もう少し割切つて考えたら自分たちだつて若い時はいいかげん勝手なことをしていたに違いないのにと思います。私の姑は非常にいい人でしたけれども、それでも姑は嫁にこうするものだという型にはまつたことしかしなかつた。でもそれは嫁がにくいのではなくて、自分がそういう習慣しか知らないから無理もないことです。だから「でもおばあちやんこうなのよ」と言つて教えると合点してくれます。お年寄というものは淋しがりますが、私はおしやべりですので円満にいつたのじやないかと思います。お嫁さんがつとめておかあさんと話合うということが大事じやないかと思います。また姑のほうもいつまでも子どもにくつついていないで、もつと割切つて考えるのがよいのではないかと思います。

岩井（リーダー）　こういう話し合いの機会に、若い方もお年寄の気持がわかるし、お年寄にも勉強していただくということで、この問題は一応この辺で打ち切りまして、つぎにＰＴＡと町内会とか、ＰＴＡと組合とか実際に市民活動をやつてゆくといろいろな団体がありますが、これらが同じ地域の中でぶつかる場合があるのじやないか。また、官庁間にある問題などが、そのまま下まで持ち込まれるというようなこともあると思いますが、この問題を少し取り上げたいと思います。

高田　私の地区は現在、自治会は運動会もなく、年に一度の役員会で決算報告、予算案を話し合う状態です。これとは別に母親クラブがあつて、私たちはそこで活動しております。このクラブには自治会長の奥さんもはいつていましたが、その奥さんがクラブをやめてから、補助金のことでうまくいつていないのです。こういうのは、どうしたらよいでしようか。

戸泉　内容は少し違いますが、私どもの町は地域に婦人部というの

があつて、町ぐるみというと百二十軒くらいあるのですが、必らず婦人は婦人部員であり、役員は当番でやる。自治会とはつながつていて、婦人部の会費は今年から倍にして二百四十円ですが、それでやつていけない分はいつでも自治会で補助してくれますし、そういうことでうまくいつています。たゞ私どもの婦人部は婦人会ではないのです。婦人会は県婦連もありますし主婦連もありますが、そういう会にはいると上から命令されてうるさいので、地区だけの婦人部にして、地区の自由意志でやれるようにしておこうということでやつているのです。

高田　私のほうは全員は強制出来ないので四年かかつて説明しまして現在二百軒のうち八十名が会員になつています。会員の数が少ないから自治会とうまくいつていないのじやないかと話合つたこともあるのですが。

植田　私どものほうはよく言えば協力し合う、悪く言えば利用し合つて共存共栄をやつているのです。こちらのちよつとしたもつてゆき方で……地区がよくなるためにこういうことをやりたい、だから自治会も住民の幸せのために協力していただけませんかというようにもつてゆきます。老人会にもいつて話したら、老人クラブが勉強して家中の人間関係が大へん明るくなつたのです。お互いに各団体が連絡し合つて円満にやつているので、感情の摩擦もないのです。ちよつとした言葉のもつてゆき方ということもあるのじやないかと思います。

岩井（リーダー）　地域によつて、農村部と都市部とでは違う点もあるでしようし、リーダーの考え方でも問題が出てくる。また連絡の調整の仕方もありますね。

桜井　二つの団体同志の連携ということですが、私のように小さい子をもつた若いおかあさんだけではどうしても動きがとれないので、婦人会の方にお願いして、それを受けとめて考えて下さいといつても婦人会では出来ない場合もあるのです。そういう場合には、たとえば重症児の問題などは、主人はいろいろの団体で活動していますので、主人に話して、他の団体の中にもその運動を入れてもらうようにしたのです。だから、やつぱりお互に連携しないといけないと思います。

深田　牛乳の検査をした結果、大腸菌がいたので保健所に行きましたら、保健所でもやつているというので、それなら大腸菌はいないはずなのに現実にはいたのですから、もつと監督をきびしくしてほしいと言つたら、何も婦人会から干渉を受ける筋はないと言われました。また別の方面からは、保健所の権威をなくすようなことを婦人会がする必要はないという批判を受けたのですが、これは行き過ぎでしようか。

岩井（リーダー）　十番「婦人の団体と自治体との関係」の問題にちようどはいりましたので、一しよに進めてゆきましよう。

グループ同志の関係、それから役所、町村の役場との関係など、いろいろな運動を進める上で必らずぶつかると思いますが、どうでしようか。

田村　今、私がやつていますが、非常にうまくいつていて、助成金も毎年ふやしてもらつています。前の方は大へん頭の切れる方でしたが、市役所や教育委員会に行つても、下の人に催促するような調子だつたので、感情を害したらしいのです。やはり、高圧的にもつてゆくと損だと思います。

長本　公害の問題で、自治体と関係をもたなければならなくなつて、感じたことは、私たちはもう少し自治体を理解して、むしろ、もつとよく利用しなければいけないと思いました。というのは、とくに私どもの住んでいる郊外はだんだん人口がふえて、する仕事がたくさんあるので、とても小さいことまで気を配つてもらえません。ですから今すぐやつてもらえなくとも、とにかく私たちがやつてもらいたいと思うことをお願いしたり、話し合つたりしているうちに、問題がどこにあるかということがわかつてくると思うのです。私は地元の婦人団体の会員ですが、ほとんどよそからきた人なので、大部分の人がはいつていないのです。ですから私どもだけで何かをしたいという時は婦人団体をあてにするわけにいかないので、直接に町の社教に行つて私どもも学習がしたいのですが、と言つたら、それなら年間補助金も出せるのだから計画をたててきなさいということで、思わぬ道が開けたのです。そういうことから、もつと自治体と密接な関係をもつて利用すべきだという気がします。

高木　自治体というとむずかしい言葉のようですが、個人の集団が自治体だと思います。ところが実際問題として、市長さんや議員さんは公選にはなつていますが、国の出先機関みたいな気がするというところに問題があるのじやないかと思います。結局個人と社会とのもちつもたれつの関係を研究してゆくということが政治意識を高めるもとになるので、そういうことから勉強を始めてゆくことが問題の解決を早めることになるのじやないかと思います。

戸泉　県庁にお願いに歩いたり、いろいろな政治家に会つたりして感じたのですが、県庁などに行つても、重症児の場合、どこに行つたらいいか知らないのです。最初社会課に行つたら、婦人児童課へ行つたほうがいいですよと教えてくれました。それからお金を作る前に知事さんに会いに行こうということで秘書室へ行つたら、この問題は厚生労務部へ行つて社会課を通さなければいけないと言われるわけです。あつちこつちまわりまわつて県会議員に会つて話をすると、県会に陳情すればいいのですよということで、陳情したのですが、書類を作ることが大へんだから今回はあきらめて六月の県会に陳情することにしようというのです。ところが、違う県会議員に話したら、県議会で口頭陳情をする機会があるから、その時書類を作つてきてはつきりした物が言えるようにすれば口頭陳情ができるからと教えて下さつたのです。そういろいろな方法があるということを私どもは知らないので、そういうことを親切に教えてくれる所がどこかにあつてもいいと思うのですが。

高田　それは市役所に、市民公聴課というようなのがありまして、陳情のことでも親切に教えてくれます。

岩井（リーダー）　お役所のたらいまわしにあうというのは、適切な法律とか法令を知らないということもあるのじやないかと思います。熱心に体当りでやつてゆくことが勉強になるでしようし、また自治体に刺激を与えるということも必要で、こちらが勉強して押していけば、向こうもいい加減にできなくなると思います。それから、ふだんから公報課などに行つて勉強するのもいいでしよう。公害問題でも市の建築情勢など研究してみると、ぬけ穴があるとか、いろいろな問題にぶつかつてくるわけで、そういう活動をしていると勉強をしなければならなくなるのじやないでしよ

うか。自治体というものを身近に考えて自分のほうに引き寄せて行くということは必要だろうと思います。

次に日本全体が都市化していて、農村でさえも生活様式が変つてきている。農繁期の託児所のことで、大森さんが、市の婦人が農村に手伝いにいくという問題をお書きになつていましたね。そういう都市と農村の変化している中での問題をとり上げたいと思います。

大森　私たちは自分の保育所がほしいと前々から言つていましたが、ちつとも建つ様子がないのです。町うちにはたくさんありますけれども、新町村合併でふくれ上がつた農村地帯には町設の保育所・幼稚園などは出来ないのです。それでどうしても話合いをしなければならないということで市議会の専門委員長・議長、それに婦人団体の会員が大勢集まつて討議しましたら、保育所建設の希望が期せずしてみんなから出たわけです。しかし、議員さんから市の財政についての説明があつて、保育所ということになると年間何百万というお金が必要で、しかも一銭の利益にもならないから今の段階では市として不可能であるということで、一応は納得したのですが季節保育所の必要なことは現実の問題です。兼業農家がふえたために過重になつた労働や保育からおかあさんを守るためには短期間でも保育所を開設してあげたいということで、市の連絡会議、NHKの婦人学級の方々と共に話し合いをして、地元の婦人会員は会長を初めほとんどみな農業をしていますから、とうてい地元だけでは解決は出来ないので町の奥さんたちの余暇をなんとか農村のおかあさんと子どものために手を貸していただきたいとお願いしたら、ともかくやつてみましようということになつたわけです。急なことだつたので、専門の保母さんが見当らなかつたのですが、報酬もなしで、奉仕という形で、一人二人の誠意ではとうてい出来ないことを、大勢で少しずつの力をもち寄つて季節の託児所を開設したわけです。

岩井（リーダー）　これは特殊な例ですから、ご紹介の程度にして先に進めます。

市町村の合併などにともなつて分校の合併とかいろいろの問題が出てくると思いますが、北九州などはとくにその典型的な所として、どうですか。明るい町づくりということで、市民の声を反映させるためにマスタープランを募集して、その中から市政モニターを選ぶことになつたのですが、応募者が非常に少なくて、女の人は出した人はみんな市政モニターになつてしまつたという状態だつたのです。そして、そのマスタープランというのがとても結構ずくめで、それにみんな貧乏な市も裕福な八幡市や戸畑市に右へならえで、職員の給料は高くなるし、門司や若松のような貧乏な地区は財源がないので、市政が麻痺してしまいました。

岩井（リーダー）　そういうような状況の中で、八幡というとすぐ空が曇つている、公害ということが考えられますね。広島の長本さんは公害問題を取上げて、自治体方面への働きかけについて書いていらつしやいましたが、工場主とか、企業側に対して、どういうようなご苦労をなさつたか聞きたいのです。

長本　工場の移転問題で、最初に工場主に、工場を見せてもらいに、十里も離れたところにある工場へ行きました。農地を工場に変えるので農業委員の方と同じ日に参観に行つたわけです。農業委員や私どもの町内会の男の人たちは表側だけから調べて、このくら

いならいいじやないかというのですが、会員の女の人が二・三人おりまして裏や横にまわつて調べたところが、音が遠く離れても大きく聞こえるし、すすがひどくて、いろいろ調べますと、とても宅地にきてもらつたのでは困る。しかもその移転する土地の横に空地があつて、それが転売されて又工場が出来ると困るから、ここは住宅地として指定してくれるといつたのです。それから工場主のほうへは、煙突の上に金網をかぶせてもらう、壁には防音テックスをはりつけてもらう、防火設備として周囲の壁を厚くしてもらうというように、うてるだけの手はうつてもらうように頼んだのです。それは快よく引受けてくれました。その他に水道管が細いことや消火栓が少ないことも善処を頼みました。

岩井（リーダー）　なんといつても地域で生活して実際の被害をこうむるのは女である。今のお話のように男性たちが　いいじやないか　というのを押し切つて裏にまわつて調べるということが大切です。それから自治体にもかけ合つたことが成功したもとかと思います。

では、時間ですので、ここで一休みしたいと思います。

（休　憩）

（再　開）

岩井（リーダー）　それではこれから結びの段階にはいりたいと思います。非常にご熱心で、奉仕欲、知識欲にもえていらつしやるのに励まされて、中央にいる者のほうがかえつてぼやつとしているのではないかと反省させられたことは自分なりの収穫だつたと思います。皆さん方は主婦であり、妻であり、親であり、経済・健康・家庭の最も重要な管理者である中で、さらに余暇を活用して奉仕したいというお気持をうかがつてほんとうに感心いたしました。私が一つつけ加えたいことは、皆さんの婦人団体は目標をもつて活動していらつしやると思いますが、自分の目標だけで、からにはまつていては、今の社会では活動がしにくいので、連合婦人会というようなものを作つて、いろいろの団体が集まつて一つの目標に向かつて集中して活動する。そして世論を起こすことによつてその活動に強みを与えるということが成功する途だと思います。要するに皆さんがいくらいい働きをしようと思つても、社会・国家の世論とならないと政治にならないのです。ですから、まず婦人は世論の高揚に役立つことだと思うのです。日本の人口は婦人のほうが男子より少し増加していますので、選挙の時もほんとうに自分たちの出したい人を出すように、地区地区の活動を熱心にしていただきたいと思います。

それから補助金の問題ですが、小さな婦人団体が動き出そうとしても、周囲でなかなか認めてくれないけれども、補助金をいただいて、政府が一枚加わつているということでみんなが認めることもございますので、官民協力はそういう面では大へん結構だと思います。けれども紐つきにならないように、自分の会の目標をどこまでもたててゆくことが大切だと思います。あまり人をあてにしないで、自主的な活動、自主的な経済というたて前でやつていただきたいと思います。

本尾（特・オブ）　実は私、　進展する社会の中の婦人の役割　といつても、あるいは進展する社会の中で足ぶみしているのじやないか、あるいは逆行している所があるのじやないかというおそれ

をもつてここへきたのですけれども、皆さんのお話を聞いて、それを徹回しなければならない。皆さんそれぞれ生活の中から知恵を出してリーダーとして活躍しておられるということを見聞きいたしまして嬉しく思いました。非常に皆さん社会性もあるし、連帯意識もあるし、十年も前に出席された方と比べて、ずい分婦人の意識も向上したのだなあとつくづくと思いました。

お話の中に、いろいろ活動しているうちに、政治的な解決にまたなければならない面にぶつかるというお話がありましたが、そういう時には為政者への働きかけが必要だと思います。法律や条令が出来てしまつてからでは遅いので、審議会に注文を出すことが大切です。また、進んで審議会の中に婦人を入れる、あるいは職に婦人を出すというところまでいつていただきたいと思います。国や自治体の予算、決算をみれば、それをつくつた人の顔がわかる。施政方針がわかるといいます。予算の中に占める婦人関係予算、教育・福祉などの予算をよくみる必要があると思うのです。そういうことから政治的な働きかけの第一歩が始まるのだと思います。それから、私どもが直接政治に関与するのは投票する場合ですから、その時の一票をよりいい政治のために活用して下さるように、この席でお願いしておきます。

中村（特・オブ）　午前中に、水銀農薬の問題が奈良の方から出て、含有許容量の問題で申し上げましたが、それに補足したいと思います。普通の農薬の場合はまく時期とか使う時期で調節できる場合もありますが、水銀の場合は自然にしみこんではいつてしまうので、今の段階では水銀は危険物だということを補足します。お米は農村も消費者の立場にあるのですから、考えていただきたいと思います。

それから、さつき石川県の方から牛乳を調べて保健所にもつていつたら、余計なことをするといわんばかりだつたというお話が出ましたが、私どもが十何年前に調べた時もそうだつたのです。東京都に呼びつけられて、われわれは月に何回かやつているのに、データーが違うからとか、大分やられたのですけれども、私どもは私たちの毎日自分の所に配達された段階においての牛乳を調べているのだから一番確かじゃないかということで頑張つたことがありました。現在は消費者行政が一種のブームのようになつて、通産省・厚生省・農林省、それから各都道府県にも消費者のための局が出来ています。保健所というのは私たちの健康を守るためにあるのに、牛乳やさんのほうばかり向いていて、消費者のほうを向いていない。

議員さんに対しても、男性に対しても同じで、いろいろな問題にぶつかつた時に苦情をぶつけ合つて、こちらを向いてもらうようにしないと、形だけ出来ているからと安心していると、とんでもないことになるのではないかという気がします。

それから商品の有害色素の問題などについて、地元で解決出来ない場合は、主婦連合会にお寄せになれば出来ることはお手伝いさせていただきます。

岩井　特別オブザーバーの方からいろいろお話をいただきまして、ここで、昨日からの話し合いの内容を振り返つてみたいと思います。私個人の感想ですが、この二日間に実に多くの問題をとり上げてきた。近所の話から子どもの話、心身障害者・食品・献血・公害・政治。私は助言者として、今日の婦人がどんなに多くの問

題にとりくんでいるかということを考えさせられたのです。おそらく戦前の時代には予想もされなかったことじゃないか。変化発展する中で、それだけ市民としての役割がふえているのであつて、どの問題も雑物ではない。この四部会はいろいろなものを押しこんだような形ですが、考えてみると、　新しい部会なのです。こゝで取上げている問題は広い社会的活動の問題であつて、いくつかのセクションにわけていいものを含んでいる。そして、その中に大きな根本的な問題から具体的な問題まで含んでいるのです。会議の初めに、先ず「いい市民とは何か」ということを考えまして、お互いが仲良くして協力していけるようにすること、あるいは各自が努力することだということから出発しました。平凡なことであるが、他人から自分がしてもらいたいことを自分からすることではないか。たとえば他人に迷惑をかけない、公園を散らさないというような卑近なことから考えて、さらに地域共通の問題に広がつてゆく。自分の子も他人の子も同じように考えてゆく。そうして活動してゆく場合に、現実には一人一人ではなくて何名かが協力してゆかなければならない。市民活動は協力である。そこに意義がある。しかし又そこに問題がある。少数のリーダーであつては困る。これをなんとか広げてゆくという場合に、勝手気ままな人もいる。たとえば一部の人におしつけるとか、お金ですますという人もいます。また、日本が戦争後、各自が生活に追われて市民性が失なわれ、他人をおしのけても自分が坐ろう、人に譲つていたのでは生存競争に負けてしまうのではないかという議論も出ましたが、やつぱりそれではだめである。道徳的な意味ばかりでなく、社会に出ても本当の意味で生存競争に勝てるような人間になるには、やはりいい市民であることがいいのではないかその場合に、そういう考え方は急には全部に広がつていかないが、あせつてはいけない。強制出来る性質のものではないから、漸進的に広げてゆく。結局、他の人もやろうという気をおこさせそれによつてその人の分に応じた、やれることをやつてもらうような方式で広げていかなければ無理になるのではないか。

　それからこれも根本の問題になつてくると思いますが、協力の仕方として、日本には昔から伝統的なものがあつて、習慣的な協力の仕方があるので、新しい時代に合わない面も多少出てくる。たとえば、つながりの強いのは身内とか仲間だけである。電車に乗つても知つた人には「さあ、どうぞ」と言うが、知らない人には知らん顔をしている。そういうことでは市民性があるとは言え昔はあつた強制とか村八分とかにつながるような側面が今もないでもない。個人というものが全体の中に埋没してしまう。それはその時代には必然的であつたけれども、新しい民主時代にはそぐわないものがある。　本当の協力というものは各人が自由で、しかも自発的に協力してゆく。そういう体勢でやつてゆけるようなものでなければならない。なぜかというと、社会がだんだん複雑になつてきて、考え方も変わるし、習慣も違つてきている。そこで新旧の考え方をもつている人たちが互いに衝突するということが各所で出てくる。そういう場合に、それに対して話合いの機会をもつというやり方でいかなければいけない。たとえば共通の問題をとり上げて出来る範囲でやつてゆく。なんでも古いからだめだということでは生活に根づかない。

　こういうふうな市民活動の根本原則みたいな話に始まつたと思

うのです。

それから具体的な問題がとり上げられて、先ず子どもの問題が出て、自分の子どもだけでなく、地域の子、社会の子を考えたい。たとえば市民生の涵養などということも、まず自分の子どもからしつけるべきではないか。たとえば子どもの前で他人の悪口を言わないとか。子どものしつけというものは立派な市民にするためにあるといってもいいのではないか。それから鍵っ子の問題。—農村部で、よその子をみてやるとか、自宅解放ということが出ましたし、都市部では、保育ママの問題で法的規制がその発展を妨げるのではないかという問題も出ました。それから不良文化財の問題では、父親の態度に問題がある、また、時のいかがわしい看板には世論の圧力をかけてゆくが、そのかけ方はあまり無理をしないでやっていくということも出たと思います。

それから子ども会の作り方、心身障害児にもっと理解をもつこと、子どもの学習と同時に母親自身も学習したことなど、地域ないし社会の子どもに対する活動の話しが出ました。

それからきょうは暮らしの問題が出て、暮らしに対する自覚を持つこと、そのためには生活様式や生活意識をもう少し合理的にしなければならないということ。そのために実際的には商品勉強をしなければならない、たとえば量目の検査などもやる、またそういう運動をするには人のまとまりが大切であること、それを実際に進めてゆく上にはそれに対するPRと同時に対業者関係の問題がある、さらに問題として、婦人会の中に、相手方に属する業者の婦人もはいっているとか農民の場合には、生産者と消費者とのぶつかり合いとか、デリケートな問題が出てくる。それらの問題をもっと拡大してゆくと、今日の社会は産業的には発展し、生活は便利になってゆくが、安全ということとぶつかり合ってゆくという問題も出ました。

それから福祉の問題が出て、先ず基本は同じ人間としての幸せということから話合いが進められたと思います。献血の問題、老後の問題などいろいろ出ましたが、オブザーバーの方から、制度はよくても運用をよくやってゆくことが大切ではないかというご指摘がありました。

つぎの地域の問題は、農村の話から始まって、公害の問題まで出ましたが、とくに地域の生活を守っているのは婦人であるということから大きな問題として出てきています。大都市でも新しい条件における公害問題、団地問題があるし、農村でも農村の変ぼうの中でいろいろの問題が出てきている。これらの問題に対して、基本的な考え方、処理の仕方については、各地域の具体的な問題の話し合いの中から学ばれたと思うので、それぞれの地域の問題の処理にそれをいかすことが出来るのではないかと思います。

いい市民であるということは、その具体的な運動の中で市民性を涵養していくということが問題になるのですが、これは婦人が市民活動を行なう場合、外に向かって開かれた市民性を身につけなければならない、従来の欠点は、生活の範囲が狭かったこと、また、いい市民としての訓練が不足でもあったことが認められると思います。女の利己主義とか、心の狭さとかが言われましたが、これは社会にもまれてゆくうちに少しずつ広くなるでしょうし、社会活動の実践の積み重ねの中で視野も広くなり、従来の欠点も克服されると思います。又積極的に学習することも必要だと思い

ます。その学習の仕方についても、井戸端会議から発展させてゆくとか、大きな団体が一種の動脈硬化におちいつているのをどういうようにして再生させるか、あるいはテレビその他の媒体の利用の仕方やテーマのとり上げ方など、いろいろな工夫すべき点が話し合われました。

そういう基本的な市民性を涵養しながら市民活動をやつてゆくとき先ず第一に問題になるのは家庭である。私たちが外に出て活動する場合に、家庭の協力をどういうように得たらいいのか。夫との問題、子どものしつけ、家庭の運営の仕方の問題などいろいろの問題を処理していかなければならない。婦人が社会活動をすることによつて家庭にしわよせが起こるのでなくて、むしろ夫婦関係が近代化され、子どものしつけが向上するというよい結果が出てくるのでなければ意味がない。

それから、市民活動の広げ方の研究、団体活動の単位について、職業・世代・年齢によつて分けたほうがいいのか、一しょにやつたほうがいいのか。そういつたくい違いの問題。それから団体の相互関係、団体間の関係がうまくゆくように調整すること、互いにそれぞれの機能をいかしながら仕事を分担し合つてゆくというのが基本だろうと思うのです。

それから、団体として実際活動を進めていく場合、町村役場、市役所等々の自治体に働きかけなければならない。それには先ず自治体というものを研究して、相手に積極的に働らきかけてみる。その場合、相手も人間だから人間性というものを考えながらやる必要があるというお話も出ました。

さらにもつと高い次元の問題では、政治をどうするかという問題が出て、これについて有権者同盟の方のお話もいただきました。また風俗の問題では婦風会の方からもサジエスチョンをいただきました。

結局、市民というのは自分を尊重すると同時に他人も尊重する。他人のために自分を犠牲にするのではない。個人個人の考え方は違うだろうが、それをおしつぶすのではなくて、尊重しながらやつていく。それが市民活動です。そういうやり方は根気もいりますけれどもそういう英知をやしなつてゆかなければならない。そして共同生活者としての責任を考えてゆく必要があるのではないか。そういう意味において、新しく変化してゆく時代の市民性というものをほり下げて勉強してゆこうという理想をみつめながら、からまわりしないでやつてゆこうというのが、全体の結論ではなかつたかと思います。

以上をもつて第四部会を終りたいと思います。

終